秋田県文化財調査報告書第321集

観音寺廃寺跡

— 土地改良総合整備事業(緊急生産調整型)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2001・3

秋田県教育委員会

観音寺廃寺跡
（かんのんじはいじ）

— 土地改良総合整備事業（緊急生産調整型）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 —

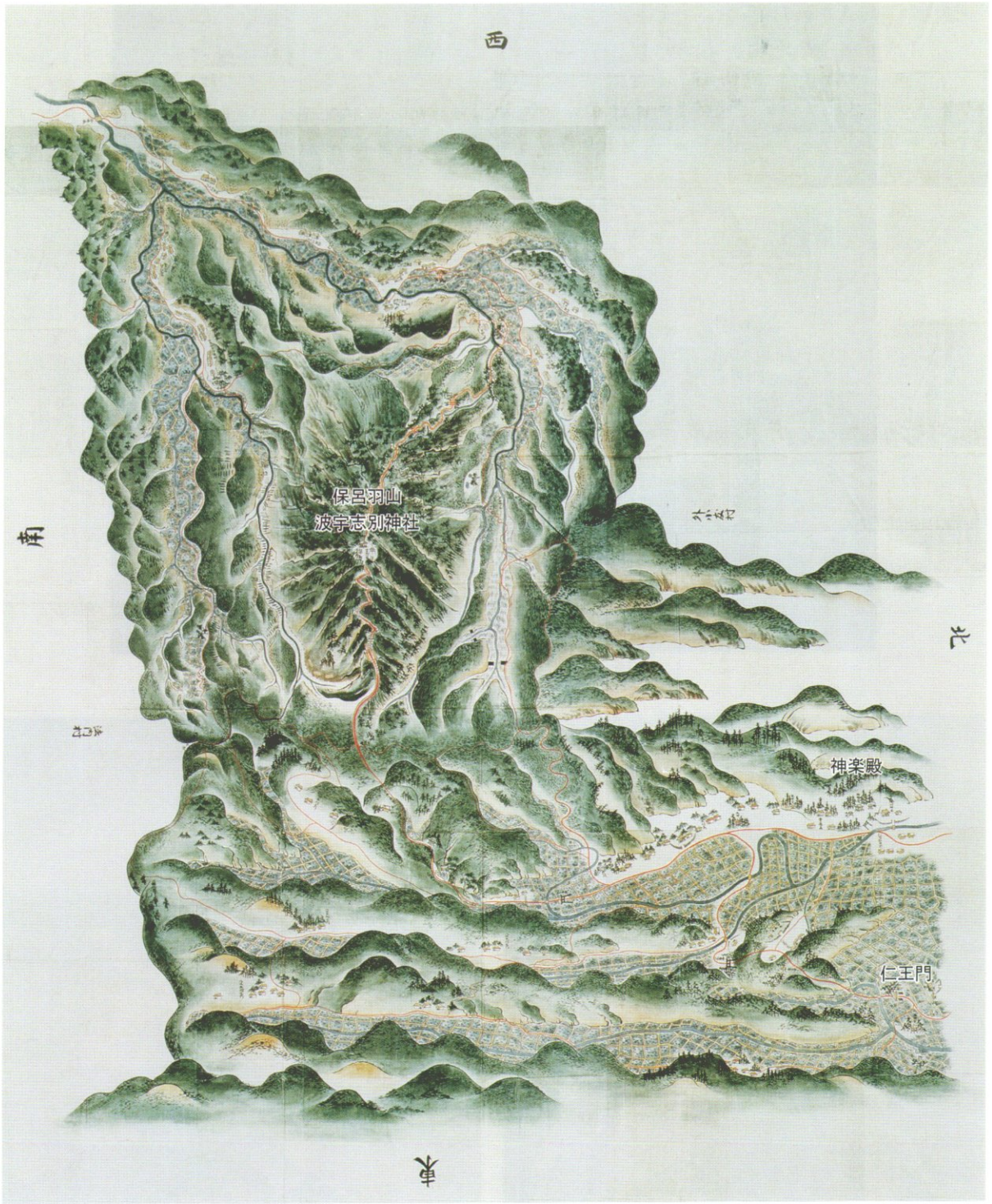
２００１・３

秋田県教育委員会

古寺山と観音寺廃寺跡（北東から）

遺跡上空から横手盆地をのぞむ（北西から）

遺跡上空から保呂羽山をのぞむ（東から）



八澤木村羽廣村論圖

観音寺廃寺跡はこの絵図の右下、仁王門の南東に隣接して所在する

序

秋田県の文化財は、豊かな自然のもとに先人たちが築き上げた、大いなる遺産であります。埋蔵文化財もその一翼を担うものであり、過去から現代に生きる私たちへと負託され、さらに未来へと伝えていくべきものであります。

このたび平鹿郡大森町中房地区における土地改良総合整備事業で、観音寺廃寺跡が事業区域に係ることになり、本教育委員会は工事に先立って発掘調査を実施し、遺跡を記録保存することにいたしました。この地はかつて菅江真澄により、定額の寺「出羽国観音寺」に比定され、県内でも数少ない古代寺院跡として注目されていたところでもあります。

調査の結果、数多くの柱穴等を検出し、大きく2群に分かれる掘立柱建物跡群の存在が明らかになりました。その中には太い柱の大型の建物跡も含まれています。また、周辺には板塀跡や井戸跡が見つかったほか、河川の水辺を利用して様々な祭祀が行われていたことも明らかになりました。これらの多くは12世紀中頃の遺構群と考えられます。

本書はこの成果をまとめたものでありますが、文化財に対する御理解と歴史研究の上でいささかでも役立てば幸いと存じます。

最後に、発掘調査から本書の刊行に至るまで御協力下さった秋田県平鹿総合農林事務所・大森町教育委員会ならびに関係各位に対し厚くお礼申し上げます。

平成13年3月

秋田県教育委員会

教育長　小野寺　清

例　言

1　本書は秋田県平鹿郡大森町上溝字観音寺および寺内地内に所在する観音寺廃寺跡の発掘調査報告書である。すでに平成11年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料・秋田県埋蔵文化財センター年報18（平成11年度）・観音寺廃寺跡発掘調査資料において調査成果の一部が公表されているが、本報告書の記載内容がすべて優先する。

2　観音寺廃寺跡の発掘調査は、平成11年５月10日～11月12日まで実施した。

3　発掘調査には、平鹿町教育委員会社会教育課主任　加藤伸生氏が研修として参加した。

4　木簡の釈文は国立歴史民俗博物館歴史研究部教授　平川南氏による。

5　出土した木製品の一部は、株式会社吉田生物研究所に保存処理および樹種同定を業務委託した。

6　第５章　自然科学分析には、パリノ・サーヴェイ株式会社および吉田生物研究所に業務委託した分析報告書の一部を収載した。

7　「第６章　観音寺廃寺跡の掘立柱建物跡」は、八戸工業大学建築工学科教授　高島成侑氏より玉稿を賜った。

8　出土した陶磁器類のうち、輸入陶磁器については福岡市教育委員会の大庭康時・森本朝子・池崎譲二氏に、近世陶磁については有田町立歴史民俗資料館の村上伸之氏に鑑定して頂いた。また平泉文化財センターの八重樫忠郎氏からは、12～16世紀にわたる輸入・国産陶磁器の鑑定および中世前期における輸入陶磁器の位置づけ等について多大なご教示を頂いた。

9　遺構実測図の一部は三航光測に業務委託したトレース図面を使用した。

10　遺跡航空写真は、株式会社シン技術コンサルに業務委託した空中写真を使用した。

11　本報告書挿図中に使用した土層表記法は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖　1989年版』を使用した。

12　本報告書巻頭図版に掲載した絵図は、秋田県公文書館所蔵の「八澤木村羽廣村論圖」を、同館の許可を得て掲載したものである。

13　本報告書に使用した地形図は、建設省国土地理院発行25,000分の１「角間川」「浅舞」・50,000分の１「大曲」「浅舞」、大森町作製5,000分の１管内図、秋田県平鹿農林事務所作製1,000分の１工事計画図である。

14　本遺跡の調査ならびに報告書刊行にあたり、次の方々よりご指導、ご教示をいただいた。記して謝意を表する（順不同）。

平川南、高島成侑、大庭康時、森本朝子、池崎譲二、村上伸之、八重樫忠郎、栗山知士（能代工業高校）、本多巌（赤神神社五社堂修理事務所；文化財建造物保存技術協会）、日野久（秋田城跡調査事務所）、坂井秀弥（文化庁記念物課）、辻誠一郎（国立歴史民俗博物館）

15　本書は、第２章第２節および第３章第３節を龜井崇晃が、第５章および第６章を除くその外を五十嵐一治が執筆した。また全体を通した補筆・編集は五十嵐がおこなった。

凡　例

1　本報告書に収載した遺跡実測図に付した方位は国家座標第Ｘ系による座標北を示す。観音寺廃寺跡グリッド杭座標原点ＭＡ50（Ｘ＝－72,700.000，Ｙ＝－37,800.000）とした位置における座標北と磁北との偏角は西偏７°40′である。

2　基本層位の土層註記にはローマ数字を用いた。

3　遺構実測図の中で複数の断面図を記載した場合があるが、基準高が同じ場合には１箇所にしか明示していない。

4　基本的に遺構実測図は1/40及び1/20、遺物実測図は1/2及び1/3の縮尺で掲載した。しかし挿図割付の関係上、前記以外の縮尺を用いたものがある。各頁に附したスケールを参照されたい。

5　発掘調査時における遺構平面・断面図の記録および土層註記に際し、精査を担当した職員の不注意により、掲載図面への不備が生じたものがある。

6　発掘調査において検出した遺構のうち、一部の小ピット類については図面および遺構一覧表を省略し、附図に平面配置のみを掲載した。

7　挿図中に使用したスクリーントーンは以下のとおりであり、それ以外については個々に凡例を示してある。

地山　　施柚範囲　　炭化物・黒色付着物

堆積土中の礫　　木製品・漆範囲
陶磁器重ね焼き痕　　木製品焼け焦げ痕

擦り範囲

目　次

巻首図版

序

例言

凡例

第1章　はじめに …… 1

第1節　調査に至る経過 …… 1

第2節　調査要項 …… 1

第2章　遺跡の立地と環境 …… 3

第1節　遺跡の位置と立地 …… 3

第2節　歴史的環境 …… 3

第3章　発掘調査の概要 …… 8

第1節　遺跡の概観 …… 8

第2節　調査と整理の方法 …… 8

第3節　発掘調査の経過 …… 9

第4章　調査の記録 …… 12

第1節　遺跡の基本層序 …… 12

第2節　検出遺構 …… 12

第3節　出土遺物 …… 16

第5章　自然科学的分析 ……133

第1節　秋田県観音寺廃寺跡出土木製品の樹種調査結果 ……133

第2節　観音寺廃寺跡の自然科学分析 ……136

第6章　観音寺廃寺跡の掘立柱建物跡 ……148

第7章　まとめ ……156

図版

抄録

附図1　観音寺廃寺跡　遺構配置図

附図2　観音寺廃寺跡　遺物出土分布図

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経過

秋田県農政部は、農業の生産条件が不利な地域において立地条件に応じたほ場整備を実施するために、土地改良総合整備事業を平鹿郡大森町中房地区において計画した。これは担い手への農地利用集積を促進するとともに収益性の高い畑作物等を導入することにより高付加価値型農業への転換を図ることを目的とし、農地の大区画整理とともに農道・用排水路網の整備を進め、担い手農家による大規模経営を目的とした土地利用型農業の確立を図るものである。

本地区の工事区域内には埋蔵文化財が包蔵されている可能性があることから、秋田県平鹿農林事務所（現秋田県平鹿総合農林事務所）は文化財保護法に基づきこの事実確認と今後の対応について秋田県教育委員会に調査と指導の依頼をした。これを受けて秋田県教育委員会は工事区域内に係る埋蔵文化財包蔵地および包蔵地と推測される地区については今後範囲確認調査が必要であることと、範囲確認調査の結果記録保存の必要なものについては発掘調査を実施すべきことを回答した。

平成９年11月に秋田県埋蔵文化財センターが観音寺廃寺跡および寺内遺跡の範囲確認調査に着手した。しかし地権者への説明不足から軋轢を生じ、調査を翌年に繰り越すことになった。

平成10年４月に秋田県教育委員会は、ほ場整備事業など受益者が特定市町村内に限定される事業について、当該市町村の責任において埋蔵文化財に対する調整を図るよう通達を出した。これを受けて平鹿農林事務所は大森町教育委員会に当該地区に係る範囲確認調査の依頼をした。大森町教育委員会は調査に対応できる体制をとれないことから、平鹿農林事務所との調整に係る指導を秋田県教育委員会に依頼した。秋田県教育委員会は範囲確認調査を秋田県埋蔵文化財センターに担当させることとし、同年11月から12月にかけて観音寺廃寺跡および寺内遺跡の範囲確認調査を実施した。

平成11年には、前記の経緯から観音寺廃寺跡の発掘調査を秋田県埋蔵文化財センターが実施することになった。

第２節　調査要項

遺跡名称	観音寺廃寺跡（遺跡略号　８ＫＮＪＨＪ）
所在地	秋田県平鹿郡大森町上溝字観音寺130外 （北緯39° 20′ 40″，東経140° 23′ 40″）
調査期間	平成11年５月10日～11月12日
調査対象面積	23,500㎡
調査面積	23,500㎡
調査主体者	秋田県教育委員会

調査担当者　　秋田県埋蔵文化財センター

発掘担当者（調査課）

吉川　　孝（学芸主事）
五十嵐一治（学芸主事）
照井　洋子（非常勤職員）
亀井　崇晃（非常勤職員）
永井　　敦（非常勤職員）
三浦　　悟（非常勤職員）
長澤　　巌（非常勤職員）
六澤美奈子（非常勤職員）

整理担当者

平成11年度・12年度

五十嵐一治（学芸主事）

総務担当者（総務課）

平成11年度

菅原　　晃（主査；現横手工業高等学校事務長補佐）
佐々木敬隆（主事）
八文字　隆（主事）

平成11年度

佐藤　　悟（課長）
佐々木敬隆（主事）
八文字　隆（主事）

調査協力機関　　秋田県平鹿農林事務所（現秋田県平鹿総合農林事務所）
大森町教育委員会

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　遺跡の位置と立地

大森町保呂羽山麓を源とする上溝川は八沢木地区の急峻な山間部を経て東流し、雄物川へと至る。山間部ではその流域に谷底平野を形成し、同町松原付近で小河川と合流し、幅広い平野部を東流して雄物川に至る。

上溝川により開析された谷底平野は古代より開かれ、保呂羽山波宇志別神社の信仰に関わる重要な往来があったと考えられる。現在でも観音寺廃寺跡付近には松原・観音寺・寺内・中房など寺院に関連する地名が残っており、旧八沢木村の入口でもある中房には波宇志別神社の仁王門がある。遺跡はこの仁王門から南東約１㎞に位置する（巻首図版２）。

遺跡付近の集落は上溝川によって形成された谷底平野の左岸端部に連なるように立地している。現在ではこの谷底平野の右岸端部が上溝川の流路となっているが、過去においては集落との間を蛇行していたことが絵図面などで確認できる。また今回の発掘調査でも、調査区内に複数の旧河道および沼沢地を検出した。

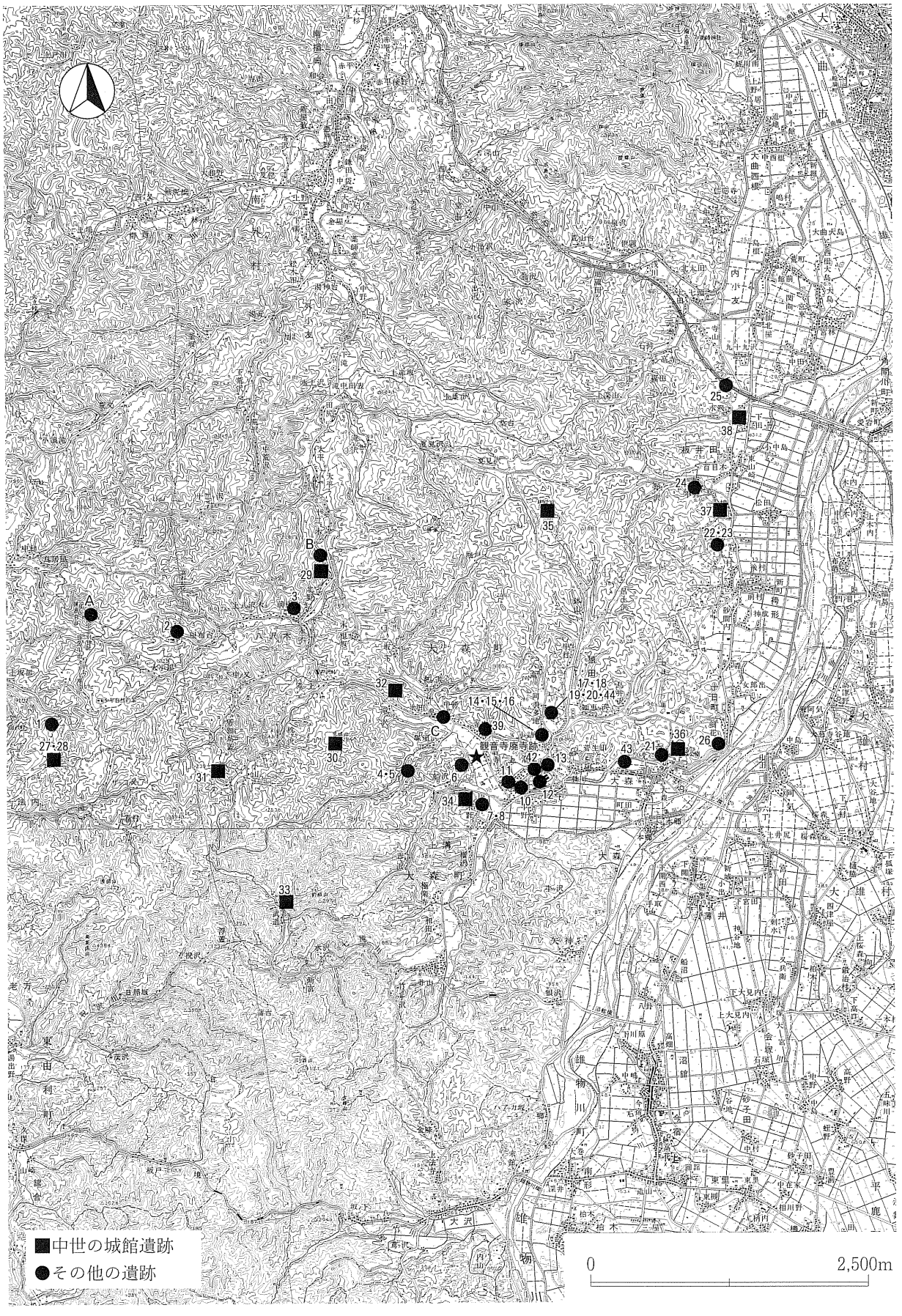
観音寺廃寺跡では、これら旧河道に由来する低湿地に囲まれた微高地状の地形を利用して遺構群が形成されている。

第２節　歴史的環境

観音寺廃寺跡は平鹿郡大森町に所在し、山岳信仰の霊地として知られる保呂羽山の南東約7.6㎞に位置する。この頂上には式内社波宇志別神社本殿が鎮座する。波宇志別神社は天平宝字元（757）年の創立と伝えられ、延喜５（927）年に国の小社として『延喜式神明帳』に記載された由緒を持つ。９世紀後半頃には保呂羽山が山岳信仰の霊地とされ、蝦夷の間で崇敬を集めていた波宇志別の神と保呂羽山が一体となり、信仰されるようになったものと思われる。

本遺跡は雄物川の支流である上溝川の左岸微高地上に立地している。対岸には標高120.3ｍの古寺山がそびえ、山中の経塚から文化６（1809）年に経筒と甕が掘り出されている（61-6；観音寺遺跡）。出土した経筒のひとつは高さ７寸７分（約23㎝）、口径３寸８分（約12㎝）の青銅のもので、「久安五年巳巳五月日僧良与」の12字が刻まれていた。甕の方は高さ１尺２寸５分（約38㎝）で、中高のかぶせ蓋がしてあり、その中にも７寸１分（約21㎝）の経筒が入れられていたが、文字も紋様も認められなかったという。

江戸時代の紀行家菅江真澄は文政７（1824）年にこの地を訪れ、その経筒や甕を実見し記録を遺している（『雪の出羽路』）。真澄はこれらの出土品を、『日本三代実録』貞観６（864）年の条に「以出羽国観音寺預之上定額」とある「出羽国観音寺」ゆかりの品と考え、この地に定額の寺「観音寺」が建立されていたと想定した。「定額」とは国分寺に準ずる寺格、つまり定数に入れられ公に認められた寺院のことである。仏教隆盛の平安期、本地垂迹の説から神仏は一体とみられ、神仏混淆修験道的


■中世の城館遺跡
●その他の遺跡
0
2,500m
観音寺廃寺跡
A
B
C
1
2
3
4・5
6
7・8
9
10
11
12
13
14・15・16
17・18
19・20・44
21
22・23
24
25
26
27・28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
43

第１図　周辺遺跡位置図

性格をもつようになる。波宇志別神社も時期は不明であるが、大和吉野金峯山の蔵王権現を奉じ神仏混合の信仰形態となる。紀年銘経筒にみられる「久安五年」も平安時代末の1149年にあたり、加えて波宇志別神社・「出羽国観音寺」との関係、本遺跡の北西約１kmに波宇志別神社の仁王門があることからも何らかの関連が予想される。真澄は『雪の出羽路』で、新城館跡（61-32）、鉢山館跡（61-35）、大森城跡（61-36）、五庵昼館跡（61-37）、善光寺廃寺跡（61-39）、文天鏡田跡（61-43）、弥陀三尊碑（61-44）、名ン小館跡（61-29）についても記している。このように本遺跡が所在する大森町には、谷底平野部や丘陵地に縄文時代・中世の遺跡が特に多く所在する。これらの遺跡は、昭和56（1981）年発行の『秋田県の中世城館』、昭和62（1987）年発行の『秋田県遺跡地図（県南版）』に収載された遺跡のほか、新たに発見された遺跡もある。

旧石器時代の遺跡としては、昭和44年に阿美多地の台地で旧石器らしきものが発見されたことを契機に、東北大学文学部の考古学研究室による発掘調査が行われ、７㎝～12㎝程の打製石器とそれと同型のものが発見された。まだ議論が尽くされてないが、これらが旧石器だとすれば中山Ⅲ遺跡（61-20；本遺跡の北東約1.9㎞）は大森町内で数少ない旧石器時代の遺跡であることになる。

縄文時代の遺跡としては、本遺跡の北東約８㎞に位置する下田遺跡（61-25）が第一にあげられる。昭和62・63年に東北横断自動車道秋田線建設に伴い大曲市の下田谷地遺跡とともに発掘調査が行われ、縄文時代晩期の竪穴住居跡や土坑・フラスコ状土坑・焼土等のほか、平安時代の土坑を検出した。

他にも蕨台遺跡（61-1；本遺跡の西約7.7㎞）、白山前遺跡（61-2；本遺跡の北西約5.8㎞）、前田遺跡（61-3；本遺跡の北西約4.2㎞）、塚須沢Ⅰ・Ⅱ遺跡（61-4・5；本遺跡の西約1.3㎞）、末野遺跡（61-7；本遺跡の南約0.9㎞）、杉平遺跡（61-8；本遺跡の南約0.9㎞）、松原Ⅱ遺跡（61-11；本遺跡の南東約0.7㎞）、上野遺跡（61-12；本遺跡の南東約1.2㎞）、石清水遺跡（61-13；本遺跡の北東約1.3㎞）、白山下Ⅰ・Ⅱ遺跡（61-14・15；本遺跡の北東約1.3㎞）、阿美多地遺跡（61-17；本遺跡の北東約1.9㎞）、中山Ⅰ・Ⅱ遺跡（61-18・19；本遺跡の北東約1.9㎞）、影取Ⅰ・Ⅱ遺跡（61-22・23；本遺跡の北東約5.8㎞）、平野遺跡（61-24；本遺跡の北東約6.2㎞）の18遺跡が確認されているが、未だ本格的な発掘調査が実施されておらず、不明な点が多い。

弥生時代から古墳時代にかけての遺跡は、大森町内で確認されていない。

奈良･平安時代の遺跡は前述した下田遺跡の他、観音寺遺跡（61-6；本遺跡の南西約0.3㎞）、松原Ⅰ・Ⅱ遺跡（61-10・11；本遺跡の南東約0.7㎞）、白山下Ⅲ遺跡（61-16；本遺跡の北東約1.3㎞）、高口下水戸堤遺跡（61-21；本遺跡の東約3.4㎞）、新城館跡（神宮館）（61-32；本遺跡の北西約1.9㎞）が確認されている。観音寺遺跡は、前述した菅江真澄の記事にある経塚のことである。

中世の遺跡は、蕨台館跡（61-27；本遺跡の西約7.6㎞）、蕨台南館跡（61-28；本遺跡の西約7.6㎞）、名ン小館跡（61-29；本遺跡の北西約4.4㎞）、里城跡（61-30；本遺跡の西約2.5㎞）、甲館跡（61-31；本遺跡の西約4.7㎞）、花館跡（61-33；本遺跡の南西約4.3㎞）、杉平館跡（61-34；本遺跡の南約８㎞）、大森城（61-36；本遺跡の東約3.7㎞）、昼館跡（五庵昼館）（61-37；本遺跡の北東約6.2㎞）、館小山跡（61-38；本遺跡の北東約7.8㎞）、善光寺廃寺跡（61-39；本遺跡の北約0.5㎞）、弥陀三尊碑（61-44；本遺跡の北東約1.9㎞）と、前述した新城館跡が確認されている。

近世の遺跡は末野遺跡（61-7；本遺跡の南約0.9㎞）、石清水遺跡（61-42；本遺跡の西約１㎞）が確認されている。

『秋田県遺跡地図（県南版）』収載の周知の遺跡

番号	遺跡名	所　在　地	時　代	備　考
★	観音寺廃寺跡	大森町上溝字観音寺213・214	縄文・古代～中世・近世	独鈷石、石剣
A	波宇志別神社	大森町八沢木字保呂羽山1-1	古代	
B	波宇志別神社神楽殿	大森町八沢木字宮脇106	中世	
C	波宇志別神社仁王門	大森町八沢木字中房	近世	
61- 1	蕨台	大森町坂部字蕨台46	縄文	磨製石斧
61- 2	白山前	大森町八沢木字白山前113外	縄文	縄文土器、石鏃、石棒（スレート）
61- 3	前田	大森町八沢木字前田27	縄文	石鏃
61- 4	塚須沢Ⅰ	大森町字塚須沢108の1	縄文晩期	縄文土器（晩期大洞C1、C2式）
61- 5	塚須沢Ⅱ	大森町字塚須沢（1の栄　150m）	縄文	石棒（スレート）
61- 6	観音寺	大森町上溝字観音寺126	古代	経塚、経甕
61- 7	末野	大森町上溝字末野107	縄文・近世	石器、縄文土器、古銭（寛永通宝その他）
61- 8	杉平	大森町上溝字杉平76	縄文	焼土・灰（登窯跡）、縄文土器
61-10	松原Ⅰ	大森町上溝字松原20の22	古代	須恵器、土師器片
61-11	松原Ⅱ	大森町上溝字松原23，24，25	縄文・古代	石器、縄文土器、土師器片
61-12	上野	大森町上溝字上野（煙草畑）	縄文	石鏃
61-13	石清水	大森町上溝字石清水124	縄文	石鏃、縄文土器
61-14	白山下Ⅰ	大森町上溝字白山下160-170	縄文中期	石器片、縄文土器片（中期）
61-15	白山下Ⅱ	大森町上溝字白山下（Ⅰの南）	縄文中期	石器片、縄文土器片（中期）
61-16	白山下Ⅲ	大森町上溝字白山下19	古代	須恵器、土師器
61-17	阿美多地	大森町猿田字阿美多地	縄文後期	石器片、縄文土器片（後期）
61-18	中山Ⅰ	大森町猿田字中山28	縄文中期	石器片、縄文土器片（中期）
61-19	中山Ⅱ	大森町猿田字中山28	縄文中期	石器片、縄文土器片（中期）
61-20	中山Ⅲ	大森町猿田字中山28	旧石器	旧石器（ブレード）
61-21	高口下水戸堤	大森町字高口下水戸堤	古代	土師器
61-22	影取Ⅰ	大森町袴形字影取	縄文	石器片
61-23	影取Ⅱ	大森町袴形字影取	縄文	石器片、縄文土器片
61-24	平野	大森町板井田字平野	縄文	石器、縄文土器片
61-25	下田	大森町板井田字下田9	縄文（前期～晩期）・古代	縄文土器片、土師器片
61-26	剣花山	大森町十日町字剣花	中世	珠洲系陶器片口鉢、波状文壷
61-27	蕨台館	大森町坂部字蕨台52-12	中世	
61-28	蕨台南館	大森町坂部字蕨台28-3	中世	神社跡、礎石
61-29	名ン小館	大森町八沢木字繋	中世	郭跡、堀割
61-30	里城	大森町八沢木字滝ノ上	中世	遺構なし
61-31	甲館	大森町八沢木字大館	中世	堀切り
61-32	新城館	大森町八沢木字神宮沢40	古代・中世	主郭、馬場跡、空堀、平安鏡
61-33	花館	大森町上溝字花立	中世	遺構無し
61-34	杉平館	大森町上溝字杉平	中世	郭、登城道路
61-35	鉢山館	大森町猿田字鉢山下り	中世	主郭、井戸、腰部、古鏡、古銭、什器
61-36	大森城	大森町高口下水戸堤	中世	本丸、二の丸、郭、据割
61-37	五庵昼館	大森町板井田字五庵昼館9	中世	遺構なし
61-38	館小山	大森町板井田字東水沢	中世	遺構なし
61-39	善光寺廃寺跡	大森町上溝字寺内	中世	板碑、古銭108枚
61-42	岩清水	大森町上溝字岩清水（松原団地接続地）	近世	寛永通宝（神社跡と推定）
61-43	文天鏡田	大森町字文田鏡田		古鏡（神社跡）
61-44	弥陀三尊碑	大森町猿田字阿美多地	中世	弥陀三尊板碑（正中の年号あり）

註　地図および一覧に付した番号のうち、「61-43」などのような番号は、『秋田県遺跡地図（県南版）』に収載されている遺跡の市町村登録番号である。61は大森町を示し、地図には「61-」を除いた番号を附した。

引用・参考文献

秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図』1976（昭和51年）

秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図（県南版）』1987（昭和62）年

秋田県教育委員会『秋田県の中世城館』秋田県文化財調査報告書第85集　1981（昭和56）年

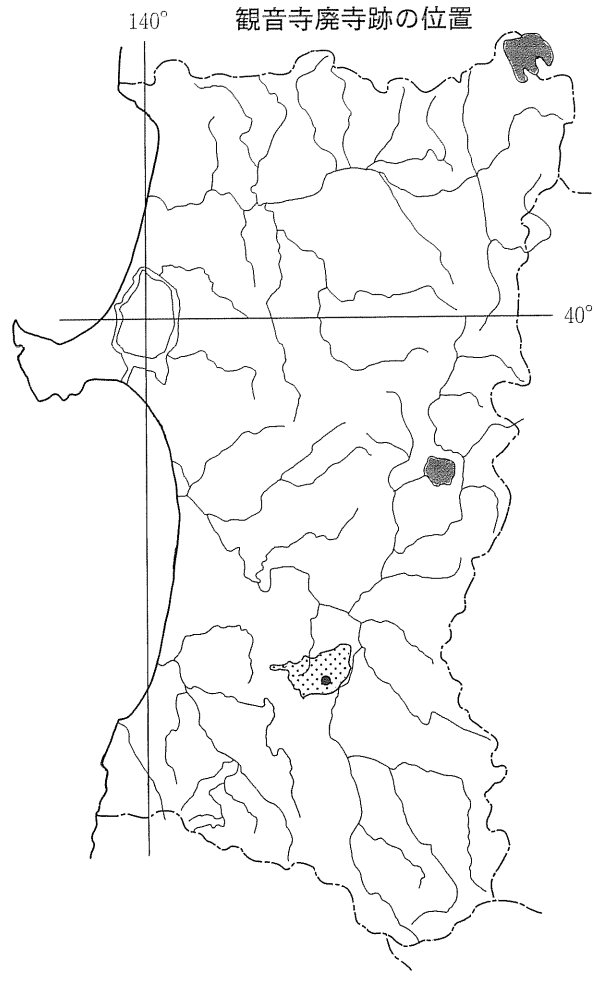
秋田県教育委員会『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅳ―下田遺跡・下田谷地遺跡―』秋田県文化財調査報告書第189集　1990（平成２）年

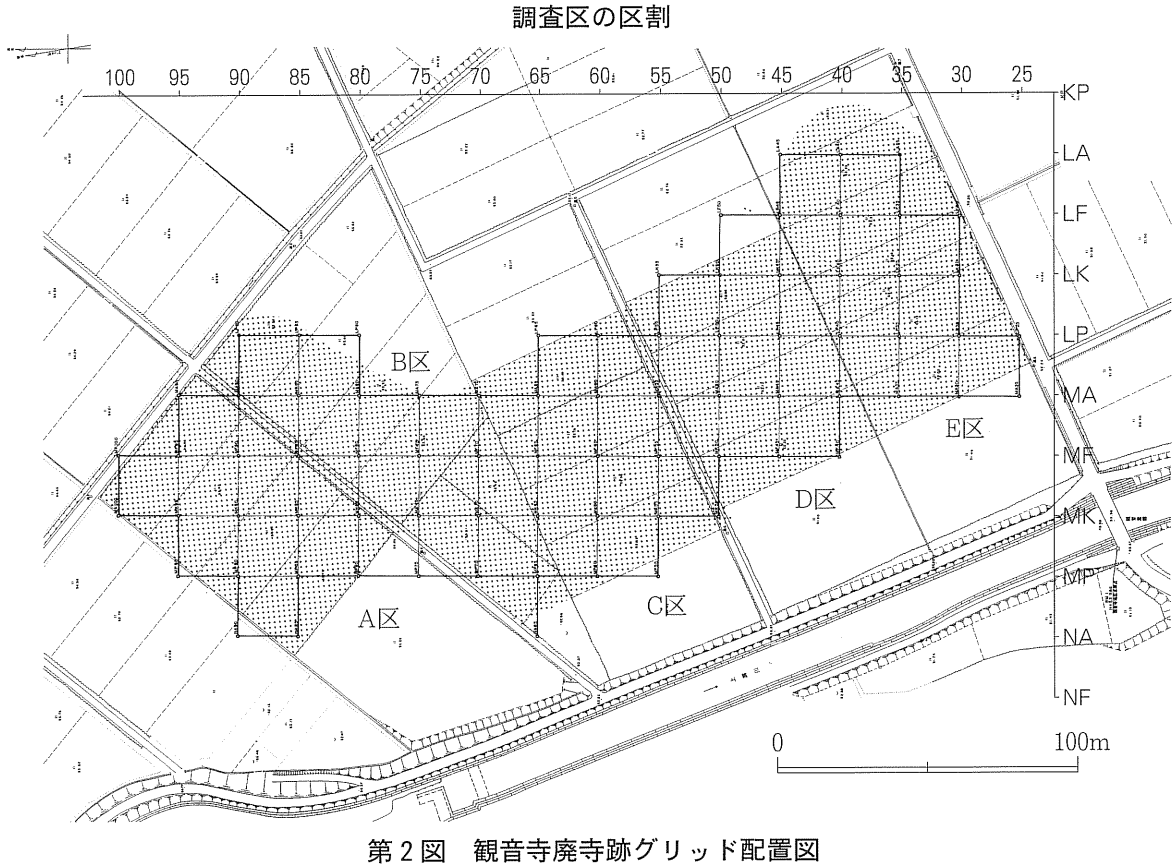
横山英介・千葉英一『秋田県平鹿郡阿美多地遺跡』1973年（昭和48）年

文化財建造物保存技術協会『重要文化財　波宇志別神社神楽殿　保存修理工事報告書』1993（平成５）年

大森町郷土史編さん委員会『大森町郷土史』1981（昭和56）年

菅江真澄「雪の出羽路　平鹿郡三」『菅江真澄全集　第六巻』内田武志・宮本常一　1976（昭和51年）





第２図　観音寺廃寺跡グリッド配置図

第３章　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観

観音寺廃寺跡では、調査区内に複数検出した旧河道およびそれに由来する低湿地に囲まれた微高地を利用して遺構群が形成されていることを確認した。調査区が23,500㎡と広大なため現況の水田区画を利用して便宜上、北から順にＡ～Ｅ区と呼称し、各区毎に調査を進めた。

調査の結果、遺跡は掘立柱建物跡群を中心とした、２つの遺構群から構成されることが明らかになった。遺跡の主体をなすのは調査区南側に広がる平安時代～鎌倉時代に属する遺構群で、掘立柱建物跡や井戸跡、および土坑などから構成される。心去り八寸角の大面取りを施した角柱で構築された大型の建物跡を検出し、この建物跡を構成する柱穴のひとつからは「御佛殿前申」と墨書された木簡も出土した（第74図２）。掘立柱建物跡の軸線は、北方向から若干東に振れるものが多い。

これに対し調査区北側に広がる遺構群は中世後期～近世初頭に属する掘立柱建物跡群で、その軸線は現況の水田区画にほぼ沿う形となっている。菅江真澄がこの地を訪れた時、この一帯について「観音寺ノ蹟　屋敷田といふ」と記しており、当時は既に田地となっていたものの、人々の記憶の中には最後まで寺院建物があった場所として残っていたことが窺える。

南側の遺構群およびその周辺からは多量の白磁をはじめ、青白磁・青磁・須恵器・須恵器系中世陶器・かわらけなどの陶磁器が出土したが、復元可能な破片はごく少なく、建物群が機能しなくなると同時に什器を別の場所に持ち去ったかのように思われる。また14世紀の遺物も乏しく、調査区南側の遺構群と北側の遺構群とは時期的に連続しないものである。

第２節　調査と整理の方法

発掘調査はグリッド法を採用した。調査区の設定方法は、調査区内の任意の１点（国家座標Ｘ系：Ｘ＝－72,700，Ｙ＝－37,800 ）を選定し、原点（ＭＡ５０）とした。この原点から座標北方向を基準線とし、直交する４ｍ×４ｍのグリッドを設定した。また20ｍ毎に杭を水準測量して水準原点とした。グリッド杭には東から西に向かって東西方向を示す…ＬＳ・ＬＴ・ＭＡ・ＭＢ・ＭＣ…というアルファベットと、南から北に向かって南北方向を示す…４８・４９・５０・５１・５２…の２桁の数字を組み合わせた記号を４ｍ毎に割り当てて各グリッドの呼称とし、20ｍ×20ｍの方眼杭を打設した。

遺構は確認した順に番号を割り当て、精査の結果、遺構でないと判断した場合はその番号を欠番扱いとした。遺構埋土は埋土堆積状態観察・実測用ベルトを設定して掘り下げ、土層断面の分層時に野帳に堆積状態をスケッチして土色・土性等を註記した。

小ピットを含む柱穴様土坑の必要なものについてはプラン確認面での土色と土性等を遺構カードに記載し、半截あるいは全掘した。これらについては、整理作業を進めながら一括して検討した。

遺物は、グリッド・出土層位・出土年月日を記入したラベルとともに取り上げた。沢などに集中出土した遺物は平面図に記載あるいは座標の記録を行った。遺物出土地点の記載は、メジャーおよび自

動レベルを使用し、部分的にはトータルステーションによる光波測距によった。

調査の記録は平面図・断面図および写真によった。平面図・断面図は縮尺１／２０を原則としたが、微細な遺構図面を必要とする際には１／１０で記録した。広範囲を測図する場合には前記トータルステーションによる測量図化で対応した。

写真撮影は35㎜のモノクロおよびリバーサルフィルムを使用した。

室内における整理作業は、遺構は現場図面を検討して第２原図を作成し、トレースして挿図を作成した。遺物は洗浄・註記の後に接合および実測図の作成、写真撮影を行った。

便所跡の土壌サンプルについては、五十嵐の指導のもと、整理作業員の奈良および高橋が種子類の水洗選別および同定作業にあたった。土壌はバケツを用いて水道水中に撹拌し、３段に重ねた２／１／0.425㎜の標準ふるいに流し込んで種子類および他の植物遺体（材・炭など）の選別を進めた。選別した種子類は、同定作業を進める間はカビの発生に留意しながら水浸保存し、同定後は小型ガラス瓶にラベルを附して70％エタノール中に液浸保存した。この瓶中にはラベル同様に鉛筆で記載した合成紙の小片を入れ、他の瓶の内容物と混同しないよう事後に備えた。同定作業は実体顕微鏡を用い、「種」の同定にこだわらずに「種子形態」に基づく分類を目標に進めた。この間、新しい形態の種子を確認する度に観察図を描かせ、同様の形態の種子をある程度検出した後に、大館市池内遺跡出土の既同定サンプルおよび文献にあたりながら種の同定を進めた（第22図下）。

第３節　発掘調査の経過

５月10日　農林事務所側の提供による重機を用いて、表土（水田耕作土）除去作業を開始。

５月17日　測量杭打設開始。耕作土（Ｉａ層）の表土除去が完了し、表土下部のグライ化した不透水土（Ｉｂ層）の除去を開始。井戸跡を検出。

５月18日　作業員を入れ、調査を開始する。埋蔵文化財センター所長が作業員説明会出席のため来跡。機材・物品搬入。

表土除去作業に係る重機および人件費など、工事費のかかり増しにより採算が合わないことを理由に、作業に従事していた工事業者が作業を中断した。県文化課と平鹿農林事務所が協議し、表土除去作業を発掘調査の予算内で実施することとした。

５月24日　小林芳行学芸主事が、調査員として加わった（～５月２８日）。

５月25日　測量杭打設作業およびＡ区の表土除去作業が終了。ＳＥ０１井戸跡から黒塗り挽き物破片・箸状木製品、ＳＥ０２井戸跡から漆器・蓋状木製品が出土。

５月26日　ＳＤ３河川跡から火山灰を検出。

６月３日　ＳＫ６１１土坑から青磁椀、蓋状木製品、夕顔の実が出土。

６月４日　ＳＤ７０１溝状遺構から舟形の木製品が出土。三浦所長・児玉課長補佐、現場視察のため来跡。

６月７日　榮一郎学芸主事が、調査員として加わった（～６月１１日）。

６月11日　ＳＤ７０１溝状遺構から下駄・箸状木製品、ＳＫＰ７２９柱穴から礎石が出土。

６月14日　Ｂ区の表土除去作業を開始。ＳＫＰ５・ＳＫＰ６柱穴から箸状木製品が出土。児玉

課長補佐が、調査員として加わった。

６月18日　ＳＤ４溝状遺構から礎石２点が出土。児玉課長補佐が、調査員として加わった。

６月25日　ＳＫＰ２５９柱穴から板状木製品・箸状木製品、ＳＫＰ９４１柱穴から金属製品が出土。火山灰・柱材を検出。ＳＫＰ７１３柱穴からも柱材を検出。櫻田課長補佐、現場視察のため来跡。

７月８日　Ｃ区およびＤ区の表土除去作業を開始。ＳＫＰ９２６柱穴から洪武通寶２点、ＳＫＰ４０３柱穴から水晶原石２点が出土。ＳＫＰ１１７５柱穴から包み枘が施された柱材を検出。

７月９日　Ｂ区北側で火山灰を検出。

７月13日　平鹿町教育委員会社会教育課加藤伸生氏、研修のため本日より週２日調査へ参加することとなった。ＳＬ１１７６河川跡から漆器椀底部（挽物）、ＳＫＰ１０９３柱穴底面から藁様の植物遺体が出土。

７月14日　ＳＫＰ２４８柱穴底面から陶器口縁部（瀬戸美濃？）出土。秋田工業高校五十嵐典彦教諭、江原嶋１遺跡（吉川担当）の件で来跡し、調査区を見学。櫻田課長補佐、事務連絡を兼ねた現場視察のため来跡。

７月22日　児玉課長補佐が、調査員として加わった。霜月神楽保存会来跡。

７月29日　ＳＤ７０１溝状遺構から瀬戸美濃椀、銭貨（聖宋元寶）、および枘穴のある材を検出。

７月30日　ＳＥ８９３井戸跡から磁器片・箸状木製品・クルミ・トチが出土。

８月２日　ＳＥ８９３井戸跡から植物（夕顔？ヒョウタン？）、Ｂ区遺構確認中に木製箆が出土。

８月３日　Ａ区全域およびＢ区北半を平鹿農林事務所に引き渡した。Ｃ区の遺構確認作業を開始。平鹿農林事務所佐藤技師、引き渡しのため来跡。

８月４日　Ｃ区の遺構精査を開始。ＳＫＰ２０７４柱穴からも須恵器系中世陶器が出土。ＳＬ１１７６河川跡から火山灰層を検出。

８月６日　ＳＥ３００５井戸跡は曲物が埋設される。方形のＳＫ３００１土坑はＳＥ３００４井戸跡に切られている。ＳＫ３００１・ＳＥ３００７井戸跡から箸状木製品、ＳＫＰ２０５２柱穴から木器、ＳＫＰ２０８６柱穴から磁器片・布が出土。児玉課長補佐来跡し、助言を得た。

８月10日　ＳＫＰ２１０２柱穴から角材を検出。ＳＫＰ２０８３柱穴から鉄滓、ＭＬ６２グリッド（同一箇所）から曲げ物・箸が出土。

８月19日　Ｅ区の表土除去作業を開始。ＳＫＰ２１０３柱穴から鉄滓が出土。

８月20日　ＳＥ３００６井戸跡から箸状木製品、ＳＫＰ２１０５・ＳＫＰ２１０７柱穴から水晶が出土。

８月24日　船木調査課長、児玉課長補佐、発掘調査の進捗状況把握のため来跡。

８月26日　調査員として五十嵐が加わる。ＳＥ３００６井戸跡から樹皮が敷き詰められた状態で検出。覆土中位から蓋状木製品が出土。

９月２日　Ｄ区の遺構確認作業を開始。ＳＤ２１００溝状遺構から須恵器系中世陶器四耳壺、ＳＥ２０５１井戸跡から白磁・柄杓・かわらけ、ＳＸ３０３４土坑から箸状木製品・蓋状木製品が出土。ＳＬ１１７６河川跡から火山灰および炭化材を検出。児玉課長補佐、発掘調査の進捗状況把握のため来跡。

９月３日　ＳＥ４００８井戸跡から多量の箸状木製品・櫛・底板状木製品等が出土。ＳＸ３０１９土坑から箸状木製品、ＳＬ３０３２河川跡からは箸状木製品・蓋状木製品、ＳＬ３００２河川跡から釣瓶様の木製品・漆器・挽物の未製品および枘穴のある材が出土。文化課大野課長補佐来跡。

９月16日　ＳＫ３０３８土坑から多くの籌木および植物種子が出土し、便所跡であることを確認。ＳＥ４００４井戸跡の確認面から須恵器系中世陶器四耳壺、ＳＥ４００２井戸跡から箸状木製品・かわらけ・藁様の植物遺体、ＳＥ２１２３井戸跡からは箸状木製品・フイゴ羽口・箆状木製品・曲物の底板が出土。ＳＥ２１２３井戸跡の覆土中位には藁様の植物遺体が敷かれていた。

９月22日　船木調査課長、現場視察・訓示のため来跡。

９月28日　ＳＫＰ４０２０柱穴より礎板、ＭＧ５０グリッドで出土。平鹿町教育委員会柿崎教育長、高橋社会教育課長、飯野生涯学習係長が来跡。

10月４日　ＳＥ３０４７井戸跡から漆塗りの椀・箸状木製品・底板？、ＳＫＰ４２７９柱穴からは礎板が出土。文化課谷地学芸主事来跡。

10月５日　平鹿農林事務所鈴木主任、佐藤技師、発掘調査の進捗状況把握のため来跡。

10月６日　ＳＥ４００５井戸跡から箆状木製品、ＳＥ４１１１井戸跡から甕破片が出土。ＬＮ３５グリッド付近から八角形様の柱材を検出。

10月８日　ＳＥ４００３井戸跡から曲物容器・陶磁器（かわらけ含む）・ツマミ付き棒状木製品が出土。ＬＪ４１グリッドから漆塗り木製品が出土。

10月12日　ＳＥ４００５から漆器皿（ほぼ完形）が出土。

10月15日　ＳＫＰ４１７３柱穴から八角形様の柱材を検出。

10月18日　ラジコンヘリコプターによる航空写真撮影（～１０月１９日）。

10月21日　Ｄ区にて板塀跡を検出。ＳＸ５０５０土坑から木製用具が出土。大森町公民館現場見学希望者来跡。櫻田課長補佐来跡。

10月22日　ＳＸ５０６３土坑から火山灰を検出。ＳＥ５１８８井戸跡からは灰白色粘土、その上位から大量の炭化物・焼土を検出。ＳＫ４１５３土坑からは鉄製容器、ＳＫＰ４２１２柱穴の柱痕跡最底部からは高台の削り出しが未了の木製容器が出土。

10月27日　ＳＥ５０３６井戸跡から鉄製品が出土。児玉課長補佐が、調査員として加わった。

10月29日　Ｂ区南半およびＣ区全域・Ｄ区北側約1/3を平鹿農林事務所へ引き渡した。そのため平鹿農林事務所佐藤技師来跡。

11月12日　Ｄ区・Ｅ区の精査を終了し、観音寺廃寺跡発掘調査の全工程を終了した。即日、調査区のＤ区およびＥ区を平鹿農林事務所に引き渡した。平鹿農林事務所佐藤技師、引き渡しのため来跡。大森町教育委員会高橋氏、霜月神楽保存会赤川氏来跡。

第４章　調査の記録

第１節　遺跡の基本層序

調査区内の基本層序は、表層より［水田耕作土→旧表土→地山→基盤］という堆積を示す。このうち旧表土は調査区内の一部で確認できるのみで、現況の水田を造成した際に一部が削平されたと考えられる。あるいは原地形の微少な高低などの要因により、元来より部分的な堆積に止まっていた可能性もある。地山は調査区内の河川跡に沿った自然堤防上では中～小礫を多く含み、その外側では細礫～粗粒砂を含む様相を呈する。

本遺跡における基本層序の土質・土性は次のとおり。

Ⅰａ層　表土（耕作土）層

黒褐色シルト、１０ＹＲ４／１、しまり弱、粘性やや強、Fe_2O_3沈着によりにぶい黄橙色（１０ＹＲ６／３）を呈する箇所がある

Ⅰｂ層　鋤床層

にぶい黄褐色シルト～粘土、１０ＹＲ４／３、最深部は粘土様を呈しかたくしまる、炭化中粒多量含む、Fe_2O_3糸根状少量含む

Ⅱ層　旧表土層（遺物包含層；層の各位にて遺構を確認）

黄灰色粘土、２．５Ｙ４／１、Fe_2O_3筋状多量含む、炭少量含む（Ⅱ層上面においては比較的多い）、水田造成時に削平された部分が多い、黒褐色（１０ＹＲ３／１）～暗褐色（１０ＹＲ４／１）を呈する箇所がある

Ⅲ層　地山（層の上面にて遺構を確認）

灰黄褐色砂～シルト、１０ＹＲ４／２、Fe_2O_3断面筋状（平面塊状・粒状）に密に混じり、黄褐色（１０ＹＲ５／６）を呈する箇所と、グライ化し暗緑灰色（１０ＧＹ４／１）を呈する箇所とがある

Ⅳ層　基盤

青灰色粘土。場所によってはⅢ層との間に砂層が堆積する。上溝川沿いの低い部分では砂礫層が堆積する

第２節　検出遺構

本調査区内で検出した遺構は平安時代～鎌倉時代（12～13世紀）、および室町時代～江戸時代（15～17世紀）に係る時期の所産であり、その主体をなすのは中世初期ともいうべき12世紀を中心とする遺構群である。これらは主として調査区の南側に検出した。また中世後期～近世初頭、15～17世紀中頃に係る遺構群も調査区の北側に検出した。遺構総数は1,880遺構である。中世後期～近世初頭の遺構は概ね掘立柱建物跡群および周辺の遺構に限られることから、該期の遺構を919基、その外の961基を中世初期の遺構とした。遺物は縄文時代および平安時代～江戸時代に係るものが出土したが、前記

した時期以外の所産はごく少い。

１　縄文時代

縄文時代の遺物は数十点が遺構内および遺構外から出土した。土器破片は著しく摩滅しており、また縄文時代遺物を出土した遺構とはいえ、中世初期の遺物を共伴した。このため、これらの遺構は縄文時代の所産ではなく、元来の堆積土や河川による運搬作用により本調査区内にもたらされたものが混入したものと考えられる。これは調査区内各所に確認した河川跡の存在からも裏付けられる。

土器は摩滅が著しく判然としないが、一部文様が判別できるものについては縄文時代後期～晩期の所産と判断した。石器類は剝片石器および剝片、および石製品と思われるものがごく少数出土したのみであるが、これらについても同様の時期の所産と思われる。

２　平安時代～鎌倉時代

①掘立柱建物跡　　17棟（第108図・第109図、附図１）

板塀跡　　１列（附図１）

該期の掘立柱建物跡は調査区南側に17棟確認した。Ｂ区～Ｅ区に散在するが、その中心となるのはＤ・Ｅ区である。これらは柱穴内からは中世初期の遺物が出土し、柱材の年代測定結果や出土遺物から12世紀頃のものと考えられる。上溝川を挟んで対峙する山中の経塚から出土した経筒紀年銘（久安五年）年とよく合致する。本遺跡の主体をなす建物群であり、その中心建物であるＳＢ５掘立柱建物跡は、建物を構成するＳＫＰ４１８６Ｂ柱穴から「御佛殿前申」の墨書のある木簡（第74図２）が出土した。このＳＢ５掘立柱建物跡の柱材は、一部が抜き去られていたものの、非常に良い保存状態の柱材も遺っていた。地権者の話では水田耕作の障害として抜かれたものもあるという話であった。柱材は八寸角の大面取りの角柱で、その加工技術上の特徴より略八画形様の形態を呈する（第100図、図版９）。側面は手斧を用いて調整され、端部は鑿により平坦に切り取られている。遺存したのは柱材の地中部分、つまり柱穴に埋設された部分のため、加工は粗く大雑把である。しかし建築史的には、人目にあまり触れることのない部分の加工を省略することはよく知られた事実であり、また円柱は四角→八画→十六角…と原木を削りだして最終的に円柱に仕上げるため、工程がかかる分、柱材としての格が高いとされる。重要文化財等として遺存している近世以前の建造物の柱材を観察すると、円柱であるにも関わらず、床下部分が八角の状態のまま残されている例も多い。そのためこれらの柱材も、本来的に見せるべき地上部分はさらに緻密な加工・仕上げがなされていたことが容易に推測できる。また柱材はすべて心去り材で残存する年輪数も140前後を数え、大径の材を贅沢に使用して製材されている。端部に目処穴を遺すものもある（第100図５）。

このＳＢ５掘立柱建物跡以外にも建物跡が16棟存在するが、北に離れたＢ区に位置するＳＢ１４掘立柱建物跡は、小径ながらも同じく心去り大面取りの角柱を用いて建立されている。ＳＢ８掘立柱建物跡も含め、いずれも後述する不整形土坑や井戸跡の側に位置する場合が多く、当初からこれらの遺構に附属する建物として建てられたと考えられる。同様に一部の井戸跡に隣接する掘立柱建物跡も存在する。

また遺構群を区画したと思われるＳＡ１板塀跡も検出した。ＳＫＰ４３６３・４３８７・４３６４・４４７２・４２３８・４３６５・４２３９・４２４０・４２４２・４２４３の10基の柱穴列で構築される。これは一部の柱穴内に板材が遺存しており、それらがすべて柱穴列方向に対して垂直に埋設さ

れていたため、板塀列と判断したものである。

これら掘立柱建物跡群の詳細については八戸工業大学　高島成侑教授の玉稿を賜り、「第６章　観音寺廃寺跡の掘立柱建物跡」として別章を設けたので参照されたい。

②井戸跡　　32基（第４図～第19図）

井戸跡は調査区内にほぼ帯状をなして位置する。地下水脈にあわせて掘削されたものと考えられる。第１節に記したように遺跡が立地する谷底平野の基盤は青灰色粘土であるが、その上面には部分的に砂層が堆積する場所がある。基盤が不透水層であるため、この砂層部分は地下水脈となっている。そのため検出した井戸跡はすべてこの砂層まで掘り下げており、その深さは最深で1.5m程度である。井戸側の構造により、Ｃ（四隅の隅柱と横桟で構成）・Ｄ（隅柱を伴わずに横桟のみで構成）・Ｅ（曲物のみで構成）・Ｆ（部材の抜き取り・基礎により詳細不明）類に分類した。

集落遺跡でもない本調査区に、しかも短期間のうちに32基もの井戸が掘削されたという事実は極めて不自然である。これらの多くではモモ・スモモ・クルミの核や陶磁器・刀子などの出土、井戸側の意図的な抜き取りおよび破壊、礫の投げ込みなどを確認し、井戸開削および閉塞に伴う祭祀が行われたことも確認している。遺物は須恵器系中世陶器・かわらけおよび様々な木製品が多く出土し、後述する不整形土坑および河川跡を対象とする水辺祭祀との関連からも、単に水利を供する場としてだけではなく、水を湛えて機能している井戸自体が祭祀の対象となっている可能性が高い。

③土坑　　27基（第20図～第25図）

点在する土坑からは須恵器系中世陶器・かわらけおよび木製品などが出土した。

ＳＢ１１掘立柱建物跡の内部に位置するＳＫ３０３８土坑からは籌木および植物種子類が多量に出土し、便所跡であると判断した。埋土の状況から汲み取り式の便所であると考えられる。堆積土中央部は籌木の出土が少なく、施肥の障害となる籌木を押し避けながら汲み取ったことが窺える（第22図）。堆積層の１層～４層を水洗選別して出土種子を精査した。詳細は第７章に記載する。また最底部の土壌サンプルの分析により、獣や魚を食べず、菜食中心の食生活を送った人間の便所であったことが判明した。

④不整形土坑　　14基（第26図～第29図、第52・53図）

河川跡　　９箇所（第54図～第57図）

調査区内の河川跡の周辺に、大型で掘り込みがはっきりしない、また水を湧出する不整形な土坑を多く検出した。これらの不整形土坑は上溝川の流路の移動により水流が滞ったことから、水溜まりおよび低湿地と化した旧河道が埋没し、形成されたと考えられる。ＳＬ１１７６河川跡のように旧河道と確認できるものをＳＬ河川跡と記載したが、両者とも旧河道に由来することでは同一の起源を有する。そのため前記した不整形土坑も河川跡と密接な関連を持つため、両者とも本項で一括して扱うこととした。これらの不整形土坑からは形代を初めとする多くの木製品のほか、須恵器・白磁・青白磁・青磁および須恵器系中世陶器・かわらけを出土する。水辺を利用して祭祀を執り行う祭祀遺構としてとらえられる。井戸跡でも同様な遺物出土傾向が見うけられるが、須恵器・白磁・青白磁・青磁等を出土するのは概ねこれらの遺構である。本遺跡で出土する須恵器は数十点の破片でしかなく、復元可能なものは皆無である。白磁・青白磁・青磁も250点余り出土したが、遺構内から出土するものの多くはこれらの遺構からである。

河川跡は前記したとおり上溝川がかつて蛇行した跡と考えられるが、他のいくつもの小河川・沢が合流していたと思われ、その流路は複雑である。遺跡が立地する谷底平野はこの活動の結果形成されたものであるが、微視的には一様に平坦な地形ではなく、部分的に微高地を残している。掘立柱建物跡や井戸跡等は基本的にこの微高地上に位置しているが、本項に含めた不整形土坑はそれらを取り囲むように低湿部に位置している。河川跡もいうまでもなく同様である。

河川跡は深い部分では２ｍを超える深さを有し、多くの流木（自然木）が埋没している。しかし部分的に浅くなっているところや、水流が切れて水溜まり様になっているところでは前掲した遺物を出土する場合が多い。すなわち低湿地と化した旧河道の一部もまた祭祀の対象としてとらえられ、その意味では不整形土坑と同様の祭祀遺構と考えられる。

ＳＸ４２００不整形土坑は、ＳＢ５掘立柱建物跡と重複し、この柱穴より古い。しかし高島氏によれば、建物の庇部分の柱穴がこの不整形土坑にかかるだけであり、ＳＢ５掘立柱建物跡が祭祀に係る附属施設としてＳＸ４２００不整形土坑に隣接して建てられたと考えられる。

⑤柱穴および柱穴様土坑　877基（第30図～第50図；①にあげたＳＢおよびＳＡを構成する柱穴を含む）

柱穴は本来的には掘立柱建物を構成したものと考えられるため、その検出位置も①の項で述べたとおり、調査区の南側と北側に大きく偏る。このうち北側（Ａ区）の一帯（附図１拡大図）の柱穴群は中世後期～近世初頭の所産と考えられる。概ね調査区の南側（Ｂ～Ｅ区）に位置している柱穴は、前項に掲げた遺構群とほぼ同様の分布を示すことから、中世初期に属すると考えられる。

柱穴の特徴としては分布が河川跡を含む低湿地に囲まれた微高地上に限られ、また裏込め土に地山粘土を使用しているため、柱穴としての構造が非常に弱いことがあげられる。前記したＳＢ５掘立柱建物跡の柱穴などでは、沈み止めの礎石として柱材の下部に掌大の偏平礫を数個配しているものもある。またほとんど混入物のない地山粘土で埋められるため、掘形が確認できなかったものもある。検出遺構一覧表で「杭」の扱いにしている柱穴の中には材の末端が平坦なものがあり、これらは本来柱穴に埋設されていた柱材であるものの、掘形がどうしても確認できなかったために「杭」として記載したものである。遺存する柱材の樹種は、ほとんどが杉材である。

⑥その他の遺構（第50・51図）

Ｅ区にＳＤ５２４８溝状遺構、およびＤ区にＳＱ４００６配石遺構を検出した。両遺構とも出土遺物は無く、性格は不明である。

３　室町時代～江戸時代

①掘立柱建物跡　　11棟（第109図・110図、附図１）

調査区北側（Ａ区）で検出した11棟の掘立柱建物跡は中世後期～近世初頭の建物跡群で、柱材の年代測定結果や出土遺物から15～17世紀の所産と考えられる。これらの建物跡群の配置は現在の水田区画にほぼ並行する。この水田区画は30～40年前に重機によらず人力で整理したもので、それ以前の大区画がほぼ踏襲されているとの地権者の話であった。つまり現在の水田区画には、かなりの割合で近世以前の基本的な土地区割りが反映されていると考えられる。

建物群の北限～東限はおおよそＳＬ４および連続する溝跡に囲まれる一帯で、南限～西限は調査区境界までがその範囲となる。元来は南側および西側にさらに広がっていた可能性もあるが、水田造成

によって失われている。この建物群は高島氏により、中世後期～近世初頭の寺院跡であることが明らかになった。

19世紀前半に菅江真澄が当地を訪れた際には既にこのあたりは田地となっていたが、人々が「屋敷田」と呼んでいたことが挿し絵とともに記録されている。後に建物群が廃れて田地として開発されたことを除き、基本的に当時とほとんど変わらない土地区画だと思われる。

前掲したとおり、これら掘立柱建物跡群の詳細については第６章を参照されたい。

②土坑　　４基（第20図）

ＳＫ６１１土坑は出土した材による年代測定で17世紀半ばを示したが、大窯Ⅱａ期の瀬戸美濃皿の外、須恵器系中世陶器および加工材・自然木が出土し、またウリ科植物の果実（夕顔か？）も出土した。前記した掘立柱建物群の区画内でも、ＳＤ４寄りで比較的柱穴分布が希薄な最北部にこの土坑は位置する。これらのことから、ＳＫ６１１土坑はこれら北側の建物群と同時期の、様々な生活廃棄物を棄てたゴミ穴として機能した土坑と思われる。

③溝状遺構　　４条（第51図）

ＳＤ７０１とした溝状遺構群は、①の項にあげた掘立柱建物群を区画する溝跡で、調査時にも石畳様の堆積状況を確認している。銭貨のほか多くの木製品が出土していることから、道路様の施設というよりは複数の建物敷地を区画するような溝跡と考えられる（64・72頁写真）。またＳＬ４河川跡も建物群の北限を区画する位置にあるため、前述した中世初期の遺物以外に中世後期～近世初頭の遺物も多く出土する。建物群の東限を区画してＳＬ４河川跡に合流する溝跡もあるため、ＳＬ４がそのまま水路または区画溝として利用されていた可能性も高い。

④柱穴　　906基（第30図～第50図）

北側の掘立柱建物跡群は本調査区の中で最も標高が高い一帯に位置している。この一帯は旧河川により形成された自然堤防上に位置し、地山にも拳大の礫が混入しており強固な地盤となっている。その一帯に掘り込まれている柱穴は中世初期のものに比べると、大きくても径40～50cmと小径のものが多い。遺存する柱材は径20cm以下のものが多く、柱材の樹種の多くは広葉樹を用いている。

⑤その他の遺構　　３基（第29図）

Ａ区にＳＱ７８２およびＳＱ７８３配石遺構を検出した。両遺構とも出土遺物は無く、性格は不明である。また同じくＡ区にＳＮ２８４焼土遺構を検出した。これは分布範囲を持った炭化物を検出したもので、被熱した焼土では無い。

第３節　出土遺物

①輸入陶磁器（第62・63図）

白磁・青白磁・青磁

中国産白磁の多くは福建省産であるが、少数ながら広東省産のものも出土し、計202点出土した。これらは東北では12世紀第２四半期～13世紀前後に見られるものおよび15～16世紀のものである。詳細は下記の表にまとめた。接合する破片は皆無に等しく、遺構内出土のものは不整形土坑および河川跡などの水辺遺構で他の祭祀遺物とともに出土することが多い。様々な祭祀行為に使用するため、破

片の状態で遺跡に持ち込まれた可能性も考えられる。

中国産青白磁は江西省景徳鎮付近産の椀・皿・合子椀が９点出土した。中国産青磁は浙江省龍泉窯産の椀・皿が29点、福建省同安窯産の椀・皿が11点出土した。接合する破片は皆無に等しく、これらも白磁と同様の出土状況を示す。

種類	白磁																					
分類			壺	椀									皿									
細分類	化有	口禿		化有Ⅱ	Ⅳ	Ⅳ～Ⅴ	Ⅳ～Ⅴ～Ⅷ	Ⅳ～Ⅷ	Ⅴ	Ⅴ～Ⅷ	Ⅷ	Ⅷ？	中世後期	化有Ⅴ	Ⅱ～Ⅳ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅴ？	Ⅸ	中世後期	染付	合計
数量	2	1	6	4	18	2	30	2	52	25	14	3	12	3	7	1	2	3	8	1	3	3	202

種類	青白磁			合計
分類				
細分類	椀Ⅲ	椀	合子	
数量	5	2	2	9

青磁						
龍泉窯系				同安窯系		合計
椀Ⅰ	椀Ⅰ-4	椀Ⅰ-5	皿Ⅰ	椀	皿	
19	2	7	1	9	2	40

白磁は壺・椀・皿に大別し、化粧土の有無および型式によって細分類した。化粧土の有るものは広東省産、無いものは福建省（一部は浙江省）産である。例えば「化有Ⅱ」は広東省産で化粧土が有るⅡ類、Ⅳは福建省（浙江省）産のⅣ類に比定できる破片を指す。15～16世紀産のものは中世後期とし、また該期の染付も白磁に含めた。青白磁は器種で分類した。青磁は龍泉窯系・同安窯系に大別したうえで椀・皿を型式分類した。

②国産陶磁器

須恵器（第59～61図）

壺・甕の破片のみ58点出土した。復元可能な個体は皆無であるが、内面に黒色付着物（墨痕？）のあるものおよび猿面硯として転用したものが１割程度あり、接合例もある（第59図９）。これらも不整形土坑および河川跡などの水辺遺構で他の祭祀遺物とともに出土することが多い。また時期的にも他の遺物より若干古いため、祭祀に使用するため、破片の状態で遺跡に持ち込まれたものと考えられる。

須恵器系中世陶器（第66～72図）

いわゆる珠洲系陶器を指す。壺甕類・鉢類（片口・擂鉢を含む）・四耳壺が1,600点余り出土した。大半は壺甕類の胴部破片で、復元可能な個体は皆無に等しい。調査区全域から出土するが、調査区北側では希薄となる。多くは中世初期の遺構群に伴うもので、口縁部破片など時期を推定し得るものではⅠ期に比定できる破片も多い。また中世後期に係る破片も若干あり、これらは輸入陶磁器の項で説明したように、北側の遺構群に伴うものと思われる。

かわらけ（第64・65図）

501点出土した。破片資料のみで復元可能な個体はごく少ないが、被熱しているものがほとんどである。前述した不整形土坑・河川跡および井戸跡から出土し、祭祀に用いられたと考えられる。３群に分類した。

Ａ　手捏ね成形のみのもの

Ｂ　手捏ね成形の後、口縁部を布のようなもので１段あるいは２段にナデるもの

Ｃ　ロクロ成形のもの。底部は回転糸切りで切り離される

その他陶磁器類（第73図）

瓷器系および瓦器系の陶器が少量出土した。須恵器系中世陶器と共伴する事から、同様の時期の所産と考えられる。

瀬戸美濃は大窯期に属するものが少量出土した。完形およびほぼ完形のものはⅡｂ期に属するものが出土した（第73図１～３）。

近世陶磁器は肥前産の磁器椀皿類の破片が多数出土した。波佐見産が多く、概ね17～18世紀に属する。また肥前産陶器椀皿類も概ね同時期のものが出土している。調査区全域から出土するため、耕作

土とともに移動したものと考えられる。

③石器・石製品（第107・108図）

縄文時代の石器類については、第２節１で説明したように、本遺跡の本来的な遺物ではないと考えられる。平安時代のものとしては、砥石が５点出土した。碁石と考えられる小型円盤状の白色・黒色礫も数点出土した（第103図６）。

④鉄製品（第104図）

中世初期の遺構から刀子が３点出土している。ＳＥ４００５井戸跡とＳＸ５０６３不整形土坑から出土したものは、第２節で説明したように祭祀に伴い納置されたものと考えられる。ＳＫＰ４１５３柱穴出土の鉄製品は、ＳＢ５掘立柱建物跡を構成する柱穴列に沿って隣接する柱穴中から出土し、埋納された祭祀具（仏具？）の可能性が高い（第104図３）。

ＳＬ１１７６河川跡から鉄鋌（鉄の延べ板）が１点出土した（第104図５）。近接するＳＥ２１２３井戸跡からはフイゴの羽口も出土しているため（第103図７）、この周辺に鍛冶施設が存在した可能性が高い。

⑤木製品（第74～99図）

木簡

ｉ）ＳＥ４００５井戸跡出土の木簡　106×（60）×４㎜

上下を欠損している。平川氏によれば、漢字とその読みを記した木簡で「字書木簡」とも言うべきものであるとのことであった。裏面にも墨書があり、木札様に使われている。このＳＥ４００５井戸跡の中位から出土し、井戸閉塞の祭祀に伴い埋納されたと考えられる（第74図１）。

ⅱ）ＳＫＰ４１８６Ｂ柱穴出土の木簡　（171）×33×20㎜

ＳＢ５掘立柱建物跡を構成するＳＫ４１８６Ｂ柱穴の柱痕跡底部から出土した。柱材を抜き取った際の廃絶行為として埋納されたものと考えられる（第44図、図版８）。高島氏によると、ＳＢ５掘立柱建物跡は建築史的観点からは「仏堂」ではないとの結論が出されている。

ⅲ）ＳＬ４河川跡に接続する溝跡出土の木簡　130×32×５㎜

ＳＬ４河川跡に合流する溝から出土した。第２節で説明したように、ＳＤ７０１溝状遺構同様、江戸時代の建物群を区画する溝跡として使用されたと思われるため、当該時期の所産の可能性が高い。付け札の類と思われる。

ⅳ）ＭＫ６０グリッド出土の木簡　135×40×６㎜

ＳＬ３００２河川跡付近から出土した。ＳＬ３００２河川跡からは多量の木製品が出土しており、上溝川の現在の河道に近いため、付近にかつて橋があった可能性も考えられる。

第101図３に掲げた用材は表土除去に伴い見つかったもので出土位置がはっきりしないが、橋脚の部材と思われる。調査区内に散在する河川跡と何らかの関連があるかもしれない。

箸状木製品

完形品が315点（遺構外11点）、欠損品が3,140点（遺構外350点）出土した。出土数に対する遺構外出土の比率は約１割でごく少ない。遺物計測値（長さ）の平均は21.9㎝である。他の木製品と違い遺構外からの出土がごく少数であり、遺構内部に意図的に容れられた可能性が高いため、便宜上「箸状木製品」と呼称した。かわらけを出土する遺構と分布が重なることから、水辺祭祀においてかわらけ

と共に容れられた祭祀具としても考えられる。

籌木状木製品

遺構内から707点出土した。概ね長さ10cm・幅１～２cmで、一端が折り割られた形跡を有するものがほとんどである。遺物計測値（長さ）の平均は9.6cmである。接合すると20cm程度になるものが少数あるため、本来的には20cm程度に成形した小板材として準備され、使用に際して２～３片に折り割って使用したものと考えられる。遺構内からのみ出土した。便所跡であるＳＫ３０３８土坑出土品のように用便後に使用し廃棄されたものは「籌木」としてとらえるべきであるが、同様の規格・形態を持つものが他の遺構からも出土するため、便宜上「籌木状木製品」と呼称した。井戸跡や不整形土坑など、水辺祭祀を執り行った可能性が高い遺構から出土するため、何らかの祭祀にも使用された可能性もある。

下駄

連歯下駄および差歯下駄（の差歯部）が出土した。指先などの位置が摩滅し、凹みを呈するものがある。

椀皿類

椀・皿はロクロの爪痕が遺るベタ高台のものが多数を占める。荒型（第77図３）が出土していることから、漆器類が本遺跡にて生産されていたと考えられる。遺構内では井戸跡および不整形土坑・河川跡から主に出土するが、遺構外からの出土も多く詳細は不明である。第90図３・４はＳＬ４河川跡上部および近接地で出土したため近世の所産と思われるが、椀蓋の製品（３）と未製品（４）である。高台の形態により４分類した。

Ａ　輪高台を持つもの

Ｂ　底部にロクロの爪跡が残るベタ高台を持つもの

Ｃ　高台を持たないもの

Ｄ　その他、詳細が不明なもの

曲物・曲物底

井戸跡および不整形土坑・河川跡から主に出土するが、井戸開削時に水溜（井戸枠）として埋設されたもの、および井戸祭祀に伴って納置・埋納された曲物・柄杓なども多い。容器としての底板形状でのみ２分類した。

Ａ　底板側面に木釘で側板固定した孔を持つもの

Ｂ　底板に加工痕跡を持たないもの

楔

木製の楔が出土している。第86図２は楔がかけられた状態の加工材で、これらは主に井戸枠を組むために使用したと考えられる。単体の楔は河川跡から主に出土し、両者は何らかの有機的関連を持つのかもしれない。

形代・斎串

井戸跡および不整形土坑・河川跡から矢形・刀形・刀子形などの形代および斎串が出土した。前述した水辺祭祀に伴う祭祀具として使用されたものである。

⑥その他

フイゴの羽口

ＳＥ２１２３井戸跡から出土した（第103図７）。ＳＥ２１２３井戸跡はＳＬ２１００河川跡を掘り込んで開削した井戸である。このＳＬ２１００河川跡も水辺祭祀に伴う遺構としてとらえられる。鉄鋌の出土ともあわせ、周辺への鍛冶工房の存在を想定できる。

銭貨（第105図）

10～18世紀に係る銭貨が出土した。詳細は第104図下表の通りである。ＳＸ４３２９不整形土坑出土の景徳元寶（第105図３）は、水辺祭祀と関連して埋納された可能性がある。

⑦種子類

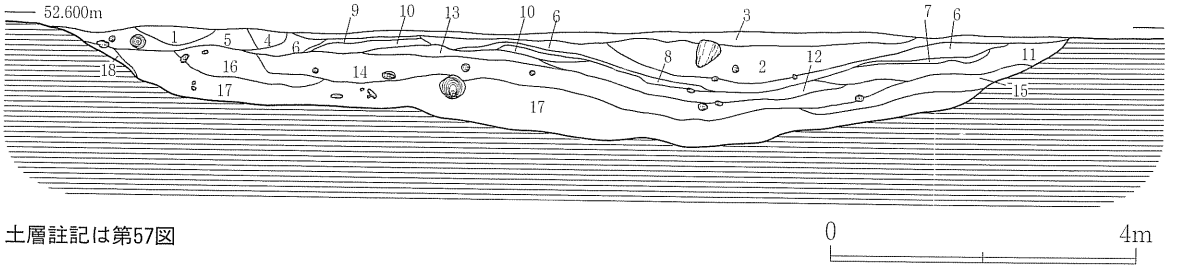
遺構覆土中および遺構外から多数の植物種子類が出土した。このうち井戸跡・不整形土坑・河川跡から出土したモモ・スモモ・クルミ（オニグルミ）については、水辺での祭祀に用いられたと考えられる。国立歴史民俗博物館の辻氏によると、焼いたモモ核の割れ方で吉凶を占い、井戸に容れる行為はよく知られており、モモ以外の核も同様の意味で使用される例が多いとのことであった。つまり割れたものおよび炭化したものについては、吉凶の占いに使用された可能性が極めて高い（下記表）。

便所跡であるＳＫ３０３８土坑出土種子類については第７章に詳述する。

遺構番号	モモ	スモモ	クルミ	トチ	その他
SD 701			0(2)	0(1)	球果1
SD 701D				1(0)	
SE 1				1(0)	
SE 2	3(1)	1(0)	0(1)	5(20)	
SE 893			0(1)	4(2)	
SE 2051	6(3),炭0(1)	2(2)	0(2)		
SE 2112	3(1)				
SE 2123	3(2)		0(7)	1(5)	
SE 3003	4(4)	1(0)		0(3)	
SE 3047	炭2(0)		0(1)	0(1)	
SE 4001	0(1)				
SE 4002	1(0)			2(9)	
SE 4003	7(11)	0(1)	1(2)		
SE 4005	2(0)	0(1)	0(1)	1(1)	
SE 4008	3(1)	1(3)	0(10)	1(4)	
SE 4009	1(0)		0(7)	2(2)	
SE 4092	6(9)			0(2)	
SE 4111				0(1)	
SE 4119	4(3)		0(2)	0(3)	
SE 4251			炭0(1)	1(6)	
SE 5187	1(3)		0(3)		
SE 5291				0(5)	
SE 5300				0(2)	
SL 3			1(12),炭1(0)		
SL 4	1(0)				
SL 1176	0(1)		0(13)	6(20)	菌類1(0)
SL 2100	0(1)		2(10)		
SL 3002	5(0)		3(7)	17(23)	
SL 3032	17(6),炭5(1)	1(0)	1(1)		
SL 3034A	1(0)		0(1)		球果1(0)
SL 3034B	0(1)				
SX 3083				2(5)	
SX 4200	1(0)				
SX 4428	11(6)				
SX 5050	5(0)	1(0)	0(2)	2(0)	
SX 5063	1(0)		0(2)		
SX 5318			0(4)		
SK 611					ウリ科果実1(0)
SK 2151					炭化種子0(9)
SK 3001			0(6)	0(1)	
SK 3019				0(2)	

遺構番号	モモ	スモモ	クルミ	トチ	その他
SK 4004	2(0)				
SK 4007	2(0)		0(1)		
SK 4007B	1(0)	1(0)	0(1)		
SK 4150	0(1)			0(2)	炭化種子0(3)
SK 4337	1(0)				
SKP 109			0(1)		
SKP 164				0(1)	
SKP 504	1(0)				
SKP 513		1(0)			
SKP 586	0(1)				
SKP 712			0(1)		
SKP 713			1(0)		
SKP 741					炭化種子0(3)
SKP 804	1(0)				
SKP 905					炭化種子0(1)
SKP 920		0(1)			
SKP 941				0(3)	
SKP 992		1(1)			
SKP 1111		1(0)			
SKP 1152		1(0)			
SKP 1154	1(0)				
SKP 2015	0(2)	3(0)	0(1)		
SKP 2087					炭化種子0(6)
SKP 2109			0(8)		
SKP 2126			0(7)		
SKP 2137				0(1)	
SKP 3020	1(0)				
SKP 4098	1(0)				
SKP 4112	0(1)				
SKP 4120	1(0)				
SKP 4137	1(0)				
SKP 4147	1(0)				
SKP 4155			0(1)		
SKP 4196	1(0)				
SKP 4252			0(2)		
SKP 4292					炭化種子0(1)
SKP 4327	2(0)				
SKP 4368	2(3),炭2(0)				
SKP 5002		1(0)			
SKP 5122	1(0)		1(0)		
SKP 5198	1(0)				

1（2）は完形が１点、割れたものが２点出土したことを表す。炭は被熱したものを表す。



土層註記は第57図

第３図　SL1176断面図（MF62付近）

検出遺構一覧表　井戸跡

遺構　No.	挿図No.	グリッド	長軸	短軸	深さ	遺　物	不掲載遺物	植　物　性　遺　物	井戸側	埋土状況	備考	時　期
SE　1	4	M I　100	112	107	95	-		箸状木製品,木製品,加工材,自然木	F	側板→礫		中世初期
SE　2	4	MH　100	142	135	80	-		椀,刀子形,箸状木製品,木製品,加工材,自然木	D	礫		中世初期
SE　893	5	MR　84	105	102	69	-	白磁1	箸状木製品,加工材,種子	F	側板→礫		中世初期
SE　2001	5	LN　86	118	100	40	-		箸状木製品,加工材	E	礫		中世初期
SE　2051	6	MP　64	208	192	111	白磁,須恵器系中世陶器,かわらけ,剥片石器	縄文土器1,かわらけ3,珠洲2,鉄製品2	柄杓,曲物底,箸状木製品,加工材,自然木,種子	C曲	礫		中世初期
SE　2112	7	MP　65	203	167	92	須恵器,須恵器系中世陶器	珠洲1	曲物,加工材,種子	C	礫		中世初期
SE　2123	7	MN　64	145	140	115	須恵器,須恵器系中世陶器,フイゴ羽口	かわらけ1	皿,板杓子,箸状木製品,加工材,自然木,種子	D	側板→礫		中世初期
SE　3003	8	MK　62	112	110	69	-		皿,曲物底,箸状木製品,木製品,加工材	F	側板→礫		中世初期
SE　3004	9	MM　64	138	125	87	-		皿,蓋,箸状木製品,加工材,自然木	F	側板→礫		中世初期
SE　3006	8	ML　62	105	93	65	-		箸状木製品,加工材	F	側板→樹皮		中世初期
SE　3007	10	ME　57	106	102	34	-		箸状木製品,簀木状木製品,加工材	F	側板→礫		中世初期
SE　3015	10	ML　64	116	102	26	-		箸状木製品,加工材	F	側板→礫		中世初期
SE　3047	10	MG　56	102	94	62	-		皿,箸状木製品,簀木状木製品,木製品,加工材	F	側板→礫		中世初期
SE　3079	10	MN　61	113	110	61	-		加工材,自然木	C			中世初期
SE　4001	11	LT　50	120	115	92	縄文土器	縄文土器1,珠洲1	椀,箸状木製品,簀木状木製品,加工材,自然木	F	側板→礫		中世初期
SE　4002	11	LT　50	85	73	59	かわらけ	縄文土器6,かわらけ14,珠洲3	箸状木製品,簀木状木製品,加工材,自然木,種子	F	側板		中世初期
SE　4003	12	MB　52	171	156	75	須恵器系中世陶器,かわらけ	かわらけ6,青磁1,珠洲3	曲物,箸状木製品,棒状木製品,簀木状木製品,加工材,種子	F	側板→礫		中世初期
SE　4005	13	MB　46	121	114	124	かわらけ,刀子	縄文土器1,かわらけ7,珠洲1	皿,板杓子,箸状木製品,簀木状木製品,木簡,加工材,自然木,種子	C	側板→礫		中世初期
SE　4008	12	LS　53	166	162	95	かわらけ	かわらけ8,白磁1,珠洲1	櫛,蓋,折敷,箸状木製品,簀木状木製品,加工材,自然木,種子	F	側板		中世初期
SE　4009	16	LS　52	182	174	83	かわらけ	かわらけ3	箸状木製品,簀木状木製品,加工材,自然木,種子	F	側板		中世初期
SE　4092	14	LR　48	97	88	84	須恵器系中世陶器	かわらけ1,白磁1	箸状木製品,簀木状木製品,加工材,自然木	F	薬状植物片→側板		中世初期
SE　4111	14	LR　47	126	117	97	須恵器系中世陶器		曲物,箸状木製品,加工材,自然木	F	側板→礫		中世初期
SE　4119	15	LS　45	168	141	146	須恵器系中世陶器,かわらけ,砥石	かわらけ3,白磁1,珠洲2	矢形,箸状木製品,簀木状木製品,加工材,自然木,種子	F	側板		中世初期
SE　4251	16	LS　52	(109)	(106)	66	-		箸状木製品,加工材,自然木	F	側板→礫		中世初期
SE　4322	15	LT　45	190	176	151	須恵器系中世陶器		曲物底,箸状木製品,簀木状木製品,加工材,自然木	F	側板		中世初期
SE　5055A	16	LF　43	158	130	110	須恵器系中世陶器		箸状木製品,簀木状木製品,加工材,自然木	F	木葉→側板		中世初期
SE　5058	17	LE　42	102	98	58	-		棒状木製品,加工材,自然木	F	側板		中世初期
SE　5186	17	MB　33	112	105	90	須恵器系中世陶器	かわらけ1	加工材,自然木,種子	F	側板→礫		中世初期
SE　5187	17	MB　33	120	104	71	須恵器系中世陶器		箸状木製品,曲物,加工材,自然木,種子	C	側板→礫		中世初期
SE　5188	18	MB　32	122	119	97	須恵器系中世陶器	かわらけ1,珠洲1	箸状木製品,加工材,自然木	F	側板→礫		中世初期
SE　5291	18	LP　28	200	170	112	-		加工材	D	側板→礫		中世初期
SE　5300	19	LN　29	128	115	113	-		箸状木製品,加工材,自然木,種子	C	側板→礫		中世初期

土坑

遺構	No.	挿図No.	グリッド	杭	長軸	短軸	深さ	遺　物	不掲載遺物	植　物　性　遺　物	備　考	時　期
SK	611	20	－　－		602	450		須恵器系中世陶器,瀬戸美濃		加工材,自然木		中世後期～近世初頭
SK	1129	附図1	MP　83		134	94		-		-		中世後期～近世初頭
SK	1147	附図1	MM　83		100	62		-		-		中世後期～近世初頭
SK	1544	21	MI　83		104	90	27	-		-	旧SK1162	中世後期～近世初頭
SK	2013	21	LL　82		171	140	26	-		-		中世初期
SK	2064	21	MP　63		104	70	50	-		自然木		中世初期
SK	2065	21	MP　63		61	51	26	-	かわらけ1	加工材		中世初期
SK	2151	27	MQ　62		222	164	18	須恵器系中世陶器	かわらけ1	箸状木製品,種子		中世初期
SK	3001	9	MM　64		346	242	33	かわらけ	白磁1	皿,箸状木製品,加工材,自然木	板組水場	中世初期
SK	3009	21	MF　56		87	79	36	-		箸状木製品		中世初期
SK	3014	21	ML　64		135	120	34	-		箸状木製品		中世初期
SK	3019	27	ML　63		104	100	44	-		箸状木製品,加工材		中世初期
SK	3031	21	ME　56		131	119	AB12	-		-		中世初期
SK	3038	22	MF　54		67	56	38	-	かわらけ1	簀木状木製品,加工材	便所跡	中世初期
SK	3081	21	MG　55		64	63	10	-		-		中世初期
SK	4004	附図1	LS　46		164	140	AB22	須恵器系中世陶器		加工材,自然木		中世初期

遺構　No.	挿図No.	グリッド	杭	長軸	短軸	深さ	遺　物	不掲載遺物	植物性遺物	備　考	時　期
SK　4007A	27	LS　49		105	80	18	-	珠洲1	箸状木製品,籌木状木製品,加工材,自然木		中世初期
SK　4007B	23	LS　49		120	67	16	-	かわらけ2	箸状木製品,籌木状木製品,加工材,自然木,種子		中世初期
SK　4023	23	MC　49		70	61	16	-		加工材,自然木		中世初期
SK　4024	23	MC　49		150	92	10	-		箸状木製品,加工材,自然木		中世初期
SK　4106	23	MC　48		286	198	20	-	縄文土器1	加工材		中世初期
SK　4125A	23	MA　46		52	36	86	-		箸状木製品,籌木状木製品,加工材,自然木		中世初期
SK　4125B	附図1	MA　46		52	38	91	-		箸状木製品,籌木状木製品		中世初期
SK　4131	23	MC　45		61	52	12	-	かわらけ1	箸状木製品,籌木状木製品,加工材,自然木		中世初期
SK　4150	43	MA　45		77	59	6	-	かわらけ1	箸状木製品,加工材,自然木,種子		中世初期
SK　4331	28	LS　47		288	172	30	-		加工材		中世初期
SK　4337	24	MB　48		336	216	AB16	-	縄文土器1,珠洲1	加工材,種子		中世初期
SK　5036	25	MB　35		92	78	30	刀子		加工材,自然木		中世初期
SK　5085	29	LM　34		187	54	28	-		-		中世初期
SK　5099	25	LR　31		78	62	14	-		-		中世初期
SK　5145	25	LM　40		90	85	8	-		加工材,自然木		中世初期

不整形土坑・河川跡

遺構　No.	挿図No.	グリッド	杭	長軸	短軸	深さ	遺　物	不掲載遺物	植物性遺物	備　考	時　期
SX　3083	27	MO　60		436	366	50	-		加工材,自然木,種子		中世初期
SX　4030	附図1	MB　50		36	24	52	-		-		中世初期
SX　4200	52	LT　42		446	395		須恵器,須恵器系中世陶器	縄文土器1,白磁1,珠洲3,鉄製品1	加工材,自然木		中世初期
SX　4209	52	LT　41					-		加工材		中世初期
SX　4329	27	LR　47		388	208	34	須恵器系中世陶器,陶器,銭貨,石製品	かわらけ1	自然木		中世初期
SX　4428	26	LH　45		752	248	AB(断)24	白磁,須恵器,かわらけ	かわらけ1,珠洲1,白磁1	折敷,刀形,加工材,自然木,種子		中世初期
SX　5050	28	LG　42		334	190	20	-	縄文土器3,かわらけ1,白磁2	栓,矢形,箸状木製品,籌木状木製品,加工材,自然木,種子		中世初期
SX　5051	29	LG　42		278	248	110	-		木札,箸状木製品,籌木状木製品,加工材,自然木		中世初期
SX　5052	29	LF　42		402	200	110	-		箸状木製品,加工材,自然木,		中世初期
SX　5055B	16	LF　43		(100)	79	110	白磁,須恵器系中世陶器		箸状木製品,籌木状木製品,加工材		中世初期
SX　5063	53	－　－		568	442	44	白磁,須恵器,須恵器系中世陶器,刀子	かわらけ3,珠洲7,鉄製品1	下駄,皿,曲物底,杓子,木札,人形,箸状木製品,籌木状木製品,加工材,自然木,種子		中世初期
SX　5097A	附図1	LR　32		284	282	レベルなし	須恵器,須恵器系中世陶器		-		中世初期
SX　5318	附図1	LP　33					須恵器,須恵器系中世陶器,かわらけ,砥石	かわらけ1,珠洲2,鉄製品1	下駄,椀皿類,曲物底,蓋,折敷,板杓子,箸状木製品,籌木状木製品,加工材,種子	5319とつながる	中世初期
SX　5319	附図1	LP　33					-		-	5318とつながる	中世初期
SL　3	54	－　－		-	-		須恵器系中世陶器	珠洲3	加工材,自然木,種子		中世初期
SL　4	55	－　－		-	-	86	須恵器系中世陶器	縄文土器1,かわらけ1,珠洲2,鉄製品1,擂鉢（新）1	曲物底,人形,斎串,箸状木製品,木製品,加工材,自然木,種子		中世初期
SL　1176	57	－　－		-	-	66	銭貨,鉄鋌	鉄製品1	皿,椀,楔,加工材,自然木,種子		中世初期
SL　2100	56	－　－		-	-		須恵器系中世陶器	かわらけ2	楔,箸状木製品,木製品,加工材,自然木,種子		中世初期
SL　3002	附図1	－　－					須恵器系中世陶器	かわらけ1,珠洲2	椀皿類,曲物底,刀子形,箸状木製品,加工材,自然木		中世初期
SL　3032A	附図1	－　－					須恵器系中世陶器,かわらけ,剥片石器	かわらけ7,鉄製品2	皿,曲物底,箸状木製品,籌木状木製品,加工材		中世初期
SL　3032B	附図1	－　－					須恵器系中世陶器,かわらけ,剥片石器	かわらけ1,珠洲1	皿,曲物底,箸状木製品,籌木状木製品,加工材,自然木		中世初期
SL　3034A	附図1	－　－					-	珠洲1	箸状木製品,種子		中世初期
SL　3034B	附図1	－　－					-		箸状木製品,加工材,自然木,種子		中世初期

その他の遺構

遺構　No.	挿図No.	グリッド	杭	長軸	短軸	深さ	遺　物	不掲載遺物	植物性遺物	備　考	時　期
SD　701A	51	－　－		-	-		銭貨		皿,楔,箸状木製品,木製品,加工材,種子		中世後期～近世初頭
SD　701B	51	－　－		-	-		銭貨		皿,楔,箸状木製品,木製品,加工材,種子		中世後期～近世初頭
SD　701D	51	－　－		-	-		瀬戸美濃,銭貨		皿,楔,箸状木製品,木製品,加工材,種子		中世後期～近世初頭
SD　701本線	51	－　－		-	-		銭貨		皿,楔,箸状木製品,木製品,加工材,種子		中世後期～近世初頭
SD　5248	附図1	LQ　26					-		-		中世初期
SN　284	29	MO　89		131	96	6	-		-		中世後期～近世初頭
SQ　782	附図1	MO　84					-		-		中世後期～近世初頭
SQ　783	附図1	MP　86					-		-		中世後期～近世初頭
SQ　4006	50	LS　49		52	43	11	-		-		中世初期

柱穴

遺構 No.	挿図No.	グリッド	材	長軸	短軸	深 さ	備 考	時 期
SKP 5	30	MP 89		43	35	16		中後～近初
SKP 6	30	MQ 89		36	32	24		中後～近初
SKP 7	30	MQ 88		34	33	12		中後～近初
SKP 10	30	MH 99		23	22	18		中世初期
SKP 11	30	MG 99		24	21	18		中世初期
SKP 13	30	M I 98		47	35	6		中世初期
SKP 14	30	M I 98		25	22	8		中世初期
SKP 29	30	MO 91	●	26	26	28		中後～近初
SKP 30	30	MO 91	●	14	13	18		中後～近初
SKP 37	30	MP 91	○	13	10	22		中後～近初
SKP 38	30	MP 91	○	22	16	38		中後～近初
SKP 39	30	MP 90		40	31	12	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 40	30	MP 90	●	32	26	28	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 41	30	MP 90	●	98	58	14		中後～近初
SKP 42	30	MO 90	●	39	(23)	8	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 43	30	MO 89	●	(25)	(21)	12	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 44	附図1	MO 89	○			25	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 46	30	MQ 90	●	40	32	10	SB26掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 47	30	MP 90		39	31	28		中後～近初
SKP 48	30	MP 90	●	65	47	32	SB26掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 50	30	MP 90	●	53	45	24	SB26掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 51	30	MO 89	●	(47)	(42)	44	SB26掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 52	附図1	MO 89		44	30	33	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 53A	附図1	MQ 90		84	68	16	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 54	31	MQ 90		29	28	8		中後～近初
SKP 55	31	MP 90		43	39	10	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 56	附図1	MP 90		30	28	26	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 59	31	MQ 90		59	53	34		中後～近初
SKP 65	31	MR 90	●	(34)	(27)	30	SB26掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 66	附図1	MQ 90		50	28	31	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 67	31	MQ 90	○	-	-	30		中後～近初
SKP 70	附図1	MP 89		40	34	22	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 72	附図1	MR 90		44	32		SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 76	31	MQ 89		28	22	16		中後～近初
SKP 80	附図1	MQ 89		30	24	24	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 91	附図1	MM 87		40	30	40	SB22掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 93	31	MN 87	●	25	21	12		中後～近初
SKP 94	31	MM 87	●	39	36	26		中後～近初
SKP 99	附図1	MM 87		30	28	40	SB22掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 100	附図1	MM 87		22	10	12	SB22掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 101	31	MM 87	●	35	22	18	SB22掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 102A	附図1	MM 86	●	56	44	33	SB22掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 104	31	MN 87	○	-	-	66		中後～近初
SKP 112	31	MR 89	●	34	25	16	SB26掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 114	31	MR 89	●	28	23	10		中後～近初
SKP 115	31	MQ 89	●	27	25	44	SB26掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 116	附図1	MR 89		30	30	28	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 124	31	MP 88		24	24	20		中後～近初
SKP 137	附図1	MM 87		34	24	44	SB22掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 138	附図1	MN 87		82	44	48	SB22掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 139	附図1	MM 86		60	46	60	SB22掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 140	附図1	MM 86		20	22	53	SB22掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 141	31	MN 87	●	(25)	(22)	18		中後～近初
SKP 148	31	MO 87	●	29	24	12		中後～近初
SKP 151	31	MP 88		32	26	22		中後～近初
SKP 156	31	MO 87	●	39	32	28		中後～近初
SKP 161	31	MN 86	●	(26)	(24)	22		中後～近初
SKP 164	31	MN 86		31	28	28	SB22掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 165	31	MN 86		21	17	26		中後～近初
SKP 166	31	MN 86		20	14	26		中後～近初
SKP 168	附図1	MN 86		28	28	30	SB21掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 173	附図1	MN 85		36	34	27	SB21・22掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 175	附図1	MN 85		34	26	17	SB21掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 179	31	MO 85	○	-	-	20		中後～近初
SKP 181	31	MP 86	●	45	33	42		中後～近初
SKP 185	附図1	MO 85		36	30	33	SB22掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 188	附図1	MO 85		28	22	15	SB22掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 190	附図1	MO 84		34	30	29	SB22掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 193	31	MO 84	●	33	28	12		中後～近初
SKP 199	31	MP 83	○	-	-	36	SB20掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 200	附図1	MQ 83		26	22	18	SB20掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 205	32	MQ 82	●	25	20	20		中後～近初
SKP 210	附図1	MQ 83		28	26	16	SB19・20掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 211	附図1	MQ 83		28	26	12	SB19・20掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 212	附図1	MQ 82		24	20	7	SB19掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 214	附図1	MQ 81		14	10	15	SB20掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 218	附図1	MQ 83		42	36	15	SB20掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 220	附図1	MR 83		44	38	12	SB20掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 223	附図1	MQ 82		36	22	29	SB20掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 229	32	MR 88	●	(26)	(25)	12		中後～近初
SKP 232	附図1	MT 86		28	24	54	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 233A	附図1	MT 86		36	30	63	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 235	32	MT 85	●	29	25	10	SB23掘立柱建物跡	中後～近初

遺構 No.	挿図No.	グリッド	材	長軸	短軸	深 さ	備 考	時 期
SKP 236	32	MT 85	●	19	14	54		中後～近初
SKP 237	32	MS 85	●	60	43	54	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 240	附図1	NA 86		24	22	30		中後～近初
SKP 244	附図1	MT 86		38	30	67	SB24掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 245	附図1	MT 84		49	32	58	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 246	附図1	NA 86		44	32	34	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 248	(36)	NA 86		28	23	17		中後～近初
SKP 253	32	NA 85	●	41	30	38		中後～近初
SKP 256	附図1	NA 85		32	28	69	SB24掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 259	附図1	NA 85		38	28	44	SB24掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 260	32	NA 85	●	22	22	24		中後～近初
SKP 262	32	MT 83		49	43	48	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 265	附図1	MS 84		38	26	22	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 270	32	MR 88	○	-	-	14		中後～近初
SKP 274	附図1	MT 84	●	40	34	52	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 280	附図1	MT 84		30	30	32	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 281	32	MT 84	●	22	20	20		中後～近初
SKP 318	附図1	MK 87		34	28	17		中後～近初
SKP 340	附図1	ML 85		34	30	33	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 341	附図1	ML 84		24	22	22	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 354	32	MM 84	●	45	30	8	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 356	32	MO 89	●	30	30	12		中後～近初
SKP 359	附図1	MM 84		26	20	24	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 361	32	MM 85	●	28	23	20		中後～近初
SKP 368	附図1	MM 85		34	30	28	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 376	32	MM 83	●	31	27	14	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 383	32	MM 84		29	27	24		中後～近初
SKP 388	32	MM 84		31	27	24	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 391	32	MM 82		30	28	20		中後～近初
SKP 397	32	MM 84		33	25	20		中後～近初
SKP 403	32	MM 84		37	25	22		中後～近初
SKP 406	附図1	MN 84		22	20	21	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 422	附図1	MM 82		22	20	23		中後～近初
SKP 427	32	MN 83	●	49	28	22		中後～近初
SKP 429	附図1	MO 83		28	20	29	SB17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 430	33	MO 83		34	29	42	SB17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 435	附図1	MN 82		34	26	52	SB17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 437	附図1	MN 82		26	20	44	SB16・17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 438	附図1	MN 82		24	20	29	SB16・17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 447	附図1	MN 81		44	40	53	SB16掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 448	33	MN 81		35	30	42		中後～近初
SKP 449	33	MN 81		16	12	20		中後～近初
SKP 451	附図1	MN 82		44	38	60	SB16掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 457	附図1	MN 81		26	22	38	SB16・17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 460	附図1	MN 81		30	30	31	SB16・17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 465	附図1	MN 81		22	18	25	SB16掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 467	附図1	MN 81		22	16	21	SB17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 468	附図1	MN 81		24	22	19	SB16掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 470	附図1	MO 81		40	24	35	SB16掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 475	附図1	MO 81		34	24	17	SB16・17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 476	33	MO 81		57	31	48	SB16・17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 478	附図1	MO 80		32	30	34	SB17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 480	附図1	MN 80		30	30	25	SB17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 496	附図1	MO 81		52	48	40	SB16・17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 499	附図1	MO 81		46	30	39	SB16・17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 501	附図1	MO 80		26	16	27	SB17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 502	附図1	MO 80		34	30	29	SB17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 504	附図1	MO 80		34	40	29	SB17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 507	附図1	MP 80		46	34	10	SB17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 510	附図1	MO 82		30	28	36	SB17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 513	33	MP 81		52	38	44	SB17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 523	附図1	MO 80		30	16	27	SB17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 525	31	MR 89	●	68	42	12(AB)		中後～近初
SKP 531	33	MO 82	●	-	-	24		中後～近初
SKP 532	附図1	MO 82		20	16	29	SB16掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 536	附図1	ML 85		34	20	6	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 537	附図1	ML 85		22	22	16	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 560	33	MK 79	●	65	49	28		中世初期
SKP 576	(30)	MP 90		29	26	8		中後～近初
SKP 577	附図1	MP 90		34	22	9	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 578	33	MQ 91	●	49	22	30	SB26掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 579	33	MQ 91	○	-	-	36		中後～近初
SKP 580	附図1	MQ 91		30	26	25	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 584	附図1	MQ 90		36	28	16	SB26掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 586	30	MO 90		36	(27)	12		中後～近初
SKP 587	附図1	MQ 90		46	30	33	SB26掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 594	附図1	MN 85		44	28	30	SB22掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 596	33	MP 88	●	(26)	(24)	22	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 597	33	MO 89	○	-	-	34		中後～近初
SKP 600	33	MM 87	○	-	-	36		中後～近初
SKP 606	33	MT 85	●	(30)	(25)	40		中後～近初
SKP 607	33	MP 82	●	(27)	(17)	30		中後～近初
SKP 621	附図1	MO 86		28	22	19	SB21掘立柱建物跡	中後～近初

遺構　No.	挿図No.	グリッド	材	長軸	短軸	深　さ	備　　考	時　期
SKP　623	附図1	MO　86		48	38	18	SB21掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　631	33	MO　86	●	28	21	18		中後～近初
SKP　638	附図	MO　85		14	12	15	SB21掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　641	33	MP　88		30	28	46		中後～近初
SKP　656	34	MO　90	●	(27)	(22)	34		中後～近初
SKP　657	附図1	MO　90	●	16	10	12	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　662	附図1	MO　90		30	30	13	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　664	附図1	MP　87		28	26	13		中後～近初
SKP　665	34	MP　88	●	33	28	26	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　670	34	MQ　87		(32)	(31)	48		中後～近初
SKP　676	34	MP　89	●	-	42	20	SB26掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　677	附図1	MT　86		20	20	34	SB24掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　680	附図1	MQ　88		34	28	20	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　686	34	MR　89		21	18	26		中後～近初
SKP　689	附図1	MS　85		18	16	26	SB24掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　703	附図1	MP　88		30	30	49	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　711	附図1	MT　85		28	20	36	SB24掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　712	34	MT　85	●	30	23	26		中後～近初
SKP　713A	34	MT　85	●	53	33	38		中後～近初
SKP　713B	34	MT　85		29	(28)	4		中後～近初
SKP　728	(30)	MO　89		22	19	8		中後～近初
SKP　735	附図1	MT　85		24	20	27	SB24掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　739	(30)	MP　90		24	21	13		中後～近初
SKP　743	34	MR　88	●	17	10	36	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　748	34	MP　88		40	34	24		中後～近初
SKP　749	附図1	MQ　88		46	24	29	SB26掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　750A	34	MQ　88		48	31	20	SB26掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　751	34	MQ　88		23	20	14		中後～近初
SKP　754	34	MT　84		52	25	40		中後～近初
SKP　755	34	MP　89		(98)	58	20		中後～近初
SKP　756	34	MP　89		38	34	22	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　757	34	MP　89		133	60	14	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　760	34	MT　85		(41)	(41)	22		中後～近初
SKP　765	附図1	MQ　82		24	22	26		中後～近初
SKP　767	附図1	MQ　82		22	18	15	SB19・20掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　768	附図1	MQ　82		38	30	21	SB20掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　771	附図1	MP　82		16	12	15	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　773	附図1	MQ　83		30	24	11	SB19掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　778	附図1	MQ　83		26	20	40	SB20掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　779	附図1	MP　83		30	26	25	SB20掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　780	附図1	MP　83		34	24	13	SB20掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　786	附図1	MP　89		32	32	28	SB26掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　796	34	MQ　89		33	26	10	SB26掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　798	附図1	MP　90		26	24	18	SB26掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　803	附図1	MP　88		38	36	33	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　804	34	MO　88		51	38	10		中後～近初
SKP　808	附図1	MQ　88		46	32	36	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　809	附図1	MQ　88		32	28	27	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　812	34	MQ　88		52	40	16		中後～近初
SKP　815	附図1	MQ　89		32	20	15	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　824	34	MN　90	○	-	-	28		中後～近初
SKP　828	附図1	MP　91		26	20	34	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　834	31	MN　86		20	18	28		中後～近初
SKP　836	35	MO　89		30	26	24	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　839	附図1	MO　86		30	24	27	SB21掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　849	附図1	MP　83		20	18	18	SB19掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　854	附図1	MQ　82		34	32	28	SB19掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　855	附図1	MQ　82		38	32	51	SB20掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　856	35	MQ　82	●	26	23	26		中後～近初
SKP　859	附図1	MQ　82		34	30	27	SB19・20掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　860	附図1	MQ　83		24	20	22	SB20掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　862	附図1	MQ　83		32	30	17	SB20掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　863	附図1	MQ　83		24	22	24	SB20掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　867A	35	MP　88		35	21	34	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　867B	35	MP　88		56	45	34	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　871	35	MQ　87	●	33	29	18		中後～近初
SKP　873A	附図1	MQ　87		24	20	35	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　887	附図1	MR　82		32	28	19	SB19・20掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　903	附図1	MR　88		24	24	48	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　905	35	MR　88		36	33	18	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　906	附図1	MR　88		34	26	34	SB25掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　908	35	MR　89		38	23	20		中後～近初
SKP　909	35	MR　89		22	21	12		中後～近初
SKP　912	35	MT　85		58	47	32	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　920	35	MS　84		53	42	36		中後～近初
SKP　926	35	MS　85		40	36	70	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　930	35	MS　85		32	29	50		中後～近初
SKP　941	35	MS　86	●	(26)	(23)	62		中後～近初
SKP　951	附図1	MT　83		30	28	30	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　957	35	MT　84	●	34	26	20		中後～近初
SKP　961	35	MT　84		51	34	24		中後～近初
SKP　964	35	MT　84		38	(28)	58		中後～近初
SKP　965	附図1	MT　84		30	28	21	SB24掘立柱建物跡	中後～近初

遺構　No.	挿図No.	グリッド	材	長軸	短軸	深　さ	備　　考	時　期
SKP　966	35	MT　85		36	32	52		中後～近初
SKP　971	35	MT　85		52	31	54		中後～近初
SKP　972	35	MT　85		44	29	38		中後～近初
SKP　973	35	MT　85	●	29	28	20		中後～近初
SKP　983	附図1	NA　84		22	18	6	SB24掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　986	36	NA　84	●	34	30	60		中後～近初
SKP　989	36	NA　84		(50)	(43)	46		中後～近初
SKP　990	(36)	NA　84		(45)	26	41		中後～近初
SKP　992	36	NA　84		37	30	34		中後～近初
SKP　1000	附図1	NA　85		24	24	34	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1004	36	NA　85	●	50	30	54	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1005	36	NA　86	●	37	25	32		中後～近初
SKP　1006	附図1	NA　86		32	26	36	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1011	附図1	NA　85		46	28	10	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1021	(30)	MP　90		11	10	15		中後～近初
SKP　1022	(30)	MP　90		18	7	7		中後～近初
SKP　1031	36	MJ　83		42	36	18		中後～近初
SKP　1036	36	ML　86	●	29	27	56		中後～近初
SKP　1039	36	ML　85	●	54	27	22	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1040	附図1	ML　85		48	26	47	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1042	36	ML　85	●	27	23	44		中後～近初
SKP　1043	附図1	ML　85		22	18	37	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1044	附図1	ML　85		24	22	27	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1047	附図1	ML　84		40	26	24	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1048	附図1	ML　84		42	40	24	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1050	附図1	ML　84		24	18	13	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1059	附図1	MM　85		40	34	25	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1061	附図1	MM　85		34	30	38	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1063	32	MM　84		28	28	26	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1066	附図1	MM　84		28	22	25	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1075	附図1	MN　84		36	34	27	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1081	36	MN　82		(32)	(23)	36		中後～近初
SKP　1083	附図1	MN　82		48	32	56	SB17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1085	附図1	MN　82		26	22	36	SB17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1086	附図1	MN　82		44	30	40	SB16掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1087	附図1	MN　81		24	24	37	SB16掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1091	附図1	MO　82		26	24	16	SB16掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1093	36	MO　82		(56)	(42)	34		中後～近初
SKP　1095	附図1	MO　82		34	32	33	SB17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1096	附図1	MO　82		54	28	24	SB16掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1104	附図1	MO　81		38	32	90	SB16・17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1106	36	MO　81	●	(28)	(23)	16		中後～近初
SKP　1110	附図1	MO　81		28	18	24	SB16・17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1123	附図1	NA　84				41	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1125	36	MT　85		28	28	40		中後～近初
SKP　1127	35	MT　84		23	21	24		中後～近初
SKP　1131	附図1	MN　86		32	30	48	SB22掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1138	附図1	MM　85		36	26	24	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1139	36	MT　85		30	24	40		中後～近初
SKP　1140	32	MT　85	●	132	53	40		中後～近初
SKP　1141	36	MT　85		40	26	36		中後～近初
SKP　1142	36	MT　85		50	43	52	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1143	附図1	MM　83		22	16	31	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1145	36	ML　86	●	34	25	30		中後～近初
SKP　1149	37	MO　82	●	22	16	22		中後～近初
SKP　1152	附図1	MO　81		32	24	35	SB17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1156	36	MP　83	●	40	(33)	22		中後～近初
SKP　1157	36	MP　83		(43)	(30)	22		中後～近初
SKP　1158	附図1	MO　82		28	28	63	SB17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1159	36	MO　82		(45)	(26)	16	SB16掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1161	附図1	MO　80		20	14	32	SB17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1162	36	MN　82		(33)	(28)	20		中後～近初
SKP　1163	37	MN　82	●	(13)	(10)	48		中後～近初
SKP　1165	33	MN　81		50	30	24	SB16・17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1167	附図1	MN　81		28	28	60	SB17掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1171	37	MP　83	○	-	-	20		中後～近初
SKP　1172	37	ML　85	○	-	-	50	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1175	37	MP　82	●	-	-	34		中後～近初
SKP　1176B	附図1	MP　82		76	60	39	SB20掘立柱建物跡,旧1176	中後～近初
SKP　1177	36	NA　84		(48)	(43)	58	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1178	37	MO　82	○	-	-	34		中後～近初
SKP　1182	附図1	MS　85		22	20	36	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1184	附図1	MM　84		32	20	32	SB18掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1513	37	NA　86		35	33	44		中後～近初
SKP　1514	附図1	NA　86	●	28	24	24	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1516	37	NA　86		44	34	58	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1518	附図1	NB　85		44	32	36	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1521	37	NB　85		35	33	29		中後～近初
SKP　1522	附図1	NB　85		40	38	31	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1523	37	NB　85	●	28	24	56		中後～近初
SKP　1527	附図1	NB　85		22	18	20	SB23掘立柱建物跡	中後～近初
SKP　1529	37	NA　86		52	41	58		中後～近初
SKP　1530	37	NA　85		42	25	50		中後～近初

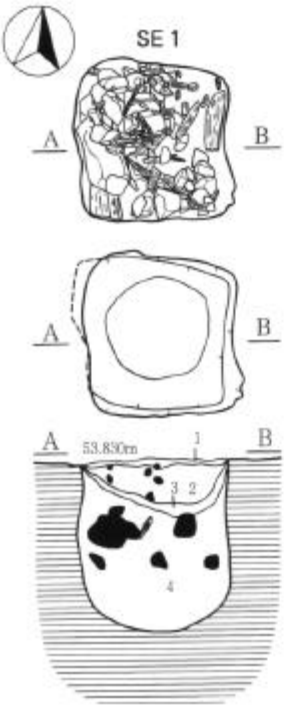
遺構 No.	挿図No.	グリッド	材	長軸	短軸	深 さ	備 考	時 期
SKP 1535	附図1	MO 85		22	20	20	SB21・22掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 1538	附図1	MO 86		26	26	22	SB22掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 1541	附図1	MN 85		18	18	19	SB22掘立柱建物跡	中後～近初
SKP 2002	附図1	LM 88		24	18	21		中世初期
SKP 2003	附図1	LN 87		44	36	26		中世初期
SKP 2006	38	LM 86	●	22	19	48		中世初期
SKP 2007	38	LM 86		16	13	16		中世初期
SKP 2009A	38	LN 87		61	46	34		中世初期
SKP 2009B	38	LN 87		(39)	(33)	8		中世初期
SKP 2012	38	LN 87		49	26	6		中世初期
SKP 2052	38	MO 64		41	35	36		中世初期
SKP 2059	附図1	MN 64		50	38	41	SB14掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2060	38	MO 64		25	19	30	SB14掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2063	附図1	MO 63		50	42	33	SB14掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2066	附図1	MP 64		42	42	25	SB15掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2067	附図1	MP 64		44	38	19	SB15掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2068	38	MP 64		62	33	10		中世初期
SKP 2070	附図1	MP 64		32	28	49	SB15掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2071	附図1	MP 64		34	34	30	SB14掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2072	38	MQ 65		65	58	40	SB15掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2074	38	MQ 64		63	45	38		中世初期
SKP 2075	38	MQ 64		(50)	(32)	28	SB15掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2082	38	MP 64		57	42	46		中世初期
SKP 2083	附図1	MP 65		52	46	50	SB14掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2084	38	MP 64		53	44	20	SB15掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2085	38	MO 64		44	41	40	SB14掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2086	38	MO 63		49	40	20	SB14掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2087	38	MO 64		53	(45)	22		中世初期
SKP 2090	(38)	MP 64		(55)	(29)	21	SB15掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2092	附図1	MR 65		44	42	37	SB15掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2094B	附図1	MO 64		50	36	8	SB14掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2096	附図1	MP 64		30	26	15	SB14掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2101	38	MP 64	●	25	20	26		中世初期
SKP 2102	38	MO 64	●	(35)	(30)	14		中世初期
SKP 2103	38	MP 64		27	25	38		中世初期
SKP 2104	附図1	MO 63		56	34	27	SB14掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2105A	38	MQ 65		33	21	16		中世初期
SKP 2105B	38	MQ 65		(32)	(27)	4		中世初期
SKP 2109	38	MP 65		59	(57)	50	SB15掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2110	38	MQ 64		(40)	(22)	18		中世初期
SKP 2111	38	MQ 64		29	20	46		中世初期
SKP 2113	39	MQ 65		26	25	22		中世初期
SKP 2114	(39)	MQ 65		24	23	29		中世初期
SKP 2115	39	MQ 65		44	38	40		中世初期
SKP 2118	39	MQ 64		33	32	10		中世初期
SKP 2119	39	MQ 65	●	23	19	30		中世初期
SKP 2120	38	MQ 64		45	(36)	10		中世初期
SKP 2121	39	MR 66		72	43	26		中世初期
SKP 2124	39	MR 65	●	(41)	(35)	32	SB15掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2126	39	MS 65		55	46	16		中世初期
SKP 2128	39	MP 65		72	46	44		中世初期
SKP 2132	附図1	MO 64		32	22	22	SB14掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2133	39	MO 64		33	27	23	SB14掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2134	39	MN 64	●	25	23	18		中世初期
SKP 2135	39	MN 64	●	31	22	26		中世初期
SKP 2136	39	MO 64	●	43	38	32	SB14掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2138	39	MO 65	●	37	34	26		中世初期
SKP 2139	39	MN 64		27	24	18		中世初期
SKP 2140	39	MN 64		(22)	(19)	6		中世初期
SKP 2142	附図1	MP 65		64	40	40		中世初期
SKP 2148	39	MQ 63		74	62	56	SB15掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2149	39	MQ 63		59	42	30		中世初期
SKP 2150	39	MQ 63		43	36	26		中世初期
SKP 2155	附図1	MQ 63		44	44	13	SB15掘立柱建物跡	中世初期
SKP 2156	附図1	MP 63		42	38	24	SB15掘立柱建物跡	中世初期
SKP 3010	附図1	MF 56		26	24	10	SB13掘立柱建物跡	中世初期
SKP 3011	附図1	MF 56		50	46	24	SB13掘立柱建物跡	中世初期
SKP 3020	40	MK 62		38	26	16		中世初期
SKP 3021	40	MK 61		51	44	10		中世初期
SKP 3022	附図1	MF 56		34	28	3	SB13掘立柱建物跡	中世初期
SKP 3030	附図1	MF 56		20	18	5	SB13掘立柱建物跡	中世初期
SKP 3040	附図1	ME 54		20	16	25	SB11掘立柱建物跡	中世初期
SKP 3044	附図1	ME 54		16	16	6	SB12掘立柱建物跡	中世初期
SKP 3045	附図1	ME 54		16	14	18	SB12掘立柱建物跡	中世初期
SKP 3051	附図1	ME 54		30	22	10	SB11掘立柱建物跡	中世初期
SKP 3055	附図1	ME 55		16	14	9	SB12掘立柱建物跡	中世初期
SKP 3056	附図1	MF 55		38	36	20	SB11掘立柱建物跡	中世初期
SKP 3057	附図1	ME 55		34	26	26	SB12掘立柱建物跡	中世初期
SKP 3082	40	MG 54		24	22	6		中世初期
SKP 3088	附図1	MF 54		30	30	21	SB11掘立柱建物跡	中世初期
SKP 3090	附図1	MF 54		18	14	27	SB11掘立柱建物跡	中世初期
SKP 3093	附図1	MF 54		18	14	12	SB11掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4020	41	MD 48		27	24	16		中世初期

遺構 No.	挿図No.	グリッド	材	長軸	短軸	深 さ	備 考	時 期
SKP 4028	41	MB 49		39	34	14		中世初期
SKP 4029	41	MB 49		34	31	8		中世初期
SKP 4041	41	MA 49		25	22	24		中世初期
SKP 4042	41	MA 49		28	23	4		中世初期
SKP 4045	41	MA 49	●	21	16	14		中世初期
SKP 4046	41	MA 49		38	33	14		中世初期
SKP 4052	41	LS 50	●	-	-	4		中世初期
SKP 4053A	41	LS 50		10	9	14		中世初期
SKP 4053B	41	LS 50		45	29	22		中世初期
SKP 4054	41	LS 50		-	-			中世初期
SKP 4056	41	LR 49		40	36	12		中世初期
SKP 4057	41	LR 49		32	28	14		中世初期
SKP 4058	41	LQ 49	●	37	31	26		中世初期
SKP 4059	41	LQ 49		42	28	14		中世初期
SKP 4062	41	LP 49	●	22	20	8		中世初期
SKP 4063	41	LP 49	●	30	24	10		中世初期
SKP 4064	41	LO 49	●	29	26	18		中世初期
SKP 4068	42	LN 50		34	21	18		中世初期
SKP 4070	42	LM 49	●	-	-	41		中世初期
SKP 4071	42	LM 49	●	32	23	18		中世初期
SKP 4072	42	LM 49	○	-	-	44		中世初期
SKP 4073	42	LM 49	●	-	-	66		中世初期
SKP 4074	42	LM 49	●	-	-	38		中世初期
SKP 4076	42	LL 50	●	(25)	(22)	10		中世初期
SKP 4082	42	LN 48		75	59	20		中世初期
SKP 4085	42	LP 48		36	32	40		中世初期
SKP 4087	42	LQ 48	●	40	25	30		中世初期
SKP 4089A	42	LQ 48		20	(17)	16		中世初期
SKP 4089B	42	LQ 48		31	(20)	18		中世初期
SKP 4098	42	MA 48	○	-	-	6		中世初期
SKP 4099	42	MB 48		31	24	10		中世初期
SKP 4100	42	MB 48		32	23	6		中世初期
SKP 4117	附図1	LP 46	○					中世初期
SKP 4118	42	LN 47		41	39	30	SB10掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4120	42	LT 45		56	27	40		中世初期
SKP 4126	42	MB 46	●	62	39	10	SB6掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4128	附図1	MB 46		24	22	6	SB6掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4132	42	MB 45	●	-	-			中世初期
SKP 4133	42	MB 45	○	-	-	34		中世初期
SKP 4137	附図1	MB 45		34	34	19	SB6掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4141	附図1	MB 45		46	42	25	SB6掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4142	43	MB 45		46	31	16	SB6掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4144	43	MB 45		26	24	24		中世初期
SKP 4145	43	MA 45	●	(56)	(30)	30		中世初期
SKP 4147	43	MA 45		23	19	48		中世初期
SKP 4149	43	MA 45	●	32	29	44	SB6掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4153A	43	MA 44		89	74	34		中世初期
SKP 4153B	43	MA 44		(34)	(29)	32		中世初期
SKP 4153C	43	MA 44		-	-	32		中世初期
SKP 4155	43	MA 44		66	51	66		中世初期
SKP 4160	附図1	MB 44		44	26	15	SB6掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4162	43	MC 44	●	49	41	28		中世初期
SKP 4166	43	MB 44	●	46	40	10	SB6掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4167	43	MB 44	○	(25)	(21)	10		中世初期
SKP 4172	43	MB 44		33	29	8		中世初期
SKP 4173	44	MA 43	●	(82)	(76)	54	SB5掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4175	44	LT 44	●	73	63	60	SB5掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4178	44	LS 44	●	(53)	(39)	14	SB5掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4179	44	LT 44	●	84	73	50	SB5掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4180	44	LS 43	●	59	57	9	SB5掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4182	44	LT 43	●	58	49	54		中世初期
SKP 4184	44	LT 43		66	60	40	SB5掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4185	44	LT 43		33	29	50		中世初期
SKP 4186B	44	MA 43		82	70	22	SB5掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4187	44	MB 43		48	(44)	38		中世初期
SKP 4188	44	MB 42		23	21	22		中世初期
SKP 4191A	44	MA 42	●	60	58	30	SB5掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4191B	44	MA 42		60	58	34		中世初期
SKP 4195	45	MA 42		29	24	14		中世初期
SKP 4196	45	MA 42		29	23	32		中世初期
SKP 4198	45	LT 42	●	51	38	40		中世初期
SKP 4202	45	MA 41		23	22	23		中世初期
SKP 4203	45	LT 43		30	24	40		中世初期
SKP 4205	45	MA 41		26	24	18		中世初期
SKP 4206	45	LT 41		111	72	14		中世初期
SKP 4208	52	LT 41		30	30	44		中世初期
SKP 4210	45	LT 42		38	32	32		中世初期
SKP 4211	45	LT 42		30	27	44		中世初期
SKP 4212	44	LT 43		65	62	40	SB5掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4213	45	LS 42		30	27	24	SB5掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4214	附図1	LS 42		38	36	24	SB5掘立柱建物跡	中世初期
SKP 4224	45	LO 45		39	36	14		中世初期
SKP 4227	45	LN 46	●	(25)	(20)	16	SB10掘立柱建物跡	中世初期

遺構　No.	挿図No.	グリッド	材	長軸	短軸	深　さ	備　　考	時　期
SKP　4228	45	LN　45		42	40	20	SB10掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4229	23	LM　46		90	83	40	SB9掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4231	45	LL　46		43	37	10		中世初期
SKP　4232	45	LM　47		41	37	32	SB10掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4233	45	LM　47		37	30	20	SB10掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4234	45	LM　47		43	41	36	SB10掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4238	45	LK　46	●	21	20	6	SA1板塀跡	中世初期
SKP　4239	45	LJ　46	●	24	21	10	SA1板塀跡	中世初期
SKP　4240	46	LJ　47	●	21	17	40	SA1板塀跡	中世初期
SKP　4242	46	LJ　47		40	35	22	SA1板塀跡	中世初期
SKP　4243	46	LI　47	●	26	20	8	SA1板塀跡	中世初期
SKP　4246	46	LI　45		44	37	44	SB8掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4247	46	LI　44		36	26	22	SB8掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4252	16	LS　52		(54)	-	(40)		中世初期
SKP　4255	附図1	MA　44		62	50	31	SB6掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4256	附図1	MB　44		14	14	23	SB6掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4257	(42)	MB　45		55	38	22	SB6掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4259	附図1	MB　44		28	28	8	SB6掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4264	46	MA　46		29	22	8		中世初期
SKP　4271	52	LT　42		32	28	28		中世初期
SKP　4272	46	LT　42		40	36	20	SB5掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4278	46	LS　49		40	28	6		中世初期
SKP　4279	46	LS　49		64	39	8		中世初期
SKP　4282A	附図1	LR　46		28	20	8		中世初期
SKP　4283	46	LT　47		32	27	8		中世初期
SKP　4297	46	MF　44	○	-	-	21	遺物のみ	中世初期
SKP　4310	44	MA　43		(26)	(22)	20		中世初期
SKP　4311	46	MA　43		32	29	23		中世初期
SKP　4312	46	MC　42		50	26	16		中世初期
SKP　4323	46	LS　46	●	50	45	20		中世初期
SKP　4324	46	LS　46	●	39	34	16		中世初期
SKP　4327	46	LT　46	●	56	50	30		中世初期
SKP　4332	46	LP　47		36	25	36		中世初期
SKP　4336	47	LM　47		46	42	32	SB10掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4342	附図1	LM　46		38	34	21	SB9掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4346A	附図1	LS　46		38	24	-		中世初期
SKP　4347	47	LN　47		49	38	8		中世初期
SKP　4348	47	LN　47		40	38	32	SB10掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4349	47	LM　47		39	35	8		中世初期
SKP　4351	47	LM　46		37	27	30	SB9掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4352	47	LN　46		38	36	18	SB10掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4353	47	LM　44		23	21	32		中世初期
SKP　4355A	47	LM　46		37	22	24	SB9掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4355B	47	LM　46		22	18	24		中世初期
SKP　4359	47	LO　45	●	19	13	28		中世初期
SKP　4360	附図1	LJ　45		36	32	35	SB8掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4361	附図1	LI　45		40	34	43	SB8掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4362	附図1	LI　45		36	28	40	SB8掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4363	47	LK　45	●	22	21	8	SA1板塀跡	中世初期
SKP　4364	47	LK　45	●	23	21	20	SA1板塀跡	中世初期
SKP　4365	47	LK　46	●	25	14	26	SA1板塀跡	中世初期
SKP　4367	附図1	LI　44		30	20	20	SB8掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4368	47	MA　44		62	44	32	SB5掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4369	47	LS　46		25	23	20		中世初期
SKP　4370	47	LK　46		30	29	26	SB9掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4371	47	LK　44	●	20	14	38		中世初期
SKP　4374	47	LK　47	●	27	22	28	SB9掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4376	47	LL　47		41	21	50	SB9掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4377	47	LL　46		31	29	22	SB9掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4378	45	MA　42		27	22	20		中世初期
SKP　4379	45	MA　42		30	28	36		中世初期
SKP　4380	47	MA　42		38	35	16	SB5掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4383	47	LL　46		45	39	24	SB9掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4387	47	LK　45	●	25	15	28	SA1板塀跡	中世初期
SKP　4388	48	LM　46		61	39	46	SB10掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4389	附図1	LJ　45		16	14	30	SB8掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4391	48	LI　45		26	25	14		中世初期
SKP　4393	48	LK　46		24	21	20	SB9掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4397	附図1	LN　43		22	22	13	SB7掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4399	附図1	LN　44		24	22	19	SB7掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4403	附図1	LN　44		28	242	15	SB7掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4406	附図1	LO　43		26	18	11	SB7掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4417	48	LT　44		31	23	12		中世初期
SKP　4423	附図1	LO　44		30	24	-	SB7掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4427	48	LH　45		57	39	42	SB8掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4429	附図1	LL　47		30	24	10	SB9掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4440	48	LT　43		50	39	50		中世初期
SKP　4441	52	LT　42		42	30	53		中世初期
SKP　4442	48	LP　44		27	25	16		中世初期
SKP　4443	48	LP　44	●	51	33	14		中世初期
SKP　4446	附図1	MC　44		36	28	24	SB6掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4447	附図1	MB　45		34	24	5	SB6掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4472	48	LK　45	●	20	18	10	SA1板塀跡	中世初期

遺構　No.	挿図No.	グリッド	材	長軸	短軸	深　さ	備　　考	時　期
SKP　4473	48	LK　45	●	18	17	18		中世初期
SKP　4479	附図1	LO　48		16	14	8		中世初期
SKP　4484	48	LP　48		29	25	30		中世初期
SKP　4485	48	LO　49	○	-	-	15		中世初期
SKP　4486	附図1	LO　48	○			9		中世初期
SKP　4487	附図1	LM　47		40	24	11	SB9掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4489	附図1	LO　45		18	14	9	SB7掘立柱建物跡	中世初期
SKP　4490	附図1	LN　45		24	24	8	SB7掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5035	附図1	MA　36		50	42	6	(SB5)掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5037	附図1	MA　35		18	18	5	(SB5)掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5066	49	LM　35	●	52	47	14		中世初期
SKP　5067		LL　36	○					中世初期
SKP　5074		LF　35	○					中世初期
SKP　5084	49	LN　35	●	(63)	(62)	34		中世初期
SKP　5093	49	LT　34	○	41	27	16		中世初期
SKP　5107	49	LR　27		77	53	30		中世初期
SKP　5122	49	LF　44		44	31	18	(SB6)掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5138	(49)	LE　43		46	33	5		中世初期
SKP　5139	49	LE　43		32	28	26		中世初期
SKP　5141	附図1	LF　42		20	18	15	(SB6)掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5142	49	LF　43		27	25	12	(SB6)掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5143	附図1	LF　43		40	39	14	(SB6)掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5152	附図1	LE　43		26	18	7	(SB6)掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5153	(49)	LE　43		21	16	9		中世初期
SKP　5163	附図1	LT　34		30	20	7		中世初期
SKP　5164	附図1	MA　36		24	24	2	(SB5)掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5171	49	LE　44		18	16	6		中世初期
SKP　5174	附図1	MA　36		18	12	5	(SB5)掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5176	附図1	LT　34		36	36	14	SB3掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5185	附図1	MA　33		20	16	17	SB3掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5197	附図1	LT　33		46	30	17	SB3掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5201	附図1	LT　33		26	20	17	SB3掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5205	附図1	MA　33		26	24	29		中世初期
SKP　5206	附図1	MA　33		22	14	14	SB3掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5208	附図1	MA　33		36	20	18	SB3掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5219	附図1	MA　32		29	22	17	SB4掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5220	附図1	MA　31		30	24	21	SB4掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5223	49	LT　32	○	26	22	24	SB3掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5225	附図1	MA　32		40	34	15	SB3掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5227	附図1	MB　31		20	20	9	SB4掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5228	附図1	MA　31		30	20	20	SB4掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5235	49	LR　28		23	21	14		中世初期
SKP　5238	49	LT　32	○	26	22	26		中世初期
SKP　5242	附図1	LT　32		28	20	8	SB3掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5249	50	LR　26		58	43	26		中世初期
SKP　5250	(50)	LR　26		27	23	22		中世初期
SKP　5252	50	LR　26		52	30	24	SB1掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5259A	50	LR　26		28	25	16		中世初期
SKP　5259B	50	LR　26		(22)	(18)	22		中世初期
SKP　5260	50	LR　26		33	(32)	18		中世初期
SKP　5261	50	LR　26		21	(18)	6		中世初期
SKP　5262	(50)	LR　26		34	(27)	16		中世初期
SKP　5263A	50	LR　27		(55)	(34)	24		中世初期
SKP　5263B	50	LR　27		18	17	24	SB1掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5267	附図1	LQ　27		58	44	32	SB1掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5273	50	LQ　25		97	48	40		中世初期
SKP　5283	50	LP　25	●	43	33	26		中世初期
SKP　5284	50	LP　25	●	41	39	25		中世初期
SKP　5285	50	LP　26	●	-	-	14		中世初期
SKP　5296	附図1	LO　26	○					中世初期
SKP　5302	50	LN　34		47	43	14		中世初期
SKP　5329	附図1	LQ　25		38	20	15	SB2掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5332	附図1	LQ　26		28	28	27	SB2掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5333	附図1	LQ　26		40	36	30	SB1掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5334	50	LQ　26	○	(38)	32	28	SB2掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5339	附図1	LR　25		26	24	20	SB1掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5341	附図1	LP　25		20	18	13	SB2掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5342	50	LP　25	○	48	39	44		中世初期
SKP　5343	50	LP　26		42	34	22	SB2掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5349	附図1	LQ　25		34	26	30	SB1掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5351	50	LQ　26	●	50	36	24	SB2掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5352	50	LP　26	○	-	-	28		中世初期
SKP　5391	附図1	LP　25		34	32	20	SB2掘立柱建物跡	中世初期
SKP　5420A	附図1	LQ　26		50	46	27	SB1掘立柱建物跡,H5230	中世初期

※挿図No.(　) は平面図のみの掲載を表す。
材●は柱材の遺存するもの、○は掘り方が確認できなかったものを表す。



SE1

1　10YR3／3　暗褐色　しまり強　粘性なし　粘土様を呈する・風乾すると白くなる・Ⅰb層由来のすき床土

2　10YR4／3　にぶい黄褐色　しまり弱　粘性なし　炭径3～10mm22%・鉄分糸根状3%・砂質土・自然木や中小礫混入

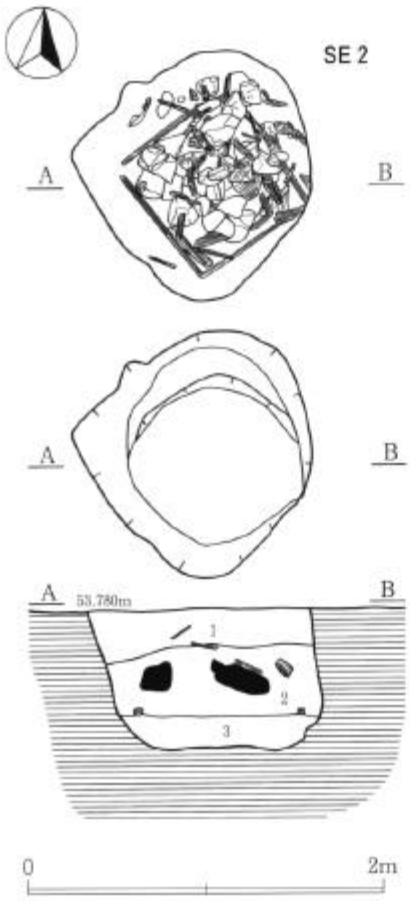
3　10YR1．7／1　黒色　しまり弱　粘性やや強　壁面やプラン確認面では樹皮状炭化物が混じる（かつての井戸跡か？）

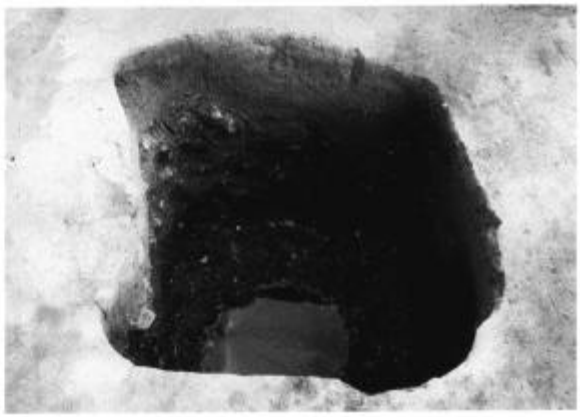
4　10YR4／1　褐灰色　大礫は投げ込みか？・漆器など出土

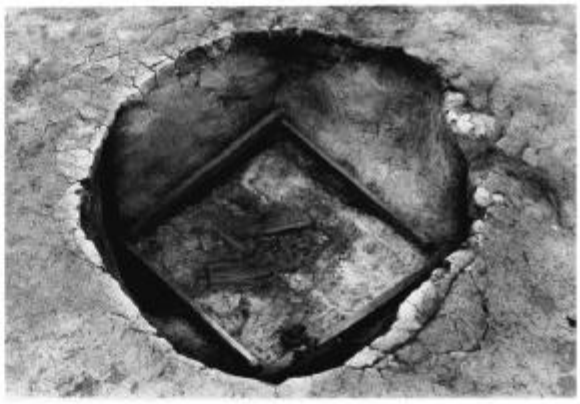
SE2

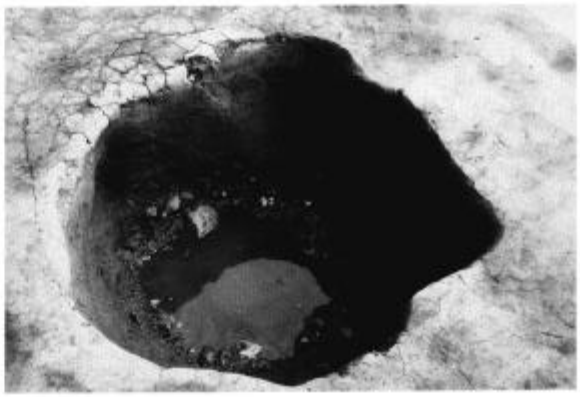
1　10YR3／3　暗褐色　砂質土　しまり弱　粘性なし　鉄分粒状5%・斑塊状・（自然木と中小礫）混入・（10YR2／1黒色土）が筋状で15%混入（Ⅱ層土由来か？）

2　10YR2／1　黒色　しまり弱　粘性やや強　（10YR3／1　黒褐色）が上位にブロック状に混入（Ⅰ層土10YR3／3　暗褐色由来か？）・（大礫・漆器・種籾等植物遺存体）を含む・（箸状木製品・井戸枠？・蓋状木製品）出土



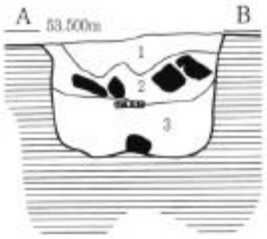






第4図　検出遺構（1）井戸跡

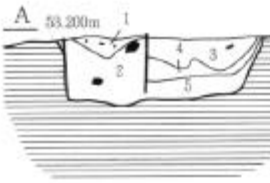
SE893

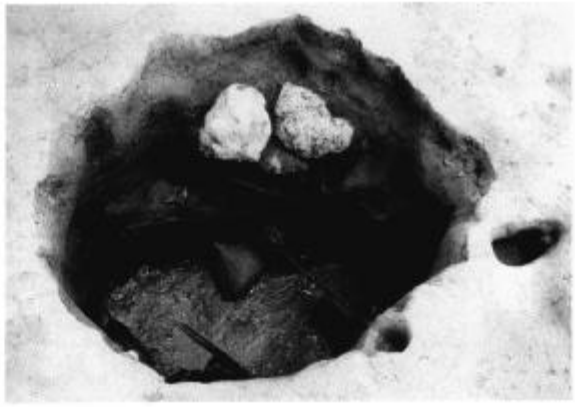


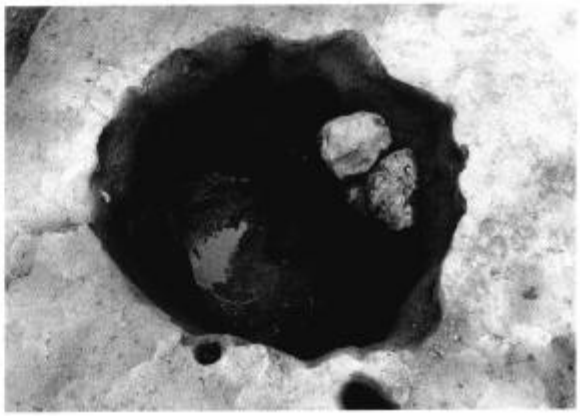
SE893
1　10YR4/3　にぶい黄褐色　しまり強　粘性中　炭径1㎜やや多い・鉄分糸根状で比較的密・小礫混入
2　10YR2/1　黒色　しまり弱　粘質土　炭由来か？・大中の礫投げ込みあり・木材が刺さった状態と敷かれた状態で出土
3　2. 5YR4/1　黄灰色　粘質土　(5GY4/1　暗オリーブ灰色土) に砂質土混入・陶器片や箸状木製品出土

SE2001
1　10YRL 7/1　黒色土　しまり弱　粘性弱　木炭化・木製品・樹皮状炭化物・Ⅱ層砂質土20%上位に含む
2　5Y4/1　灰色土　しまり弱　粘質土　大中礫混入・鉄分糸根状微量・炭径2～5㎜微量
3　5Y4/1灰色土　しまりやや弱　粘性弱　炭微量・鉄分糸根状・酸化すると (10YR3/2　黒褐色土) に変色・下位及び周縁に砂質土混入・下位に大中礫あり
4　砂質土 (10GY4/1　暗緑灰色土) が部分的に酸化し (10YR5/　にぶい黄褐色土) を呈す　Ⅱ層土 (5Y4/1　灰色土) 混入
5　(10GY4/1　暗緑灰色土)　砂質土・Ⅲ層土 (5Y4/1灰色土) 下位層状30%混入

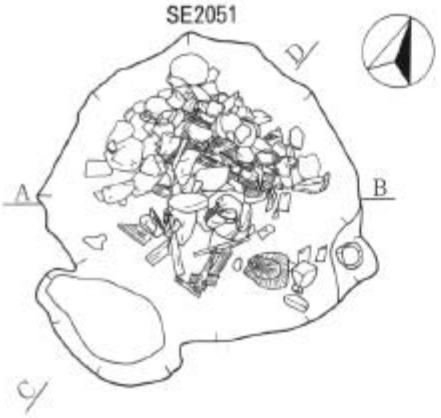
SE2001

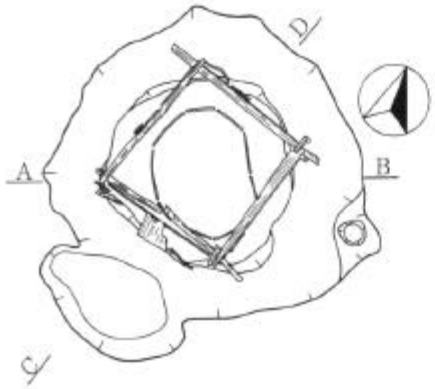


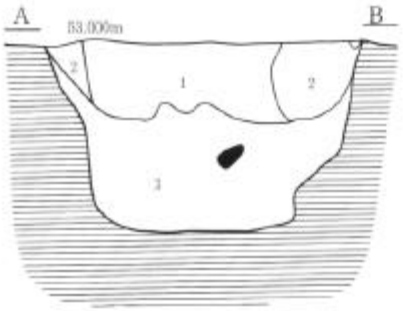


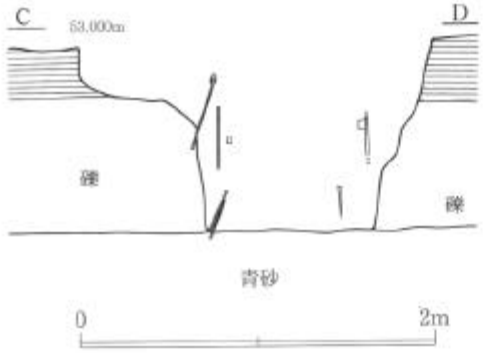


第5図　検出遺構（2）井戸跡



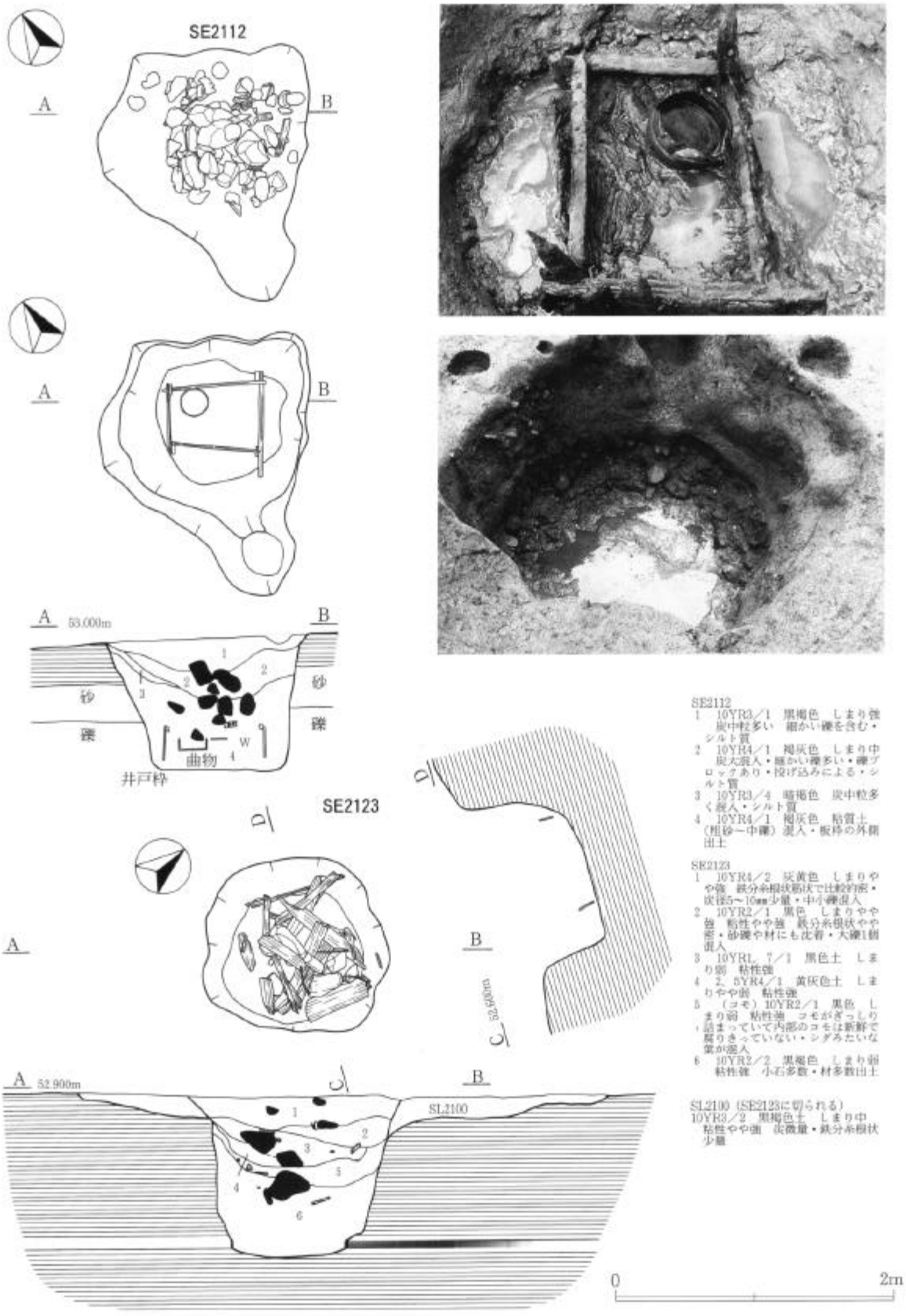






SE2051
1　10YR3／2　黒褐色　しまり強　粘性中　炭微量・鉄分糸根状少量・土師器数出土
2　10YR3／2　黒褐色　しまりやや強　粘性ややあり　裏込め礫多い・鉄分微量糸根状・炭斑状混入・（10YR5／4　にぶい黄褐色）に基盤土が細長くブロック状に混入（基盤土崩落？もしくは基盤土掘じりの埋め戻し）・東側壁面に礫が多く鉄分は沈着密である
3　10YR3／1　黒褐色　粘質土　しまり弱　投げ込み礫多量・須恵器系陶器出土・木製品多量出土・基本的に1層土と同じ土か？常時同じ土が水に浸かっているか否か程度の差違にすぎない

第6図　検出遺構（3）井戸跡

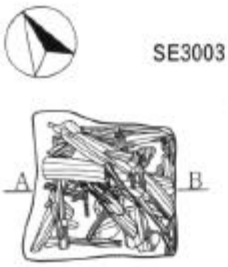


SE2112
1　10YR3／1　黒褐色　しまり強　炭中粒多い　細かい礫を含む・シルト質
2　10YR4／1　褐灰色　しまり中　炭大混入・細かい礫多い・礫ブロックあり・投げ込みによる・シルト質
3　10YR3／4　暗褐色　炭中粒多く混入・シルト質
4　10YR4／1　褐灰色　粘質土（粗砂ー中礫）混入・板枠の外側出土

SE2123
1　10YR4／2　灰黄色　しまりやや強　鉄分糸根状筋状で比較的密・炭径5～10mm少量・中小礫混入
2　10YR2／1　黒色　しまりやや強　粘性やや強　鉄分糸根状やや密・砂礫や材にも定着・大礫1個混入
3　10YRL 7／1　黒色土　しまり弱　粘性強
4　2．5YR4／1　黄灰色土　しまりやや弱　粘性強
5　（コモ）10YR2／1　黒色　しまり弱　粘性強　コモがぎっしり，詰まっていて内部のコモは新鮮で腐りきっていない・シダみたいな葉が混入
6　10YR2／2　黒褐色　しまり弱　粘性強　小石多数・材多数出土

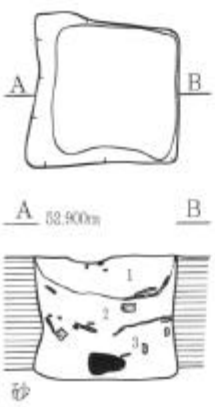
SL2100（SE2123に切られる）
10YR3／2　黒褐色土　しまり中　粘性やや強　炭微量・鉄分糸根状少量

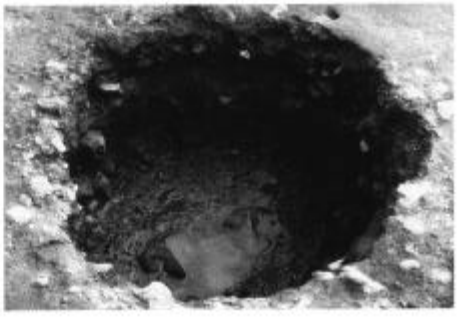
第７図　検出遺構（４）井戸跡

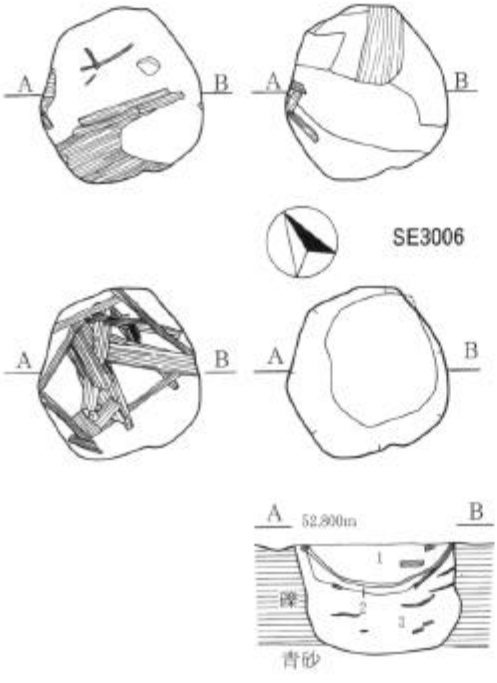


SE3003
1　(10YR3/1　黒褐色)～(10YR2/1　黒色)　しまりやや強　粘性中　底位(Ⅱ層との境界)に(2.5GY4/1　オリーブ灰色土)混入(火山灰？最大径2cm塊状)・炭径5～10mm中位にやや密混入・自然木上位混入・南西側鉄分糸根状微量
2　10YR3/2　黒褐色　しまり弱　粘性やや強　未分解有機物(生木)多量・板材混入
3　10YR3/2　黒褐色　しまり弱　粘性やや強　蓋状木製品や種子状遺存多量出土(土色はⅡ層とほぼ同じ)

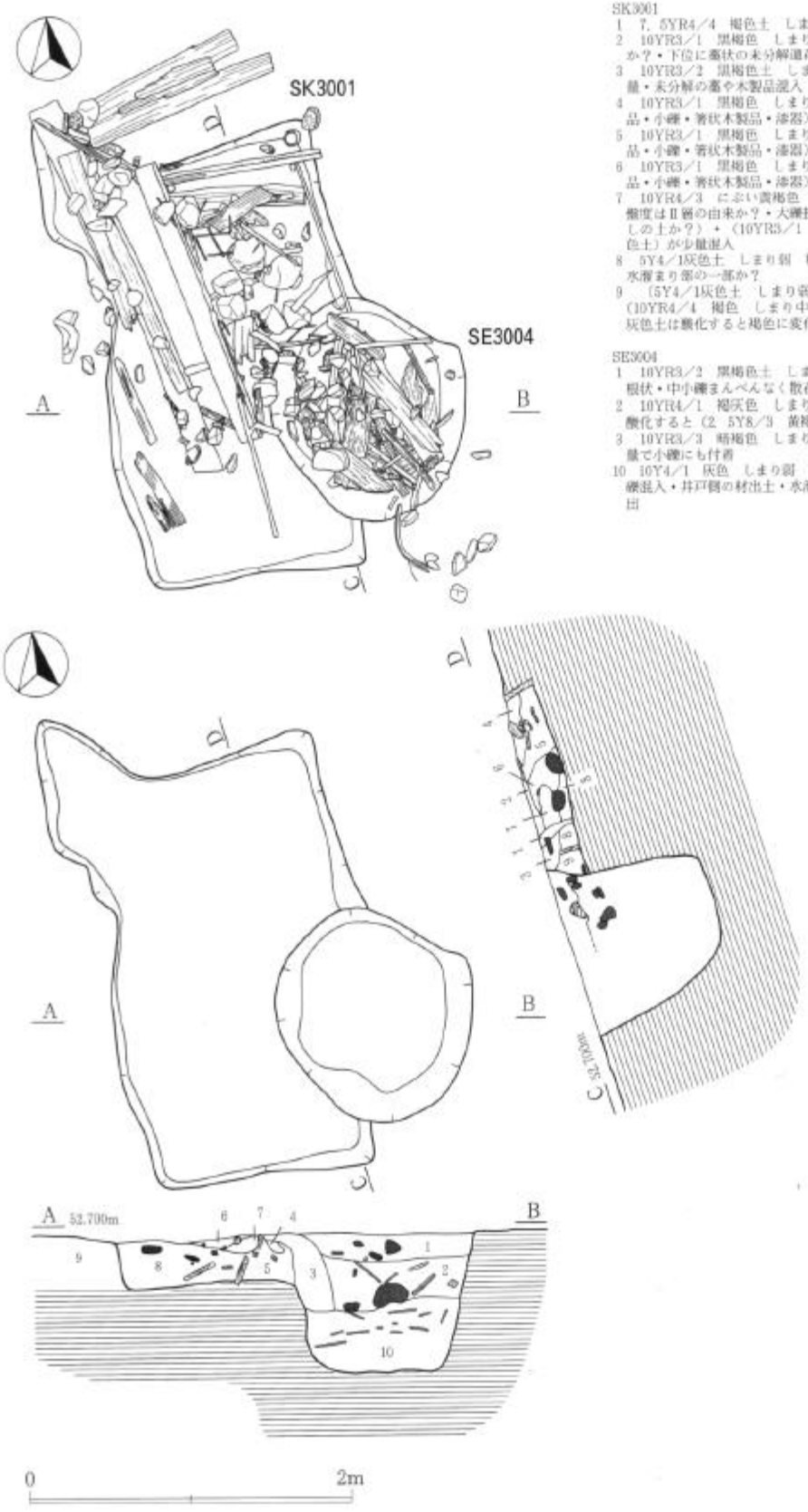
SE3006
1　10YR3/1　黒褐色　しまりやや強　粘性やや強　炭径2～5mm少量・鉄分粒状筋状少量(木製品にも付着)・上位やや黄味強く(10YR3/3　黒褐色)を呈する・極小礫や粗砂混入
2　7.5Y4/1灰色　しまり弱　粘性強　上位及び下位に腐食土(10YR1.7/1　黒色土)が層状径3mmに入る
3　5Y4/1　灰色　しまり強　粘性弱　植物性有機物が(壁側上位と中央下側)層状にⅡ層ほど入る・中小礫(基盤土由来か？)が下位密混入・帯水層下位に蓋状木製品出土







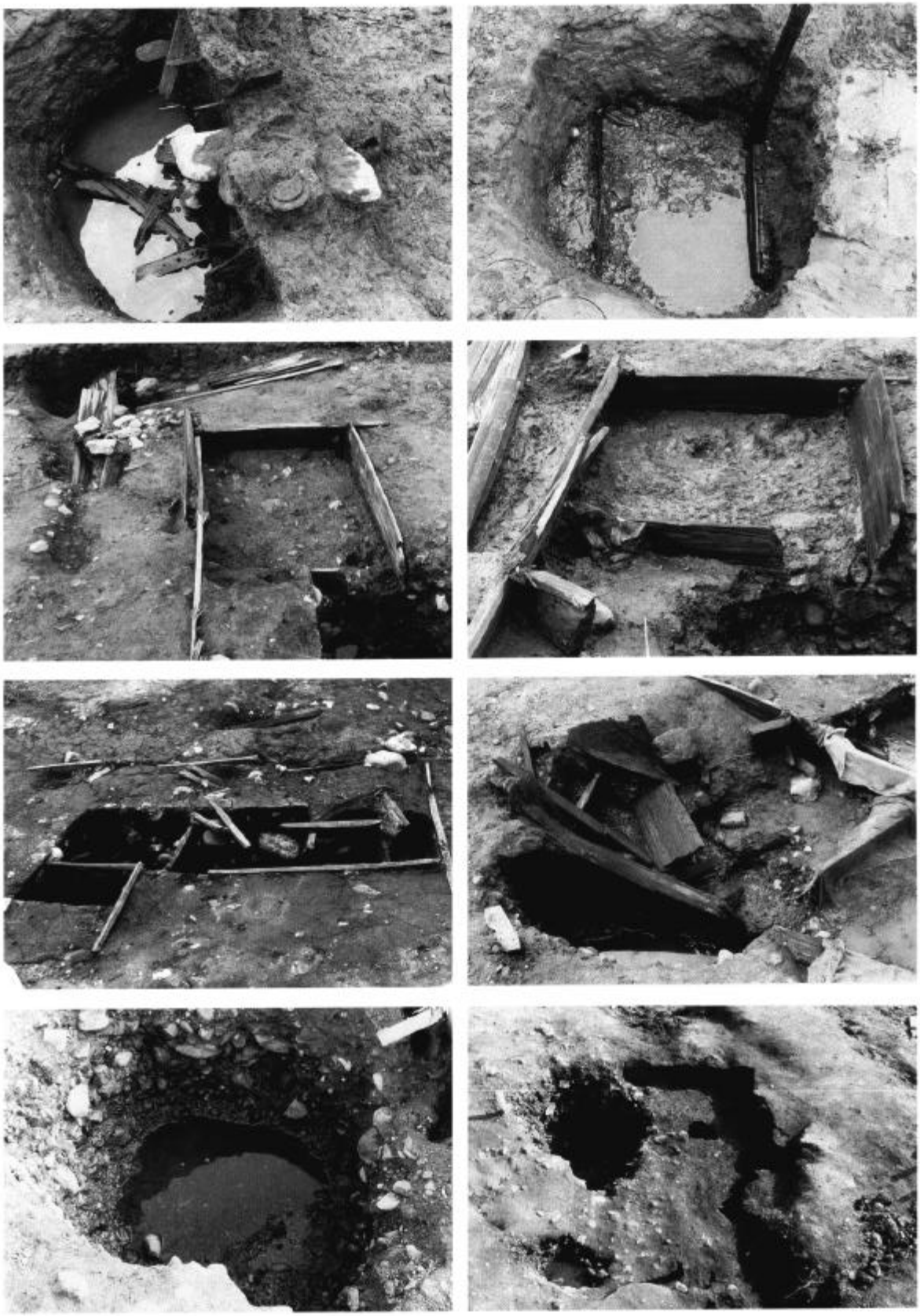
第8図　検出遺構（5）井戸跡



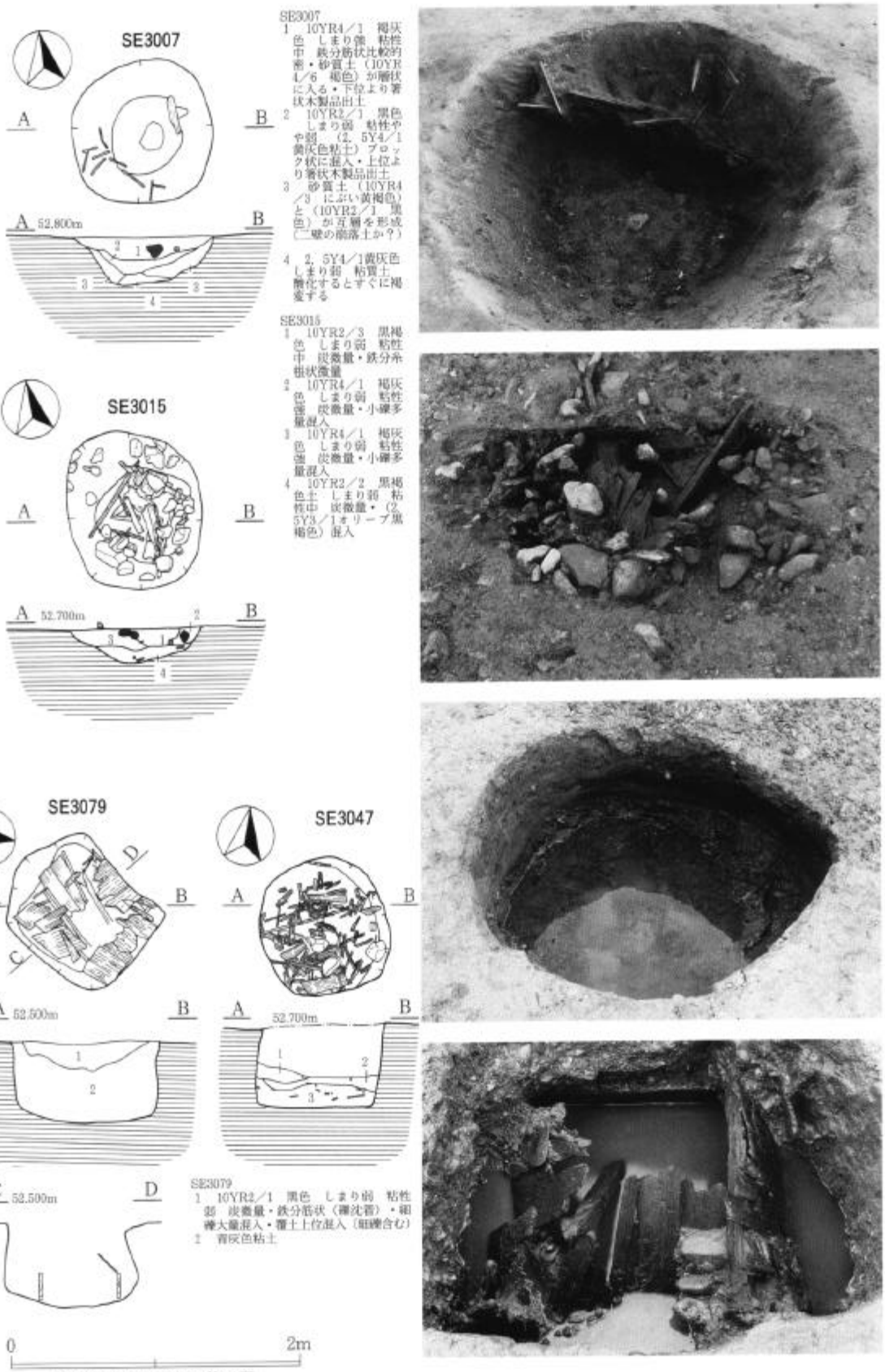
SK3001
1　7．5YR4／4　褐色土　しまり中　粘性強　鉄分密・撹乱？
2　10YR3／1　黒褐色　しまりやや強　粘性やや強　表土由来か？・下位に塊状の未分解遺存物体を出土
3　10YR3／2　黒褐色土　しまりやや強　粘性やや強　鉄分微量・未分解の藁や木製品混入
4　10YR3／1　黒褐色　しまり中　粘質土　シルト質・（木製品・小礫・箸状木製品・漆器）等混入
5　10YR3／1　黒褐色　しまり中　粘質土　シルト質・（木製品・小礫・箸状木製品・漆器）等混入
6　10YR3／1　黒褐色　しまり中　粘質土　シルト質・（木製品・小礫・箸状木製品・漆器）等混入
7　10YR4／3　にぶい黄褐色　しまりやや強　砂質シルト・基盤度はⅡ層の由来か？・大礫投げ込み（廃絶儀式の際の埋め戻しの土か？）・（10YR3／1　黒褐色）と（10YR3／2　黒褐色土）が少量混入
8　5Y4／1灰色土　しまり弱　粘性強　酸化すると土色が変化・水溜まり部の一部か？
9　（5Y4／1灰色土　しまり弱　粘性強）対板倒砂質シルト質（10YR4／4　褐色　しまり中　）が8対2で混入・底は平坦・灰色土は酸化すると褐色に変化する

SE3004
1　10YR3／2　黒褐色土　しまり弱　粘性中　炭微量・鉄分糸根状・中小礫まんべんなく散在
2　10YR4／1　褐灰色　しまり弱　粘性強　礫と木製品混入・酸化すると（2　5Y8／3　黄褐色）に変色する
3　10YR3／3　暗褐色　しまりやや弱　粘性やや強　炭筋状微量で小礫にも付着
10　10Y4／1　灰色　しまり弱　粘性強　・細砂と粗砂少量混入・礫混入・井戸側の材出土・水溜まり部を構成？・底面から水湧出

第9図　検出遺構（6）井戸跡



SK3001・SE3004　調査状況



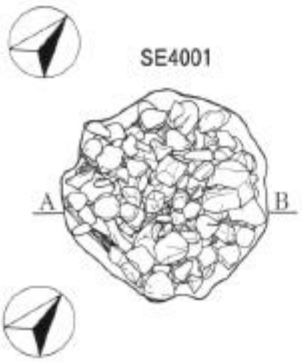
SE3007
1　10YR4／1　褐灰色　しまり強　粘性中　鉄分筋状比較的密・砂質土（10YR4／6　褐色）が層状に入る・下位より著状木製品出土
2　10YR2／1　黒色　しまり弱　粘性やや弱　（2．5Y4／1黄灰色粘土）ブロック状に混入・上位より著状木製品出土
3　砂質土（10YR4／3　にぶい黄褐色）と（10YR2／1　黒色）が互層を形成（二壁の崩落土か？）
4　2．5Y4／1黄灰色　しまり弱　粘質土　酸化するとすぐに褐変する

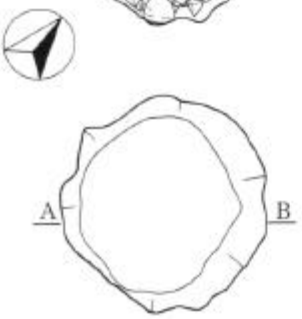
SE3015
1　10YR2／3　黒褐色　しまり弱　粘性中　炭微量・鉄分糸状微量
2　10YR4／1　褐灰色　しまり弱　粘性強　炭微量・小礫多量混入
3　10YR4／1　褐灰色　しまり弱　粘性強　炭微量・小礫多量混入
4　10YR2／2　黒褐色土　しまり弱　粘性中　炭微量・（2．5Y3／1オリーブ黒褐色）混入

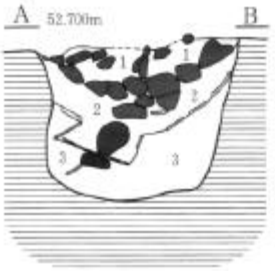
SE3079
1　10YR2／1　黒色　しまり弱　粘性弱　炭微量・鉄分筋状（礫沈着）・細礫大量混入・覆土上位混入（粗礫含む）
2　青灰色粘土

SE3047の土層註記は第11図

第10図　検出遺構（７）井戸跡



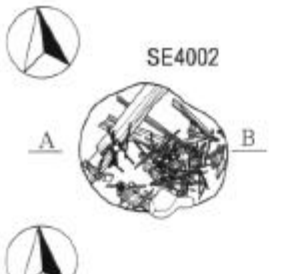


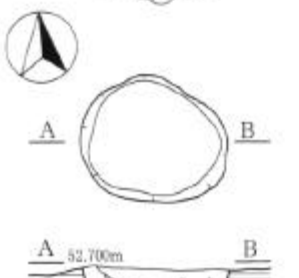


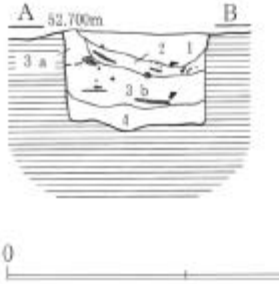
第11図の土層註記

SE3047
1　5Y3／1　オリーブ黒色　しまり中　粘性強　炭微量・〈5Y3／1　オリーブ黒色〉粗砂混入
2　10YR1．7／1　黒色土　しまりやや弱　粘性中　植物由来腐食土（繊維が分解しきれず残る）・木製品や自然木多量出土
3　5GY4／1　暗オリーブ灰色土　しまりやや弱　粘性やや強　Ⅱ層の分解がさらにすすんだものか？・木製品や自然木がⅡ層よりも多量に出土・底位に中小礫少量・底面砂礫層より湧水あり

SE4003
1　10YR3／1　黒褐色　しまり強　粘性強　炭微量と確認面に炭少量・鉄分糸根状（右下に密沈着）
2　10YR3／1　黒褐色　しまり強　粘性強　炭微量・鉄分糸根状
3　7．5Y5／1　灰色　しまり弱　粘質土　材片多量混入



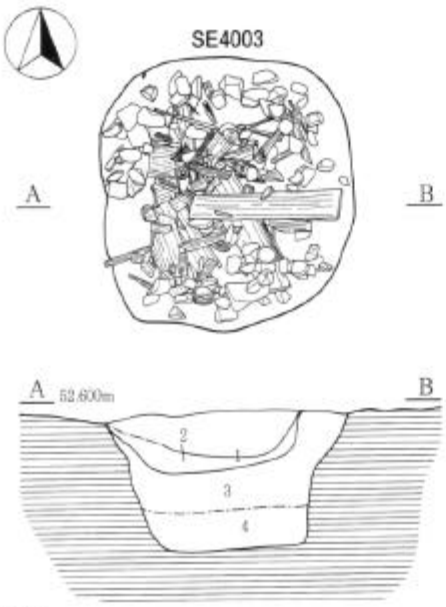




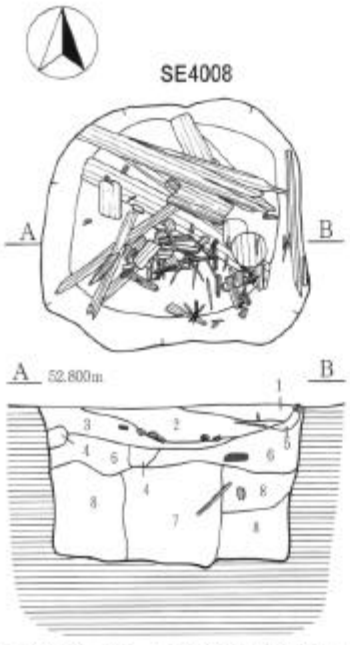
SE4002
1　10YR4／1　褐灰色　しまり中　粘性中　（7．5YR5／3　にぶい褐色）粘質土が〈径10～30mm〉のブロック状で30%混入・炭径5mm粒もしくは塊状15%混入・鉄分糸根状・箸状木製品と種子少量出土
2　10YR2／2　黒褐色土　しまり中　粘性やや強　炭微量・箸状木製品と木製品多量出土・粘質土（7．5YR5／3　にぶい褐色）が径10mmブロック状少量混入
3a　（10YR2／3　黒褐色土）対（10YR4／6　褐色）が6対4で混入　しまり中　粘性中　葉状植物遺存体や未分解材混入・水平方向に褐色土縞く混入
3b　（N1．5／0　黒色）対（7．5GY4／1　暗緑灰色）が6対4で混入　しまりやや強　粘性強　粘質土・板材混入・水平方向筋状に暗緑灰色土混入
4　7．5GY4／1　暗緑灰色　粘質土　径5cm位の礫多量混入

0　2m

第11図　検出遺構〈8〉井戸跡



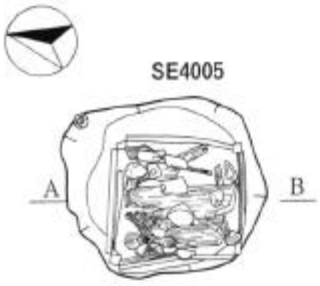
SE4003
1　2．5Y4／2　暗灰黄色　しまり中　粘性やや弱　炭微量・鉄分糸根状（上位になるほど密）・シルト質・上層が礫で覆われていた
2　10YR4／1　褐灰色　しまりやや中　粘性強　鉄分（木製品や礫に沈着）・板材や木製品出土・酸化すると（10YR4／2　灰黄色）に変色
3　10YR4／1　褐灰色　しまり弱　粘性強　粘質土・シルト質・径10～20cmの大礫多量混入
4　10YR4／1　褐灰色　小礫多量混入・下部（曲げ物周囲）に炭大粒混入

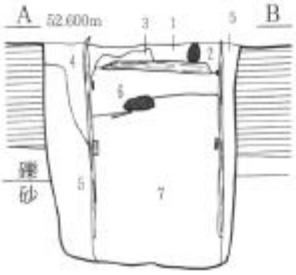


SE4008
1　2．5Y4／3　オリーブ褐色　しまり中　粘性やや強　細砂まじり・鉄分糸根状比較的密（砂礫に沈着）
2　10YR3／2　黒褐色　土　しまりやや強　粘性やや弱　炭多量混入・鉄分微量・著状木製品きわめて多量混入・（楊・著・材）木製品混入・下位から底位に著状（柄状）植物性未分解有材物が層状に入る
3　10YR4／4　褐色　しまりやや強　鉄分微量・（上位～下位）より著状木製品多量出土
4　7．5Y4／3　暗オリーブ色　しまりやや強　粘性強　粗砂や細砂多量混入・鉄分沈着酸化著しい
5　10YR3／1　黒褐色　しまりやや弱　粘性強　炭微量
6　10YR4／1　褐灰色　粘性強　鉄分筋状微量・西側のⅡ層とⅢ層より著状木製品出土
7　7．5Y3／1　オリーブ色　粘性強　（材・木製品・礫片）少量出土・材・木製品にカビ？（5B6／1　青灰色）が付着しやや鮮やか・下位は小礫や粗砂多量
8　10YR4／1　褐灰色　しまりやや弱　粘性強

0　2m

第12図　検出遺構（９）井戸跡

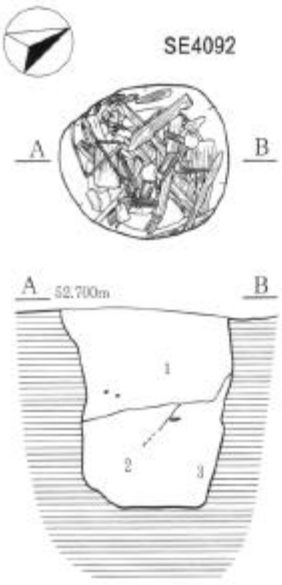




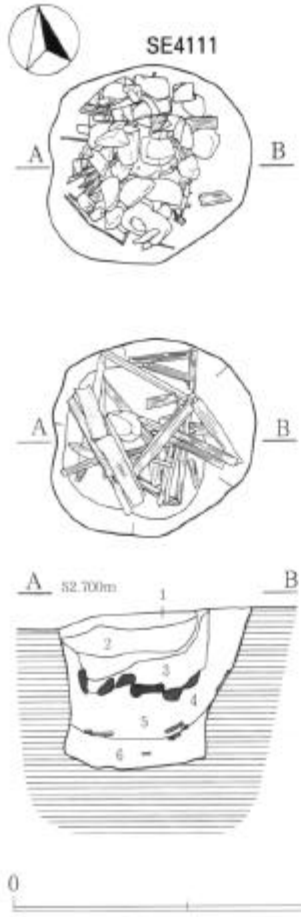
SE4005
1　5GY6／1　オリーブ灰粘土　しまり強　炭微量・鉄分糸根状
2　10YR4／1　褐灰色　しまり強　粘質土　シルト質・炭大粒多量・白色粒混入
3　10YR4／1　褐灰色　しまり強　粘質土　シルト質・炭小粒・白色粒混入
4　10YR4／1　褐灰色　しまり強　粘質土　シルト質・炭大粒多量・白色粒混入・鉄分糸根状
5　青灰色粘土
6　10YR4／6　褐色　粘質土　シルト質・炭微量
7　10YR4／6　褐色　粘質土　シルト質・炭微量・植物片多量混入・種子混入

井戸祭紀関連の遺物出土状況

第13図　検出遺構（10）井戸跡

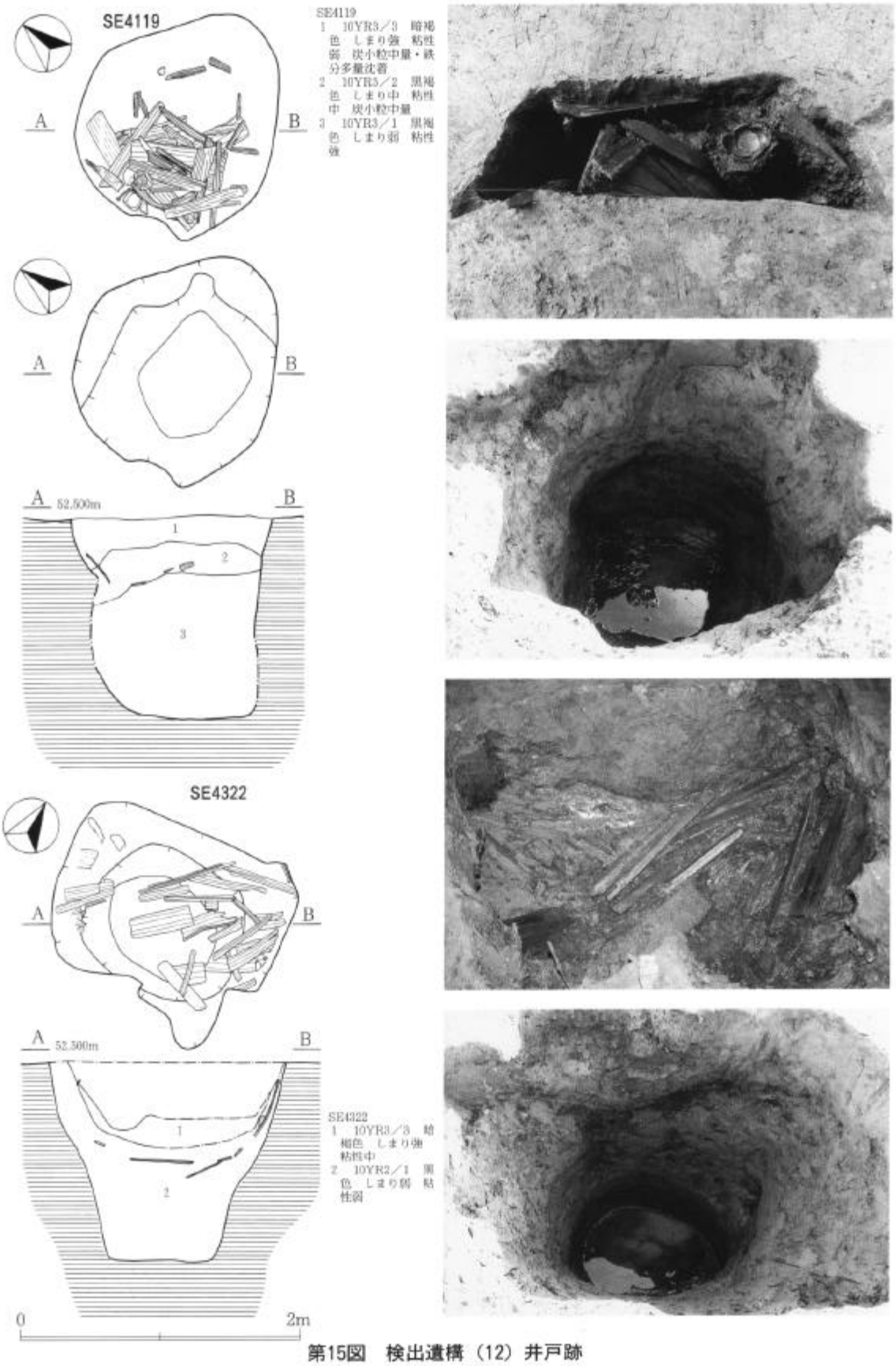


SE4092
1　2. 5Y2／1　黒色　しまりやや強　粘性中　炭上位微量・鉄分上位糸根状密混入（下位混入なし）・中位砂質土（10YR5／2　灰黄褐色）ブロック状径5～20cm密・上位砂質土（10YR5／2　灰黄褐色）粒状径2～5mm少量・偏平な棒板状の木製品が下位から密位より出土（側板？）
2　10YR2／1　黒色　しまり中　粘性中　（7. 5Y4／1　灰色）径5～20mmブロック状40%混入
3　10YR2／1　黒色土　しまり弱　粘性中　小型植物片混入・礫多量混入

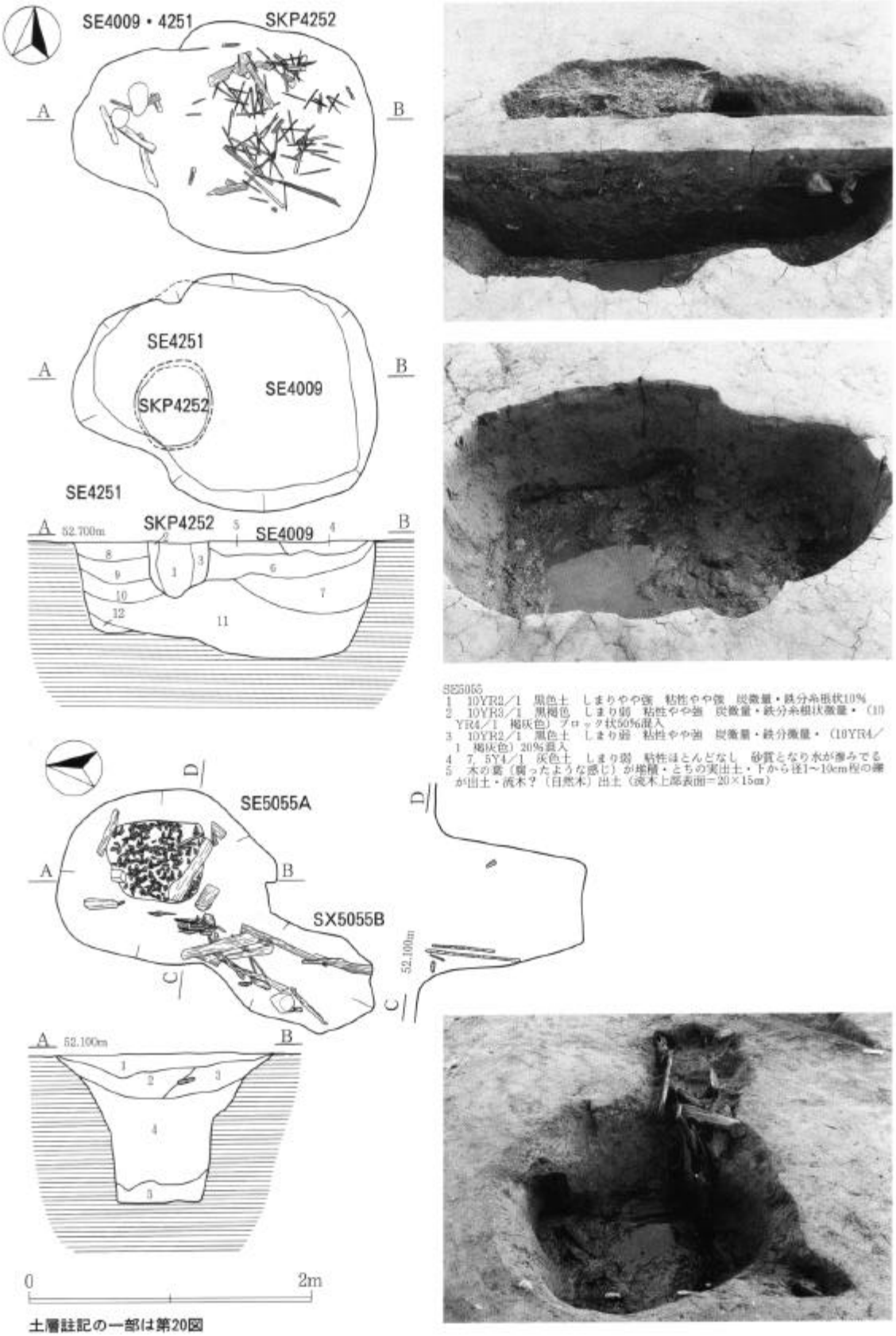


SE4111
1　5Y3／1　オリーブ黒色　しまりやや強　粘性やや弱　粘質土（7. 5Y4／1灰色）径2～20mmブロック状粒状密・炭微量・鉄分糸根状微量・確認面や周縁及びⅡ層との境界面に（10YR1. 7／1　黒色）がブロック状で径20mm以上混入
2　2. 5Y3／1　黒褐色　しまりやや強　粘性中　粘質土（7. 5Y4／1　灰色土）径5～30mmブロック状密混入・炭径2～10mm少量だが中央中位に集中
3　10YR1. 7／1　黒色　しまりやや弱　粘性やや強　有機物由来の腐食土・ところどころ未分解で植物性繊維（藁など）が残る・風乾すると灰色に変色・木製品多量出土（じゃりじゃりした触感）
4　10YR4／2　灰黄色　しまり強　粘性強　鉄分糸根状密・壁からの流出土？
5　2・5Y3／1　黒褐色　しまりやや弱　粘性やや強　大中礫大量混入・板材出土
6　青灰色粘土

第14図　検出遺構（11）井戸跡



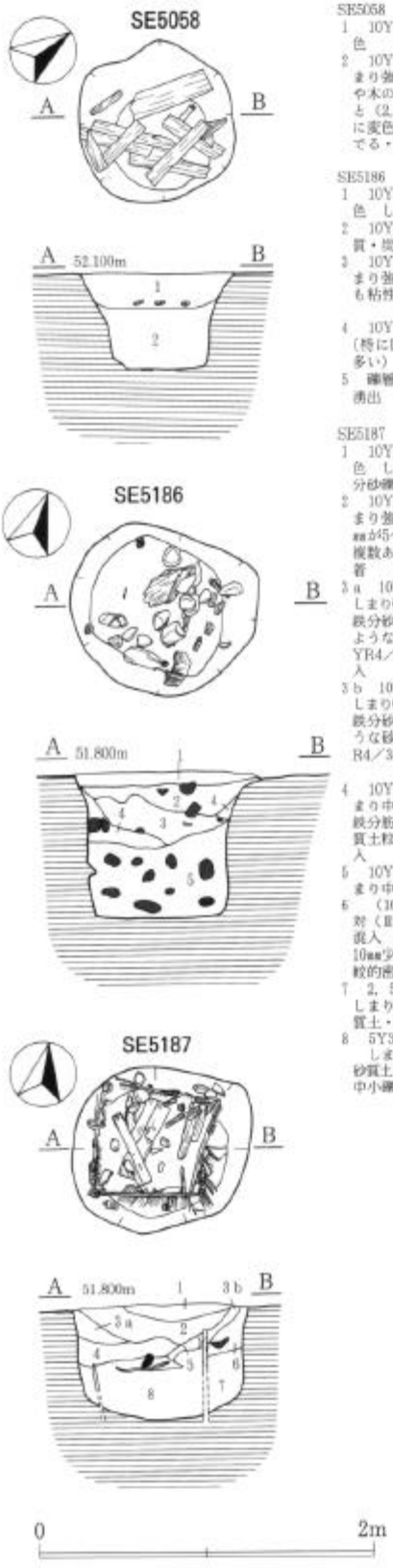
第15図　検出遺構（12）井戸跡



SE5055
1　10YR2／1　黒色土　しまりやや強　粘性やや強　炭微量・鉄分糸根状10%
2　10YR3／1　黒褐色　しまり弱　粘性やや強　炭微量・鉄分糸根状微量・（10YR4／1　褐灰色）ブロック状50%混入
3　10YR2／1　黒色土　しまり弱　粘性やや強　炭微量・鉄分微量・（10YR4／1　褐灰色）20%混入
4　7．5Y4／1　灰色土　しまり弱　粘性ほとんどなし　砂質となり水が滲みでる
5　木の葉（腐ったような感じ）が堆積・とちの実出土・下から径1～10cm程の礫が出土・流木？（自然木）出土（流木上部表面＝20×15cm）

土層註記の一部は第20図

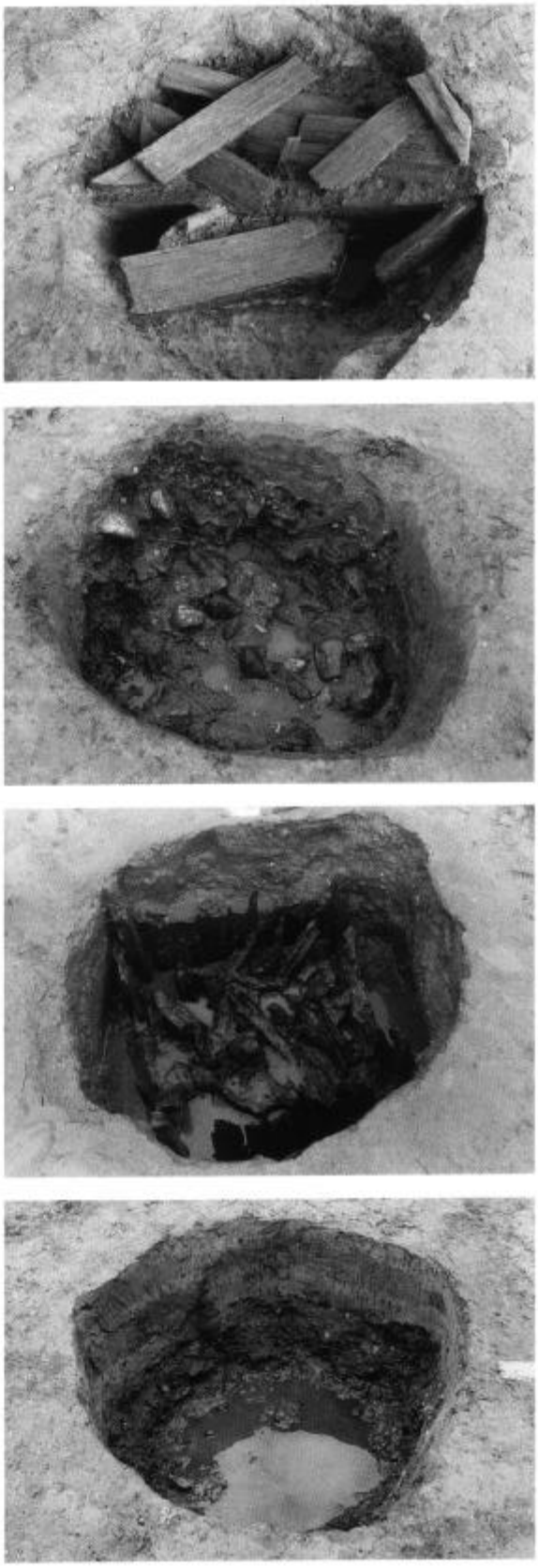
第16図　検出遺構（13）井戸跡



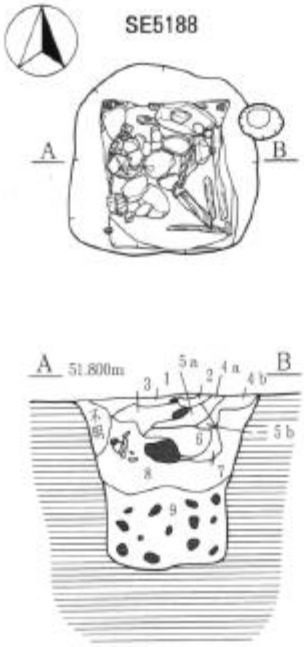
SE5058
1　10YR4／3　にぶい黄褐色
2　10YR3／1　黒褐色　しまり強　粘性強　（自然木や木の根）出土・酸化すると（2．5Y3／1　黒褐色）に変色・下位から水が湧みでる・底位に径1～5cm礫

SE5186
1　10YR4／3　にぶい黄褐色　しまり強
2　10YR3／2　黒褐色　砂質・炭径1～2cm大1%
3　10YR2／2　黒褐色　しまり強　砂質だがⅡ層よりも粘性強・炭1～5cm大1%
4　10YR4／4　褐色　砂質（特に底面近くに酸化鉄が多い）
5　礫層・酸化鉄多量・水が湧出

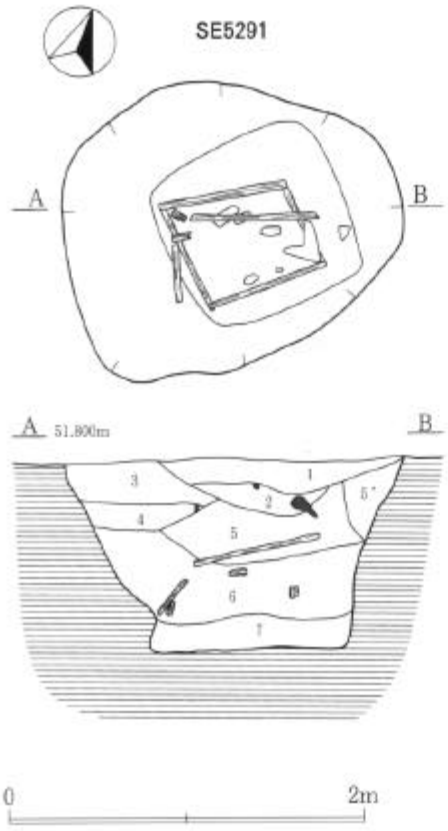
SE5187
1　10YR4／3　にぶい黄褐色　しまり強　粘性中　鉄分砂礫に沈着
2　10YR3／2　黒褐色　しまり強　粘性中　炭径2～5mmが5～7%（径5～10mmも複数あり）・鉄分砂礫に沈着
3a　10YR3／3　暗褐色　しまり強　粘性強　炭微量・鉄分砂礫に沈着・粘質土のような砂が混じった（7．5YR4／3褐色土）の塊が混入
3b　10YR3／3　暗褐色　しまり強　粘性強　炭微量・鉄分砂礫に沈着・粘土のような砂が混じった（7．5YR4／3褐色土）の塊が混入
4　10YR3／2　黒褐色　しまり中　炭径1～5mm少量・鉄分筋状やや多量・Ⅱ層砂質土粒（径2～5mm）15%混入
5　10YR3／3　暗褐色　しまり中　炭径2～5mm少量
6　（10YR3／3　暗褐色）対（Ⅱ層砂質土）が5対5で混入　しまり中　炭径5～10mm少量・鉄分粒状塊状比較的密（礫にも沈着）
7　2．5Y4／2　暗灰黄色　しまりやや弱　粘性中　砂質土・鉄分筋状
8　5Y3／1　オリーブ黒色　しまりやや弱　粘性強　砂質土・炭微量・鉄分筋状・中小礫少量



第17図　検出遺構（14）井戸跡



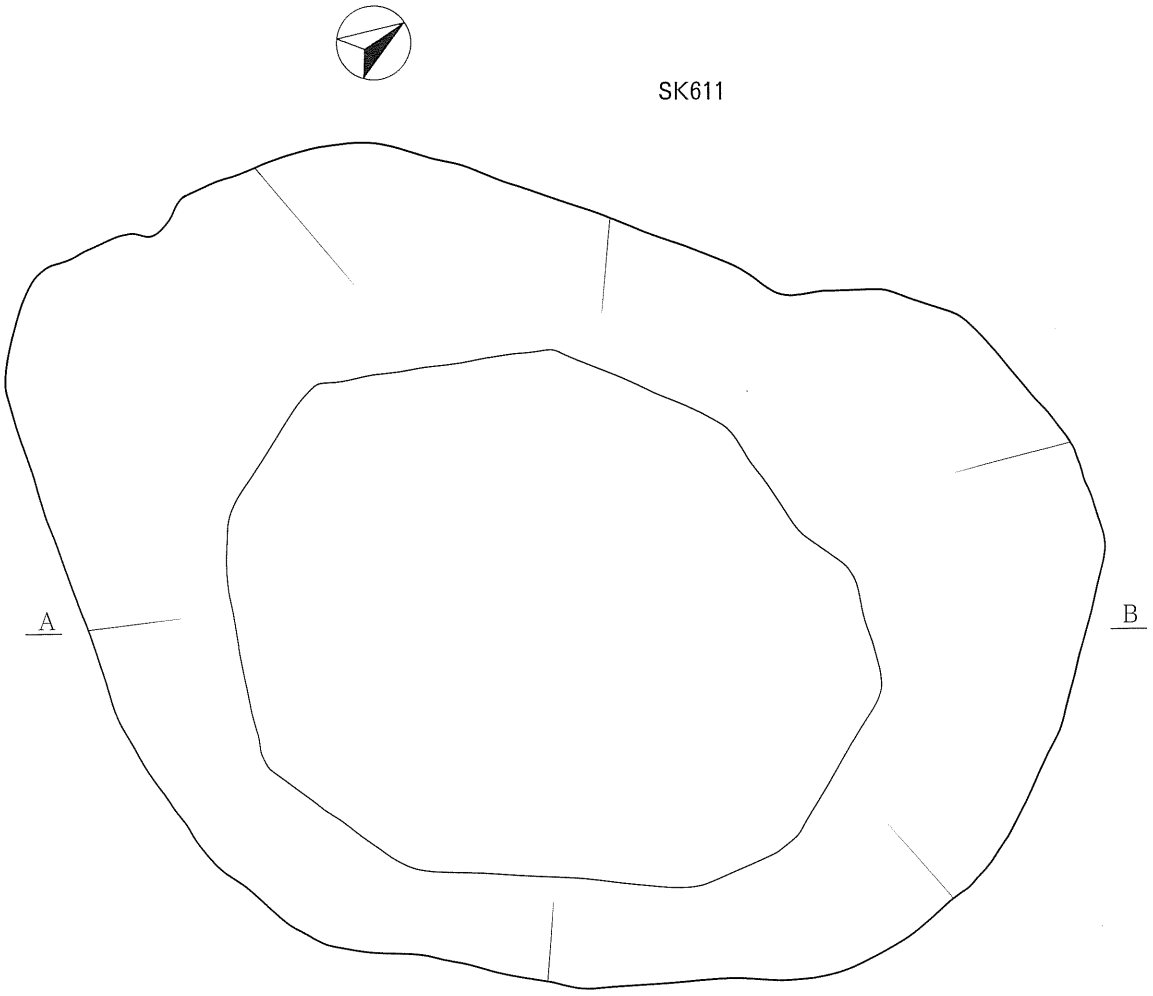
SE5188
1　2．5Y4／2　暗灰黄色　しまり強　粘性やや弱　炭微量・鉄分粒状糸根状・基盤土由来のⅡ層砂質土混入
2　10YR3／1　黒褐色　しまり強　シルト質・炭ブロック状混入多量混入・鉄分筋状やや多い
3　10YR4／3　にぶい黄褐色　しまり中　シルト質　炭粒状多量混入・部1cm大の焼土ブロック状多量混入
4a　10YR8／2　灰白色　しまり中　砂質土・炭微量・鉄分粒状
4b　10YR5／4　にぶい黄褐色　しまり中　砂質土・炭比較的多量・鉄分粒状
5a　2．5Y7／2　灰黄色　粘土　しまり中　炭微量
5b　10YR6／4　にぶい黄橙色　しまり中　粘質土　炭微細多量
6　2．5Y8／4　浅黄色　粘土　しまり中　炭微量・礫鉄分沈着
7　10YR3／2　黒褐色土　しまり弱　粘質土　自然堆積・井戸枠材倒存部を包含する
8　10YR3／1　黒褐色　しまり弱　粘質土　厚手の須恵器口縁部といくつかの接合される土器片を包含する
9　礫層や礫が酸化鉄によって赤くなっている・大礫の下に小礫があり青砂になって水が湧出する



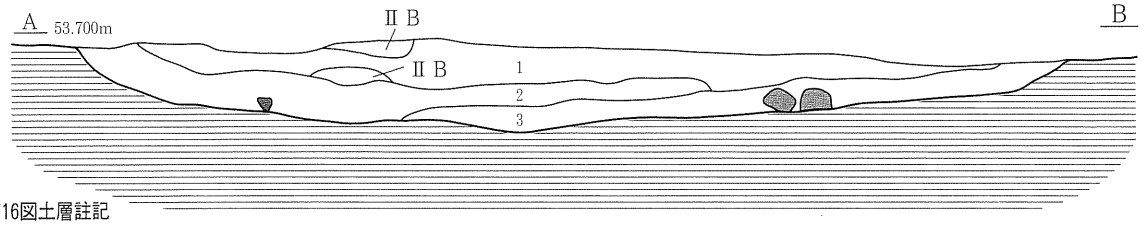
第18図　検出遺構（15）井戸跡

第19図　検出遺構（16）井戸跡

調査区全景　（上方向が北東）



SK611
1　10YR3／3　暗褐色　しまり中　粘性中　鉄分筋状10%・Ⅱ層ブロック斜め方向層状に入る（埋め戻しによる）
2　10YR3／2　黒褐色　しまり中　粘性中　炭粒状微量・鉄分糸根状7%・底面（中礫・木製品・植物遺存体・夕顔の実）出土
3　10YR3／2　黒褐色　しまり中　粘性強　炭粒状微量・底面より（中礫・木製品）が出土

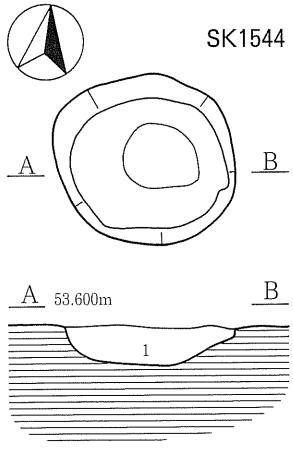


第16図土層註記

SKP4252
1　10YR3／2　黒褐色土　しまりやや強　粘性やや弱　炭微量（覆土下位径2cmの塊1点混入）・鉄分糸根状筋状（上位比較的密）・Ⅱ層ブロック（10YR5／4　にぶい黄褐色）と（10YR5／2　灰黄褐色）がブロック状（径5～20mm）で多量混入
2　10YR4／2　灰黄色　しまりやや弱　粘性やや強　炭径2～5mm微量・鉄分糸根状微量・西側境界に未分解有材物（藁状）がかたまって混入・下位は黒ずんで（10YR3／1　黒褐色）を呈する
3　10YR3／2　黒褐色土　しまり弱　粘性中　炭径2mm大密混入・鉄分糸根状（上位～中位）少量・Ⅱ層粒（10YR5／4　にぶい黄褐色）がブロック状（径2～5mm）少量混入・確認面では（炭と灰黄褐ブロック）が径1～5cmで斑状混入
SE4009
4　2．5Y4／2　暗灰黄色　しまりやや強　粘性やや強　鉄分（上下と斜位に）筋状密混入
5　2．5Y4／1黄灰色　埋め戻し土Ⅳ層ブロック（2．5Y4／2　暗灰黄色）径5～20mm30%混入・埋め戻し土（10YR1．7／1　黒色土）径2～20mm15%混入
6　黒色土は上位のみにうすく層状（10YR1．7／1　黒色土）～（10YR2／1　黒色土）～（10YR3／1　黒褐色）　しまり中　粘性やや弱　有材物由来腐食土・（箸状木製品・クルミ殻・自然木の枝・用途不明木製品・漆器片）出土・径7cmⅣ層ブロック中央中位混入・Ⅳ層土（黄褐色土）がブロック状で（上位～中位）に径2～10mmでまんべんなく混入・炭径5mm密混入・鉄分筋状微量上位のみ混入（木製品に沈着）
7　2．5Y3／4　オリーブ褐色　しまりやや強　粘性中（東側ほど粘性強）　（2・5Y3／1　黒褐色）と互層をなす・水成層から木製品少量出土（白カビが付着し酸化すると青く変色）・板材数点出土・炭粒状微量
SE4251
8　10YR3／2　黒褐色　しまりやや強　粘性やや弱　炭微量・鉄分筋状密・Ⅱ層と同様の灰黄褐色土が東側上位混入・（2．5Y4／2　暗灰黄色）が下位混入・（10YR3／2　黒褐色土）と（2．5Y4／2　暗灰黄色）の間に径1cmの炭混入
9　10YR2／1　黒色土　しまりやや強　粘性やや強　炭微量・鉄分太い筋状微量・大中礫混入・材（井戸枠等）混入・（10YR4／2　灰黄色）径2～10mm少量混入・灰黄褐色土が幅3cmで層状に混入する箇所あり
10　10YR2／2　黒褐色　しまり中　粘性強　炭微量・壁崩落土由来か？・西側ほど（10YR4／3　にぶい黄褐色）に近づく・材混入・白カビ点在（酸化すると青く変色）
11　2・5Y3／1　黒褐色　しまり中　粘性強　腐葉土と葉状植物少量混入
11'　東側下位は黄味が強くなり（5Y3／1オリーブ黒色）を呈する
12　5Y4／1灰色土　しまりやや強　粘性きわめて強　灰色粘土

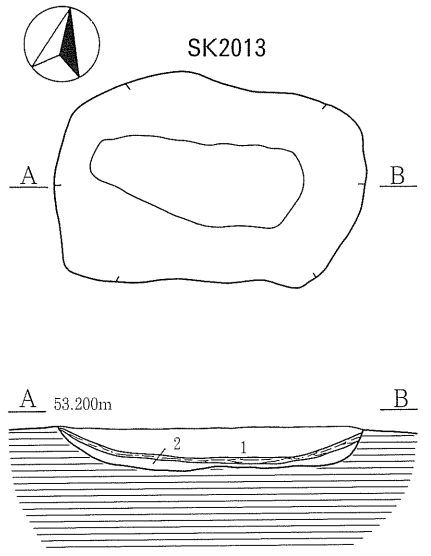
0　2m

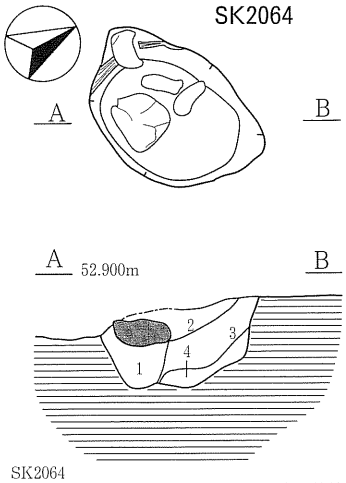
第20図　検出遺構（17）土坑



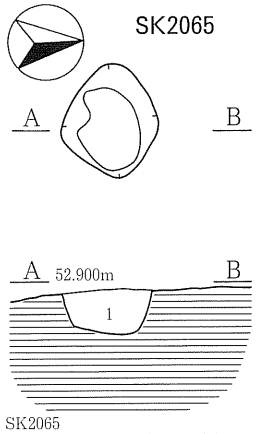
SK1544
1　10YR4／1　褐灰色　しまり強　粘性やや弱　Ⅱ層砂質土（10YR4／2　灰黄色）が20%混入・未分解木根に鉄分が沈着・炭径5～10㎜が北西側に比較的多い・上位～中位の南東側に中小の礫を少量混入

SK2013
1　10YR3／1　黒褐色　粘性やや強　炭微量・底面に樹皮や枝を敷き詰めている
2　7．5Y3／1　オリーブ色　粘性強　粘質土　下位はグライ化し（5G4／1　暗オリーブ灰色）を呈する

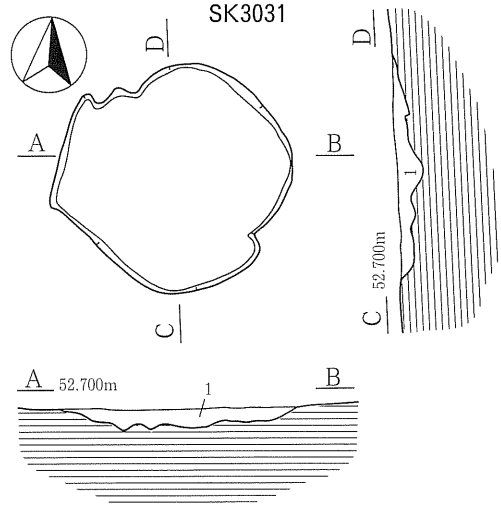




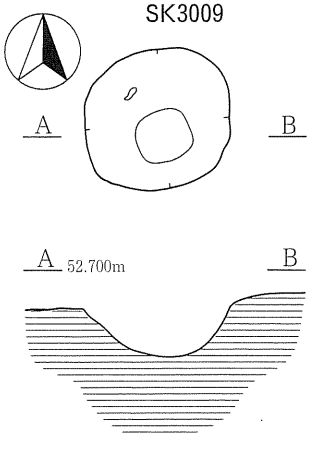
SK2064
1　10YR1．7／1　黒色土　しまり中　粘性中　Ⅱ層ブロック状5%・漆器出土
2　10YR3／1　黒褐色　しまり強　粘性中　炭5%
3　10YR3／1　黒褐色　しまり中　粘性中　（10YR3／1　黒褐色）の層が多量に混入30%・小石多い
4　10YR4／1　褐灰色　しまり中　粘性中　鉄分筋状3%

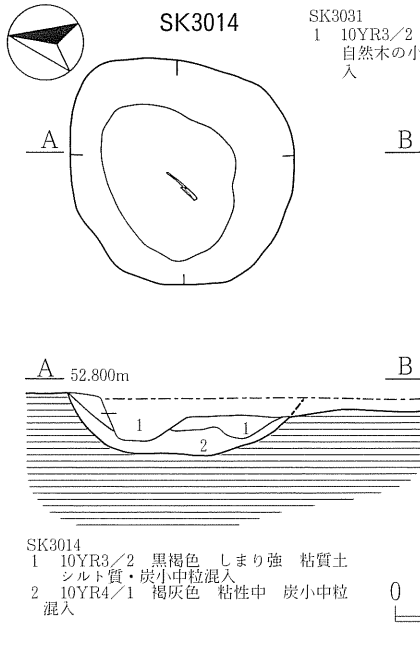


SK2065
1　10YR2／2　黒褐色　炭径2～5㎜少量混入・鉄分砂礫沈着・確認面で平たい礫が縦にささっている（黒炭を伴う・柱痕跡？）

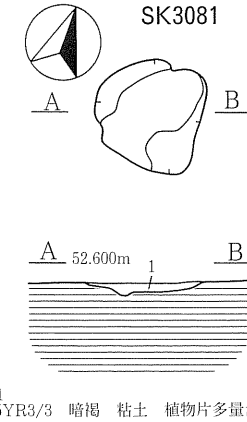


SK3031
1　10YR3／2　黒褐色土　しまりやや弱　粘性中　鉄分糸根状粗・自然木の小枝などが中位から下位に混入・小礫全体的少量混入

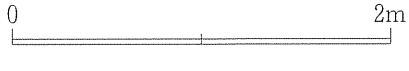




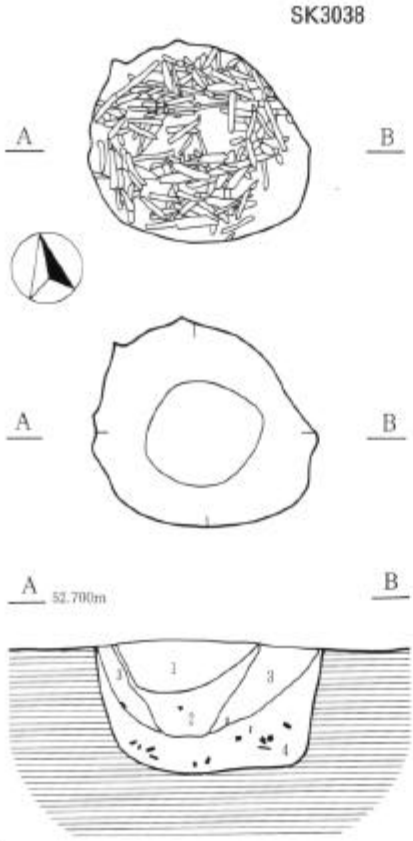
SK3014
1　10YR3／2　黒褐色　しまり強　粘質土　シルト質・炭小中粒混入
2　10YR4／1　褐灰色　粘性中　炭小中粒混入



SK3081
1　7.5YR3/3　暗褐　粘土　植物片多量含む



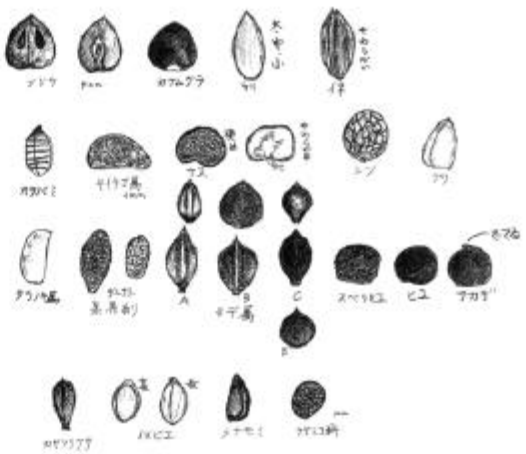
第21図　検出遺構（18）土坑



SK3038
1　10YR2/3　黒褐色　しまり強　粘性弱　炭径1～3mm微量・鉄分筋状・Ⅱ層粒径5～20mm10%（砂質土）
2　10YR2/1　黒色土　しまり弱　粘性強　クリ科植物種子混入・未分解有材物混入・植物由来腐食土・籠木少量出土
3　10YR4/2　灰黄色　しまりやや強　粘性やや弱　炭微量・鉄分筋状微量・籠木少量出土
4　7. 5Y3/1　オリーブ黒色　しまり弱　粘性やや強・農便由来土・上位に（5GY5/1　暗オリーブ灰色）と（2. 5Y3/1　黒褐色）を呈する・籠木大量出土
（籠木は底位また周縁部ほど鉄分沈着）・未分解有材物混入

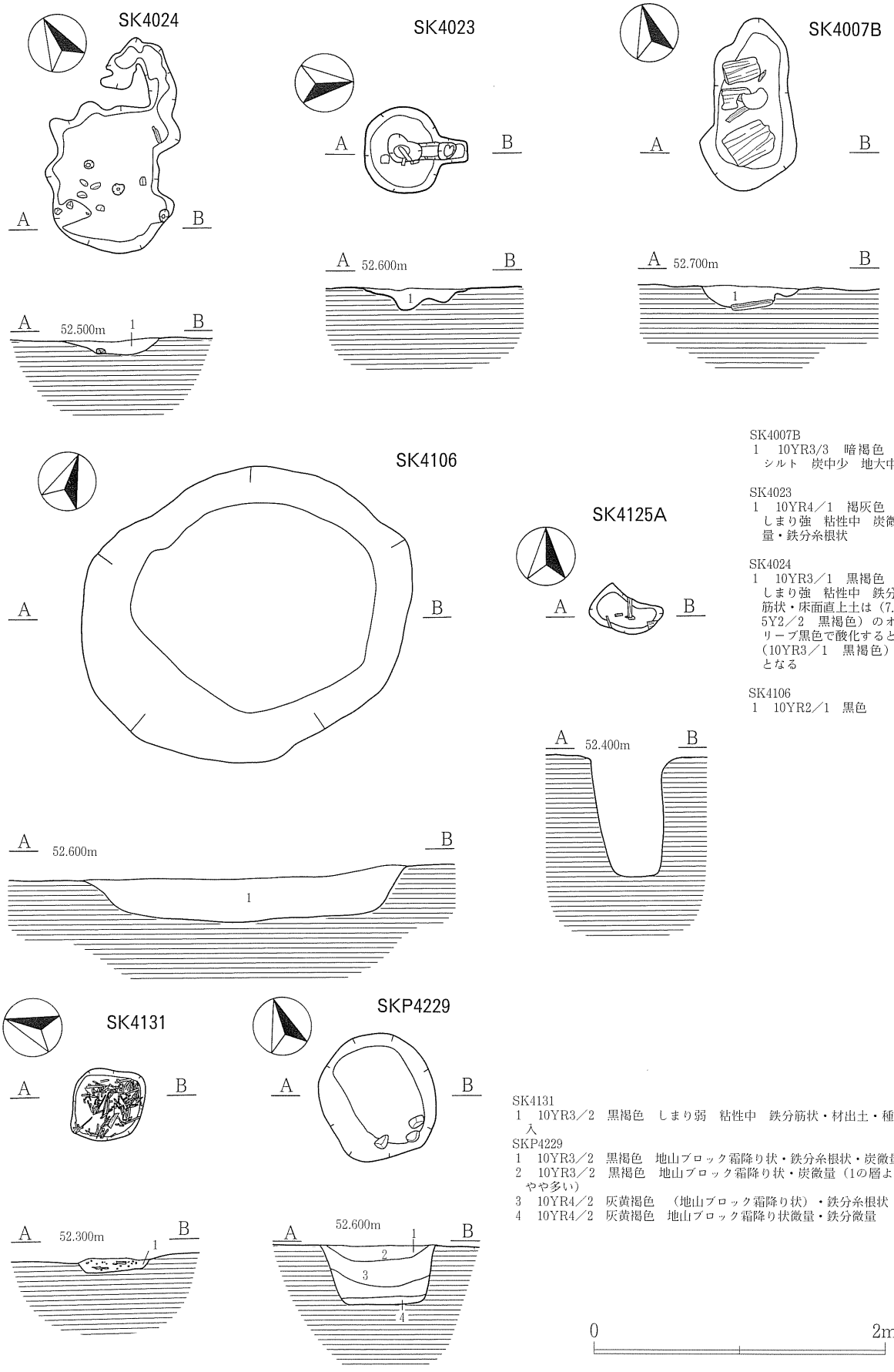
0　1m

第22図　検出遺構（19）土坑



種子形態観察図の一例

左は特徴を強調した書き方、上は写実的な書き方



SK4007B
1　10YR3/3　暗褐色
シルト　炭中少　地大中

SK4023
1　10YR4／1　褐灰色
しまり強　粘性中　炭微量・鉄分糸根状

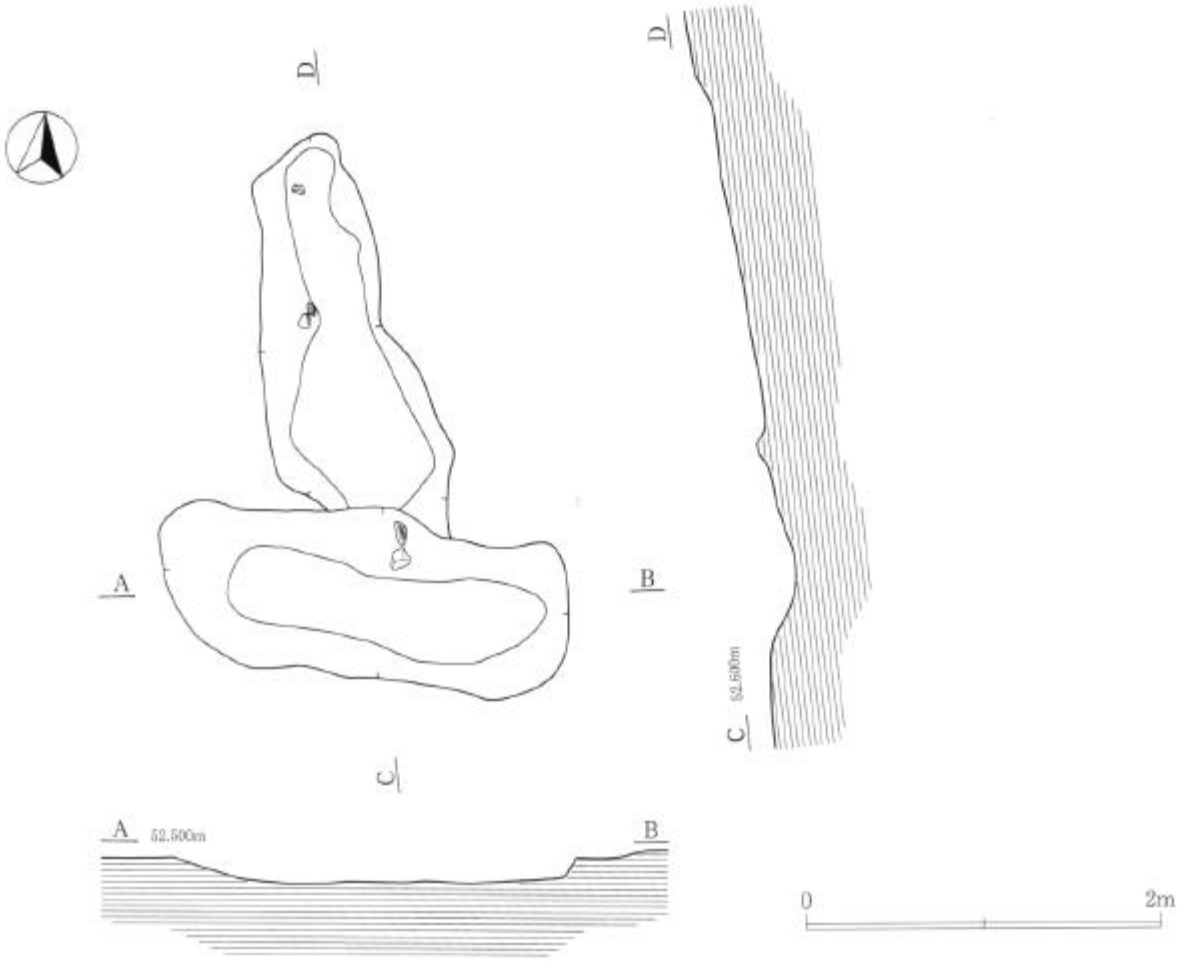
SK4024
1　10YR3／1　黒褐色
しまり強　粘性中　鉄分筋状・床面直上土は（7.5Y2／2　黒褐色）のオリーブ黒色で酸化すると（10YR3／1　黒褐色）となる

SK4106
1　10YR2／1　黒色

SK4131
1　10YR3／2　黒褐色　しまり弱　粘性中　鉄分筋状・材出土・種混入

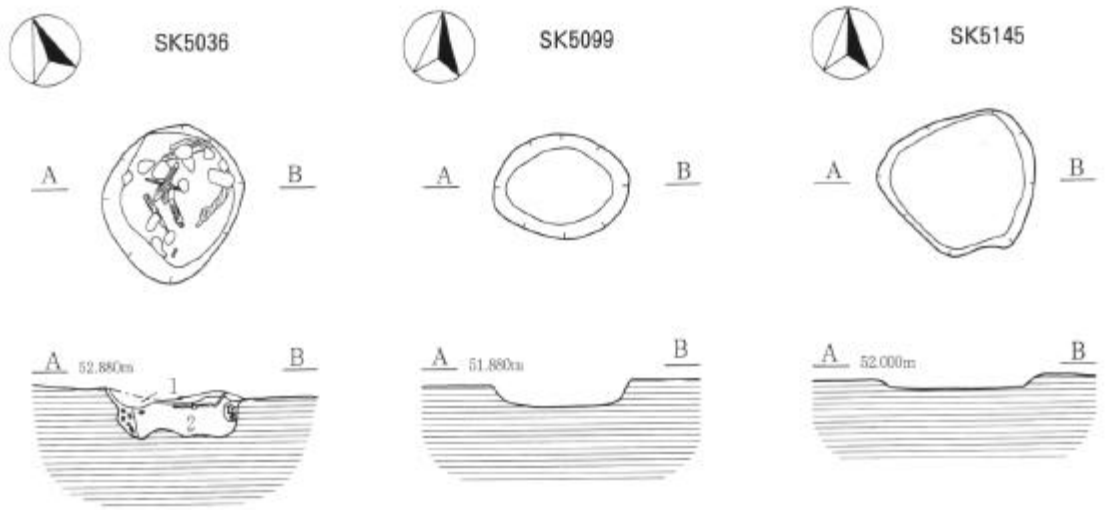
SKP4229
1　10YR3／2　黒褐色　地山ブロック霜降り状・鉄分糸根状・炭微量
2　10YR3／2　黒褐色　地山ブロック霜降り状・炭微量（1の層よりやや多い）
3　10YR4／2　灰黄褐色　（地山ブロック霜降り状）・鉄分糸根状
4　10YR4／2　灰黄褐色　地山ブロック霜降り状微量・鉄分微量

第23図　検出遺構（20）土坑



第24図　検出遺構（21）土坑

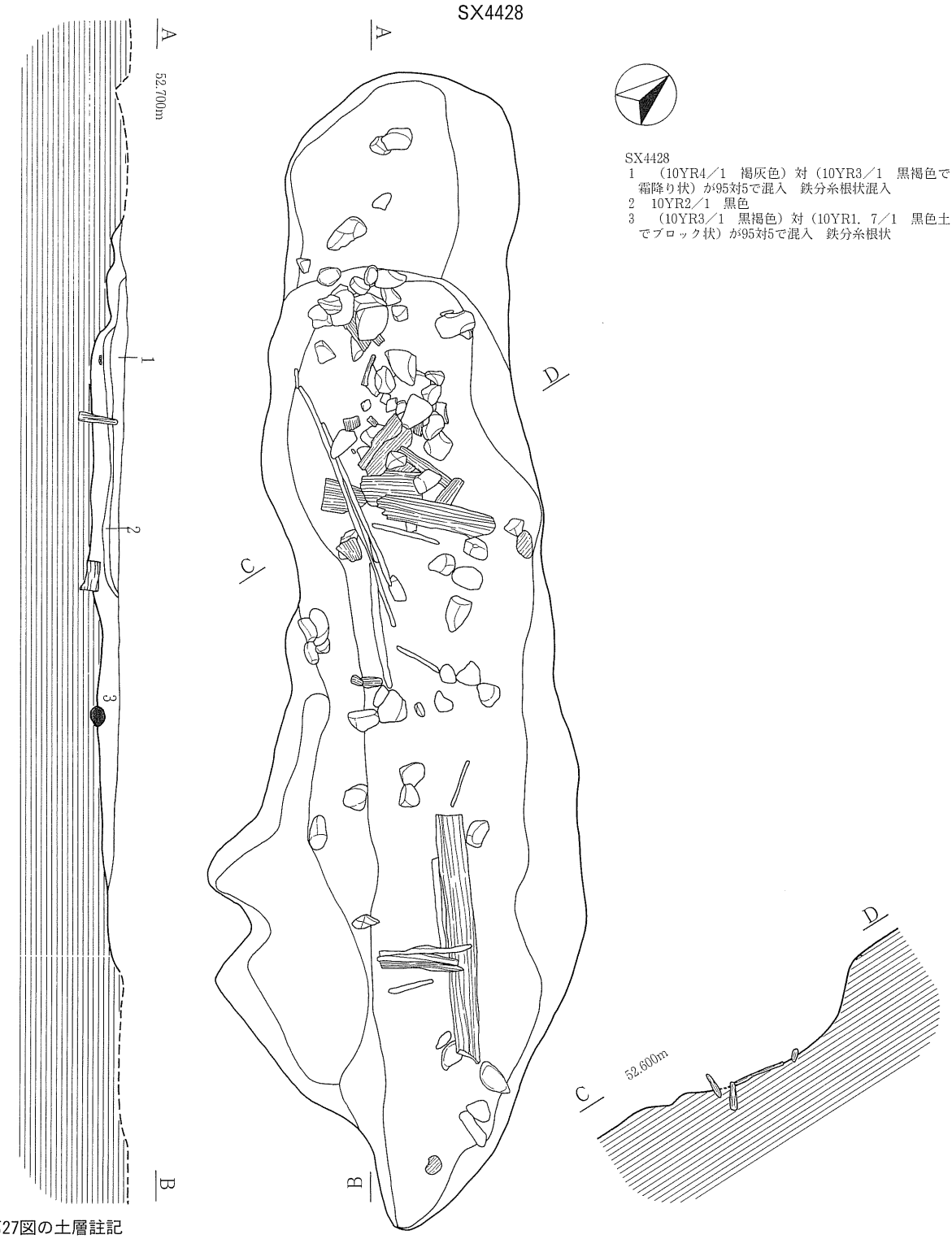
河川跡周囲の木根



SK5036
1　10YR3／4　暗褐色　しまり中　粘性中　炭微量・粘土が混じるがさらさらした粘質土（10YR2／2黒褐色土）が混入・点線部分にも同じ層があったと思われるが欠損している
2　10YR4／4　褐色　しまり中　粘性中　I層土が混じっていると思われる・2箇所に礫の境あり

第25図　検出遺構（22）土坑

B区西端部調査状況

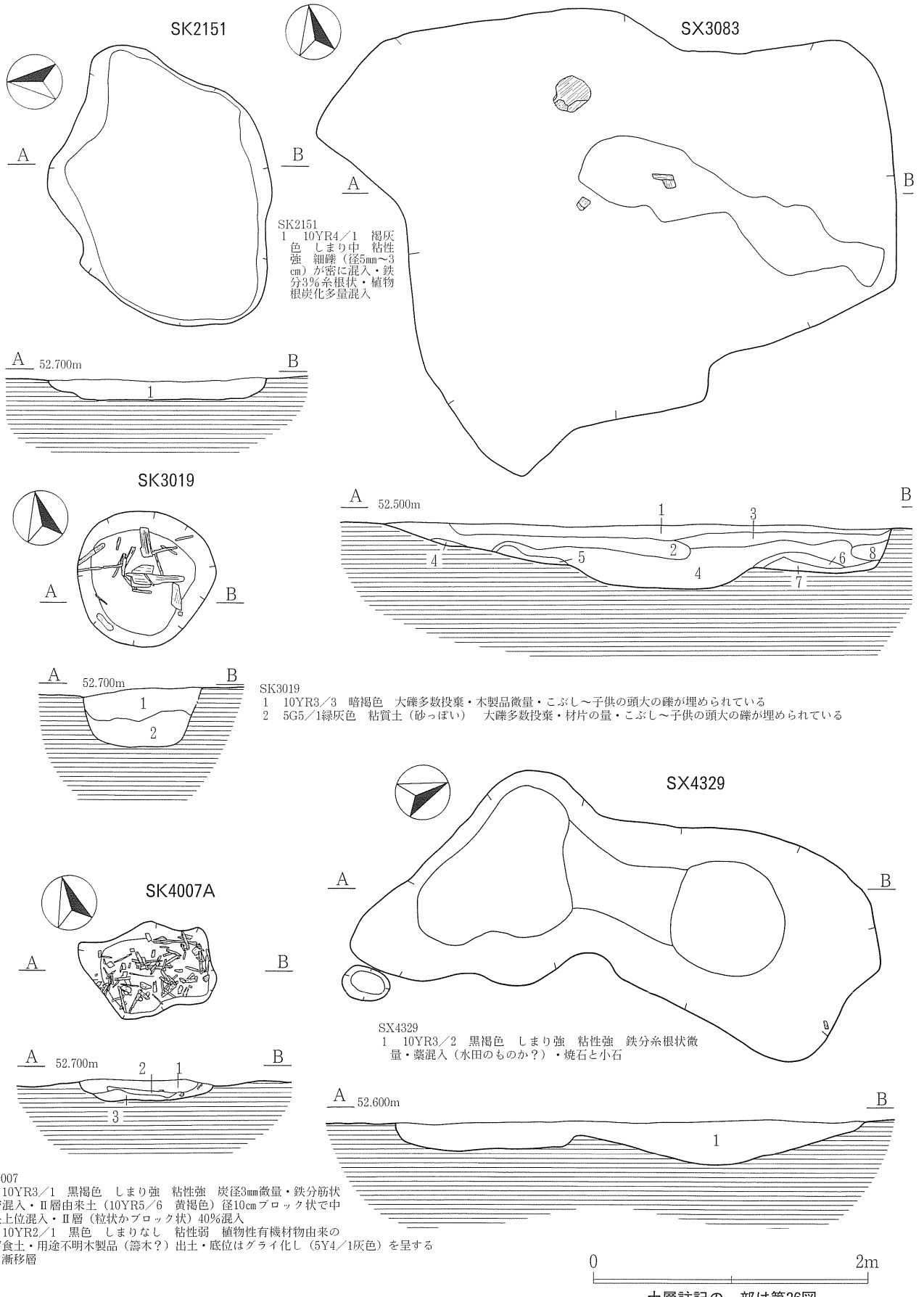


第27図の土層註記

SX3083
1　10YR1.7／1　黒色土　しまり弱　粘性強　炭径1～3㎜密混入・鉄分筋状5%混入・礫多量径（1㎜～10㎝）
2　10YR3／2　黒褐色土　しまり中　粘性強　炭径1㎜～1㎝微量混入・鉄分筋状3%混入・1日経過すると（10YR3／3　暗褐色）に変化する
3　10YR3／1　黒褐色　しまり中　粘性強　炭微量・鉄分筋状混入・1日経過すると（10YR2／1　黒色土）に変化する
4　10YR2／1　黒色土　しまり中　粘性中　炭径1㎜～1㎝微量混入・鉄分筋状微量混入・（5Y3／1　オリーブ黒色）10%混入・自然木（炭化もしくは黒変し）混入
5　5G4／1　暗オリーブ灰色　しまり弱　砂質・（水の流れ　または水溜まりの底面部と1～4の層に混入）
6　5Y2／2　オリーブ黒色　しまり中　粘性ほとんどなし　鉄分径5㎜塊状に2粒混入・植物根多量混入？・東側の様にけばだっている
7　10YR3／1　黒褐色　しまり中　粘性強　鉄分筋状微量混入
8　樹皮または枝が炭化・鉄分が微量付着・（7.5YR3／3　暗褐色）が空気に触れると黒変する

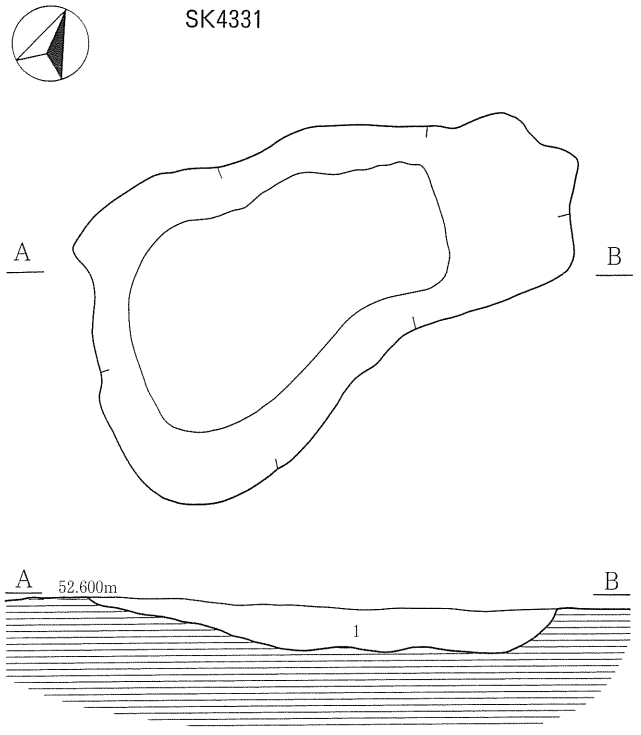
0　2m

第26図　検出遺構（23）不整形土坑

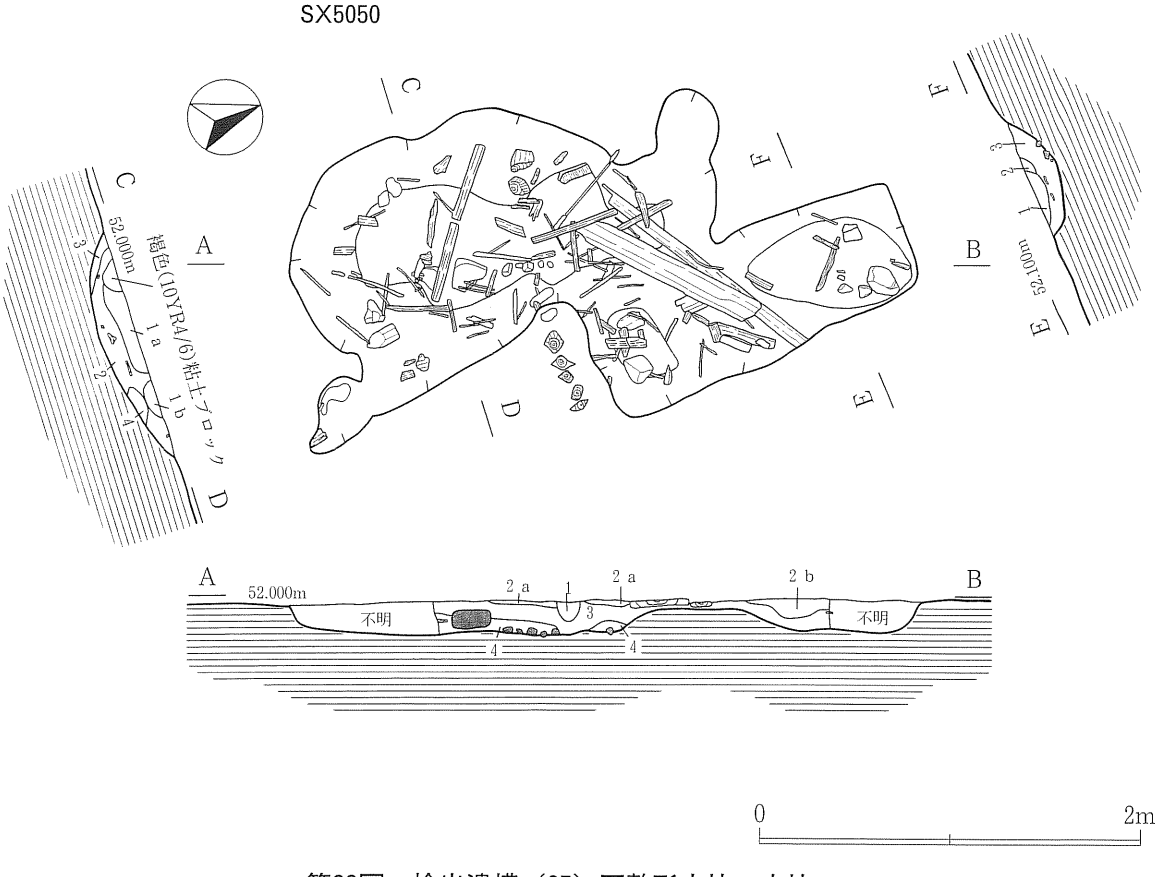


第27図　検出遺構（24）不整形土坑・土坑

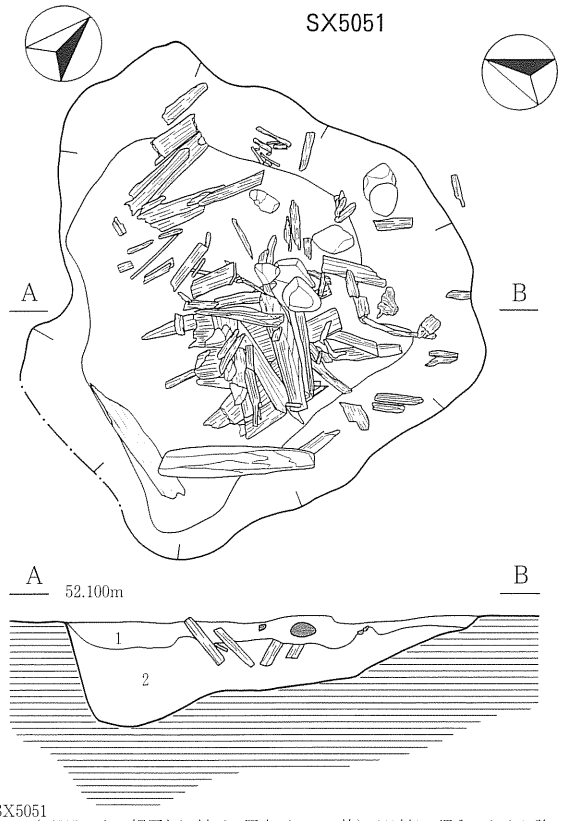
土層註記の一部は第26図



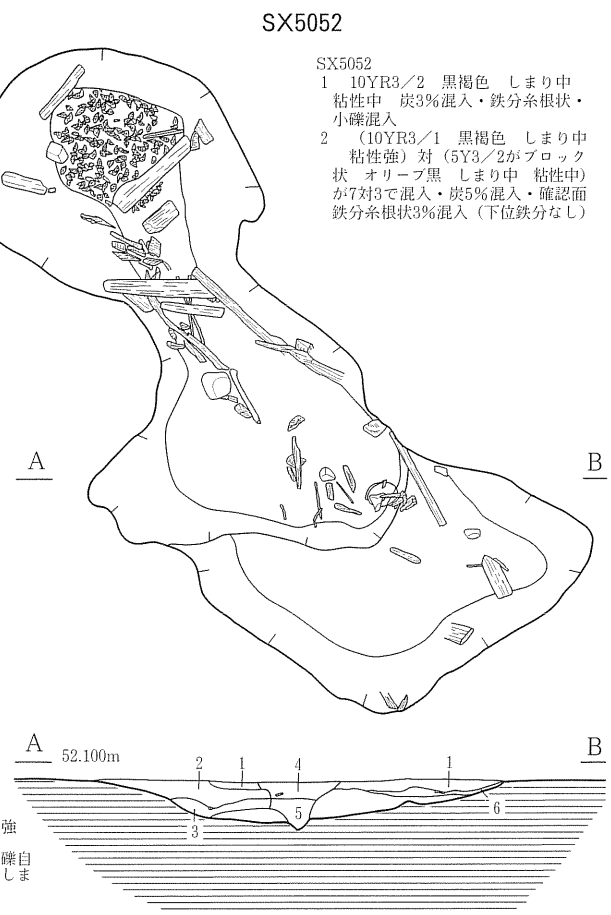
SK4331
1　10YR3／3　暗褐色　しまり強　粘性強　鉄分糸根状微量・落ち込みか？
SX5050（E－F）
1　2．5Y4／2　しまりやや強　粘性強　鉄分糸根状少量・炭微量・小礫と桃の種子混入・粘質土（10YR4／2　灰黄色）ブロック状混入
2　10YR2／1　黒色土　しまり弱　粘性やや強　炭微量・鉄分糸根状微量
3　5Y3／1　オリーブ黒色　しまり弱　粘性やや強　東側下位粘質土（2．5GY　暗オリーブ灰）と互層をなす・上位から中位に木製品混入・底位に水分を含む
SX5050（A－B）
1　10YR4／4　褐色　しまり中　粘質土　炭微量・鉄分糸根状やや密・（10YR4／4　褐色）斑状混入
2a　10YR3／1　黒褐色　しまりやや弱　粘性強　鉄分糸根状少量（材にも沈着）
2b　10YR4／1　褐灰色　粘質土　炭微量・（10YR4／3　にぶい黄褐色）や（10YR4／4　褐色）を呈する箇所が面的に広がる
3　2・5Y3／1　黒褐色　粘質土　炭微量・鉄分糸根状微量・材や木製品を大量に含む層・低い所で（10YR4／1　褐灰色）偏平型ブロック状で混入する箇所がある
4　5Y3／1　オリーブ黒色　粘性強　砂質土（まんべんなく混じる）・底位に中小礫あり
SX5050（C－D）
1a　2．5Y3／1　黒褐色　しまりやや弱　粘質土　炭径3㎜微量・粘質土（10YR4／6　褐色）ブロック状混入・乾燥すると固化し亀裂が入る・亀裂に鉄分が筋状に密混入
1b　2．5Y3／1　黒褐色　しまりやや強　粘性やや強　粘質土粒状（10YR4／6　褐色）まんべんなく含む・鉄分糸根状少量
2　5Y3／1　オリーブ黒色　しまり弱　粘性やや強　西側に（10YR3／2　黒褐色）を呈する・上位から中位にまんべんなく木製品含む
3　10YR3／1　黒褐色　しまりやや弱　粘性やや弱　炭微量・鉄分筋状密・基盤土（2．5GY　暗オリーブ灰色）と砂質土が互層をなす
4　5Y3／1　オリーブ黒色　しまりやや弱　粘性やや弱　鉄分糸根状微量・基盤土（2．5GY　暗オリーブ灰色）と砂質土が斑状混入



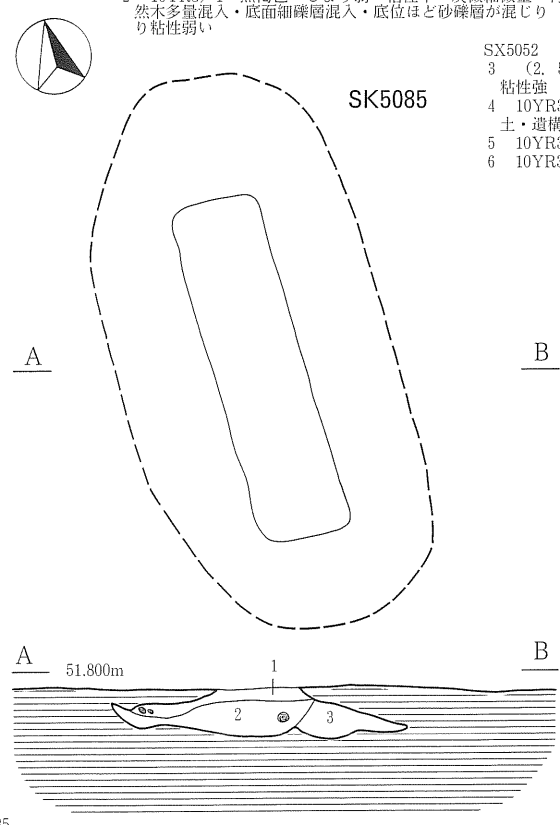
第28図　検出遺構（25）不整形土坑・土坑



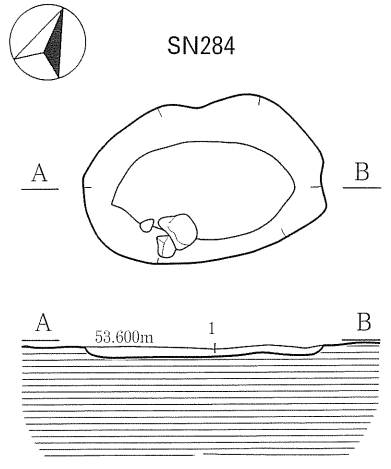
SX5051
1　(10YR4／1　褐灰色）対（Ⅱ層土ブロック状）が8対2で混入・しまり強　粘性強　炭微量・鉄分糸根状3%混入・2層土ブロック状層状混入・材礫混入
2　10YR3／1　黒褐色　しまり弱　粘性中　炭微細微量・材礫自然木多量混入・底面細礫層混入・底位ほど砂礫層が混じり　しまり粘性弱い



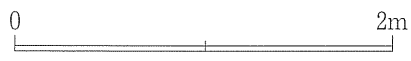
SX5052
1　10YR3／2　黒褐色　しまり中　粘性中　炭3%混入・鉄分糸根状・小礫混入
2　(10YR3／1　黒褐色　しまり中　粘性強）対（5Y3／2がブロック状　オリーブ黒　しまり中　粘性中）が7対3で混入・炭5%混入・確認面鉄分糸根状3%混入（下位鉄分なし）
3　(2．5Y4／2　暗灰黄色）にⅡ層土（10YR3／1　黒褐色）が8対2で斑状混入　しまり強　粘性強
4　10YR3／2　黒褐色　しまり中　粘性中　炭3%混入・鉄分糸根状・小礫混入・箸状木製品出土・遺構か？
5　10YR3／2　黒褐色　しまりやや弱　粘性中　炭微量・細礫混入・遺構か？
6　10YR3／2　黒褐色　しまり中　粘性中　炭微量混入・鉄分糸根状・小礫混入



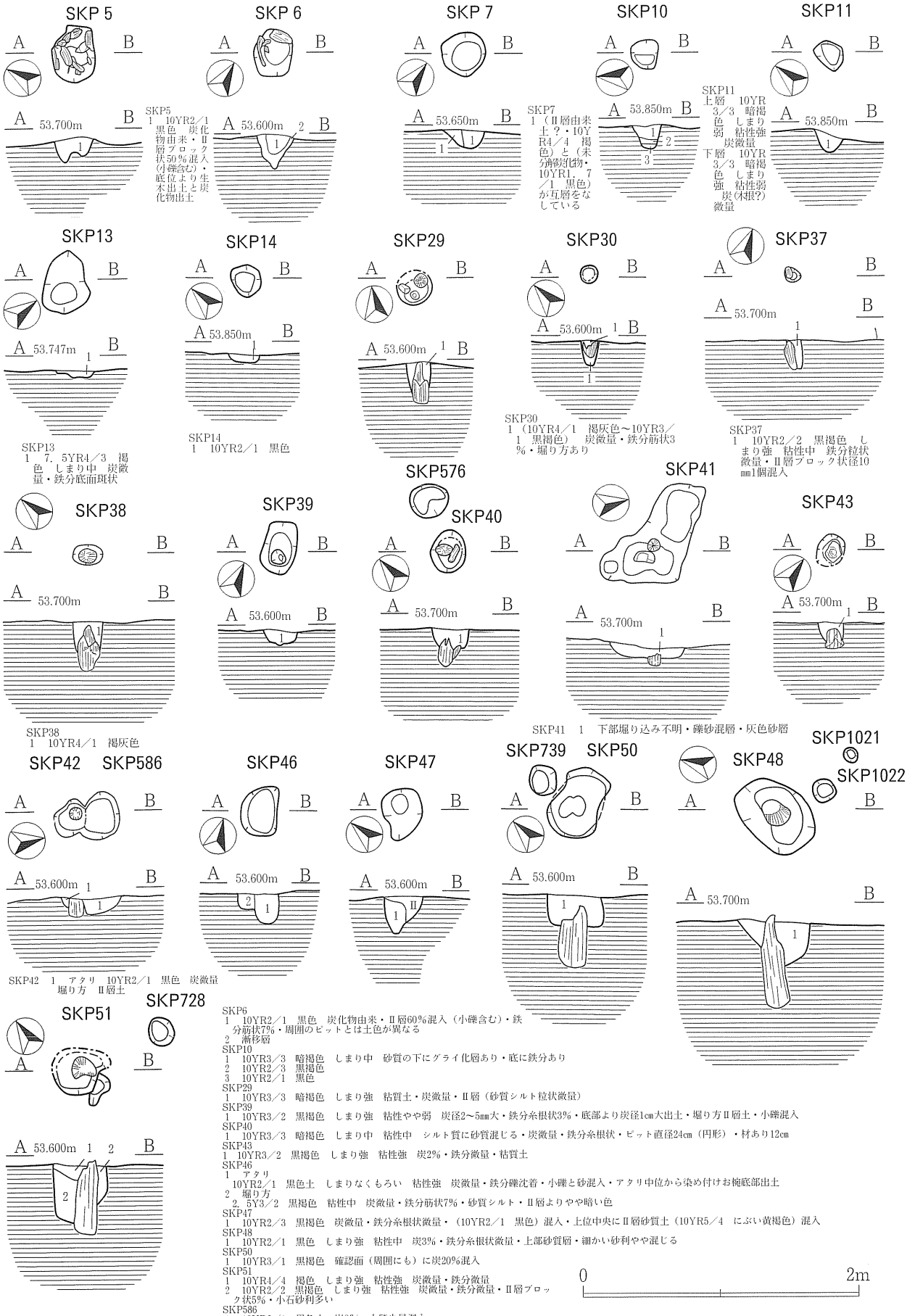
SK5085
1　10YR2／1　黒色　しまり強　粘性強　炭微量・鉄分糸根状・Ⅲ層と混ざりあっている
2　10YR3／3　暗褐色　しまり強　粘性強　炭微量・鉄分糸根状・細かい材混入
3　10YR3／1　黒褐色　しまり強　粘性強　炭径1㎜3%・鉄分糸根状



SN284
1　10YR2／1　黒色　しまり強　粘性中　炭径2～20㎜で50%混入・プランは19×18方形・礫混入



第29図　検出遺構（26）不整形土坑・土坑・焼土遺構



第30図　検出遺構（27）柱穴

SKP54
1　10YR2／2　黒褐色　しまり
　強　粘性弱
2　10YR3／3　暗褐色　しまり強　粘性弱　炭1%

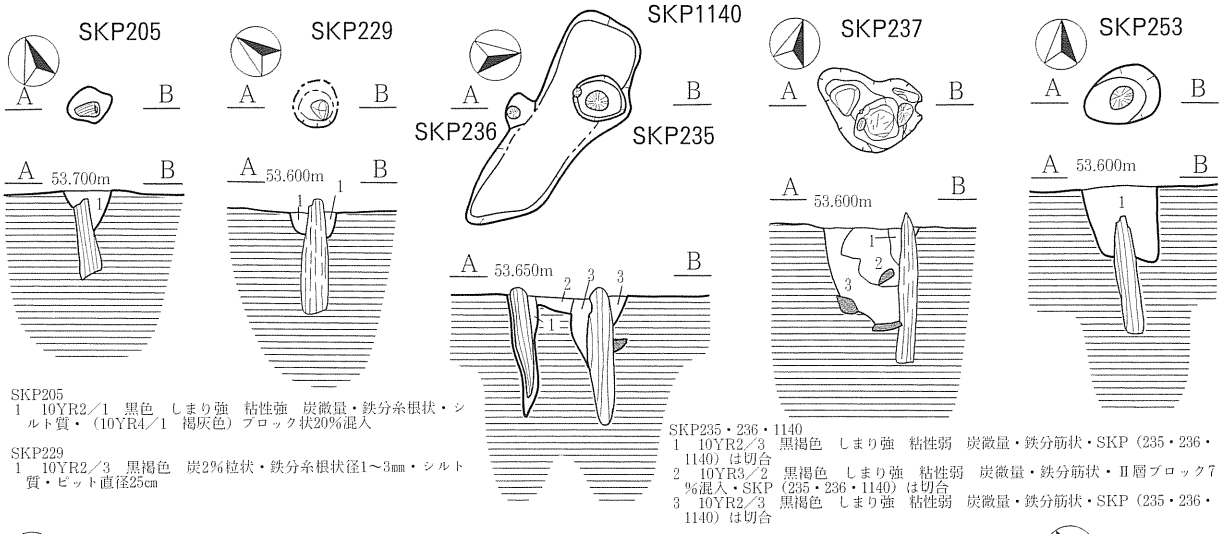
SKP76
1　10YR2／1　黒色（炭化物由来のⅡ層土で
　小礫も含む）　しまり弱　粘性中　アタリ部
　分20%
2　（10YR1．7／1　黒色）＋（緑部のみⅡ
　層土）　しまりなし　堀り方部分80%

SKP93
1　10YR3／3　暗褐色　しまり強　粘性強　炭微量・鉄分筋状・直径10cmの材あり
SKP94
1　10YR3／3　暗褐色　しまり強　粘性強　炭微量・鉄分筋状・シルト質・材あり・ピット直径14cm
SKP101
1　10YR2／3　黒褐色　しまり強　粘性弱　シルト質・炭微量・鉄分糸根状

SKP181
1　10YR3／3　暗褐色　しまり強　粘性中　鉄分2%糸根状・礫混入・ピット直径39cm
SKP193
1　10YR4／1　褐灰色

土層註記の一部は第37図

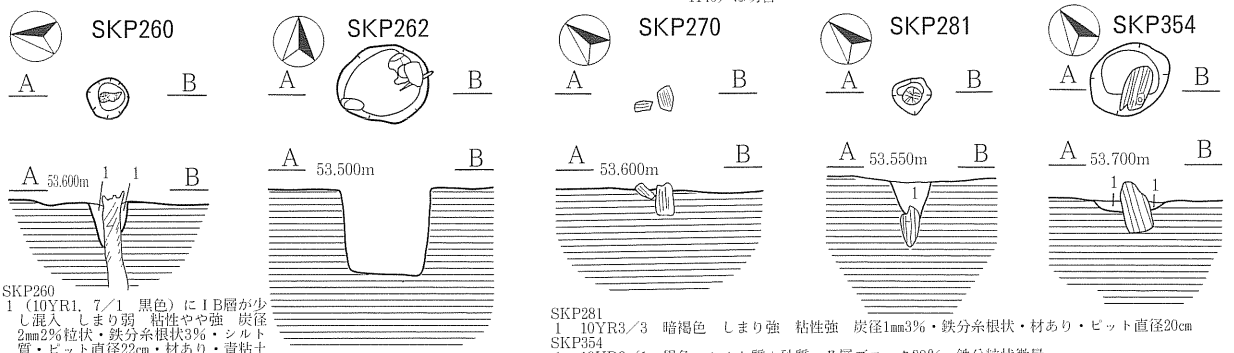
第31図　検出遺構（28）柱穴



SKP205
1　10YR2／1　黒色　しまり強　粘性強　炭微量・鉄分糸根状・シルト質・（10YR4／1　褐灰色）ブロック状20%混入

SKP229
1　10YR2／3　黒褐色　炭2%粒状・鉄分糸根状径1～3㎜・シルト質・ピット直径25㎝

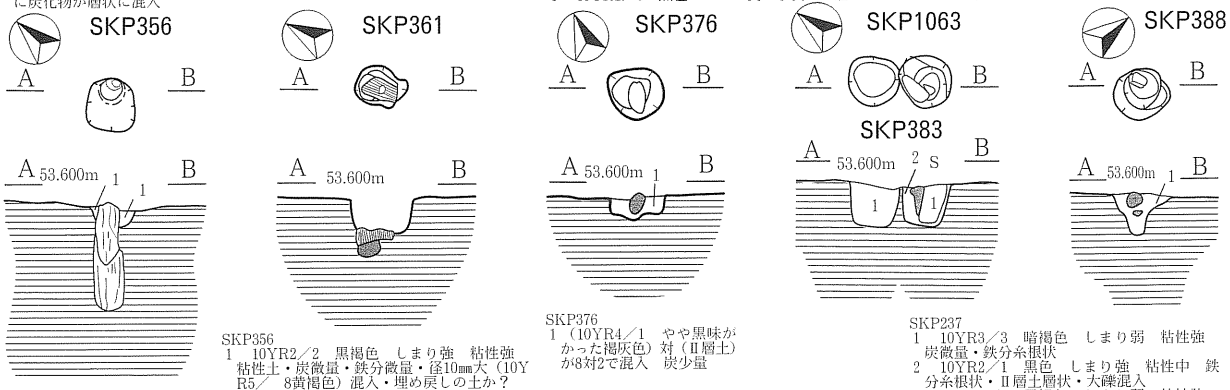
SKP235・236・1140
1　10YR2／3　黒褐色　しまり強　粘性弱　炭微量・鉄分筋状・SKP（235・236・1140）は切合
2　10YR3／2　黒褐色　しまり強　粘性弱　炭微量・鉄分筋状・Ⅱ層ブロック7%混入・SKP（235・236・1140）は切合
3　10YR2／3　黒褐色　しまり強　粘性弱　炭微量・鉄分筋状・SKP（235・236・1140）は切合



SKP260
1（10YR1．7／1　黒色）にⅠB層が少し混入　しまり弱　粘性やや強　炭径2㎜2%粒状・鉄分糸根状3%・シルト質・ピット直径22㎝・材あり・青粘土に炭化物が層状に混入

SKP281
1　10YR3／3　暗褐色　しまり強　粘性強　炭径1㎜3%・鉄分糸根状・材あり・ピット直径20㎝

SKP354
1　10YR2／1　黒色　シルト質＋砂質・Ⅱ層ブロック30%・鉄分粒状微量



SKP356
1　10YR2／2　黒褐色　しまり強　粘性強　粘性土・炭微量・鉄分微量・径10㎜大（10YR5／　8黄褐色）混入・埋め戻しの土か？

SKP376
1（10YR4／1　やや黒味がかった褐灰色）対（Ⅱ層土）が8対2で混入　炭少量

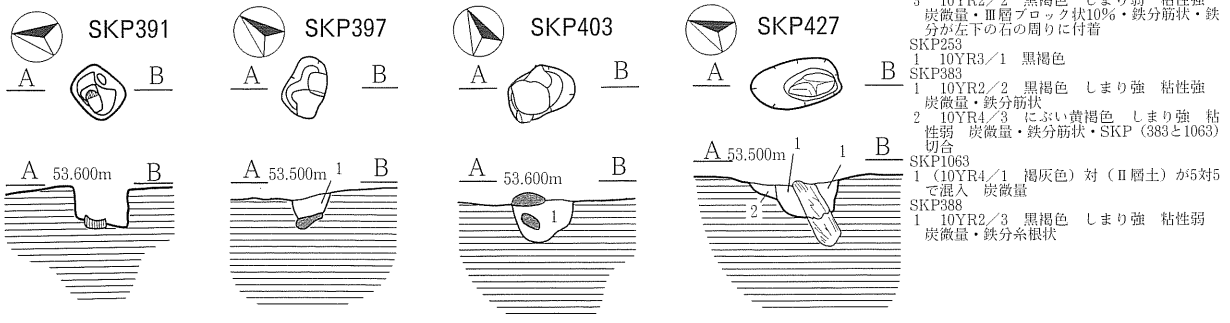
SKP237
1　10YR3／3　暗褐色　しまり弱　粘性強　炭微量・鉄分糸根状
2　10YR2／1　黒色　しまり強　粘性中　鉄分糸根状・Ⅱ層土層状・大礫混入
3　10YR2／2　黒褐色　しまり弱　粘性強　炭微量・Ⅲ層ブロック状10%・鉄分筋状・鉄分が左下の石の周りに付着

SKP253
1　10YR3／1　黒褐色

SKP383
1　10YR2／2　黒褐色　しまり強　粘性強　炭微量・鉄分筋状
2　10YR4／3　にぶい黄褐色　しまり強　粘性弱　炭微量・鉄分筋状・SKP（383と1063）切合

SKP1063
1（10YR4／1　褐灰色）対（Ⅱ層土）が5対5で混入　炭微量

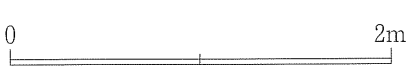
SKP388
1　10YR2／3　黒褐色　しまり強　粘性弱　炭微量・鉄分糸根状



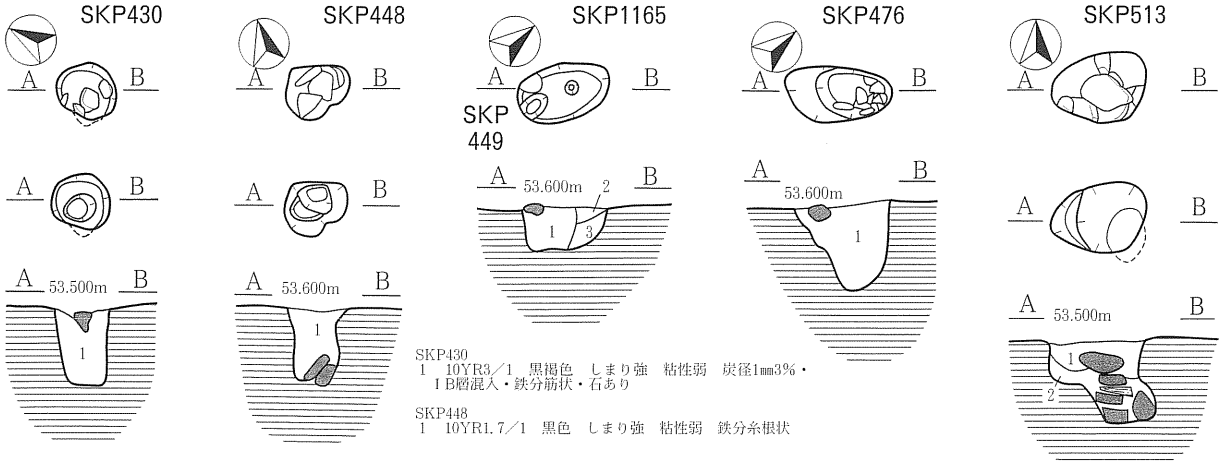
SKP397
1（10YR4／1　褐灰色）対（Ⅱ層土ブロック状）が6対4で混入　中礫上位混入・底面大礫混入

SKP403
1　10YR3／1　黒褐色　しまり強　粘性中　炭微量・鉄分筋状3%・Ⅱ層ブロック30%混入

SKP427
1　10YR2／1　黒色　しまり強　粘性強　鉄分粒状微量・Ⅱ層ブロック50%が中位に広がる
2　10YR3／1　黒褐色　しまり強　鉄分糸根状微量・Ⅱ層ブロック30%

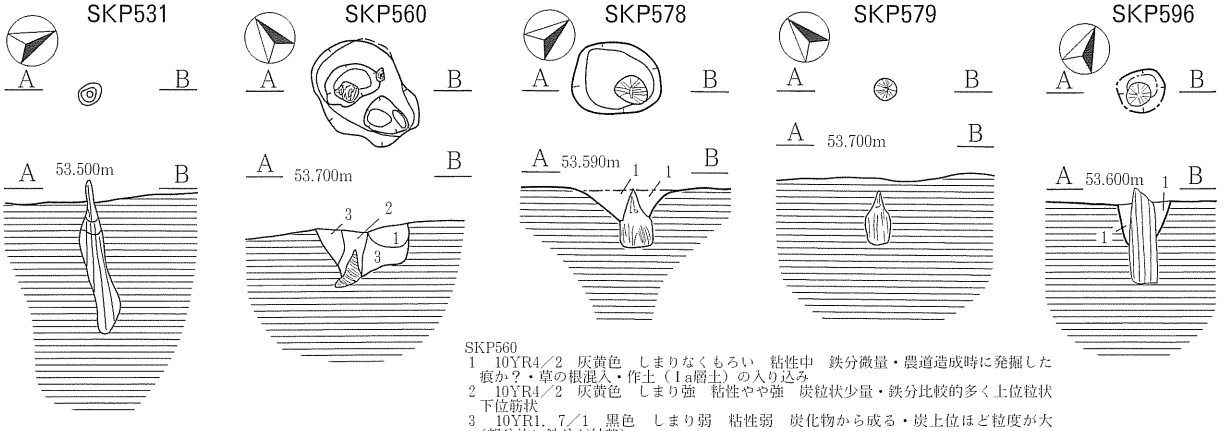


第32図　検出遺構（29）柱穴

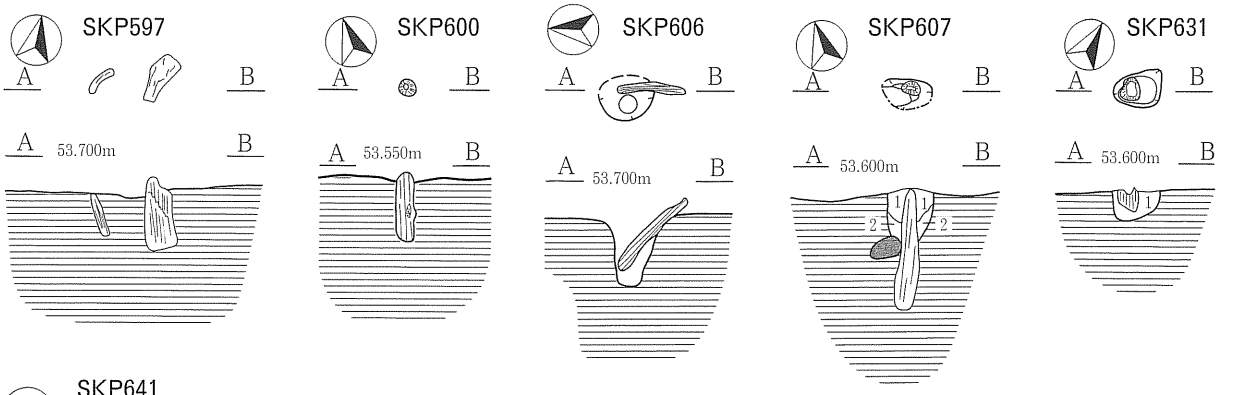


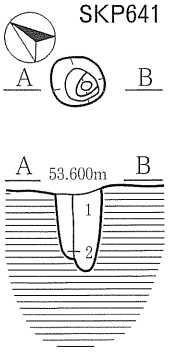
SKP430
1　10YR3／1　黒褐色　しまり強　粘性弱　炭径1mm3%・ⅠB層混入・鉄分筋状・石あり

SKP448
1　10YR1.7／1　黒色　しまり強　粘性弱　鉄分糸根状

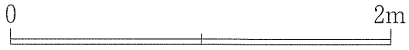


SKP560
1　10YR4／2　灰黄色　しまりなくもろい　粘性中　鉄分微量・農道造成時に発掘した痕か？・草の根混入・作土（Ⅰa層土）の入り込み
2　10YR4／2　灰黄色　しまり強　粘性やや強　炭粒状少量・鉄分比較的多く上位粒状下位筋状
3　10YR1.7／1　黒色　しまり弱　粘性弱　炭化物から成る・炭上位ほど粒度が大（部分的に鉄分が付着）

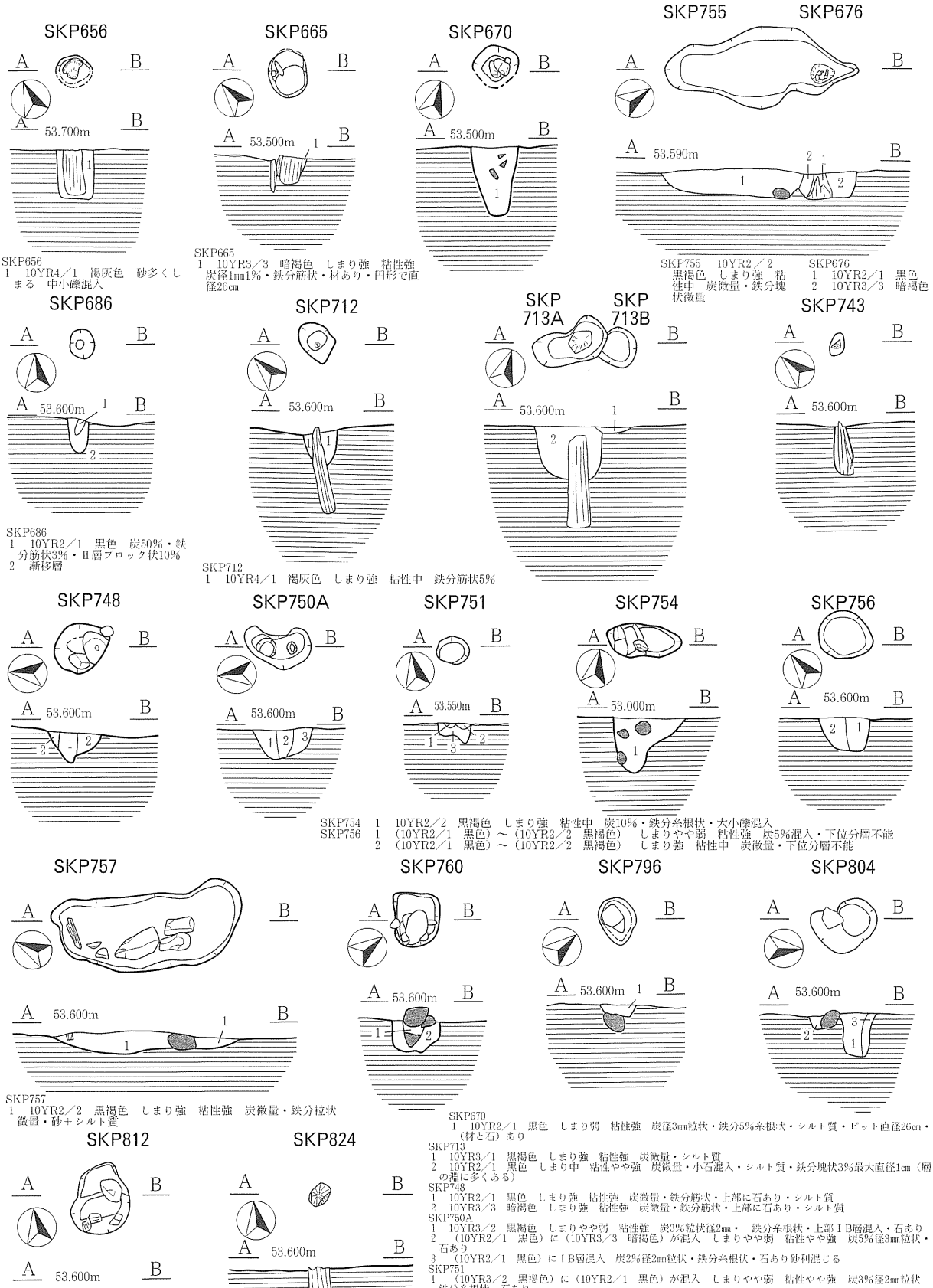




SKP449・1165
1　10YR4／1　褐灰色　しまり強　粘性強　SKP1165と切合
2　10YR1.7／1　黒色　Ⅱ層土少量混入・炭化物由来か？・炭微細粒多い
3　漸移層
SKP476　1　（黒褐色）対（Ⅱ層ブロック）が9対1で混入　炭比較的多い・礫（底面南側に根固めの石）
SKP513
1　（10YR2／1　黒色）と（10YR3／1　黒褐色）が混入　しまり強　粘性弱　炭微量・鉄分糸根状混入・Ⅱ層ブロック30%
2　10YR2／1　黒色　しまり強　粘性強
SKP578　1　10YR4／2　灰黄色　鉄分一部塊状・砂礫に沈着20～30%・小礫Ⅰ層中砂質土4割混入
SKP596　1　10YR2／3　黒褐色
SKP607
1　10YR3／4　暗褐色　しまり強　粘性弱　炭微量・鉄分糸根状
2　10YR3／1　黒褐色　しまり中　粘性中　炭微量・鉄分糸根状・礫少量あり
SKP631
1　10YR2／2　黒褐色　しまり強　粘性強　炭微量・鉄分筋状・箸と直径10cmの材あり・シルト質
SKP641
1　10YR2／1　黒色　しまり強　粘性強　粘質土
2　10YR2／3　黒褐色　しまり強　粘性弱　粘質土・炭径1～3mm3%　鉄分糸根状と粒状7%



第33図　検出遺構（30）柱穴



SKP656
1　10YR4／1　褐灰色　砂多くしまる　中小礫混入

SKP665
1　10YR3／3　暗褐色　しまり強　粘性強　炭径1㎜1%・鉄分筋状・材あり・円形で直径26㎝

SKP755　10YR2／2　黒褐色　しまり強　粘性中　炭微量・鉄分塊状微量

SKP676
1　10YR2／1　黒色
2　10YR3／3　暗褐色

SKP686
1　10YR2／1　黒色　炭50%・鉄分筋状3%・Ⅱ層ブロック状10%
2　漸移層

SKP712
1　10YR4／1　褐灰色　しまり強　粘性中　鉄分筋状5%

SKP754　1　10YR2／2　黒褐色　しまり強　粘性中　炭10%・鉄分糸根状・大小礫混入

SKP756　1　(10YR2／1　黒色) ～ (10YR2／2　黒褐色)　しまりやや弱　粘性強　炭5%混入・下位分層不能
2　(10YR2／1　黒色) ～ (10YR2／2　黒褐色)　しまり強　粘性中　炭微量・下位分層不能

SKP757
1　10YR2／2　黒褐色　しまり強　粘性強　炭微量・鉄分粒状微量・砂＋シルト質

SKP670
1　10YR2／1　黒色　しまり弱　粘性強　炭径3㎜粒状・鉄分5%糸根状・シルト質・ピット直径26㎝・(材と石) あり

SKP713
1　10YR3／1　黒褐色　しまり強　粘性強　炭微量・シルト質
2　10YR2／1　黒色　しまり中　粘性やや強　炭微量・小石混入・シルト質・鉄分塊状3%最大直径1㎝（層の淵に多くある）

SKP748
1　10YR2／1　黒色　しまり強　粘性強　炭微量・鉄分筋状・上部に石あり・シルト質
2　10YR3／3　暗褐色　しまり強　粘性強　炭微量・鉄分筋状・上部に石あり・シルト質

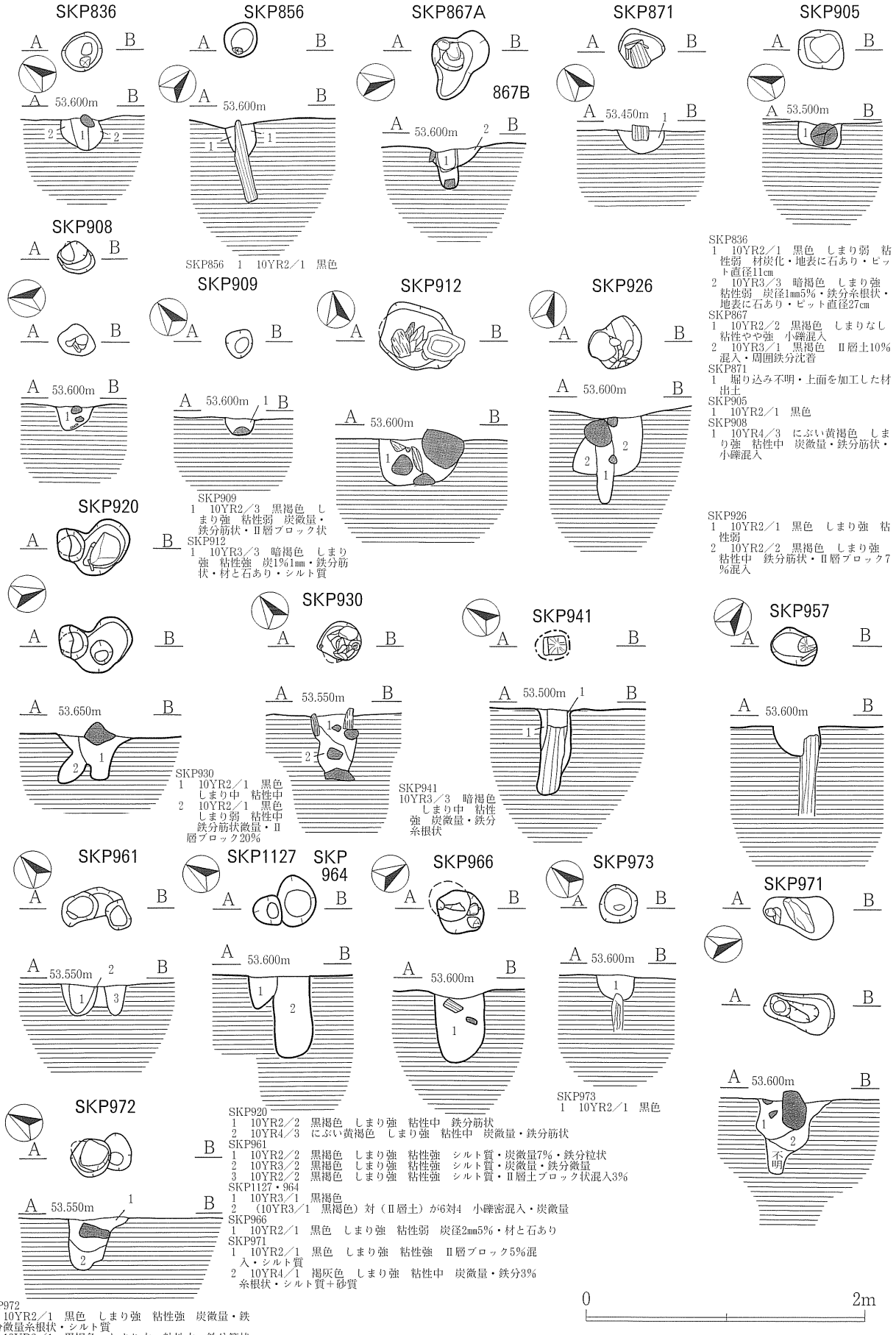
SKP750A
1　10YR3／2　黒褐色　しまりやや弱　粘性強　炭3%粒状径2㎜・　鉄分糸根状・上部ⅠB層混入・石あり
2　(10YR2／1　黒色) に (10YR3／3　暗褐色) が混入　しまりやや弱　粘性やや強　炭5%径3㎜粒状・石あり
3　(10YR2／1　黒色) にⅠB層混入　炭2%径2㎜粒状・鉄分糸根状・石あり砂利混じる

SKP751
1　(10YR3／2　黒褐色) に (10YR2／1　黒色) が混入　しまりやや弱　粘性やや強　炭3%径2㎜粒状　鉄分糸根状　石あり
2　1と同じ
3　漸移層

SKP760
1　10YR2／2　黒褐色　炭やや多い
2　10YR2／2　黒褐色　炭微量

土層註記の一部は第43図

第34図　検出遺構（31）柱穴



SKP836
1　10YR2／1　黒色　しまり弱　粘性弱　材炭化・地表に石あり・ピット直径11cm
2　10YR3／3　暗褐色　しまり強　粘性弱　炭径1mm5%・鉄分糸根状・地表に石あり・ピット直径27cm
SKP867
1　10YR2／2　黒褐色　しまりなし　粘性やや強　小礫混入
2　10YR3／1　黒褐色　Ⅱ層土10%混入・周囲鉄分沈着
SKP871
1　堀り込み不明・上面を加工した材出土
SKP905
1　10YR2／1　黒色
SKP908
1　10YR4／3　にぶい黄褐色　しまり強　粘性中　炭微量・鉄分筋状・小礫混入

SKP856　1　10YR2／1　黒色

SKP909
1　10YR2／3　黒褐色　しまり強　粘性弱　炭微量・鉄分筋状・Ⅱ層ブロック状

SKP912
1　10YR3／3　暗褐色　しまり強　粘性強　炭1%1mm・鉄分筋状・材と石あり・シルト質

SKP926
1　10YR2／1　黒色　しまり強　粘性弱
2　10YR2／2　黒褐色　しまり強　粘性中　鉄分筋状・Ⅱ層ブロック7%混入

SKP930
1　10YR2／1　黒色　しまり中　粘性中
2　10YR2／1　黒色　しまり弱　粘性中　鉄分筋状微量・Ⅱ層ブロック20%

SKP941
10YR3／3　暗褐色　しまり中　粘性強　炭微量・鉄分糸根状

SKP973
1　10YR2／1　黒色

SKP920
1　10YR2／2　黒褐色　しまり強　粘性中　鉄分筋状
2　10YR4／3　にぶい黄褐色　しまり強　粘性中　炭微量・鉄分筋状

SKP961
1　10YR2／2　黒褐色　しまり強　粘性強　シルト質・炭微量7%・鉄分粒状
2　10YR3／2　黒褐色　しまり強　粘性強　シルト質・炭微量・鉄分微量
3　10YR2／2　黒褐色　しまり強　粘性強　シルト質・Ⅱ層土ブロック状混入3%

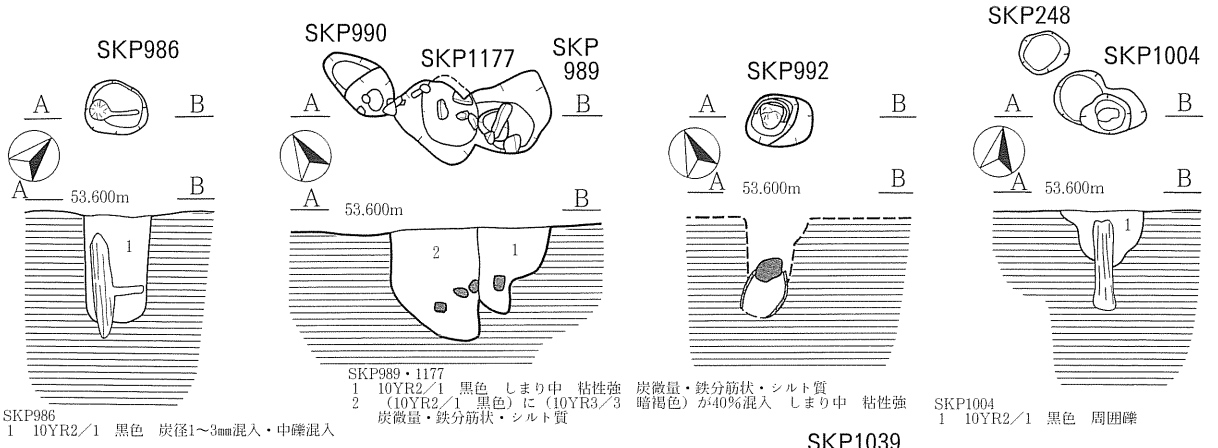
SKP1127・964
1　10YR3／1　黒褐色
2　(10YR3／1　黒褐色) 対 (Ⅱ層土) が6対4　小礫密混入・炭微量

SKP966
1　10YR2／1　黒色　しまり強　粘性弱　炭径2mm5%・材と石あり

SKP971
1　10YR2／1　黒色　しまり強　粘性強　Ⅱ層ブロック5%混入・シルト質
2　10YR4／1　褐灰色　しまり強　粘性中　炭微量・鉄分3%糸根状・シルト質＋砂質

SKP972
1　10YR2／1　黒色　しまり強　粘性強　炭微量・鉄分微量糸根状・シルト質
2　10YR3／1　黒褐色　しまり中　粘性中　鉄分筋状(やや太く層の淵に多い)・Ⅱ層ブロック10%混入・シルト質＋砂質

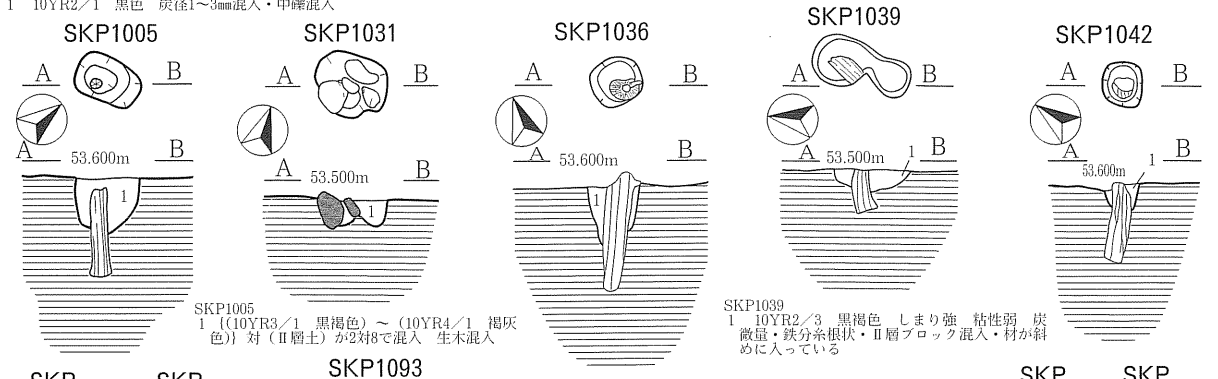
第35図　検出遺構（32）柱穴



SKP986
1　10YR2／1　黒色　炭径1～3㎜混入・中礫混入

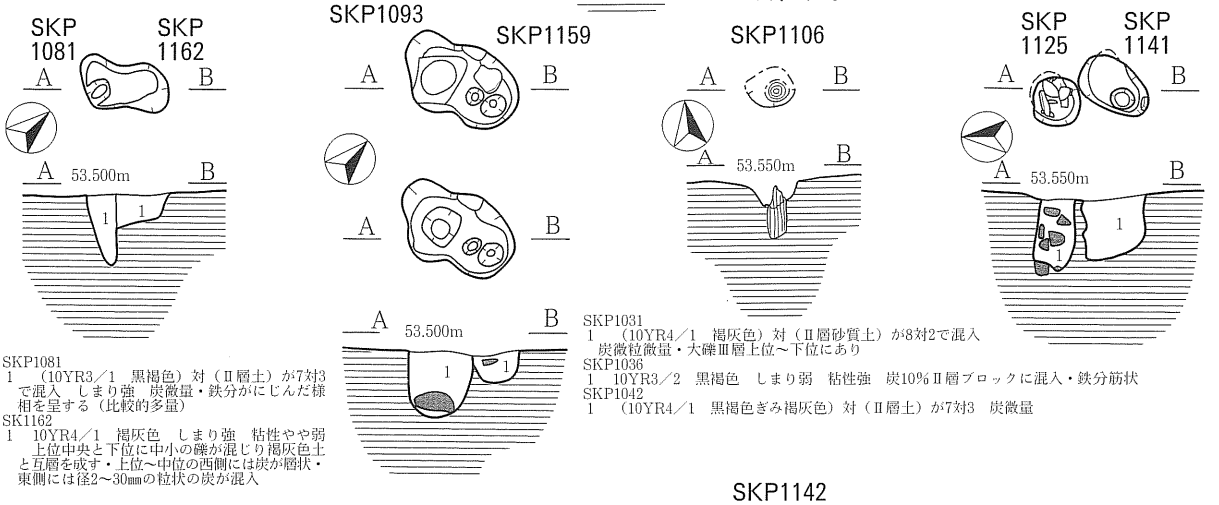
SKP989・1177
1　10YR2／1　黒色　しまり中　粘性強　炭微量・鉄分筋状・シルト質
2　（10YR2／1　黒色）に（10YR3／3　暗褐色）が40%混入　しまり中　粘性強　炭微量・鉄分筋状・シルト質

SKP1004
1　10YR2／1　黒色　周囲礫



SKP1005
1　｛(10YR3／1　黒褐色）～（10YR4／1　褐灰色）｝対（Ⅱ層土）が2対8で混入　生木混入

SKP1039
1　10YR2／3　黒褐色　しまり強　粘性弱　炭微量・鉄分糸根状・Ⅱ層ブロック混入・材が斜めに入っている



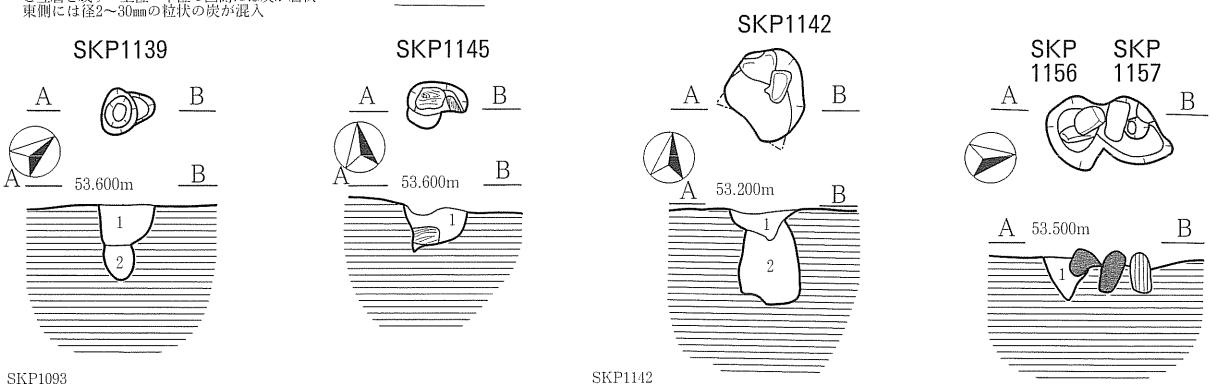
SKP1081
1　（10YR3／1　黒褐色）対（Ⅱ層土）が7対3で混入　しまり強　炭微量・鉄分がにじんだ様相を呈する（比較的多量）

SK1162
1　10YR4／1　褐灰色　しまり強　粘性やや弱　上位中央と下位に中小の礫が混じり褐灰色土と互層を成す・上位～中位の西側には炭が層状・東側には径2～30㎜の粒状の炭が混入

SKP1031
1　（10YR4／1　褐灰色）対（Ⅱ層砂質土）が8対2で混入　炭微粒微量・大礫Ⅲ層上位～下位にあり

SKP1036
1　10YR3／2　黒褐色　しまり弱　粘性強　炭10%Ⅱ層ブロックに混入・鉄分筋状

SKP1042
1　（10YR4／1　黒褐色ぎみ褐灰色）対（Ⅱ層土）が7対3　炭微量



SKP1093
1　10YR2／1　黒色　しまり強　粘性弱　鉄分粒状

SKP1125
1　10YR2／1　黒色　しまり中　粘性強　炭径2㎜3%・鉄分筋状・Ⅱ層ブロックに（10YR2／1　黒色）が混入

SKP1139
1　10YR3／1　黒褐色　しまり強　粘性中　炭微量・鉄分筋状・木の腐食あり・Ⅱ層ブロック3%・上面に小石混じる
2　10YR2／1　黒色　しまり弱　粘性強　炭微量・鉄分粒状・Ⅲ層ブロック1%

SKP1141
1　10YR2／1　黒色　しまり中　粘性強　炭径2㎜3%・鉄分筋状・Ⅱ層ブロックに（10YR2／1　黒色）が混入

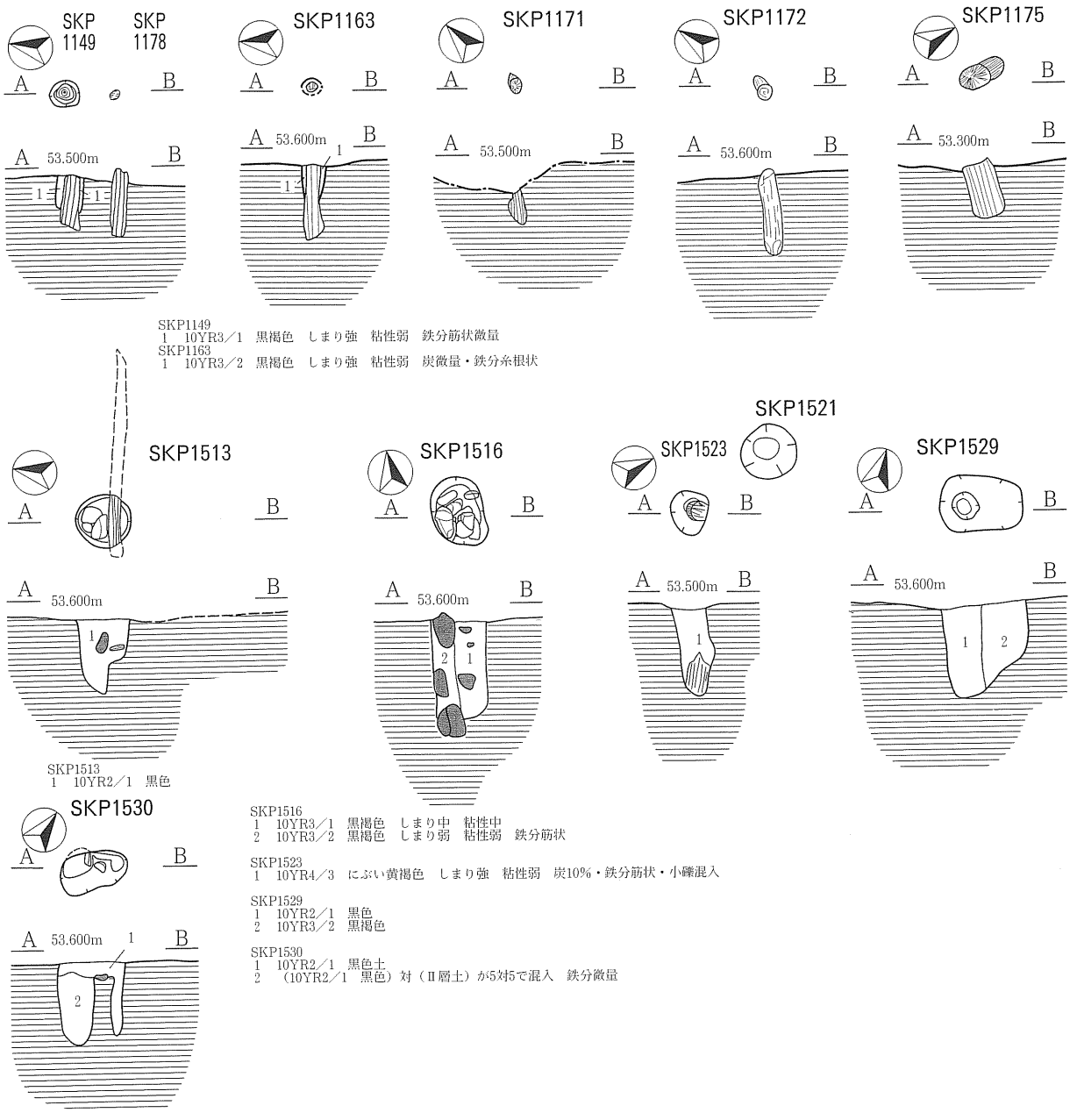
SKP1142
1　10YR2／3　黒褐色　しまり強　粘性中　炭微量・鉄分糸根状・小礫混入
2　10YR3／1　黒褐色　しまり弱　粘性中　炭微量・鉄分筋状・大小礫混入

SKP1156
1（10YR4／1　褐灰色）対（Ⅱ層土）が6対4で混入　炭微量

SKP1159
1　10YR3／1　黒褐色　炭径1cmやや多い

0　2m

第36図　検出遺構（33）柱穴

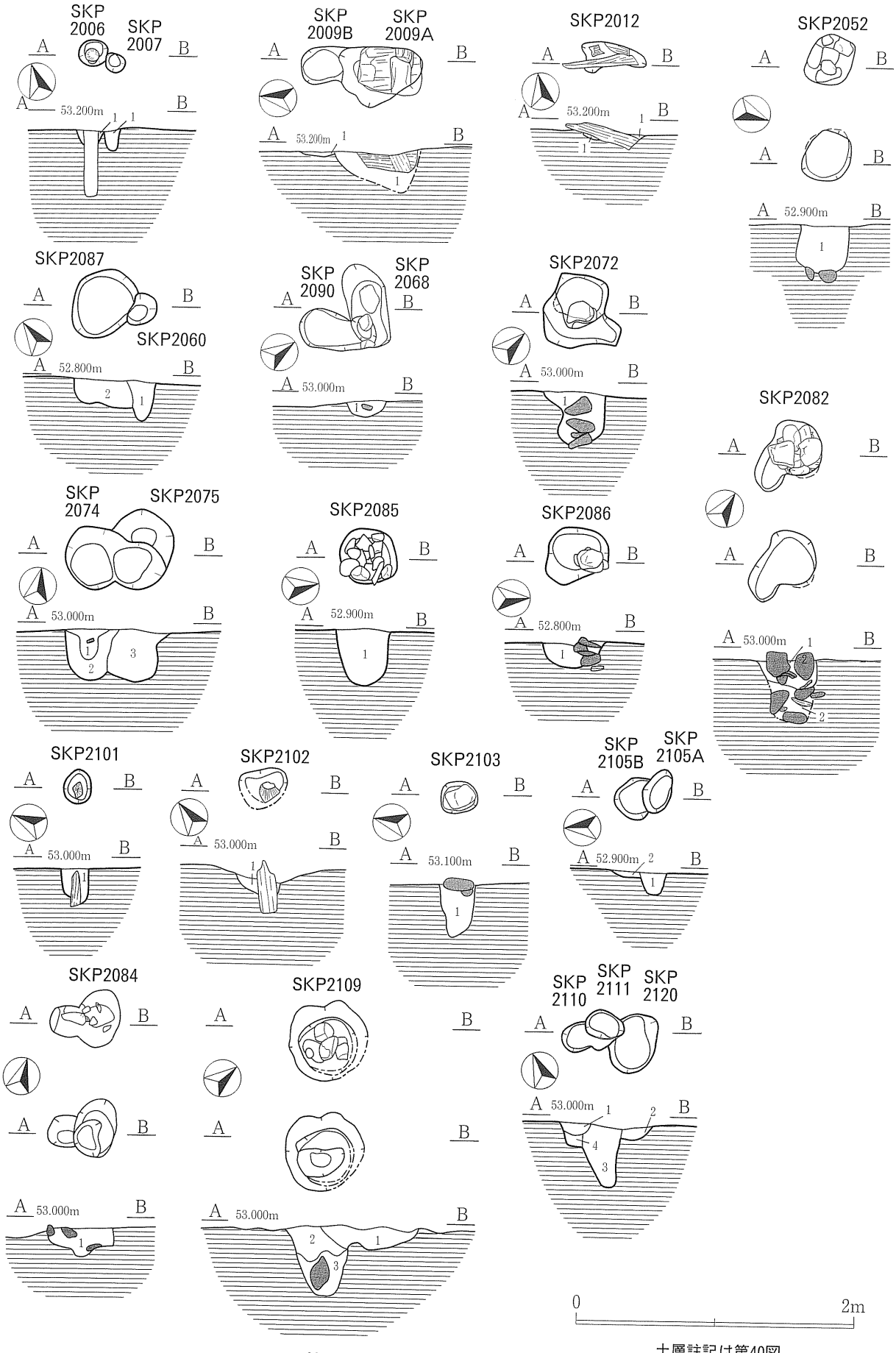


第31図の土層註記

SKP55
1 10YR2／2 黒褐色 しまり強 粘性弱 炭15%・砂質層・小石混じる
2 10YR3／2 黒褐色 しまり強 粘性弱 砂質層・小石混じる
SKP59
1 10YR3／3 暗褐色 しまり強 粘性中 炭微量・鉄分糸根状・シルト質に砂質混入
2 10YR3／3 暗褐色 しまり強 粘性中 炭微量・鉄分ブロック状・シルト質に砂質混入・上部に石2個あり・やや方形
SKP65
10YR3／3 暗褐色 しまり強 粘性強 炭1%径1mm・鉄分ブロック状・シルト質
SKP112・114・525
1 10YR2／1 黒色 しまり強 粘性ややあり Ⅱ層ブロック状5%・（10YR6／8黄橙色）3%程度混入・炭微量・鉄分微量
2 10YR4／1 褐灰色 しまり強 粘性強 シルト質と砂質・砂利と小石混じる・鉄分筋状10%（1つ1つが大きい）・Ⅱ層ブロック
3 1と同じ
SKP115
1 10YR3／3 暗褐色 しまり強 粘性弱 炭微量・鉄分筋状
SKP124
1 10YR2／2 黒褐色 しまり強 粘性強 炭5%
2 10YR2／3 黒褐色 しまり強 粘性強 炭微量・鉄分筋状微量
SKP141
1 10YR3／3 暗褐色 しまり強 粘性中 炭径2mm3%・鉄分糸根状・ピット直径23cm・材あり
SKP148
1 10YR3／3 暗褐色 しまり強 粘性強 炭微量・鉄分筋状・シルト質・円形23cm・材あり8cm・材の下に小石
SKP151
1 10YR3／3 暗褐色
2 10YR3／3 暗褐色
SKP156
1 10YR3／3 暗褐色 しまり強 粘性強 炭微量・鉄分筋状・シルト質・円形35cm・上位に石あり
2 10YR4／1 褐灰色 しまり中 粘性弱・（10YR3／3暗褐色）ブロック状混入・砂質・材あり9cm
SKP161
1 10YR4／3 にぶい黄褐色 しまり強 粘性弱 炭5%・鉄分糸根状

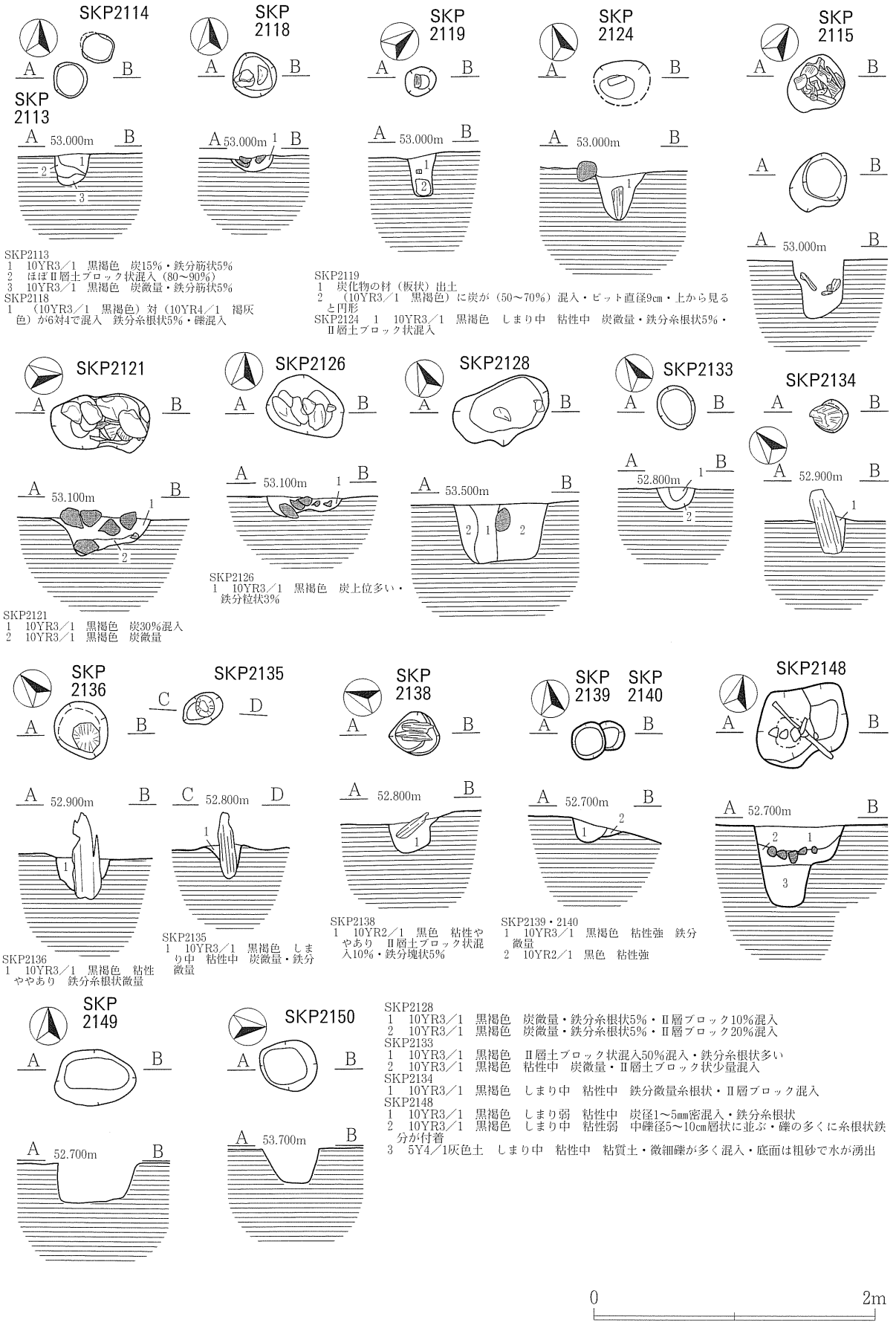
0 2m

第37図 検出遺構（34）柱穴



土層註記は第40図

第38図　検出遺構（35）柱穴



SKP2113
1　10YR3／1　黒褐色　炭15%・鉄分筋状5%
2　ほぼⅡ層土ブロック状混入（80～90%）
3　10YR3／1　黒褐色　炭微量・鉄分筋状5%

SKP2118
1　（10YR3／1　黒褐色）対（10YR4／1　褐灰色）が6対4で混入　鉄分糸根状5%・礫混入

SKP2119
1　炭化物の材（板状）出土
2　（10YR3／1　黒褐色）に炭が（50～70%）混入・ピット直径9cm・上から見ると円形

SKP2124　1　10YR3／1　黒褐色　しまり中　粘性中　炭微量・鉄分糸根状5%・Ⅱ層土ブロック状混入

SKP2121
1　10YR3／1　黒褐色　炭30%混入
2　10YR3／1　黒褐色　炭微量

SKP2126
1　10YR3／1　黒褐色　炭上位多い・鉄分粒状3%

SKP2136
1　10YR3／1　黒褐色　粘性ややあり　鉄分糸根状微量

SKP2135
1　10YR3／1　黒褐色　しまり中　粘性中　炭微量・鉄分微量

SKP2138
1　10YR2／1　黒色　粘性ややあり　Ⅱ層土ブロック状混入10%・鉄分塊状5%

SKP2139・2140
1　10YR3／1　黒褐色　粘性強　鉄分微量
2　10YR2／1　黒色　粘性強

SKP2128
1　10YR3／1　黒褐色　炭微量・鉄分糸根状5%・Ⅱ層ブロック10%混入
2　10YR3／1　黒褐色　炭微量・鉄分糸根状5%・Ⅱ層ブロック20%混入

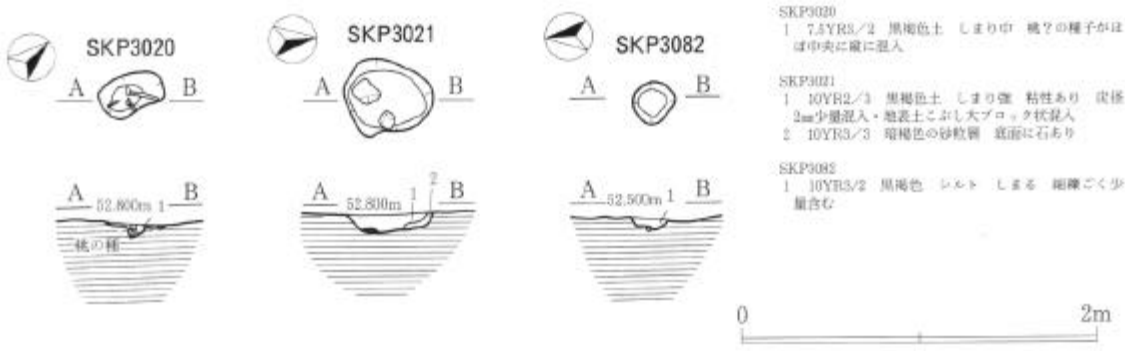
SKP2133
1　10YR3／1　黒褐色　Ⅱ層土ブロック状混入50%混入・鉄分糸根状多い
2　10YR3／1　黒褐色　粘性中　炭微量・Ⅱ層土ブロック状少量混入

SKP2134
1　10YR3／1　黒褐色　しまり中　粘性中　鉄分微量糸根状・Ⅱ層ブロック混入

SKP2148
1　10YR3／1　黒褐色　しまり弱　粘性中　炭径1～5mm密混入・鉄分糸根状
2　10YR3／1　黒褐色　しまり中　粘性弱　中礫径5～10cm層状に並ぶ・礫の多くに糸根状鉄分が付着
3　5Y4／1灰色土　しまり中　粘性中　粘質土・微細礫が多く混入・底面は粗砂で水が湧出

0　2m

第39図　検出遺構（36）柱穴



SKP3020
1　7.5YR3／2　黒褐色土　しまり中　桃？の種子がほぼ中央に礫に混入

SKP3021
1　10YR2／3　黒褐色土　しまり強　粘性あり　炭径2mm少量混入・地表土こぶし大ブロック状混入
2　10YR3／3　暗褐色の砂粒層　底面に石あり

SKP3082
1　10YR3／2　黒褐色　シルト　しまる　細礫ごく少量含む

第38図の土層註記

SKP2006
1　10YR3／1　黒褐色

SKP2007
1　10YR3／1　黒褐色

SKP2009
1　10YR4／2　灰黄褐色　炭混入・ブラン不明瞭

SKP2032
1　5Y3／1　オリーブ黒色　しまり中　粘性強　砂質土（5GY5／1　オリーブ灰色）微量混入

SKP2052
1　（10YR2／2　黒褐色）対（Ⅱ層土）が9対1で混入　炭径2mm微量

SKP2060・2087
1　10YR2／2　黒褐色　確認面小礫1点切り合い線上にあり
2　（10YR2／2　黒褐色）対（Ⅱ層土）が5対5で混入

SKP2068
1　（10YR2／3　黒褐色）対（炭化物筋状）対（Ⅱ層土縞状）が2対4対4で混入　大礫中位混入

SKP2072
1　（10YR2／2　黒褐色）対（Ⅱ層土）が9対1で混入　炭径2～10mm少量混入

SKP2074・2075
1　（10YR2／2　黒褐色）対（Ⅱ層土）が7対3で混入　炭微細微量
2　（10YR3／2　黒褐色）
3　（10YR2／2　黒褐色）対（Ⅱ層土ブロック状）が9対2で混入　炭径2～10mm少量混入

SKP2082
1　（10YR2／2　黒褐色）対（Ⅱ層土）が9対1で混入　炭少量
2　漸移層

SKP2084
1　撹れた状態（10YR2／2　黒褐色）　・炭径2～5mm少量・大中礫多い（確認面～底位）
・焼成すると白色に変化し硬くしまる

SKP2085
1　（10YR2／2　黒褐色）対（Ⅱ層土）が8対2で混入　炭径2～5mm少量混入・礫投げ込みあり

SKP2086
1　（10YR2／2　黒褐色）対（Ⅱ層土）が9対1で混入　未分解有材物混入

SKP2101
1　10YR4／1　褐灰色　しまり強　粘性弱　鉄分吊根状3%斑状に広がる

SKP2102
1　10YR3／1　黒褐色　しまり中　粘性弱　炭微量・砂～シルト質

SKP2103
1　10YR2／1　黒色

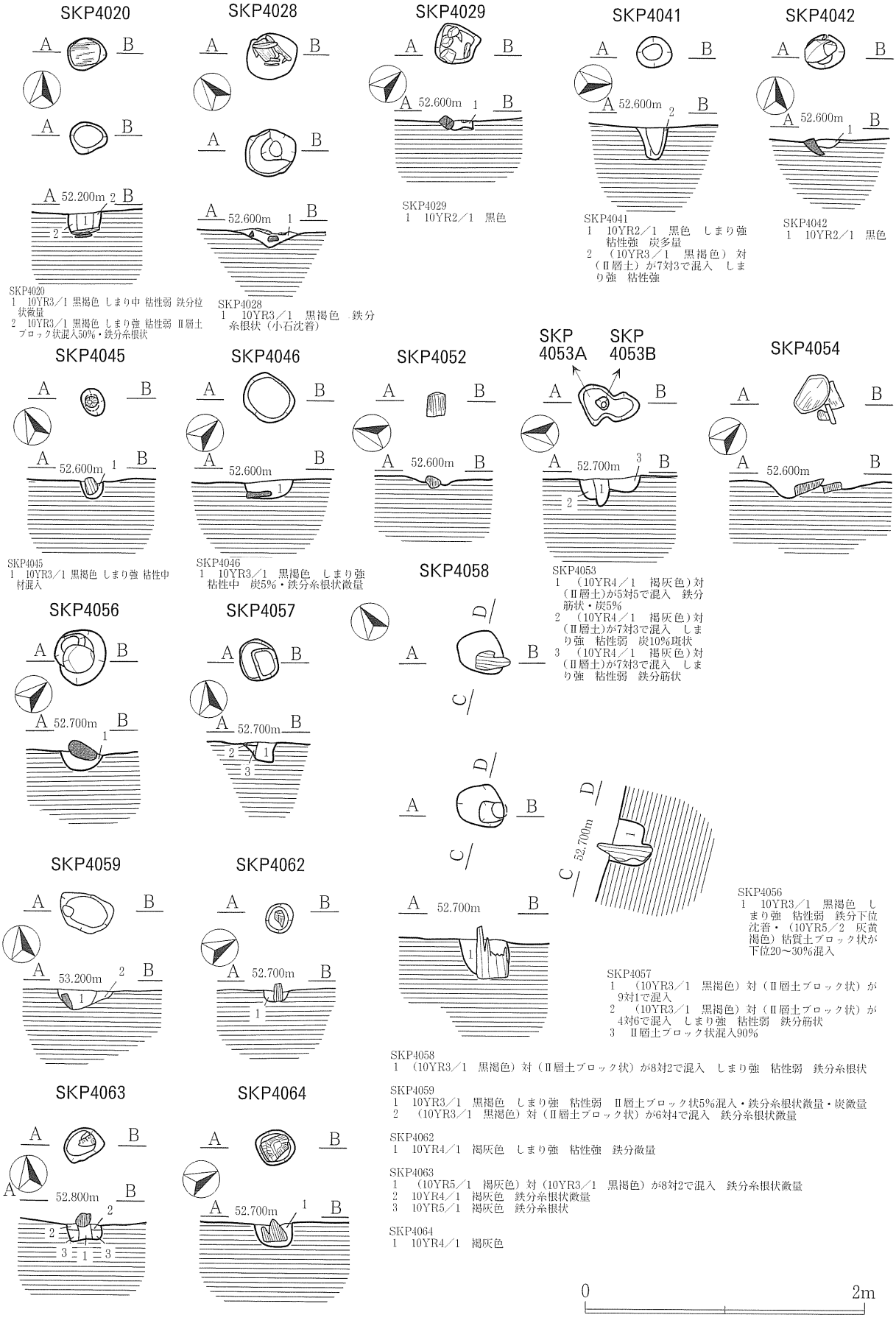
SKP2105
1　10YR3／1　黒褐色　しまり強　粘性中　鉄分粒状5%
2　10YR3／1　黒褐色　しまり強　粘性中　炭微量・鉄分粒状5%

SKP2109
1　10YR2／1　黒色
2　10YR3／1　黒褐色　しまり強　粘性弱　炭10mm3%・Ⅱ層ブロック10%
3　10YR3／1　黒褐色　しまり強　粘性中　鉄分筋状3～5%

SKP2110・2111・2120
1　10YR3／1　黒褐色　炭3%・Ⅱ層土ブロック状混入30%・鉄分筋状3%
2　10YR4／1　褐灰色　鉄分3%・炭微量
3　10YR3／1　黒褐色　炭微量・鉄分5%
4　漸移層

第40図　検出遺構（37）柱穴

SD701調査状況



SKP4020
1　10YR3／1 黒褐色 しまり中 粘性弱 鉄分粒状微量
2　10YR3／1 黒褐色 しまり強 粘性弱 Ⅱ層土ブロック状混入50%・鉄分糸根状

SKP4028
1　10YR3／1　黒褐色　鉄分糸根状（小石沈着）

SKP4029
1　10YR2／1　黒色

SKP4041
1　10YR2／1　黒色　しまり強　粘性強　炭多量
2　（10YR3／1　黒褐色）対（Ⅱ層土）が7対3で混入　しまり強　粘性強

SKP4042
1　10YR2／1　黒色

SKP4045
1　10YR3／1 黒褐色 しまり強 粘性中 材混入

SKP4046
1　10YR3／1　黒褐色　しまり強　粘性中　炭5%・鉄分糸根状微量

SKP4053
1　（10YR4／1　褐灰色）対（Ⅱ層土）が5対5で混入　鉄分筋状・炭5%
2　（10YR4／1　褐灰色）対（Ⅱ層土）が7対3で混入　しまり強　粘性弱　炭10%斑状
3　（10YR4／1　褐灰色）対（Ⅱ層土）が7対3で混入　しまり強　粘性弱　鉄分筋状

SKP4056
1　10YR3／1　黒褐色　しまり強　粘性弱　鉄分下位沈着・（10YR5／2　灰黄褐色）粘質土ブロック状が下位20～30%混入

SKP4057
1　（10YR3／1　黒褐色）対（Ⅱ層土ブロック状）が9対1で混入
2　（10YR3／1　黒褐色）対（Ⅱ層土ブロック状）が4対6で混入　しまり強　粘性弱　鉄分筋状
3　Ⅱ層土ブロック状混入90%

SKP4058
1　（10YR3／1　黒褐色）対（Ⅱ層土ブロック状）が8対2で混入　しまり強　粘性弱　鉄分糸根状

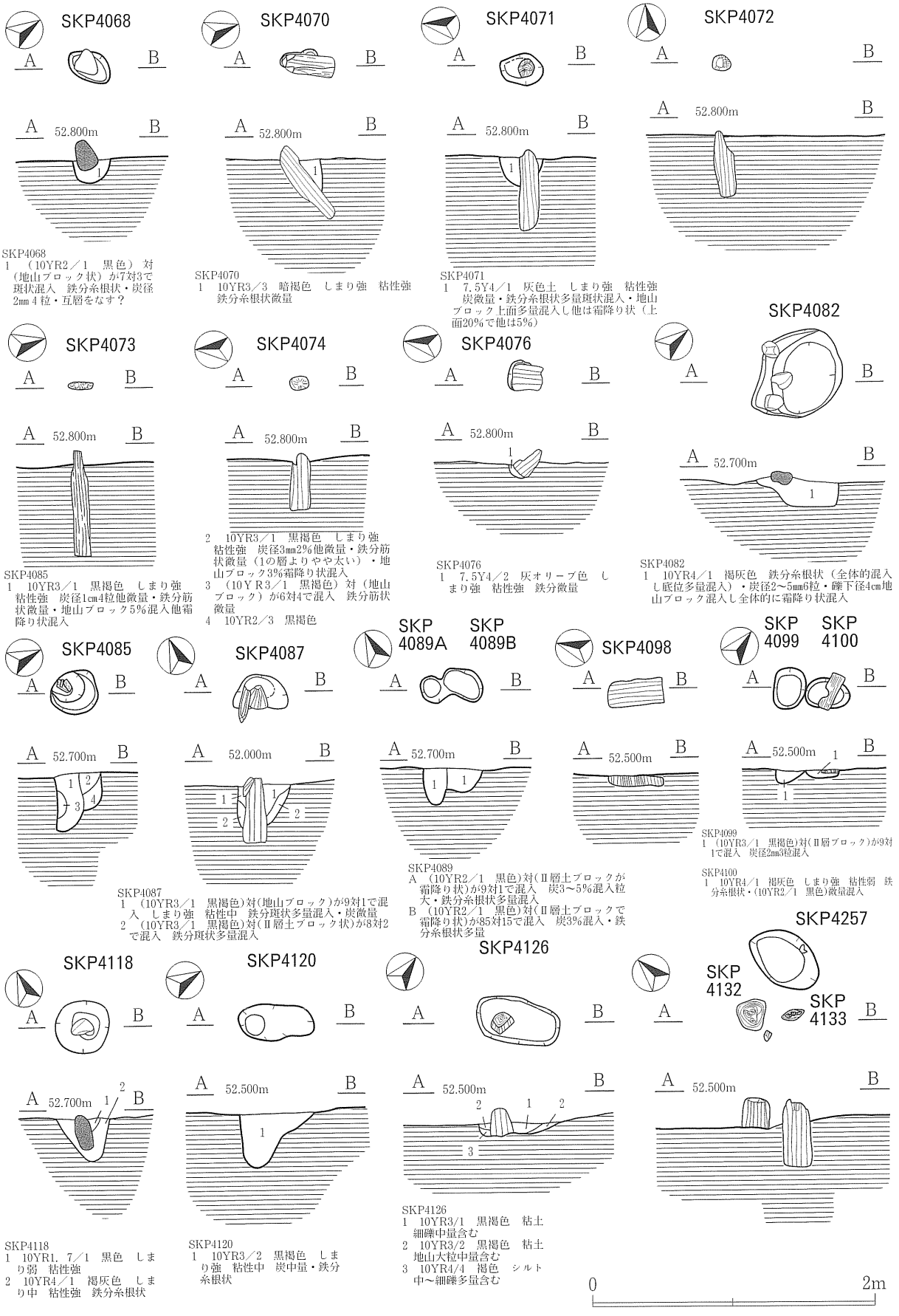
SKP4059
1　10YR3／1　黒褐色　しまり強　粘性弱　Ⅱ層土ブロック状5%混入・鉄分糸根状微量・炭微量
2　（10YR3／1　黒褐色）対（Ⅱ層土ブロック状）が6対4で混入　鉄分糸根状微量

SKP4062
1　10YR4／1　褐灰色　しまり強　粘性強　鉄分微量

SKP4063
1　（10YR5／1　褐灰色）対（10YR3／1　黒褐色）が8対2で混入　鉄分糸根状微量
2　10YR4／1　褐灰色　鉄分糸根状微量
3　10YR5／1　褐灰色　鉄分糸根状

SKP4064
1　10YR4／1　褐灰色

第41図　検出遺構（38）柱穴



SKP4068
1　（10YR2／1　黒色）対（地山ブロック状）が7対3で斑状混入　鉄分糸根状・炭径2㎜４粒・互層をなす？

SKP4070
1　10YR3／3　暗褐色　しまり強　粘性強　鉄分糸根状微量

SKP4071
1　7.5Y4／1　灰色土　しまり強　粘性強　炭微量・鉄分糸根状多量斑状混入・地山ブロック上面多量混入し他は霜降り状（上面20%で他は5%）

SKP4085
1　10YR3／1　黒褐色　しまり強　粘性強　炭径1cm4粒他微量・鉄分筋状微量・地山ブロック5%混入他霜降り状混入

SKP4087
1　（10YR3／1　黒褐色）対（地山ブロック）が9対1で混入　しまり強　粘性中　鉄分斑状多量混入・炭微量
2　（10YR3／1　黒褐色）対（Ⅱ層土ブロック状）が3対2で混入　鉄分斑状多量混入
2　10YR3／1　黒褐色　しまり強　粘性強　炭径3㎜2%他微量・鉄分筋状微量（1の層よりやや太い）・地山ブロック3%霜降り状混入
3　（10YR3／1　黒褐色）対（地山ブロック）が6対4で混入　鉄分筋状微量
4　10YR2／3　黒褐色

SKP4089
A　（10YR2／1　黒色）対（Ⅱ層土ブロックが霜降り状）が9対1で混入　炭3～5%混入粒大・鉄分糸根状多量混入
B　（10YR2／1　黒色）対（Ⅱ層土ブロックで霜降り状）が85対15で混入　炭3%混入・鉄分糸根状多量

SKP4076
1　7.5Y4／2　灰オリーブ色　しまり強　粘性強　鉄分微量

SKP4082
1　10YR4／1　褐灰色　鉄分糸根状（全体的混入し底位多量混入）・炭径2～5㎜6粒・礫下径4cm地山ブロック混入し全体的に霜降り状混入

SKP4099
1　（10YR3／1　黒褐色）対（Ⅱ層ブロック）が9対1で混入　炭径2㎜3粒混入

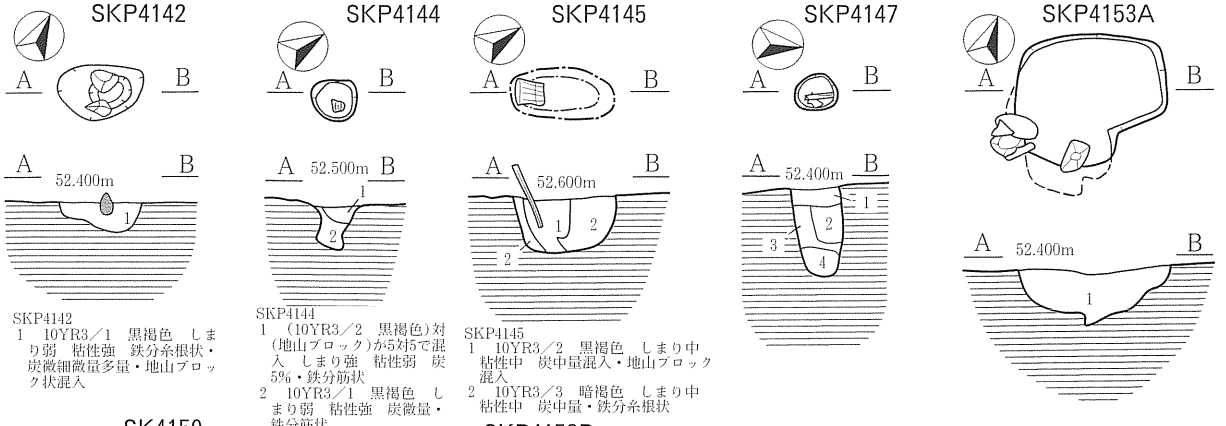
SKP4100
1　10YR4／1　褐灰色　しまり強　粘性弱　鉄分糸根状・（10YR2／1　黒色）微量混入

SKP4118
1　10YR1．7／1　黒色　しまり弱　粘性強
2　10YR4／1　褐灰色　しまり中　粘性強　鉄分糸根状

SKP4120
1　10YR3／2　黒褐色　しまり強　粘性中　炭中量・鉄分糸根状

SKP4126
1　10YR3/1　黒褐色　粘土　細礫中量含む
2　10YR3/2　黒褐色　粘土　地山大粒中量含む
3　10YR4/4　褐色　シルト　中～細礫多量含む

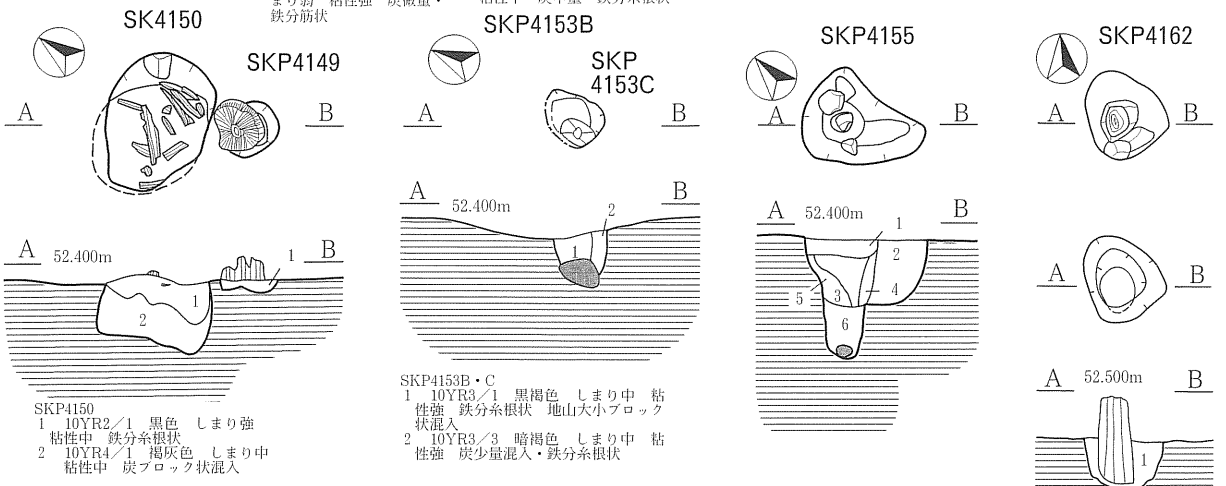
第42図　検出遺構（39）柱穴



SKP4142
1　10YR3／1　黒褐色　しまり弱　粘性強　鉄分糸根状・炭微細微量多量・地山ブロック状混入

SKP4144
1　(10YR3／2　黒褐色)対(地山ブロック)が5対5で混入　しまり強　粘性弱　炭5%・鉄分筋状
2　10YR3／1　黒褐色　しまり弱　粘性強　炭微量・鉄分筋状

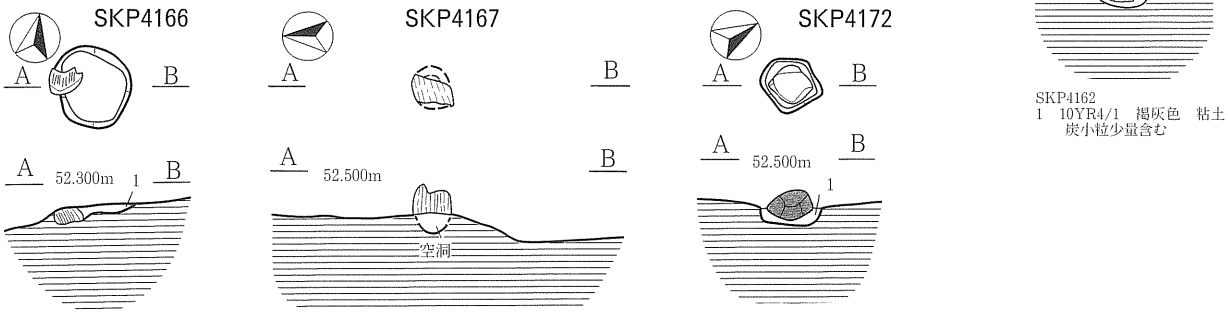
SKP4145
1　10YR3／2　黒褐色　しまり中　粘性中　炭中量混入・地山ブロック混入
2　10YR3／3　暗褐色　しまり中　粘性中　炭中量・鉄分糸根状



SKP4150
1　10YR2／1　黒色　しまり強　粘性中　鉄分糸根状
2　10YR4／1　褐灰色　しまり中　粘性中　炭ブロック状混入

SKP4153B・C
1　10YR3／1　黒褐色　しまり中　粘性強　鉄分糸根状　地山大小ブロック状混入
2　10YR3／3　暗褐色　しまり中　粘性強　炭少量混入・鉄分糸根状

SKP4162
1　10YR4/1　褐灰色　粘土　炭小粒少量含む



SKP4166
1　10YR4／3　にぶい黄褐色　しまり弱　粘性強　炭中量・鉄分糸根状

SKP4172
1　10YR3／2　黒褐色　しまり弱　粘性強　炭微量・礫下鉄分多量沈着

SKP4147
1　10YR3／2 黒褐色 しまり中 粘性中 炭微量・鉄分筋状(右半分)
2　(10YR3／1 黒褐色)対(地山ブロック)が5対5で混入 しまり弱 粘性強 炭微量
3　10YR3／1 黒褐色 しまり強 粘性強 鉄分筋状・炭微量
4　10YR3／1 黒褐色 しまり弱 粘性強 炭微量

SKP4149
1　10YR3／2　黒褐色　しまり中　粘性中　鉄分糸根状

SKP4153A
1　10YR2／1　黒色　しまり強　粘性弱

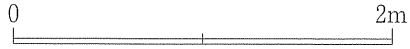
SKP4155
1　(10YR2／2　黒褐色) 対 (地山ブロック) が4対6で混入　しまり強　粘性弱　鉄分糸根状・炭多量
2　10YR3／2　黒褐色　しまり強　粘性弱
3　(10YR3／3　暗褐色) 対 (地山ブロック) が9対1で混入　しまり中　粘性中　鉄分糸根状
4　10YR4／2　灰黄褐色　しまり中　粘性中　地山ブロック5%混入
5　10YR2／1　黒色　しまり中　粘性中　炭微量・鉄分糸根状
6　10YR2／1　黒色　しまり弱　粘性強

第34図　土層註記

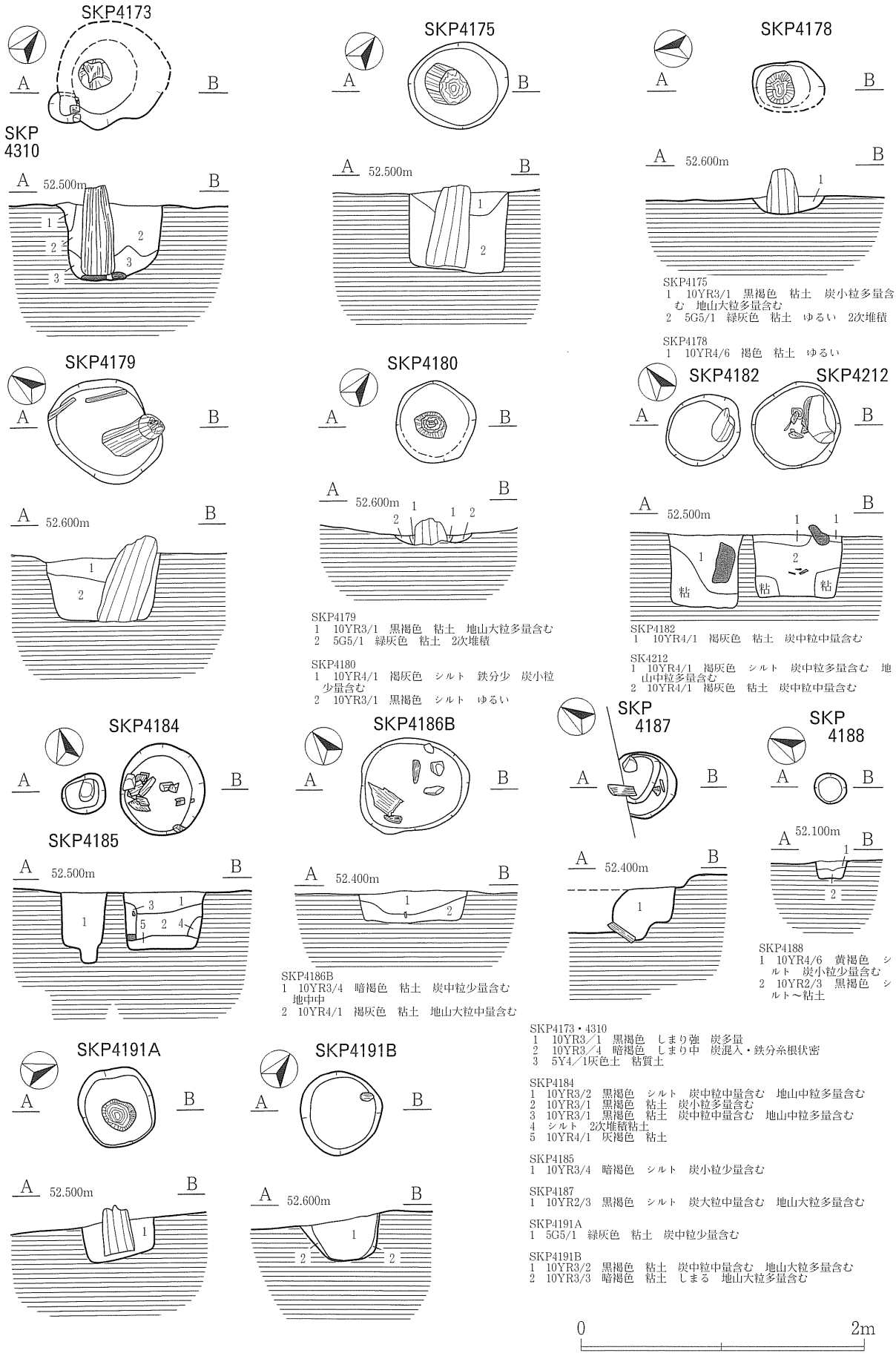
SKP796
1　10YR2／2　黒褐色　しまり中　炭5%・鉄分ブロック状で微量・Ⅲ層ブロック20%

SKP804
1　(10YR3／1　黒褐色) に (10YR1. 7／1　黒色) が混入　しまり強　粘性やや弱　炭径2㎜粒状・鉄分糸根状3%・石あり・シルト質・ピット直径19㎝
2　(10YR3／2　黒褐色) に (10YR2／2　黒褐色) が混入　しまり強　粘性弱　炭2%粒状・鉄分糸根状3%・材あり
3　10YR3／2　黒褐色　しまりやや強　粘性やや弱　炭微量・鉄分糸根状・シルト質・ピット直径25㎝

SKP812
1　(10YR3／1　黒褐色) に (Ⅱ層土) が10%～20%混入　大中礫 (上位～下位) 混入



第43図　検出遺構（40）柱穴



SKP4175
1　10YR3/1　黒褐色　粘土　炭小粒多量含む　地山大粒多量含む
2　5G5/1　緑灰色　粘土　ゆるい　2次堆積

SKP4178
1　10YR4/6　褐色　粘土　ゆるい

SKP4179
1　10YR3/1　黒褐色　粘土　地山大粒多量含む
2　5G5/1　緑灰色　粘土　2次堆積

SKP4180
1　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分少　炭小粒少量含む
2　10YR3/1　黒褐色　シルト　ゆるい

SKP4182
1　10YR4/1　褐灰色　粘土　炭中粒中量含む

SK4212
1　10YR4/1　褐灰色　シルト　炭中粒多量含む　地山中粒多量含む
2　10YR4/1　褐灰色　粘土　炭中粒中量含む

SKP4186B
1　10YR3/4　暗褐色　粘土　炭中粒少量含む　地中中
2　10YR4/1　褐灰色　粘土　地山大粒中量含む

SKP4188
1　10YR4/6　黄褐色　シルト　炭小粒少量含む
2　10YR2/3　黒褐色　シルト～粘土

SKP4173・4310
1　10YR3／1　黒褐色　しまり強　炭多量
2　10YR3／4　暗褐色　しまり中　炭混入・鉄分糸根状密
3　5Y4／1灰色土　粘質土

SKP4184
1　10YR3/2　黒褐色　シルト　炭中粒中量含む　地山中粒多量含む
2　10YR3/1　黒褐色　粘土　炭小粒多量含む
3　10YR3/1　黒褐色　粘土　炭中粒中量含む　地山中粒多量含む
4　シルト　2次堆積粘土
5　10YR4/1　灰褐色　粘土

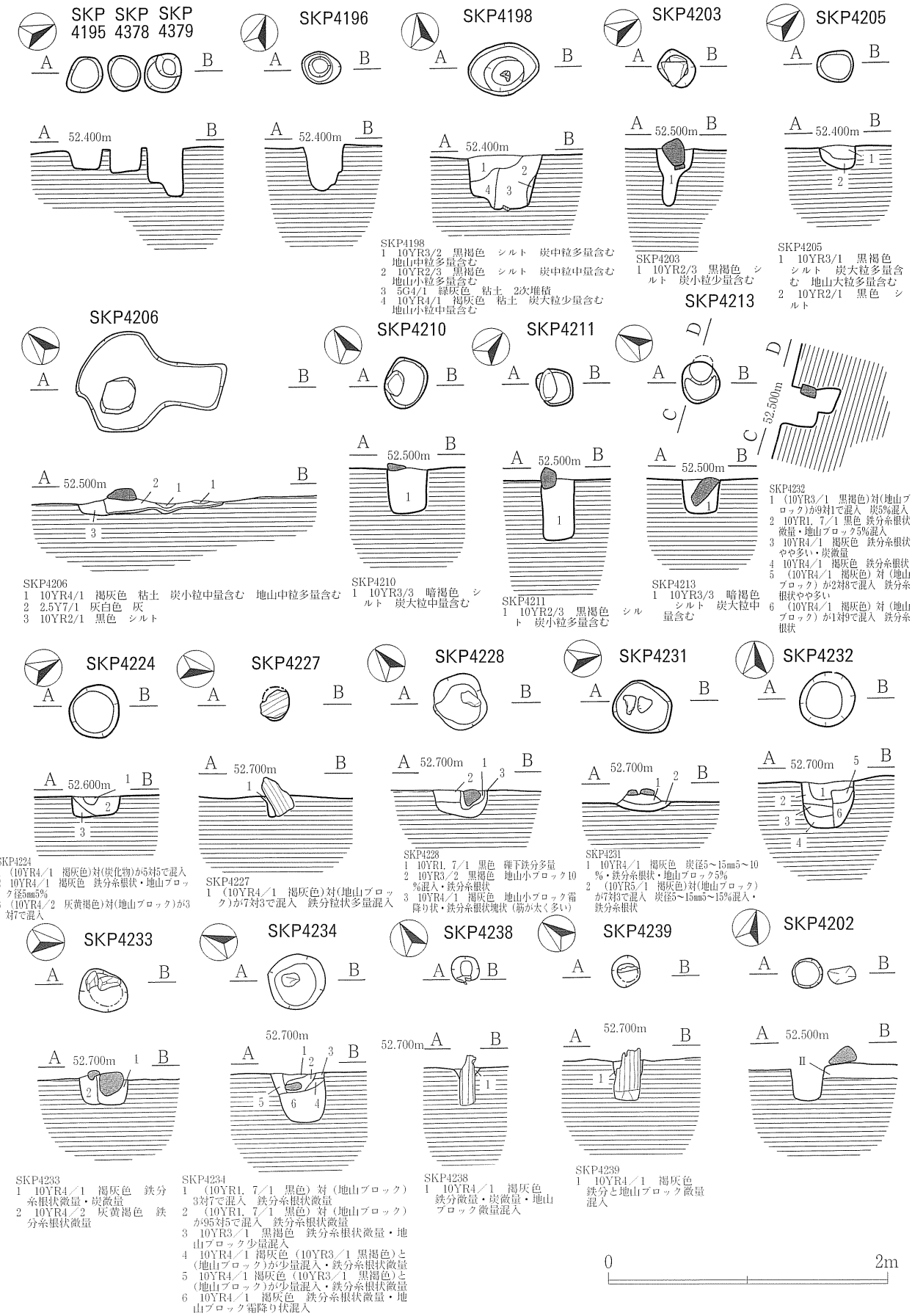
SKP4185
1　10YR3/4　暗褐色　シルト　炭小粒少量含む

SKP4187
1　10YR2/3　黒褐色　シルト　炭大粒中量含む　地山大粒多量含む

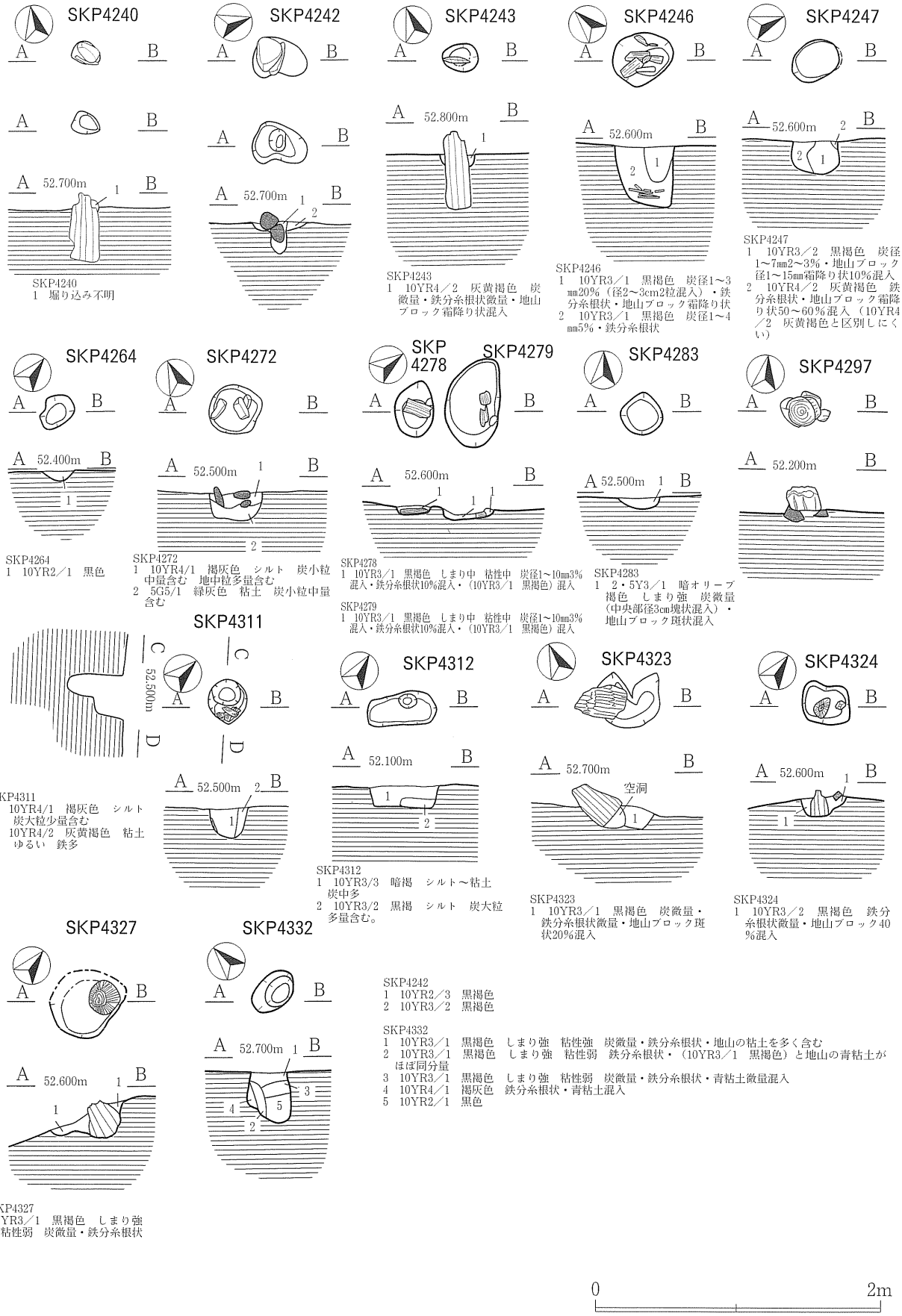
SKP4191A
1　5G5/1　緑灰色　粘土　炭中粒少量含む

SKP4191B
1　10YR3/2　黒褐色　粘土　炭中粒中量含む　地山大粒多量含む
2　10YR3/3　暗褐色　粘土　しまる　地山大粒多量含む

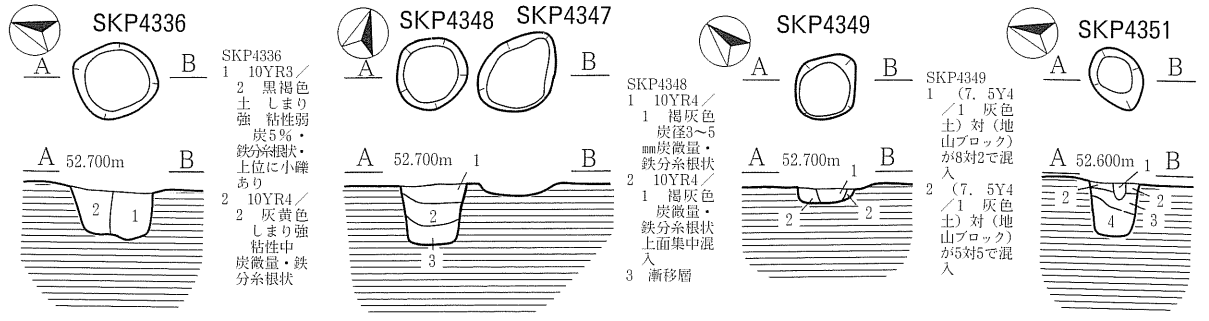
第44図　検出遺構（41）柱穴

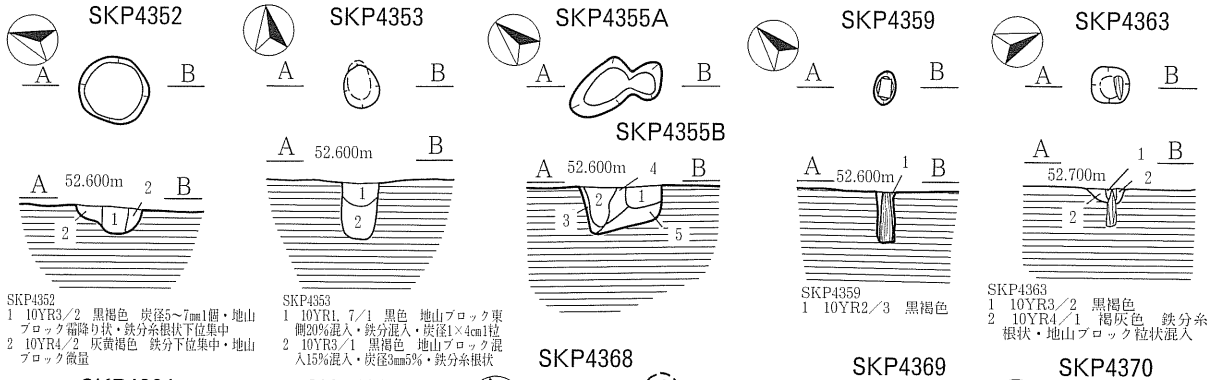


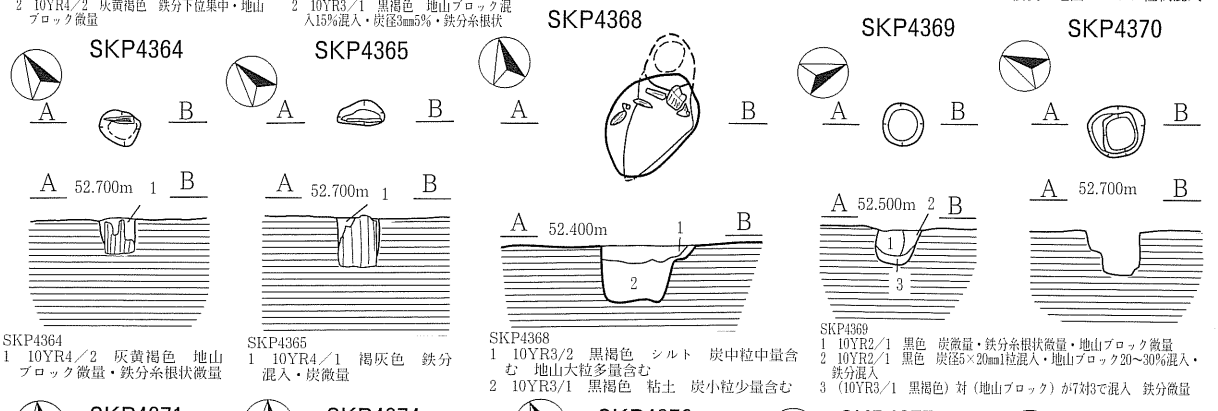
第45図　検出遺構（42）柱穴

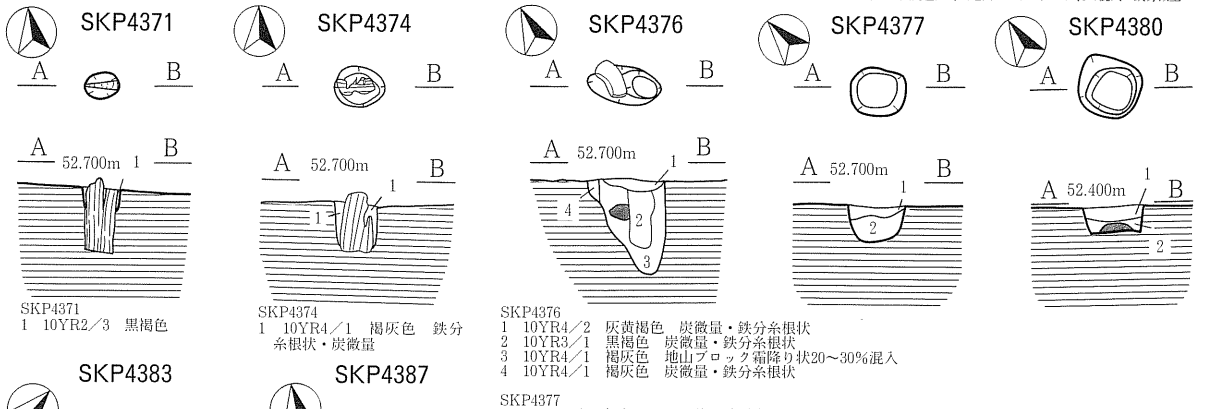


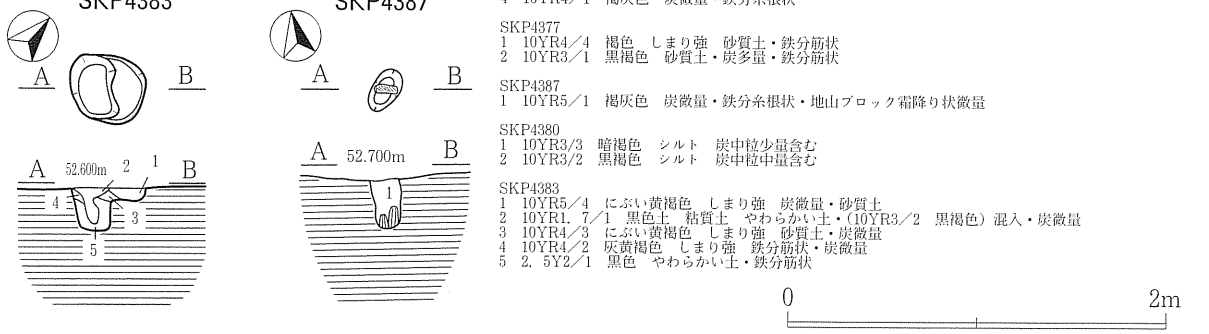
第46図　検出遺構（43）柱穴





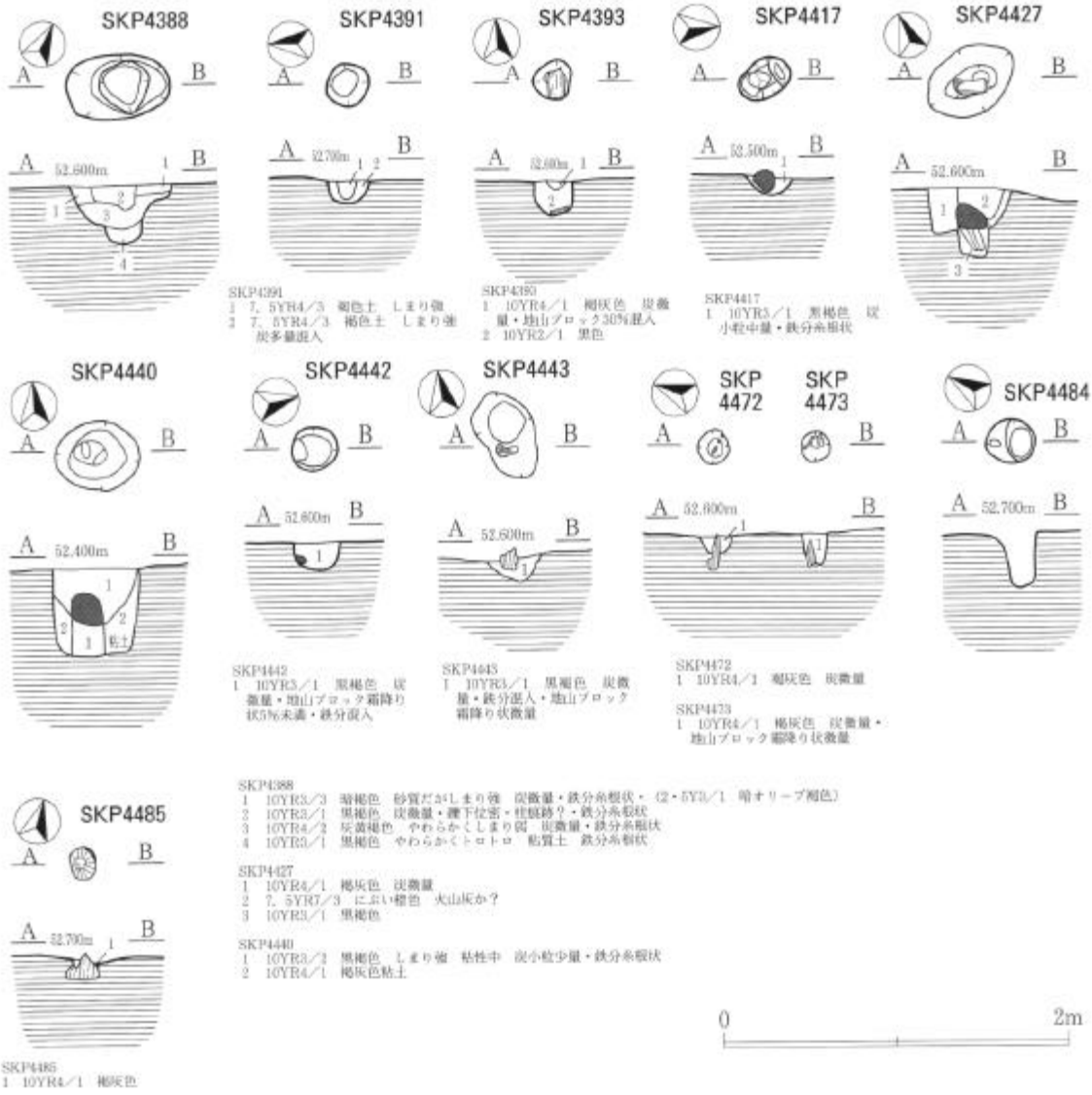






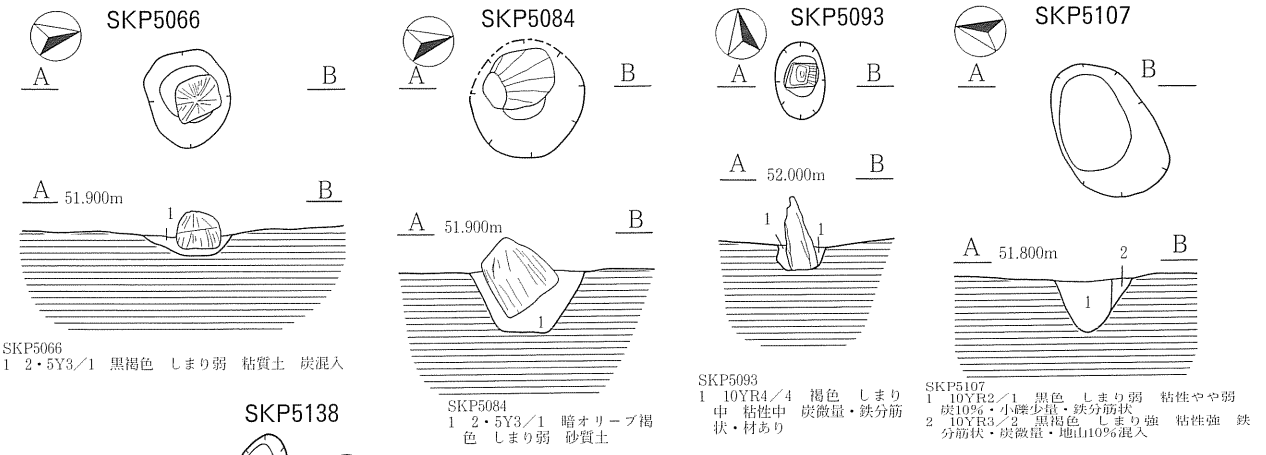
土層註記の一部は第49図

第47図　検出遺構（44）柱穴



第48図　検出遺構（45）柱穴

A区柱穴群精査風景

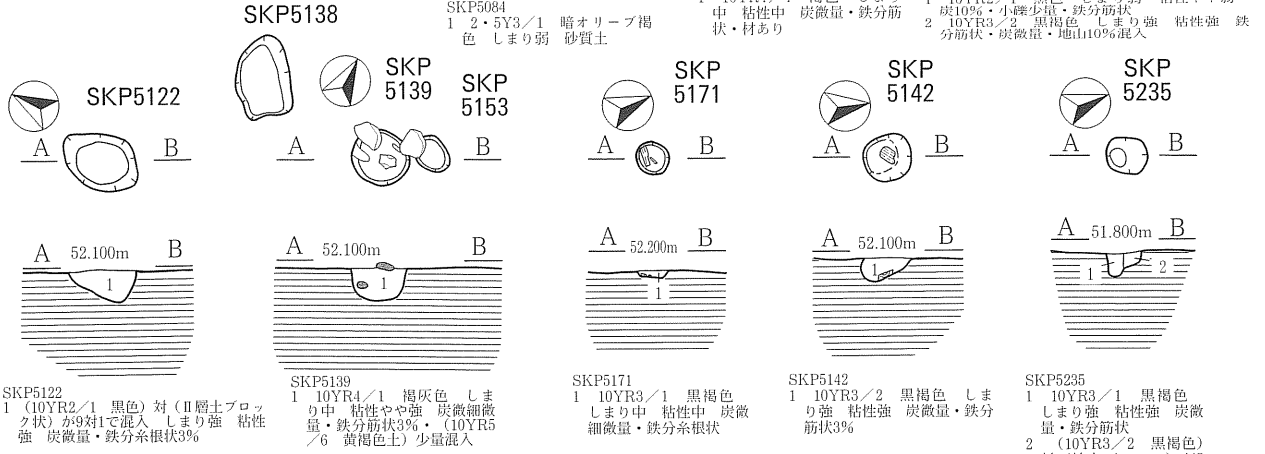


SKP5066
1　2・5Y3／1　黒褐色　しまり弱　粘質土　炭混入

SKP5084
1　2・5Y3／1　暗オリーブ褐色　しまり弱　砂質土

SKP5093
1　10YR4／4　褐色　しまり中　粘性中　炭微量・鉄分筋状・材あり

SKP5107
1　10YR2／1　黒色　しまり弱　粘性やや弱　炭10%・小礫少量・鉄分筋状
2　10YR3／2　黒褐色　しまり強　粘性強　鉄分筋状・炭微量・地山ﾌﾞﾛｯｸ10%混入



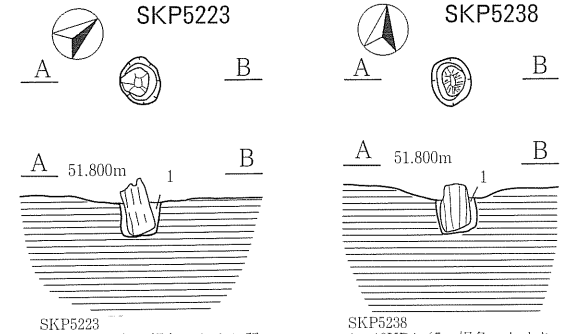
SKP5122
1　(10YR2／1　黒色) 対（Ⅱ層土ブロック状）が9対1で混入　しまり強　粘性強　炭微量・鉄分糸根状3%

SKP5139
1　10YR4／1　褐灰色　しまり中　粘性やや強　炭微細微量・鉄分筋状3%・（10YR5／6　黄褐色土）少量混入

SKP5171
1　10YR3／1　黒褐色　しまり中　粘性中　炭微細微量・鉄分糸根状

SKP5142
1　10YR3／2　黒褐色　しまり強　粘性強　炭微量・鉄分筋状3%

SKP5235
1　10YR3／1　黒褐色　しまり強　粘性強　炭微量・鉄分筋状
2　（10YR3／2　黒褐色）対（地山ブロック）が5対5で混入　しまり強　粘性やや強　炭微量・鉄分砂礫沈着



SKP5223
1　10YR4／5　褐色　しまり弱　粘性弱　炭微量・鉄分筋状

SKP5238
1　10YR4／5　褐色　しまり中　粘性弱　炭微量・鉄分筋状　材あり

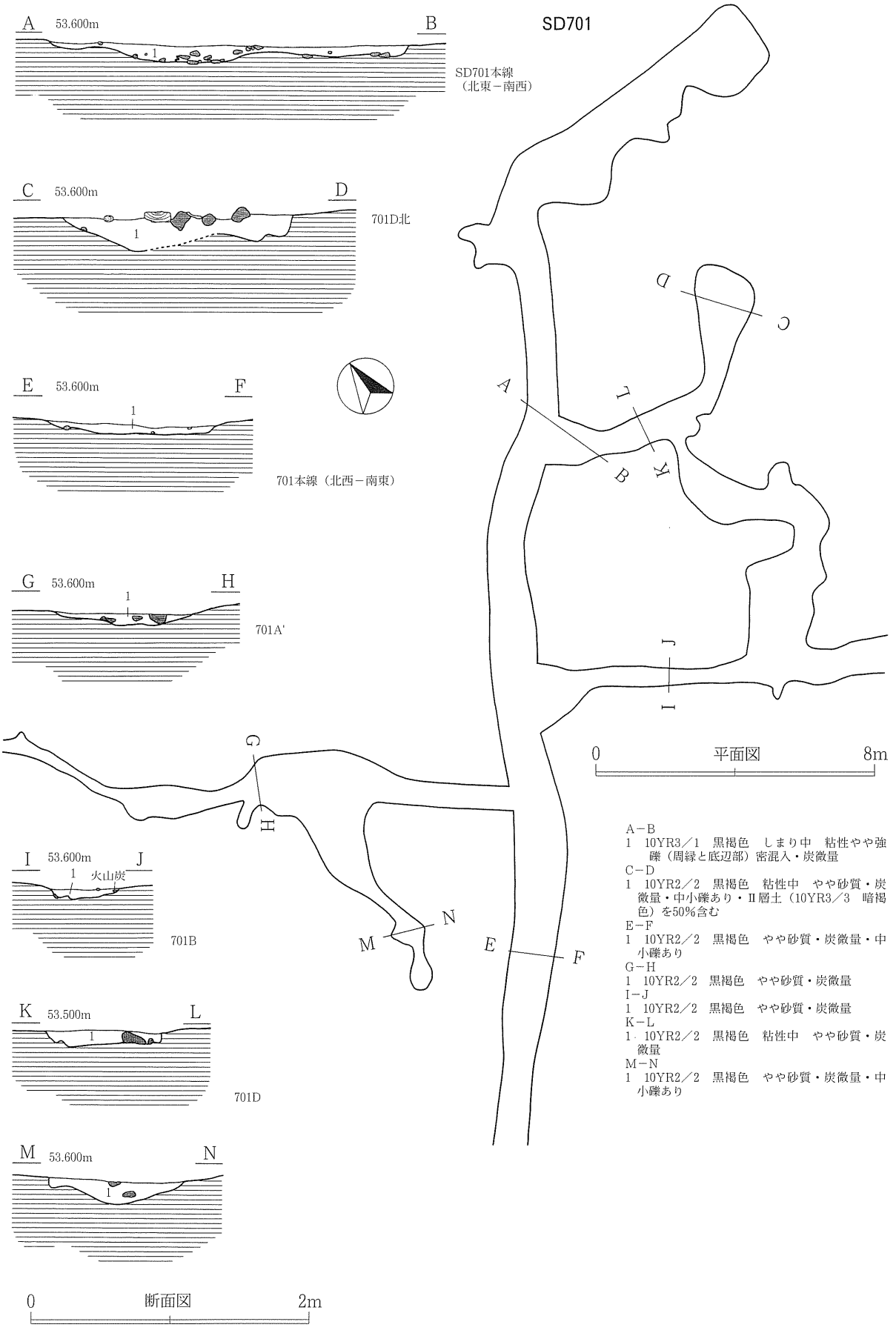
第47図の土層註記

SKP4351
1　(10YR3／2　黒褐色) 対（炭化物）が3対7で混入　鉄分微量
2　10YR4／1　褐灰色　鉄分微量・地山ブロック霜降り状
3　10YR4／1　褐灰色　地山ブロック霜降り状微量・鉄分筋状
4　(10YR4／1　褐灰色) 対（地山ブロック霜降り状）が8対2で混入　鉄分糸根状多量

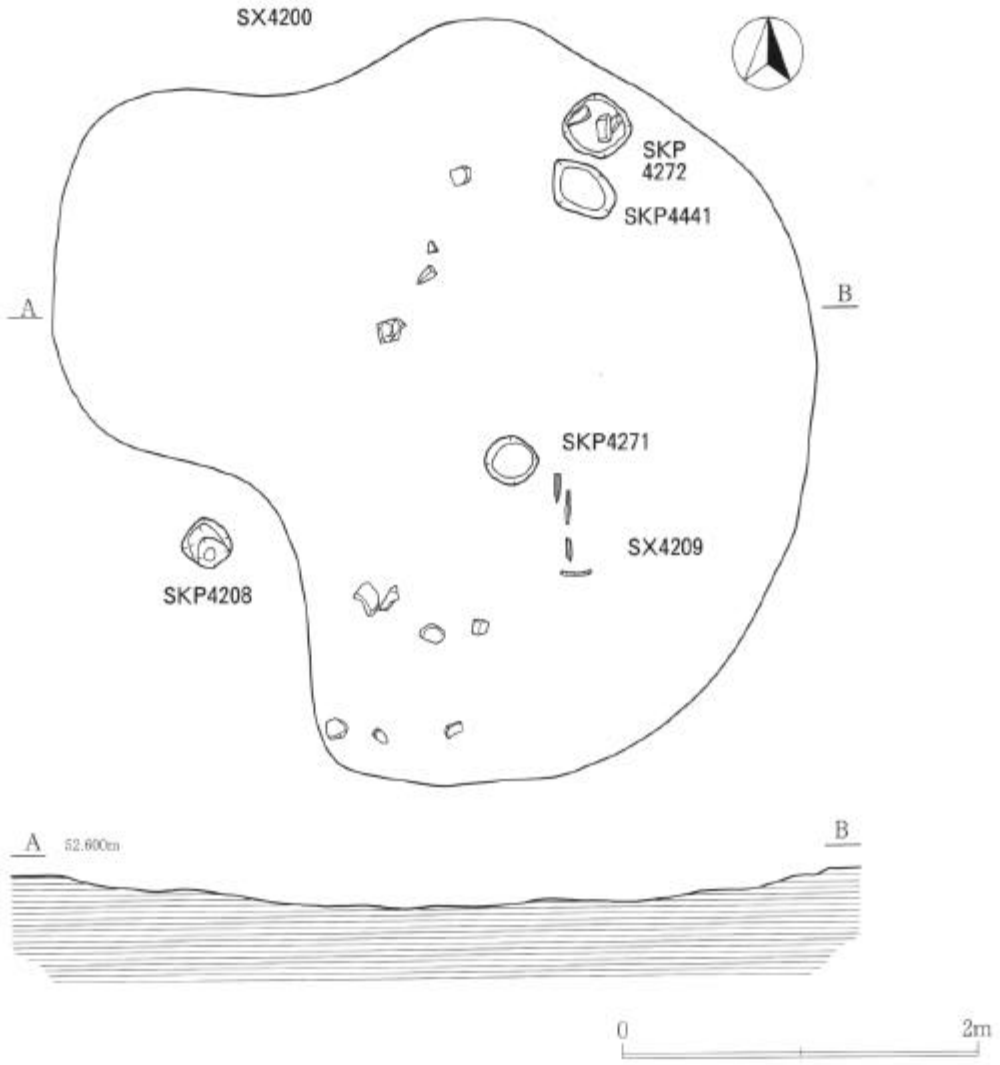
SKP4355A・B
1　10YR2／2　黒褐色　鉄分糸根状・炭微量・地山ブロック微量
2　10YR2／2　黒褐色　鉄分糸根状・炭径1～10mm上部20%混入・下から上に向かって10cmまでは95%が炭
3　10YR2／2　黒褐色　鉄分糸根状やや多い
4　10YR3／1　黒褐色　鉄分糸根状・炭微量・地山ブロック霜降り状混入
5　10YR3／1　黒褐色　炭微量・鉄分糸根状・地山ブロック霜降り状混入

第49図　検出遺構（46）柱穴

第50図　検出遺構（47）柱穴・配石遺構

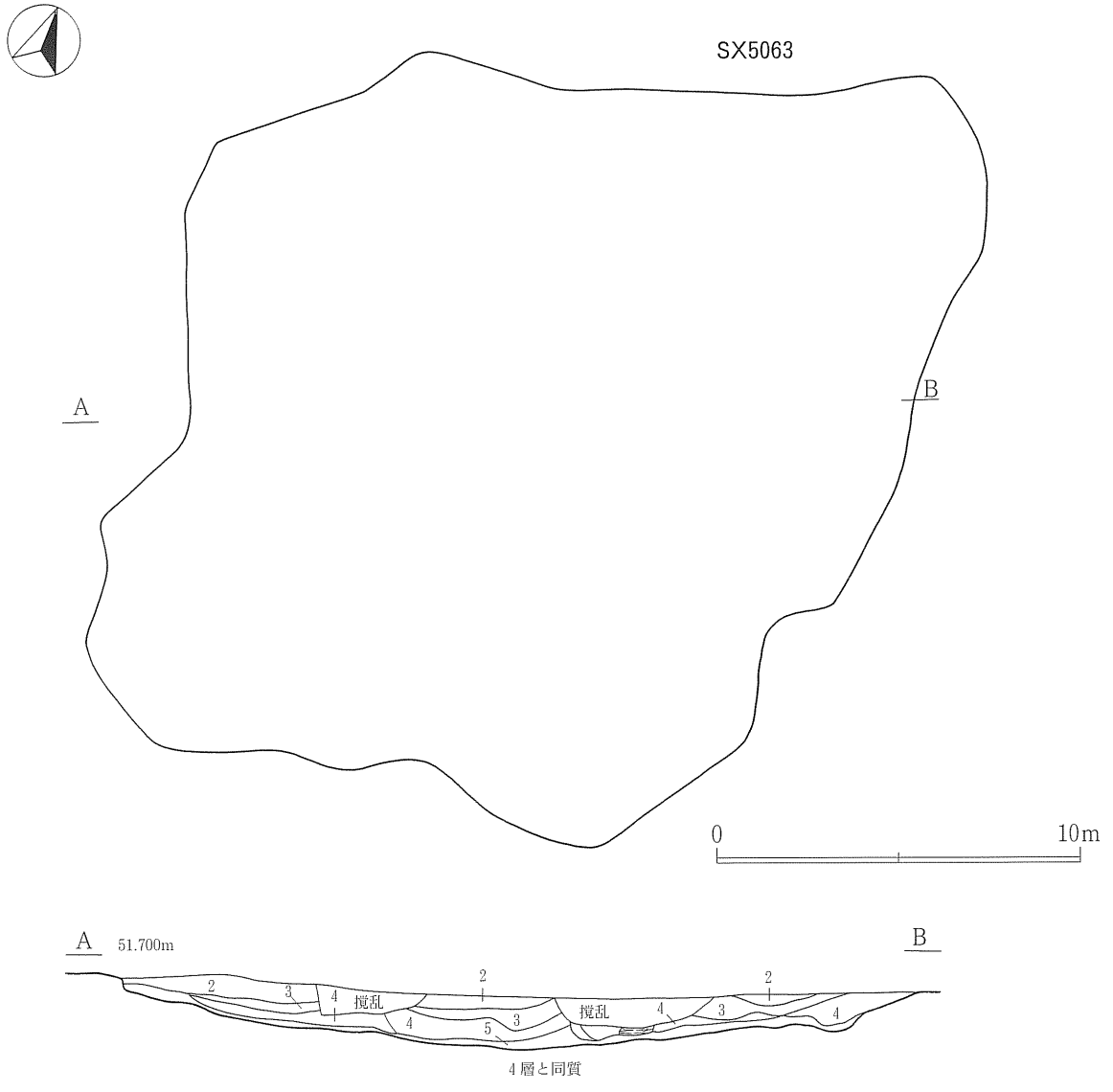


第51図　検出遺構（48）溝状遺構



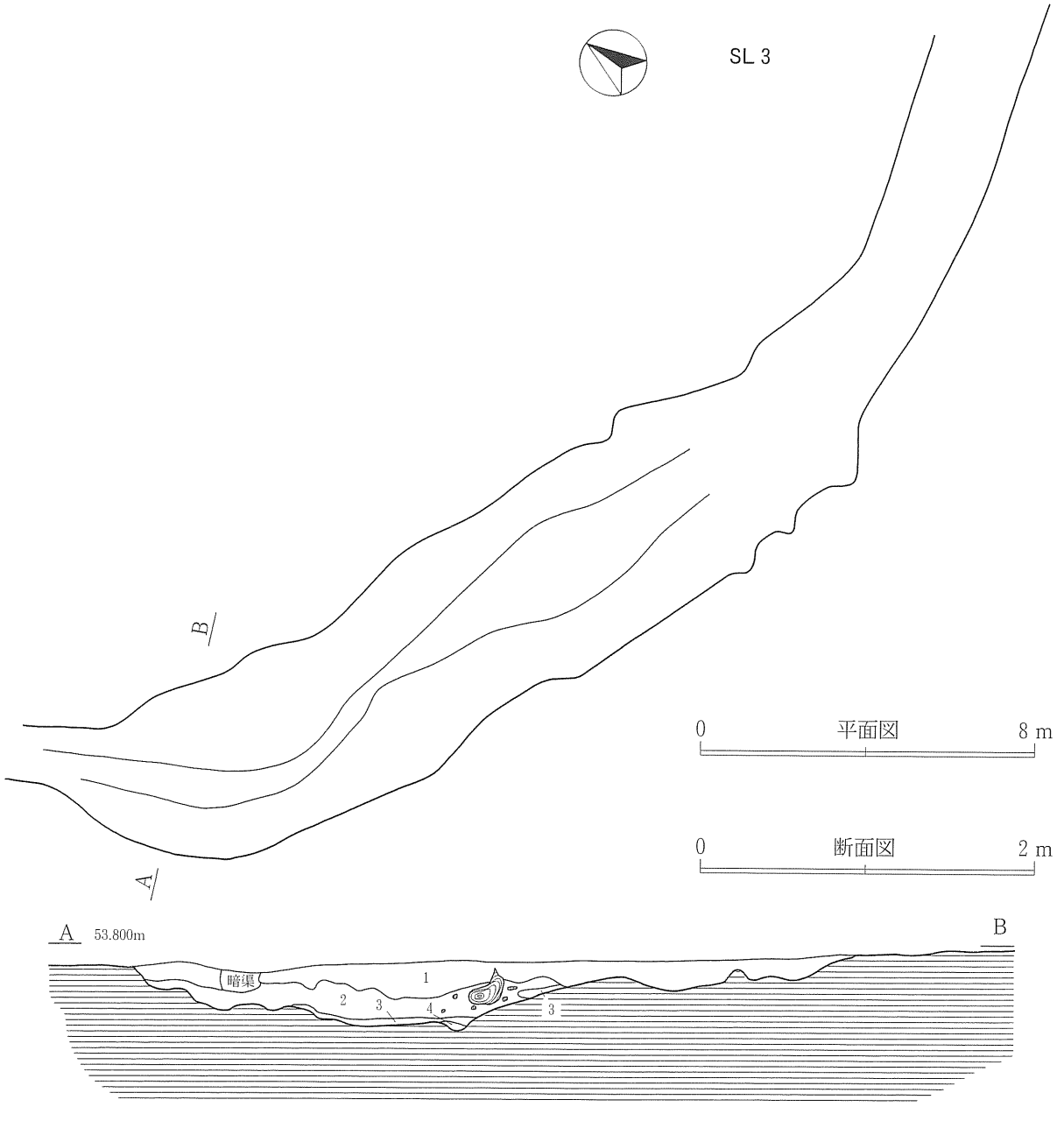
第52図　検出遺構（49）不整形土坑

B区南端部遺構群完掘



SX5063
1　10YR4／2　灰黄褐色　しまり中　砂質
2　7.5YR2／1　黒色　粘質土だがやや砂質混じり
3　7.5YR1.7／1　黒色　粘質土　水分多くやわらかい・自然の枝を含む
4　10YR3／2　黒褐色　粘質土　水分が多くやわらかい
5　Ⅳ層に火山灰（2．5Y5／3　黄褐色）が混じる（主として火山灰）　水分が多くやわらかい・Ⅴ層の下はⅣ層と同じ

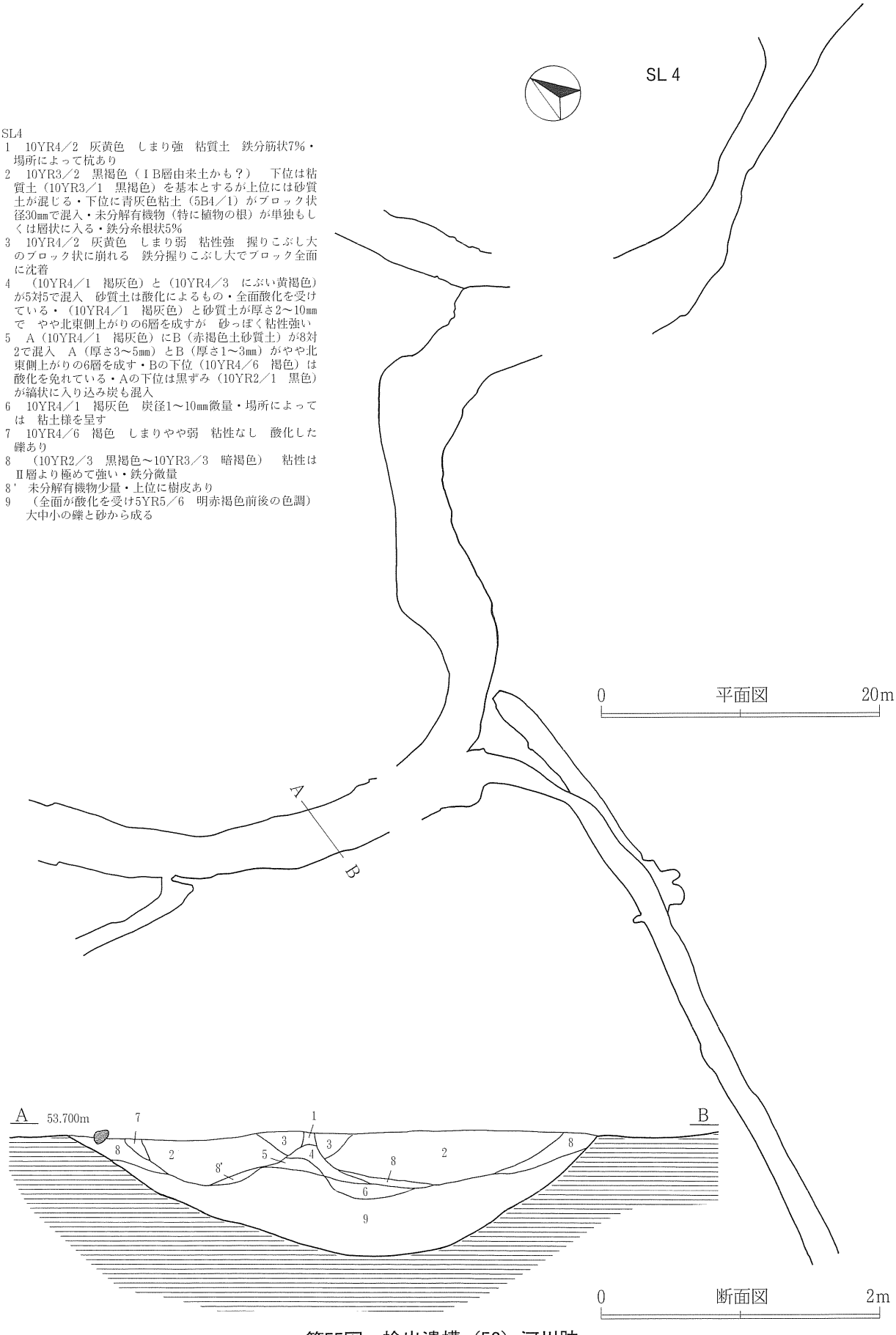
第53図　検出遺構（50）不整形土坑



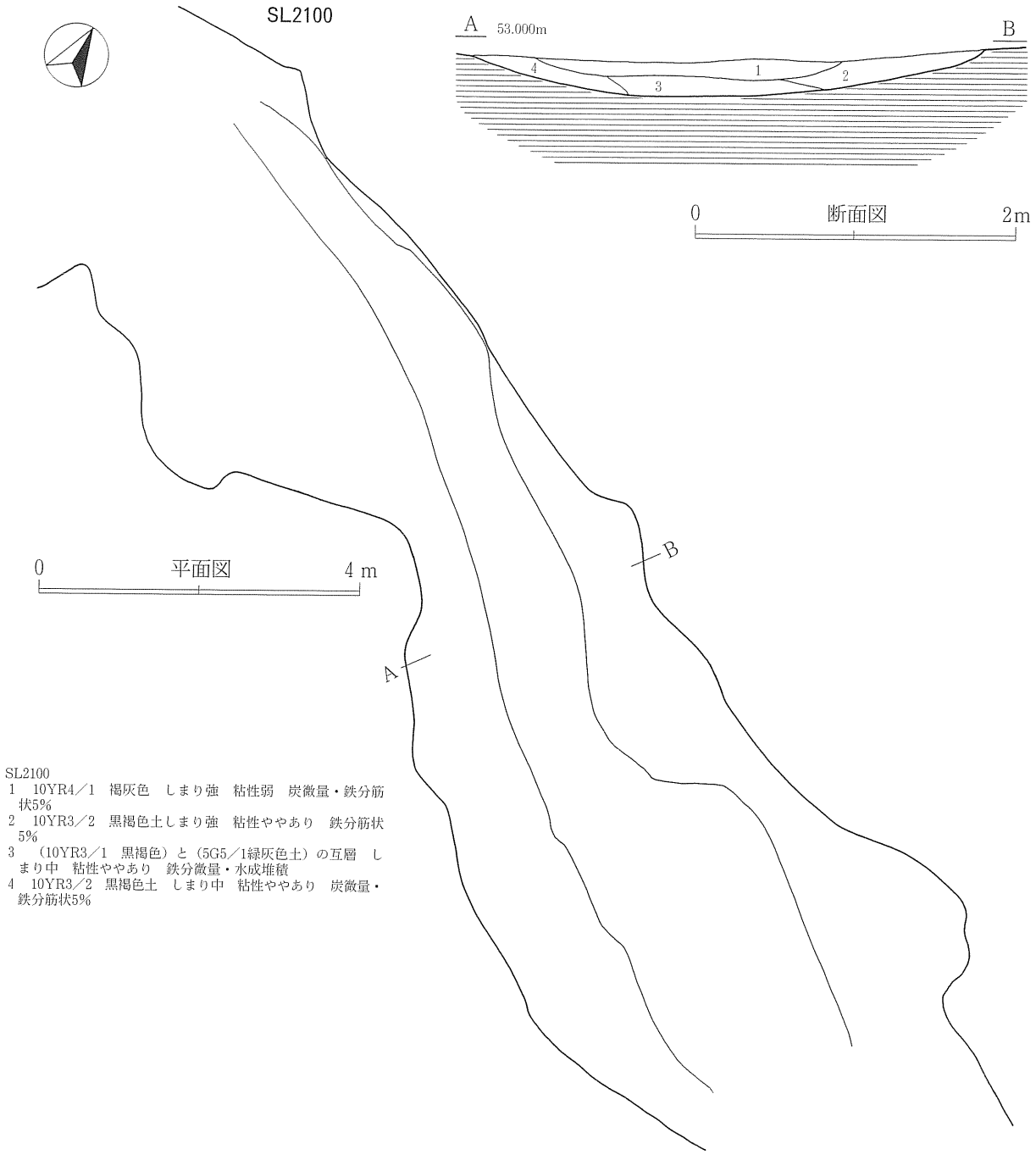
SL3
1　10YR2／2　黒褐色砂
2　（10YR1.7／1　黒色）と（10YR2／2　黒褐色粘質土）が混じる
3　10YR5／4　にぶい黄褐色　火山灰が溝の底にほぼ密着
4　（10YR2／1　黒色粘質土）と（5GY4／1　暗オリーブ灰色土）が混じる
5　5GY4／1　灰色砂　水流による堆積

第54図　検出遺構（51）河川跡

SL4
1　10YR4／2　灰黄色　しまり強　粘質土　鉄分筋状7%・場所によって杭あり
2　10YR3／2　黒褐色（ⅠB層由来土かも？）　下位は粘質土（10YR3／1　黒褐色）を基本とするが上位には砂質土が混じる・下位に青灰色粘土（5B4／1）がブロック状径30㎜で混入・未分解有機物（特に植物の根）が単独もしくは層状に入る・鉄分糸根状5%
3　10YR4／2　灰黄色　しまり弱　粘性強　握りこぶし大のブロック状に崩れる　鉄分握りこぶし大でブロック全面に沈着
4　（10YR4／1　褐灰色）と（10YR4／3　にぶい黄褐色）が5対5で混入　砂質土は酸化によるもの・全面酸化を受けている・（10YR4／1　褐灰色）と砂質土が厚さ2～10㎜で　やや北東側上がりの6層を成すが　砂っぽく粘性強い
5　A（10YR4／1　褐灰色）にB（赤褐色土砂質土）が8対2で混入　A（厚さ3～5㎜）とB（厚さ1～3㎜）がやや北東側上がりの6層を成す・Bの下位（10YR4／6　褐色）は酸化を免れている・Aの下位は黒ずみ（10YR2／1　黒色）が縞状に入り込み炭も混入
6　10YR4／1　褐灰色　炭径1～10㎜微量・場所によっては　粘土様を呈す
7　10YR4／6　褐色　しまりやや弱　粘性なし　酸化した礫あり
8　（10YR2／3　黒褐色～10YR3／3　暗褐色）　粘性はⅡ層より極めて強い・鉄分微量
8'　未分解有機物少量・上位に樹皮あり
9　（全面が酸化を受け5YR5／6　明赤褐色前後の色調）大中小の礫と砂から成る

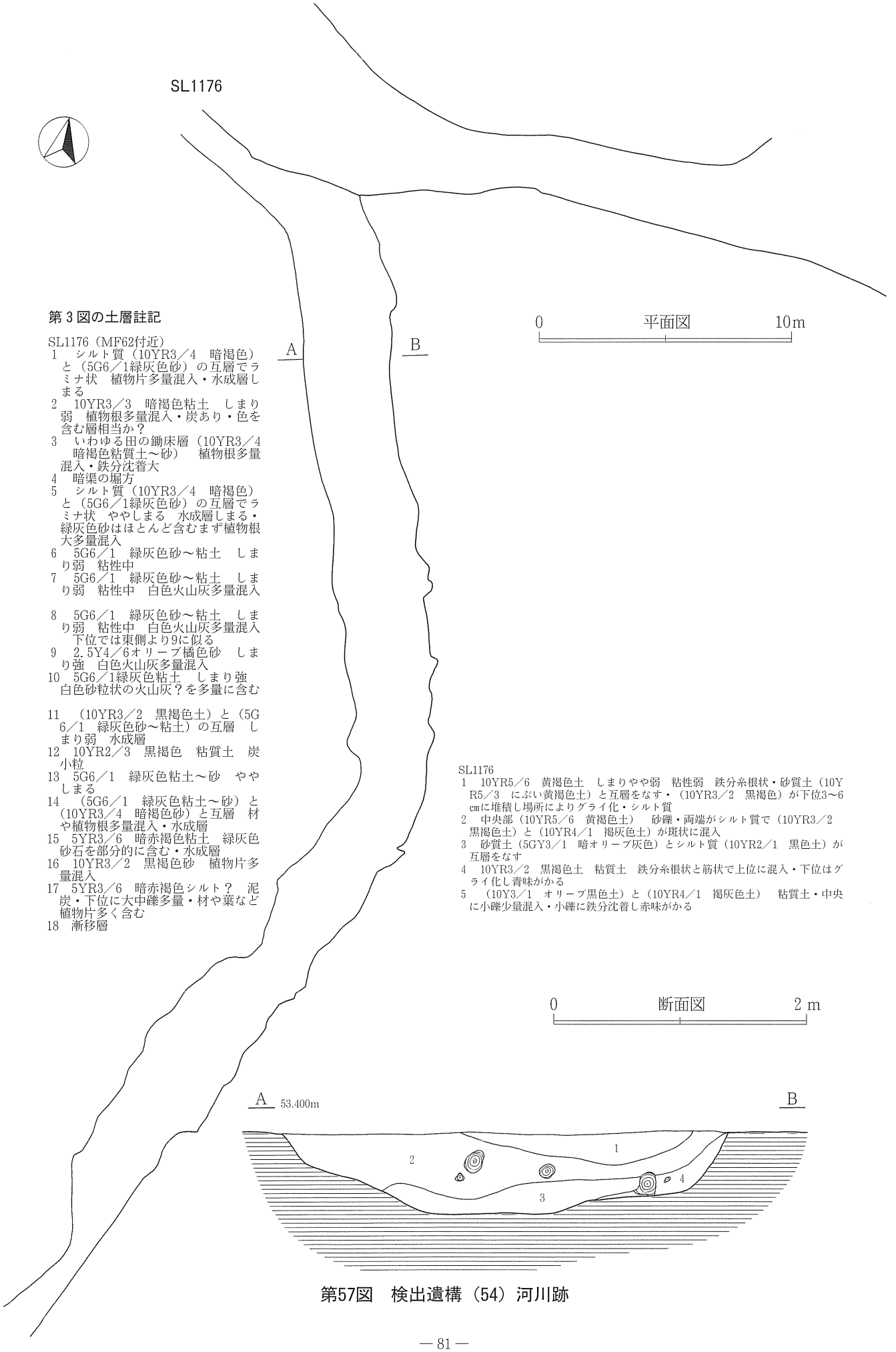


第55図　検出遺構（52）河川跡



SL2100
1　10YR4／1　褐灰色　しまり強　粘性弱　炭微量・鉄分筋状5%
2　10YR3／2　黒褐色土しまり強　粘性ややあり　鉄分筋状5%
3　（10YR3／1　黒褐色）と（5G5／1緑灰色土）の互層　しまり中　粘性ややあり　鉄分微量・水成堆積
4　10YR3／2　黒褐色土　しまり中　粘性ややあり　炭微量・鉄分筋状5%

第56図　検出遺構（53）河川跡



第3図の土層註記

SL1176（MF62付近）
1　シルト質（10YR3／4　暗褐色）と（5G6／1緑灰色砂）の互層でラミナ状　植物片多量混入・水成層しまる
2　10YR3／3　暗褐色粘土　しまり弱　植物根多量混入・炭あり・色を含む層相当か？
3　いわゆる田の鋤床層（10YR3／4　暗褐色粘質土～砂）　植物根多量混入・鉄分沈着大
4　暗渠の堀方
5　シルト質（10YR3／4　暗褐色）と（5G6／1緑灰色砂）の互層でラミナ状　ややしまる　水成層しまる・緑灰色砂はほとんど含むまず植物根大多量混入
6　5G6／1　緑灰色砂～粘土　しまり弱　粘性中
7　5G6／1　緑灰色砂～粘土　しまり弱　粘性中　白色火山灰多量混入
8　5G6／1　緑灰色砂～粘土　しまり弱　粘性中　白色火山灰多量混入　下位では東側より9に似る
9　2.5Y4／6オリーブ橘色砂　しまり強　白色火山灰多量混入
10　5G6／1緑灰色粘土　しまり強　白色砂粒状の火山灰？を多量に含む
11　（10YR3／2　黒褐色土）と（5G6／1　緑灰色砂～粘土）の互層　しまり弱　水成層
12　10YR2／3　黒褐色　粘質土　炭小粒
13　5G6／1　緑灰色粘土～砂　ややしまる
14　（5G6／1　緑灰色粘土～砂）と（10YR3／4　暗褐色砂）と互層　材や植物根多量混入・水成層
15　5YR3／6　暗赤褐色粘土　緑灰色砂石を部分的に含む・水成層
16　10YR3／2　黒褐色砂　植物片多量混入
17　5YR3／6　暗赤褐色シルト？　泥炭・下位に大中礫多量・材や葉など植物片多く含む
18　漸移層

SL1176
1　10YR5／6　黄褐色土　しまりやや弱　粘性弱　鉄分糸根状・砂質土（10YR5／3　にぶい黄褐色土）と互層をなす・（10YR3／2　黒褐色）が下位3～6cmに堆積し場所によりグライ化・シルト質
2　中央部（10YR5／6　黄褐色土）　砂礫・両端がシルト質で（10YR3／2　黒褐色土）と（10YR4／1　褐灰色土）が斑状に混入
3　砂質土（5GY3／1　暗オリーブ灰色）とシルト質（10YR2／1　黒色土）が互層をなす
4　10YR3／2　黒褐色土　粘質土　鉄分糸根状と筋状で上位に混入・下位はグライ化し青味がかる
5　（10Y3／1　オリーブ黒色土）と（10YR4／1　褐灰色土）　粘質土・中央に小礫少量混入・小礫に鉄分沈着し赤味がかる

第57図　検出遺構（54）河川跡

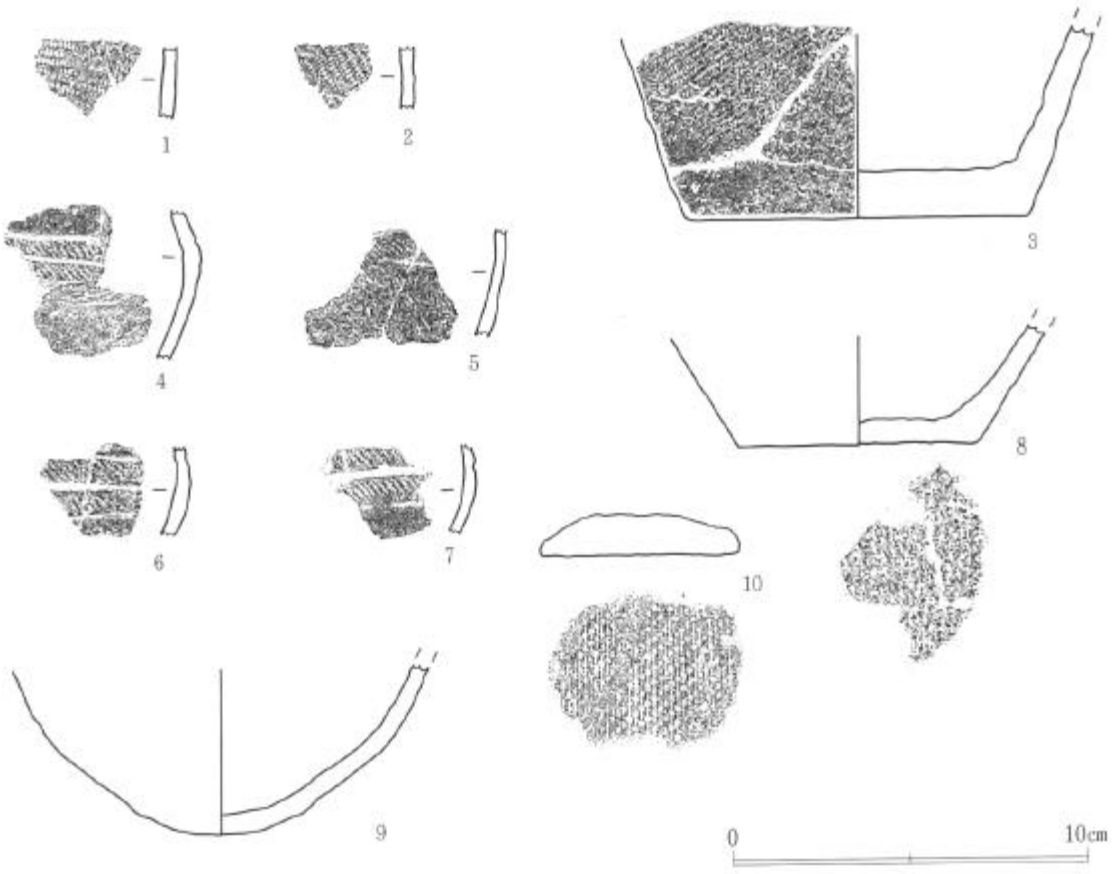
出土遺物一覧表

図No.	遺物No.	グリッド	種別	器種	分類	成形	備考
58	1	SE 4001	土器	縄文土器			RL縄文
	2	SE 4001	土器	縄文土器			RL縄文
	3	LN 46	土器	縄文土器			LR縄文
	4		土器	縄文土器			RL縄文→沈線
	5		土器	縄文土器			無文
	6		土器	縄文土器			RL縄文→沈線
	7		土器	縄文土器			RL縄文→沈線
	8	LN 45	土器	縄文土器			RL縄文,底部網代痕
	9		土器	縄文土器			無文
	10	LS 48	土器	縄文土器			底部網代痕
59	1	SE 2112	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	2	SX 4428	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	3	SX 4200	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	4	SX 4200	須恵器	壺甕類		叩き締め	猿面硯
	5	SX 4200	須恵器	壺		ロクロ→ヘラ削り	
	6	SX 4428	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	7	SX 4428	須恵器	壺		ロクロ	
	8	SX 5063	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	9	SX 5063	須恵器	壺		ロクロ	内面黒色付着物あり
	10	SX 5063	須恵器	壺甕類		叩き締め	接合(SX5063),猿面硯に転用
60	1	SX 5097A	須恵器	壺		ロクロ	
	2	SX 5318	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	3	LH 36	須恵器	壺		ロクロ	
	4	SX 5318	須恵器	壺甕類		叩き締め	接合(SK4200),内面に黒色付着物
	5	LP 43	須恵器	壺		ロクロ→ヘラ削り	
	6	MA 43	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	7	LP 41	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	8	LO 37	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	9	MA 39	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	10	LJ 49	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	11	MA 45	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	12	LT 42	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	13	LR 40	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	14	LS 43	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	15	LR 50	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	16	ME 51	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	17	LJ 40	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	18		須恵器	壺甕類		叩き締め	
	19	MA 44	須恵器	壺甕類		叩き締め	内面黒色付着物あり
	20	LQ 32	須恵器	壺甕類		叩き締め	
61	1	LR 35	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	2	LS 47	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	3	LM 31	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	4	LR 43	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	5		須恵器	壺甕類		叩き締め	
	6	MN 63	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	7	LS 26	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	8	LO 42	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	9	LP 42	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	10	MC 47	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	11	LP 43	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	12	LQ 25	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	13	LK 48	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	14	MB 43	須恵器	壺甕類		叩き締め	内面黒色付着物あり
	15	LK 85	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	16	MC 45	須恵器	壺甕類		叩き締め	
	17	MC 49	須恵器	壺甕類		叩き締め	
62	1	SX 5063	白磁	椀	Ⅳ類		11後～12,福建
	2	SX 5055B	白磁	椀	Ⅳ類		11後～12,福建
	3	LP 50	白磁	椀	Ⅳ類		11後～12,福建,接合(LK45・Ib)
	4	LQ 42	白磁	椀	Ⅴ類		12前～中,福建
	5	MC 47	白磁	椀	Ⅴ類		12中,福建
	6	MC 48	白磁	椀	Ⅴ類		12中,福建
	7	MN 62	白磁	椀	Ⅴ類		12中,福建
	8	MK 65	白磁	椀	Ⅴ類		12中,福建
	9	MM 60	白磁	椀	Ⅴ類		12中,福建,櫛書き曲線文
	10	MN 62	白磁	椀	Ⅴ類		12中,福建,櫛書き曲線文
	11	LJ 47	白磁	椀	Ⅴ類		12中,福建,櫛書き曲線文
	12	MC 48	白磁	椀	Ⅴ類		12中,福建,櫛書き曲線文
	13	MC 39	白磁	椀	Ⅴ類		12世紀,福建
	14	SX 5063	白磁	椀	Ⅴ類		
	15	MC 38	白磁	椀	Ⅴ類		12世紀,福建
	16	LM 39	白磁	椀	Ⅴ類		12（前～）中,福建
	17	MC 45	白磁	椀	輪ハゲ		12前～中,福建
	18	LP 28	白磁	椀	輪ハゲ		12後,福建
	19	MM 61	白磁	椀	輪ハゲ		12中～後,福建
	20		白磁	椀	Ⅴ類		12中,福建,櫛書き曲線文
63	1		白磁	椀	輪ハゲ		13世紀,福建
	2	SX 4428	白磁	Ⅲ			12中～後,福建,4と同タイプ
63	3	LI 45	白磁	高台付Ⅲ	輪ハゲ		12前～中,福建
	4	SE 2051	白磁	Ⅲ			12中～後,福建,輪花、完形
	5		白磁	椀	輪ハゲ		12後,福建
	6	ML 61	白磁	Ⅲ			12世紀,福建
	7	SKP 2005	白磁	Ⅲ	口ハゲ		12世紀,福建
	8	MN 62	白磁	壺類			12世紀,福建
	9	LP 45	青白磁	椀			13世紀,景徳鎮付近,ヘラ・櫛目曲線文
	10	MN 65	青磁	椀	龍泉Ⅰ		12後,龍泉
	11	LP 28	青磁	椀	龍泉Ⅰ		12後,龍泉
	12	ME 48	青磁	椀	龍泉Ⅰ		12後,龍泉
	13	MA 44	青磁	椀	龍泉Ⅰ		12後,龍泉
	14		青磁	椀	龍泉Ⅰ		12後,龍泉,元のMQ56・註記:2のため位置不明
	15	LT 43	青磁	椀	同安		12後～13,同安
	16	LF 45	青磁	椀	同安		12後,同安
	17	SKP 5066	青磁	椀	同安		12後,同安
64	1	SK 3001	かわらけ	Ⅲ	A	手捏ね	
	2	SE 4119	かわらけ	Ⅲ	A	手捏ね	
	3	SE 4119	かわらけ	Ⅲ	A	手捏ね	
	4	SX 5318	かわらけ	Ⅲ	A	手捏ね	
	5	SL 3032	かわらけ	Ⅲ	B	手捏ね	
	6	SL 3032	かわらけ	Ⅲ	B	手捏ね	
	7	SE 4008	かわらけ	Ⅲ	B	手捏ね	内外面タール付着
	8	SE 4008	かわらけ	Ⅲ	B	手捏ね	内面黒色付着物あり
	9	SE 4008	かわらけ	Ⅲ	B	手捏ね	
	10	SE 4008	かわらけ	Ⅲ	B	手捏ね	
	11	SE 4119	かわらけ	Ⅲ	B	手捏ね	内面黒色付着物あり
	12	SX 4428	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	内外面摩滅著しい
	13	SE 2051	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底部回転糸切り
	14	SE 2051	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底部回転糸切り
	15	SE 2051	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底部回転糸切り
	16	SL 3032	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底部回転糸切り
	17	SE 2051	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	
	18	SL 3032	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底部回転糸切り
	19	SL 3032B	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底部回転糸切り
	20	SE 4002	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底部回転糸切り
	21	SE 4002	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	
	22	SE 4003	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	外面タール付着
	23	SX 4428	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	
	24	SE 4002	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底部糸切り
	25	SE 4005	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	
	26	SE 4003	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底部回転糸切り
	27	SE 4005	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底部回転糸切り
	28	SE 4005	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底部回転糸切り
	29	SE 4003	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底部回転糸切り
	30	SE 4008	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底部回転糸切り
	31	SE 4009	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底部回転糸切り
	32	SE 4005	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底部回転糸切り
	33	SE 4005	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	接合(SE4005・RP),底部回転糸切り
65	1	LM 39	かわらけ	Ⅲ	B	手捏ね	
	2	LK 50	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	内外面摩滅著しい
	3	LN 40	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底面回転糸切り
	4		かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底面回転糸切り
	5	LM 55	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	内外面摩滅著しい
	6	MC 46	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底面回転糸切り
	7	LM 54	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底面回転糸切り
	8	LK 50	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底面回転糸切り
	9	LP 60	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底面回転糸切り
	10	MC 48	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底面回転糸切り
	11	LM 53	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底面回転糸切り
	12	MC 51	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	内外面摩滅著しい
	13	LS 56	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底面回転糸切り
	14	MD 52	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底面回転糸切り
	15	MD 54	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底面回転糸切り
	16	LQ 57	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底面回転糸切り
	17	MC 47	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底面回転糸切り
	18	LQ 57	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底面回転糸切り
	19	LQ 57	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底面回転糸切り
	20	LO 53	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底面回転糸切り
	21	MD 48	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	底面回転糸切り
	22	MP 65	かわらけ	Ⅲ	C	ロクロ	
	23	MM 78	その他陶磁器	片口鉢			
	24	LO 42	その他陶磁器				外面布目あり
	25	LN 35	その他陶磁器				外面叩き目あり
	26	LO 45	その他陶磁器				底面布目あり
	27	LO 26	その他陶磁器				外面布目あり
66	1	SL 4	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	接合(取水口付近・RP192・MK90)
	2	SL 4	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	接合(取水口付近・RP192・990615,LP81)

図版	遺物版	グリッド	種別	器種	分類	成形	備考
66	3	SL 4	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	接合(SK5188・RP19,RP27,RP29,覆土)
67	1	SL 3	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	2	SL 4	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	3	SK 611	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	4	SL 3	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	5	SKP 611	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	6	SKP 422	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	7	SE 2051	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	8	SE 2051	須恵器系中世陶器	壺		ロクロ	漆接ぎ,底部静止糸切り
	9	SKP 2090	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め（三筋）	
	10	SL 2100	須恵器系中世陶器	四耳壺		櫛目波状文	
	11	SKP 2074	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め（三筋）	
68	1	SE 2112	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	2	SE 2112	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	3	SE 2123	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	4	SL 3002	須恵器系中世陶器	鉢		ロクロ	
	5	SL 3002	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	体下部に叩き締めの押印
	6	SL 3002	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	7	SL 3002	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	8	SL 3002	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	9	SL 3002	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	10	SL 3002	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	11	SL 3002	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
69	1	SK 2151	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	2	SK 2151	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	3	SL 3002	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	接合(SE3002・RP2)
	4	SL 3032	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	5	SL 3032	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	6	SL 3032	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	7	SE 4003	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	8	SE 4003	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	9	SE 4003	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	10	SE 4003	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	11	SE 4003	須恵器系中世陶器	擂鉢		ロクロ	
	12	SE 4003	須恵器系中世陶器	鉢		ロクロ	
	13	SE 4003	須恵器系中世陶器	四耳壺		櫛目波状文	接合(SE4003)
	14	SK 4004	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	15	SK 4004	須恵器系中世陶器	四耳壺		櫛目波状文	
	16	SE 4092	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	接合(SE4119・埋土)
70	1	SE 4111	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	2	SE 4119	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	3	SE 4119	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	4	SE 4119	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	5	SE 4119	須恵器系中世陶器	鉢		ロクロ	
	6	SX 4200	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	7	SX 4200	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	8	SKP 4231	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	9	SKP 4311	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	10	SE 4322	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	11	SX 4200	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	内面に黒色付着物あり
	12	SX 4329	須恵器系中世陶器	短頸壺		ロクロ	漆接ぎ
	13	SX 4329	陶磁器	擂鉢		ロクロ	
	14	SKP 4479	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	15	SKP 4327	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	16	SX 5055	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
71	1	SX 5063	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	2	SX 5063	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	3	SX 5063	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	4	SX 5063	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	5	SX 5063	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	6	SX 5063	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	7	SX 5063	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	8	SX 5063	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	9	SX 5063	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	10	SX 5097	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	11	SKP 5107	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	12	SKP 5107	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	13	SKP 5163	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	14	SE 5186	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	15	SE 5187	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	16	SE 5187	須恵器系中世陶器	鉢		ロクロ	
	17	SE 5186	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
72	1	SE 5188	須恵器系中世陶器	甕		叩き締め	接合(SK5188・RP1,SK5188・RP23,24、25)
	2	SX 5318	須恵器系中世陶器	鉢		ロクロ	拓本口縁部,表実測
	3	SX 5318	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	4	SX 5318	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	5	SX 5318	須恵器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	焼けハジケ
	6	欠番 5236	瓷器系中世陶器	壺甕類		叩き締め	
	7	欠番 5064	瓦器系中世陶器	壺		ロクロ	
73	1	SK 611	瀬戸美濃	陶器Ⅲ	大窯Ⅱa		
	2	SD 701D	瀬戸美濃	陶器Ⅲ	大窯Ⅱ		
	3	LL 45	瀬戸美濃	陶器Ⅲ	大窯Ⅱb		
	4	SKP 765	肥前	陶器Ⅲ	内野山？		1650-1750
	5		天目	陶器茶碗			範疇
	6	LT 40	その他陶磁器	陶器			
	7	NA 61	肥前	陶器Ⅲ		砂目	1600-30
	8		肥前	陶器Ⅲ		砂目	1610-30,範疇
	9	LP 45	肥前	陶器Ⅲ			
	10	MG 84	その他陶磁器	磁器			
	11		その他陶磁器	陶器半仄			
	12	LM 43	その他陶磁器	陶器土瓶			
	13	LS 41	その他陶磁器	磁器仏飯具			幕末以降
	14	SKP 248	瀬戸美濃	陶器腰折皿？	大窯1a		c15末
74	1	SE 4005	木製品	木簡			字書木簡,表裏墨書
	2	SKP 4186B	木製品	木簡			
	3	MM 81	木製品	木簡			
	4	MK 60	木製品	木簡			
75	1	SE 4008	木製品	櫛			イスノキ
	2	SE 4008	木製品	櫛			イスノキ
	3	SX 5063	木製品	下駄			未製品歯片か
	4	SX 5318	木製品	下駄			指跡痕跡あり
	5	SL 3002	木製品	椀皿類	B	ロクロ	底部ロクロ爪痕あり
	6	SX 5318	木製品	椀皿類	B	ロクロ	内面黒漆,底部ロクロ爪痕あり
	7	SX 5063	木製品	下駄			
	8	SE 2123	木製品	Ⅲ	B	ロクロ	内外面黒漆,底部ロクロ爪痕あり,ケヤキ
	9	SX 5063	木製品	Ⅲ	B	ロクロ	底部ロクロ爪痕あり
	10	SE 4005	木製品	Ⅲ	B	ロクロ	底部ロクロ爪痕あり,ケヤキ
	11	SL 3032	木製品	Ⅲ	B	ロクロ	内外面黒漆,底部ロクロ爪痕あり,ケヤキ
76	1	SK 3001	木製品	Ⅲ	B	ロクロ	内外面黒漆,底部ロクロ爪痕あり,ケヤキ
	2	SE 3047	木製品	Ⅲ	B	ロクロ	内外面黒漆,底部ロクロ爪痕あり,ケヤキ
	3	SL 3002	木製品	Ⅲ	B	ロクロ	内外面黒漆,底部ロクロ爪痕あり,ケヤキ
	4	SL 1176	木製品	Ⅲ	B	ロクロ	内外面黒漆,底部ロクロ爪痕あり,ケヤキ
	5	SKP 4212	木製品	Ⅲ	B	ロクロ	底部ロクロ爪痕あり,底部穿孔？,ケヤキ
	6	SE 3003	木製品	Ⅲ	B	ロクロ	底部ロクロ爪痕あり,ケヤキ
	7	SE 3004	木製品	Ⅲ	C	ロクロ	内外面黒漆,ケヤキ
	8	SE 4005	木製品	Ⅲ	C	ロクロ	内外面黒漆,ケヤキ
	9	SD 701	木製品	Ⅲ	D	ロクロ	内面朱漆、外面黒漆
	10	SE 2	木製品	椀	A	ロクロ	内外面黒漆,ケヤキ
	11	SL 1176	木製品	椀	B	ロクロ	内外面黒漆,底部ロクロ爪痕あり,ケヤキ
77	1	SE 3004	木製品	蓋？	D	ロクロ	内外面黒漆,,ケヤキ
	2	SE 4001	木製品	椀	B	ロクロ	内外面黒漆,底部ロクロ爪痕あり,ケヤキ
	3	SX 5318	木製品	荒型	D		荒木取りの状態
	4	SE 3047	木製品	木製品	D	ロクロ→陰刻	外面黒漆,底部ロクロ爪痕あり,ケヤキ
	5	SL 3002	木製品	曲物底	A		
78	1	SE 5187	木製品	曲物			
	2	SL 4	木製品	曲物底	A		
	3	SE 4003	木製品	曲物			
	4	SL 4	木製品	曲物底	B？		
	5	SE 2112	木製品	曲物			
	6	SE 4111	木製品	曲物			
79	1	SE 2112	木製品	曲物底	B		黒色付着物あり,片面刃物痕
	2	SE 4322	木製品	曲物底	B		
	3	SE 4003	木製品	曲物底	B		
	4	SX 5063	木製品	曲物底	B		
	5	SL 3032	木製品	曲物底	B		
	6	SX 5318	木製品	曲物底	B		
	7	SX 5318	木製品	蓋			
80	1	SE 4008	木製品	蓋			黒色付着物あり,スギ
	2	SX 5318	木製品	折敷縁			
	3	SE 2051	木製品		B		
	4	SE 3003	木製品		B		
	5	SKP 185	木製品		B		
	6	SL 4	木製品	台座			2点組み合わせ,黒漆
81	1	SX 4428	木製品	折敷			両面刃物痕
	2	SE 4008	木製品	折敷			片面刃物痕,スギ
82	1	SE 2123	木製品	板材子			スギ
	2	SE 4005	木製品	板材子			スギ
	3	SX 5318	木製品	板材子			
	4	SKP 28	木製品	箆状木製品			
	5	SX 5063	木製品	杓子			黒色付着物あり

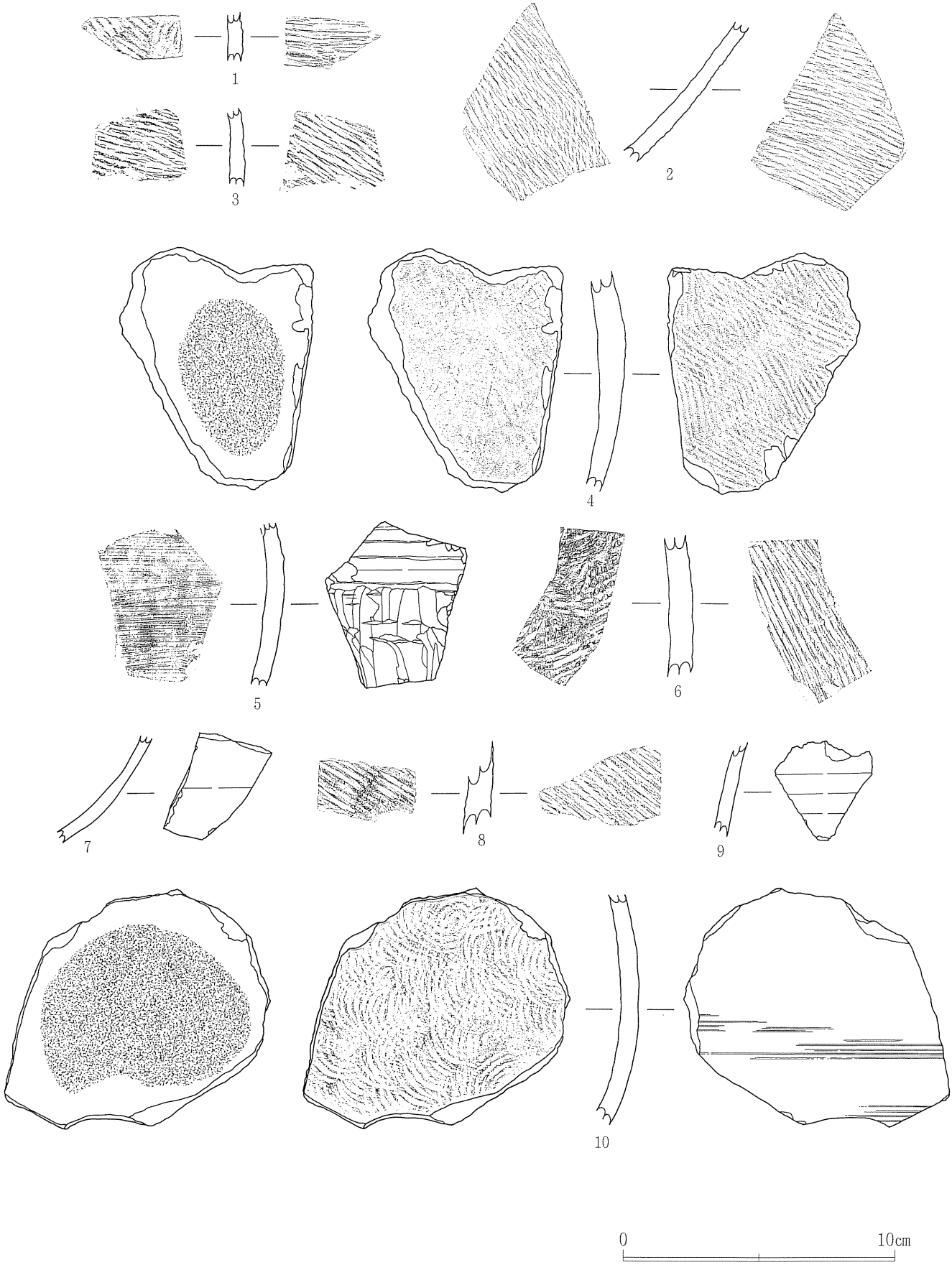
図No.	遺物No.	グリッド	種別	器種	分類	成形	備考
83	1	SL 2100	木製品	楔			
	2	SL 1176	木製品	楔			
	3	SD 701	木製品	楔			
	4	SL 1176	木製品	楔			
	5	SL 2100	木製品	楔			
	6	SL 2100	木製品	板状木製品			
	7	SX 5050	木製品	栓			
	8	SX 5063	木製品	木札			穿孔あり
	9	SX 5051	木製品	木札			穿孔あり
	10	SE 5058	木製品	棒状木製品			
	11	SL 4	木製品	卯板			農具か
84	1	SE 4119	木製品	板材			
	2	SKP 361	木製品	縦板			ハリギリ
	3	SE 1	木製品	扇			
	4	SE 3003	木製品	扇			
	5	SE 3003	木製品	扇			
	6	SE 3003	木製品	扇			スギ
	7	SE 3003	木製品	扇			スギ
	8	SE 3003	木製品	扇			
85	1	SE 4092	木製品	加工材			
	2	SE 3015	木製品	加工材			
	3	SE 4322	木製品	加工材			把手？
	4	SE 4003	木製品	棒状木製品			スギ
	5	SE 4009	木製品	加工材			
	6	SX 5063	木製品	把手			
	7	SE 3004	木製品	加工材			スギ
	8	SE 4005	木製品	加工材			
	9	SE 3047	木製品	板状木製品			
	10	SL 3002	木製品	自在			
	11	SKP 5067	木製品	槌			
86	1	SE 3015	木製品	加工材			
	2	SE 3006	木製品	加工材			模入り
	3	SL 3002	木製品	加工材			
	4	SE 4111	木製品	加工材			
87	1	SE 2	木製品	刀子形			
	2	SL 3002	木製品	刀子形			
	3	SE 4119	木製品	鏃形			
	4	SX 5063	木製品	木製品			
	5	SL 4	木製品	木針			
	6	SL 4	木製品	斎串			
	7	SX 5050	木製品	矢形			スギ
	8	SX 4428	木製品	刀形			
	9	SD 701	木製品	加工材			
88	1	MD 90	木製品	下駄			
	2	LP 85	木製品	下駄			
	3		木製品	下駄			
	4	LP 85	木製品	下駄			
	5	MD 48	木製品	下駄			
	6	MO 65	木製品	下駄			
89	1	LE 32	木製品	下駄			
	2	ME 51	木製品	足駄			
	3	MF 48	木製品	櫛			イスノキ
	4	MD 90	木製品	櫛			イスノキ
	5	LS 44	木製品	櫛			
	6	MA 55	木製品	椀皿類	D	ロクロ	内外面黒漆
	7	LL 32	木製品	足駄歯			
	8	MA 81	木製品	足駄歯			
	9	LP 60	木製品	椀皿類	B	ロクロ	内外面黒漆,底部ロクロ爪痕あり
	10		木製品	椀皿類	A	ロクロ	内面朱漆、外面黒漆
	11	MD 53	木製品	皿	B	ロクロ	内外面漆,底部ロクロ爪痕あり,ケヤキ
	12	MH 53	木製品	皿	A	ロクロ	内面朱漆、外面黒漆,ブナ属
90	1	MG 53	木製品	椀	A	ロクロ	内面朱漆、外面黒漆,ブナ属
	2	LJ 41	木製品	蓋		ロクロ	内外面黒漆,ブナ属
	3	MG 89	木製品	蓋		ロクロ	内外面黒漆→上絵付,ブナ属
	4		木製品	蓋		ロクロ	内外面黒漆→上絵付,ブナ属
	5		木製品	蓋		ロクロ	内外面黒漆,墨書,ブナ属
	6	欠番 71	木製品	折敷			片面刃物痕
	7		木製品	蓋			黒色付着物あり
91	1	MF 49	木製品	曲物底	B		
	2	NK 84	木製品	蓋			
	3	ML 62	木製品	曲物底	B		
	4	MN 64	木製品	曲物底	B		
	5	LD 36	木製品	曲物底	B		
	6	MD 48	木製品	曲物底	B		内外面黒漆
	7	MG 50	木製品	曲物底	B		
	8	LQ 43	木製品	木製品			
	9	MI 88	木製品	木製品			
	10	MF 49	木製品	板状木製品			抉りあり
	11	MA 65	木製品	板状木製品			穿孔あり
	12	LL 31	木製品	板状木製品			
	13	LK 32	木製品	板状木製品			穿孔あり

図No.	遺物No.	グリッド	種別	器種	分類	成形	備考
91	14	LT 64	木製品	板状木製品			両面漆
	15	MH 60	木製品	棒状木製品			
	16	MA 55	木製品	棒状木製品			
	17	MA 65	木製品	板状木製品			穿孔あり
	18	LM 32	木製品	栓			
92	1	LR 59	木製品	構造材			
	2	MA 65	木製品	端状木製品			
	3		木製品	柄			農具柄？
93	1		木製品	木製品			
	2	MC 48	木製品	模形木製品			
	3		木製品	刀子形			
	4	MF 65	木製品	板状木製品			
	5	ME 52	木製品	棒状木製品			
	6	LA 35	木製品	座金型？			穿孔あり
	7		木製品	紡錘車			穿孔あり
100	1	SKP 4178	建築材	柱材	大面取り		心去り,年輪144
	2	SKP 4074	建築材	柱材	大面取り		心去り,年輪59
	3	SKP 4175	建築材	柱材	大面取り		心去り,年輪130
	4	SKP 2136	建築材	柱材	大面取り		心去り,年輪71
	5	SKP 4179	建築材	柱材	大面取り		心去り,年輪135
101	1	SKP 5074	建築材	柱材	杭		心去り,年輪49
	2	SKP 4070	建築材	加工材	構造材		心去り,年輪175
	3		建築材	加工材	橋脚		心持ち,年輪47
102	1	欠番 682	剥片石器	削器			
	2	SE 2051	剥片石器	剥片			
	3	SL 3032	剥片石器	剥片			
	4	SKP 4327	剥片石器	剥片			
	5	SKP 4327	剥片石器	剥片			
	6	ME 50	剥片石器	剥片			
	7		剥片石器	石鏃			
	8	MA 45	剥片石器	石鏃			
	9	B	剥片石器	石槍			
	10		剥片石器	石錐			
	11	MB 38	剥片石器	筒状石器			トランシェ様石器？
	12	LM 34	剥片石器	削器			
	13	MP 82	剥片石器	削器			
	14	ME 51	剥片石器	掻器			
	15		剥片石器	削器			
	16		石製品	球状石製品			
	17	SX 4329	石製品	石製品			
	18	MG 50	石製品	石製品			
	19	MD 45	石製品	石製品			
103	1	LQ 28	礫石器	砥石			
	2	SX 5318	礫石器	砥石			
	3	MD 62	礫石器	砥石			
	4	MD 61	礫石器	砥石			
	5	SE 4119	礫石器	砥石			
	6	LT 42	礫石器	碁石			
	7	SE 2123	その他	フイゴ羽口			
	8	SKP 664	礫石器	磨石			
	9	MI 85	礫石器	石皿			底面煤付着
104	1	SE 4005	鉄製品	刀子			
	2	SK 5036	鉄製品	刀子			
	3	SKP 4153	鉄製品	椀			
	4	SX 5063	鉄製品	刀子			
	5	SL 1176	鉄製品	鉄鉗			
	6		石製品	鬼			
	7		石製品	硯			

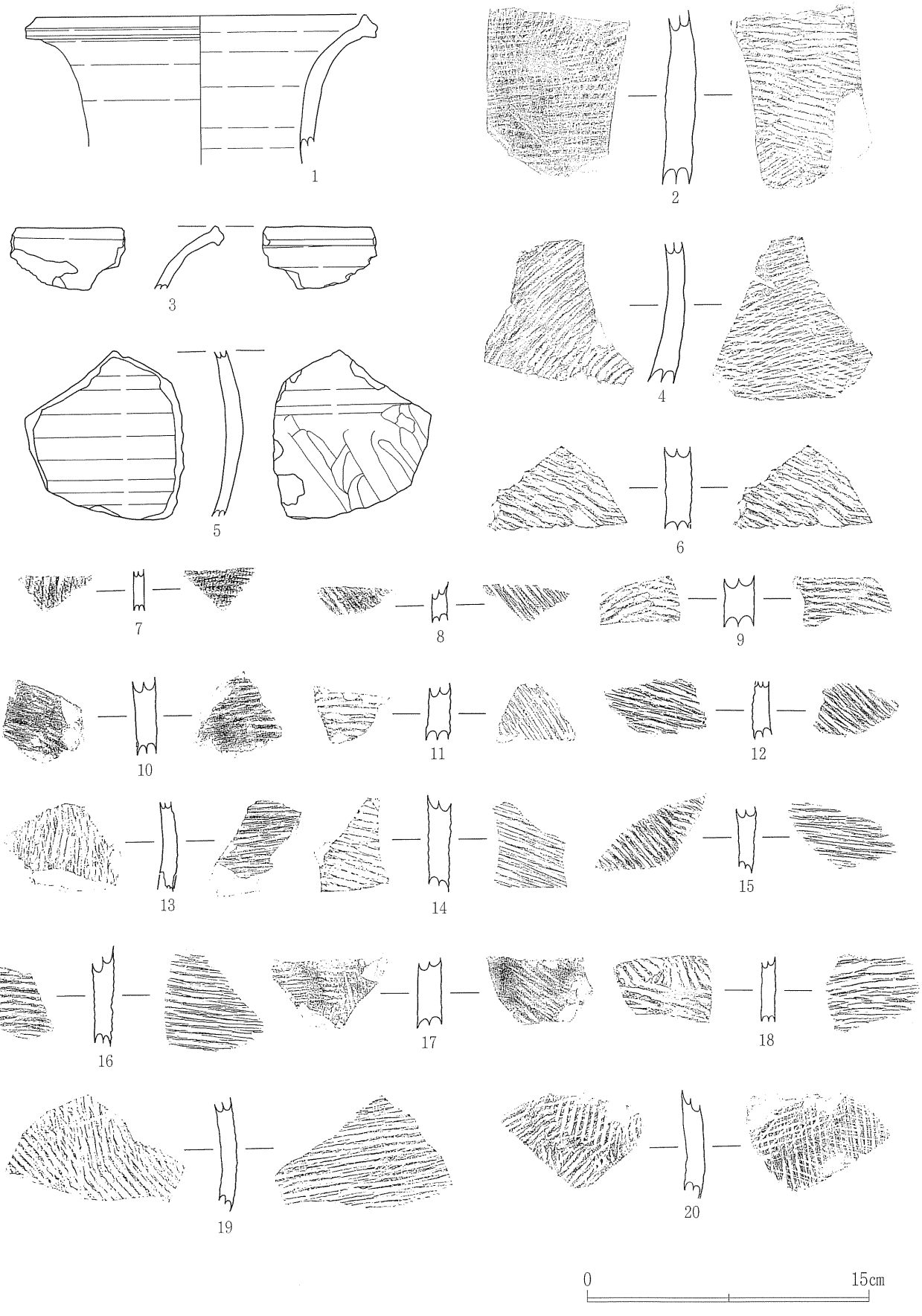


第58図　出土遺物（1）縄文土器

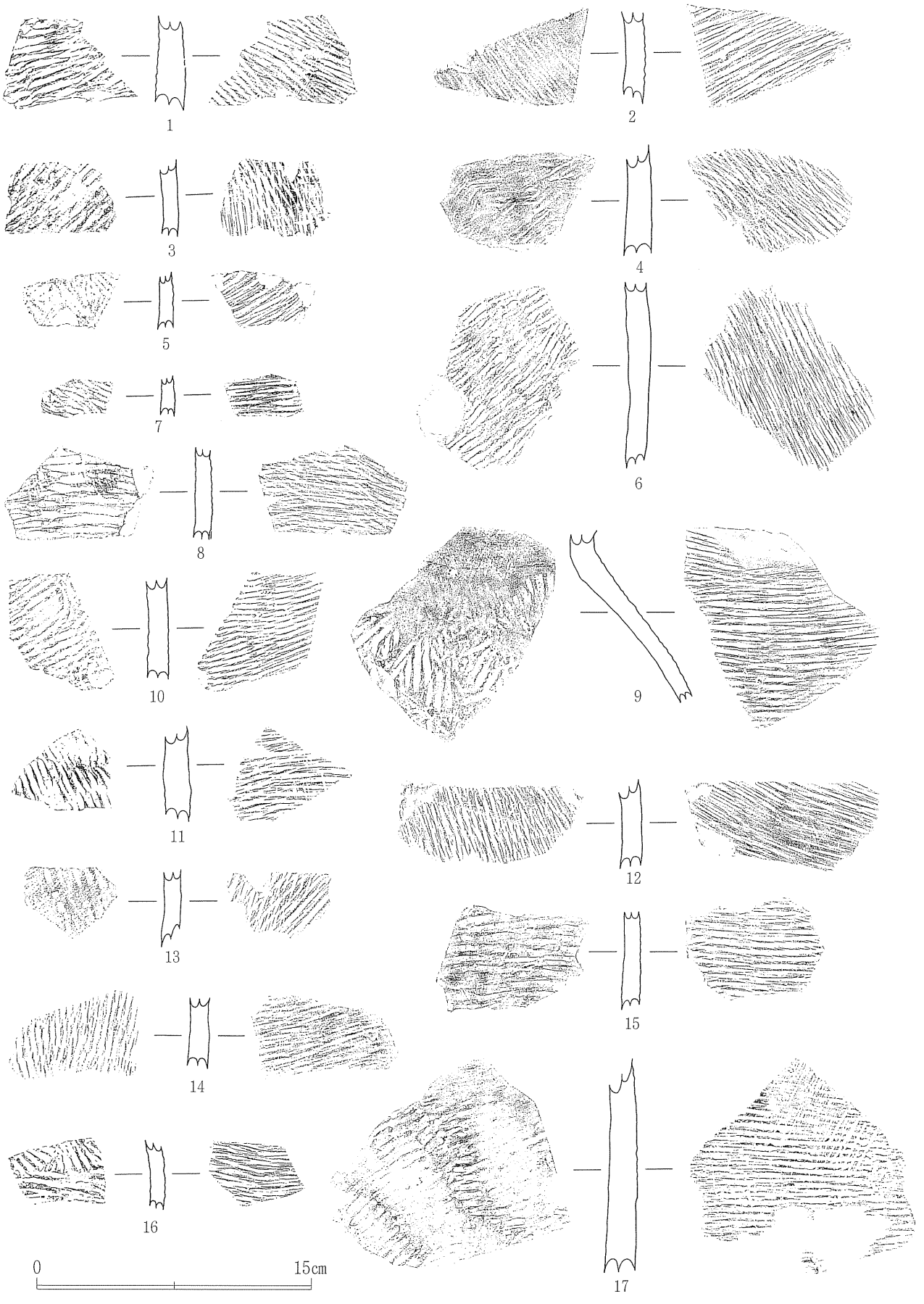
櫛出土状況



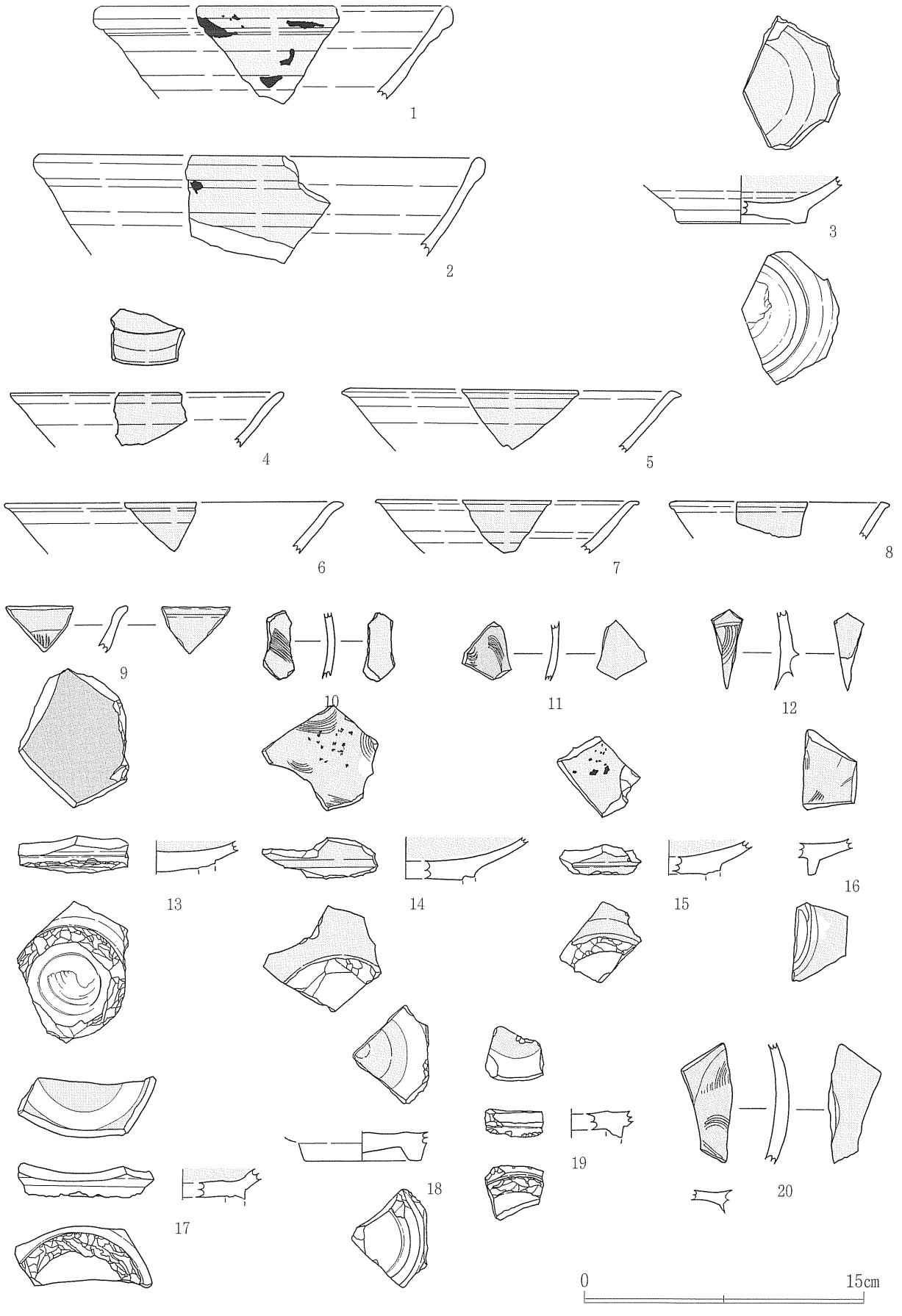
第59図　出土遺物（２）須恵器



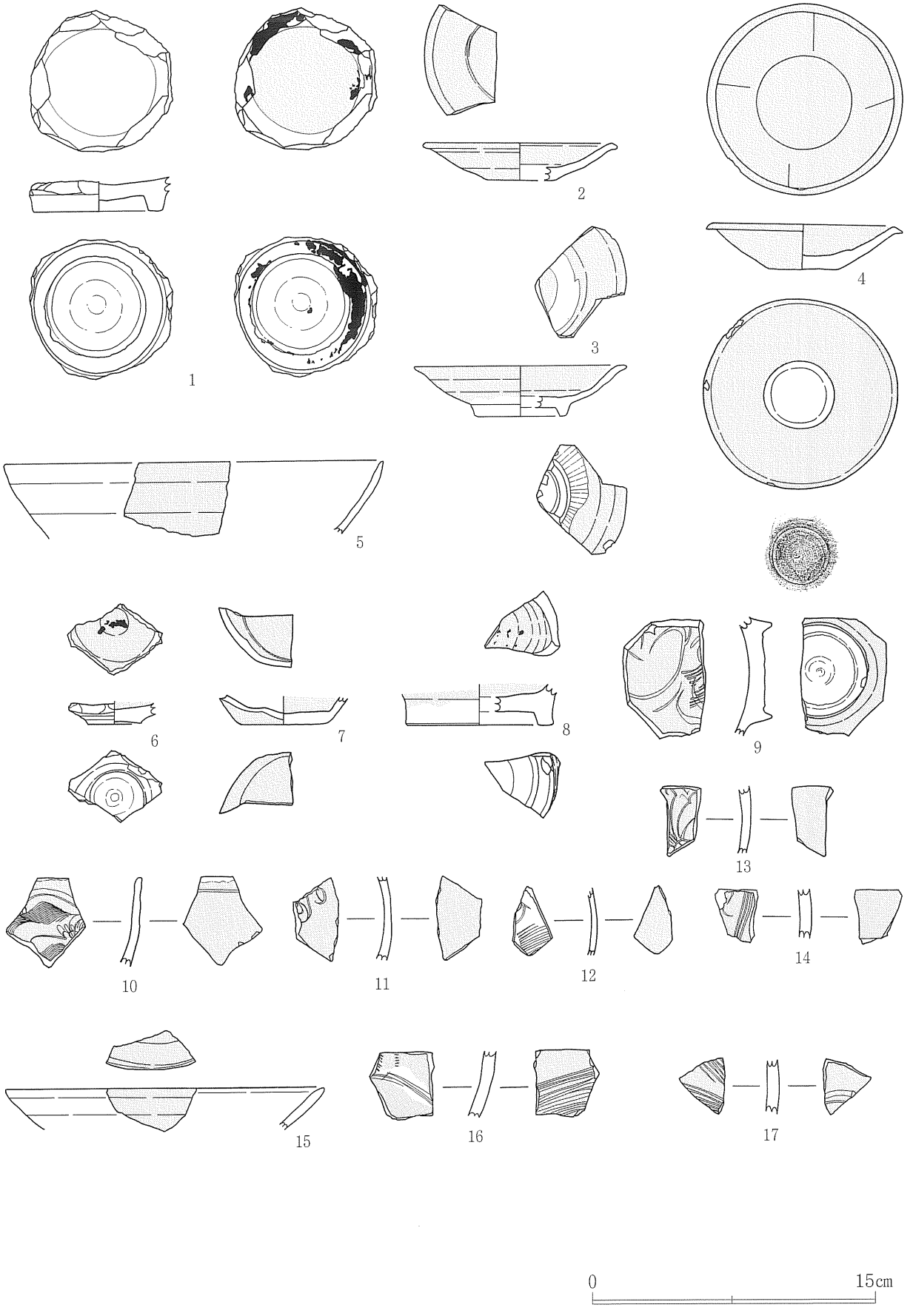
第60図　出土遺物（３）須恵器



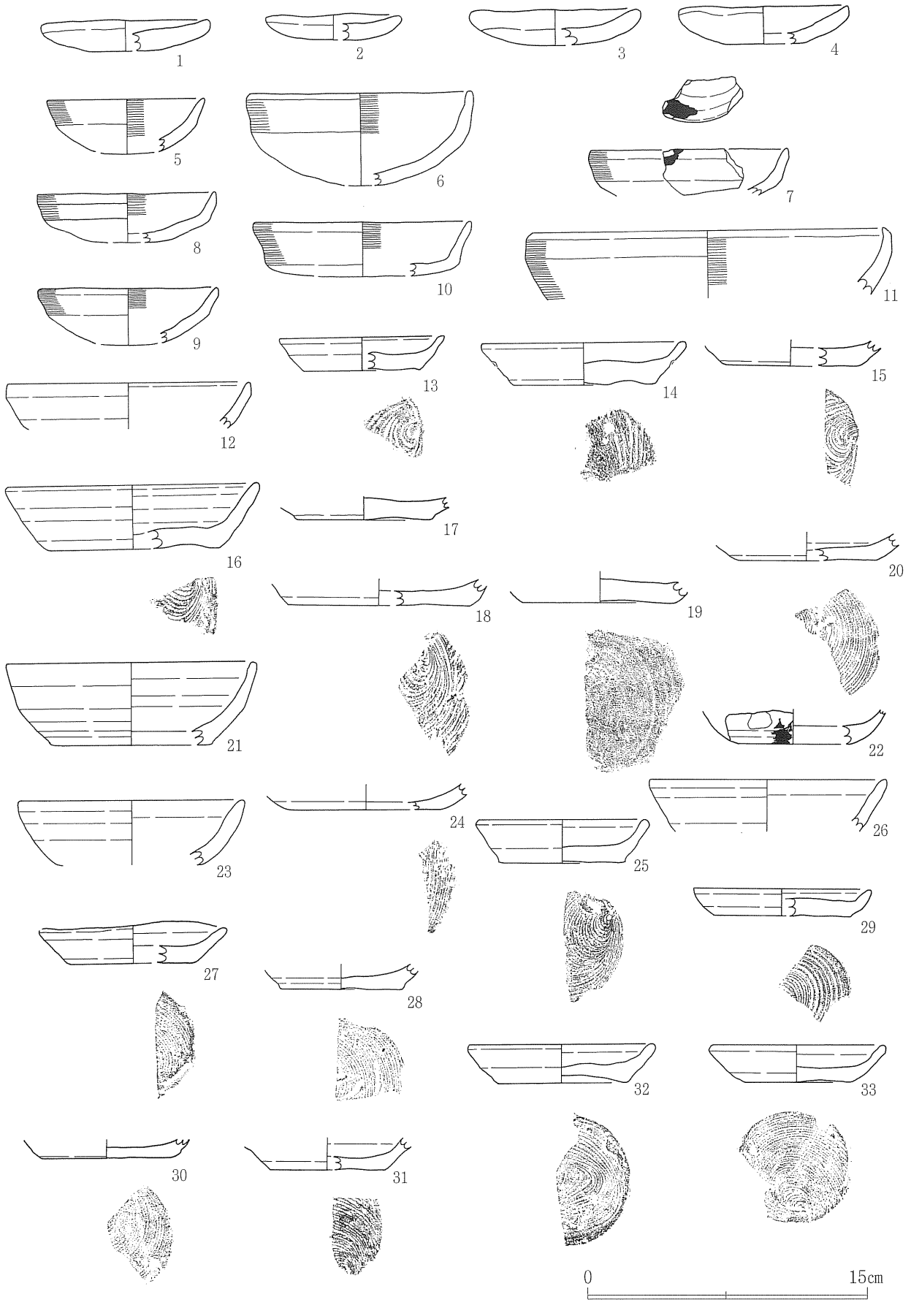
第61図　出土遺物（４）須恵器



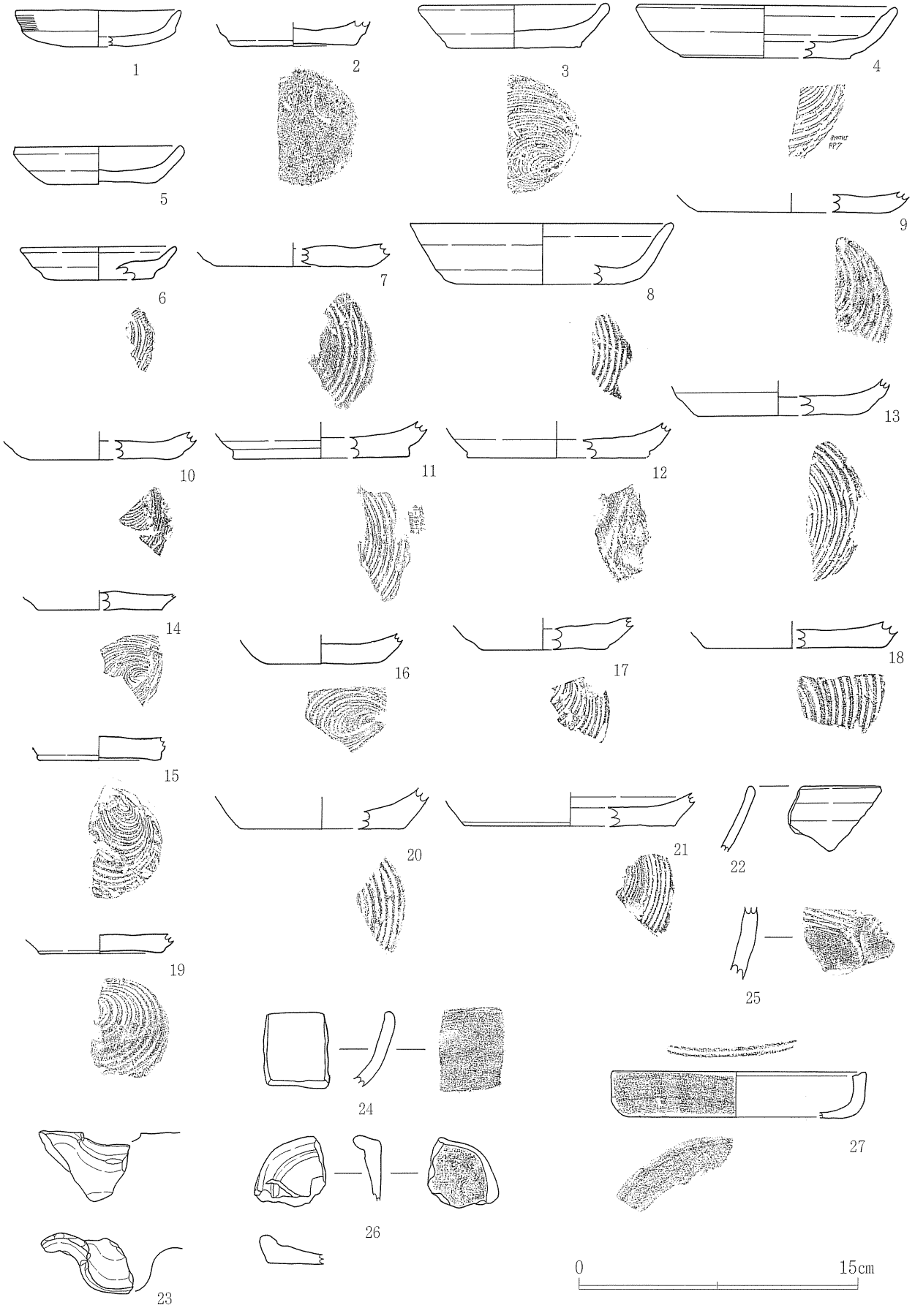
第62図　出土遺物（５）白磁



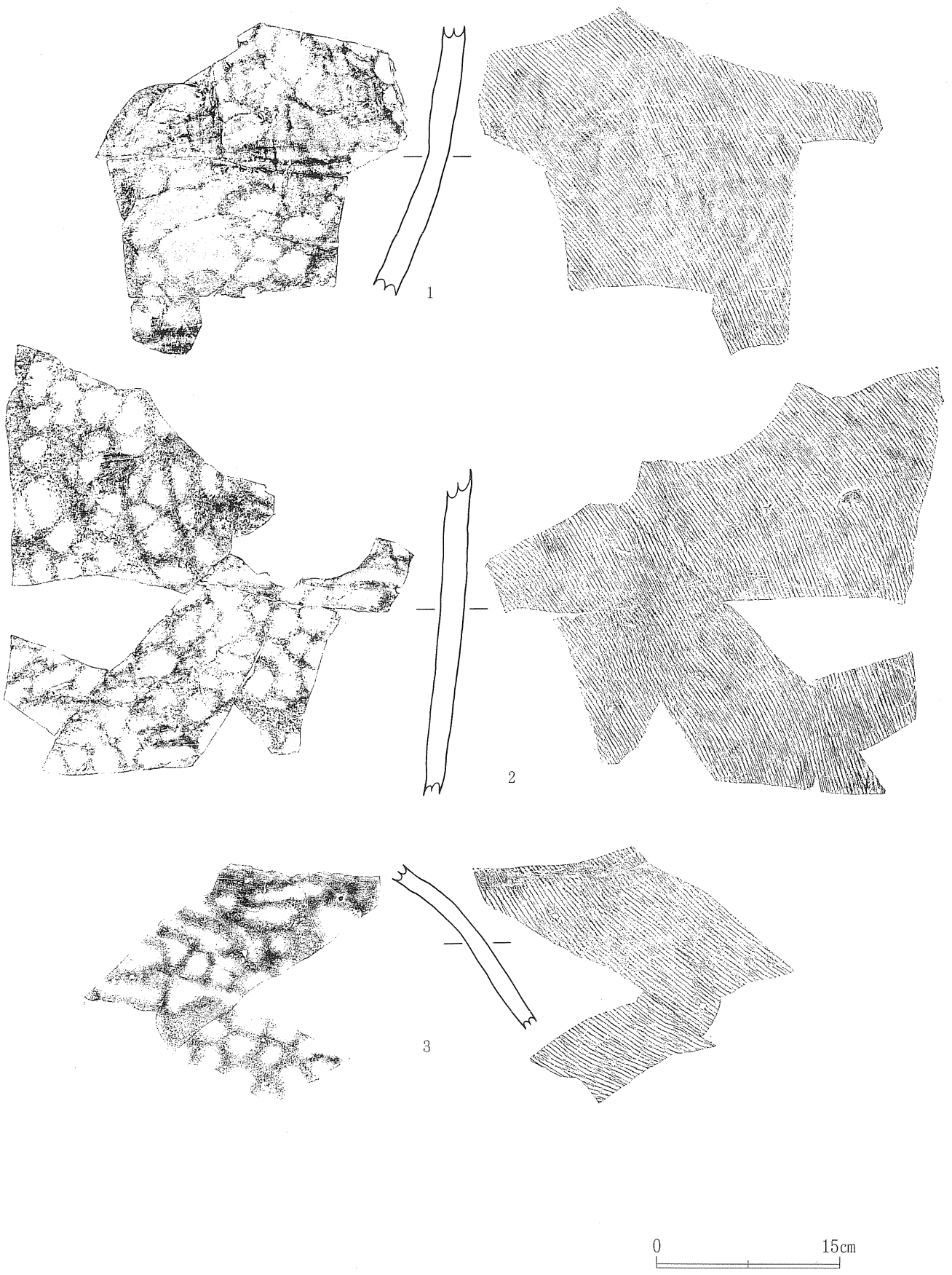
第63図　出土遺物（６）白磁・青白磁・青磁



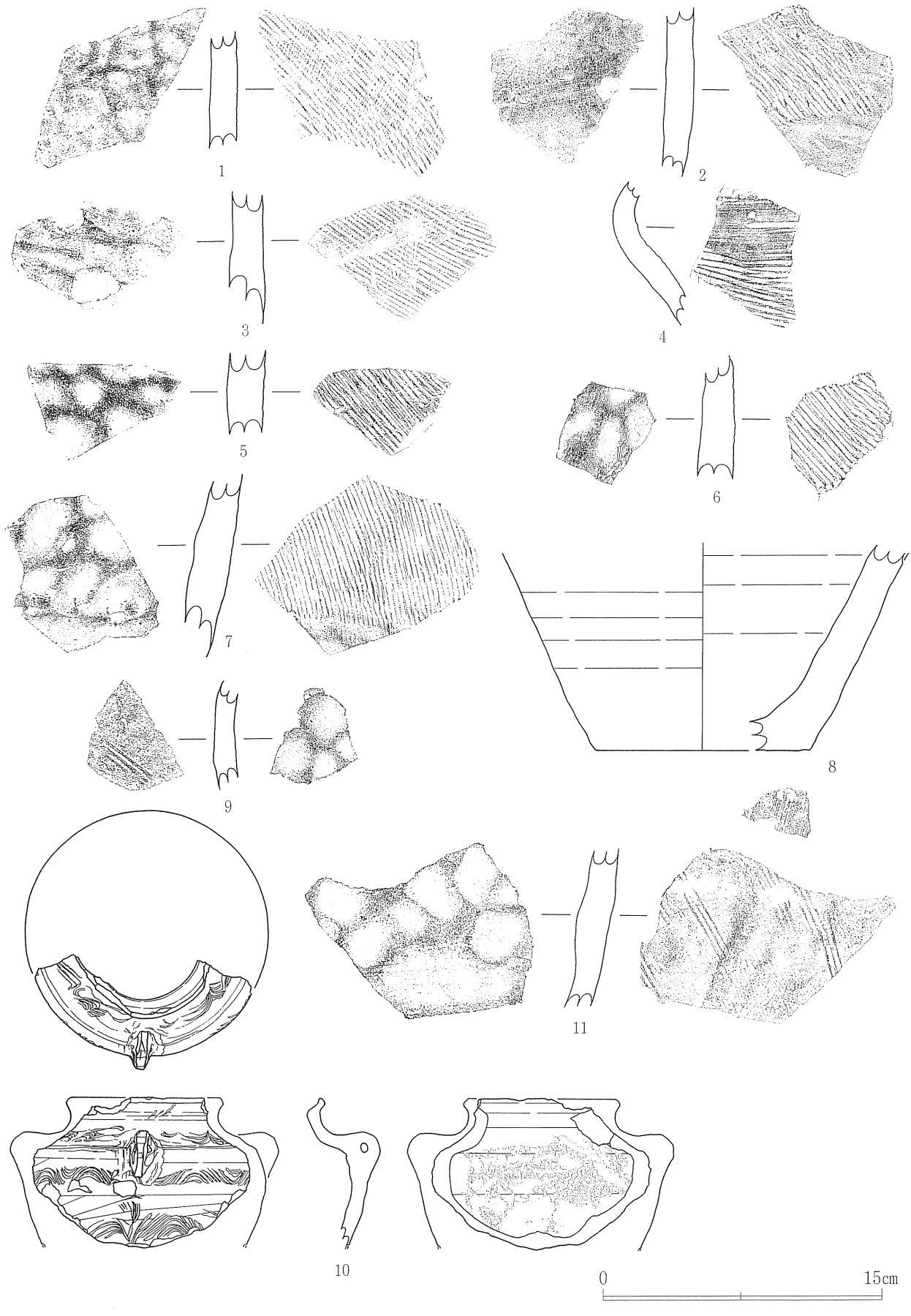
第64図　出土遺物（７）かわらけ



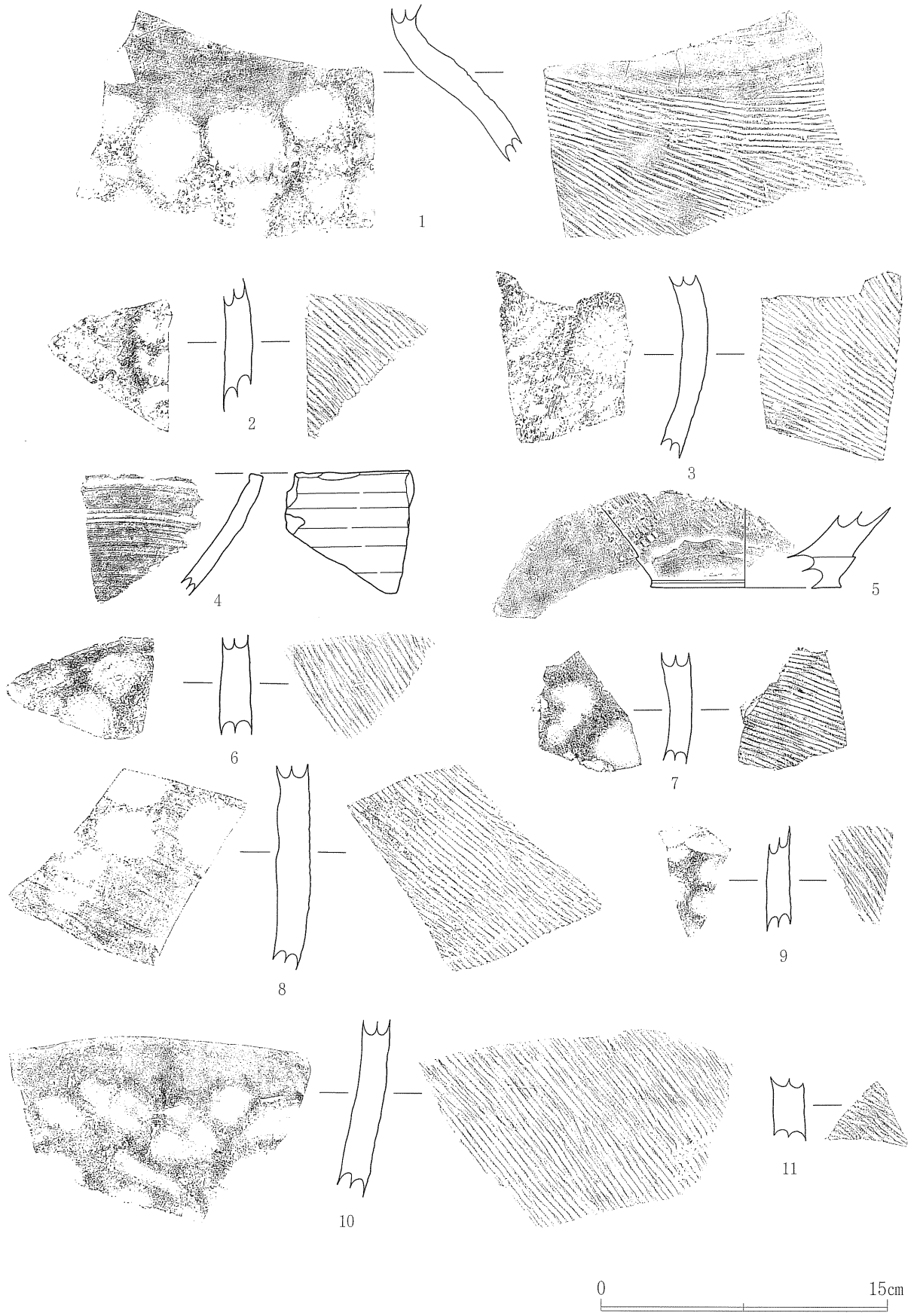
第65図　出土遺物（８）かわらけ　他



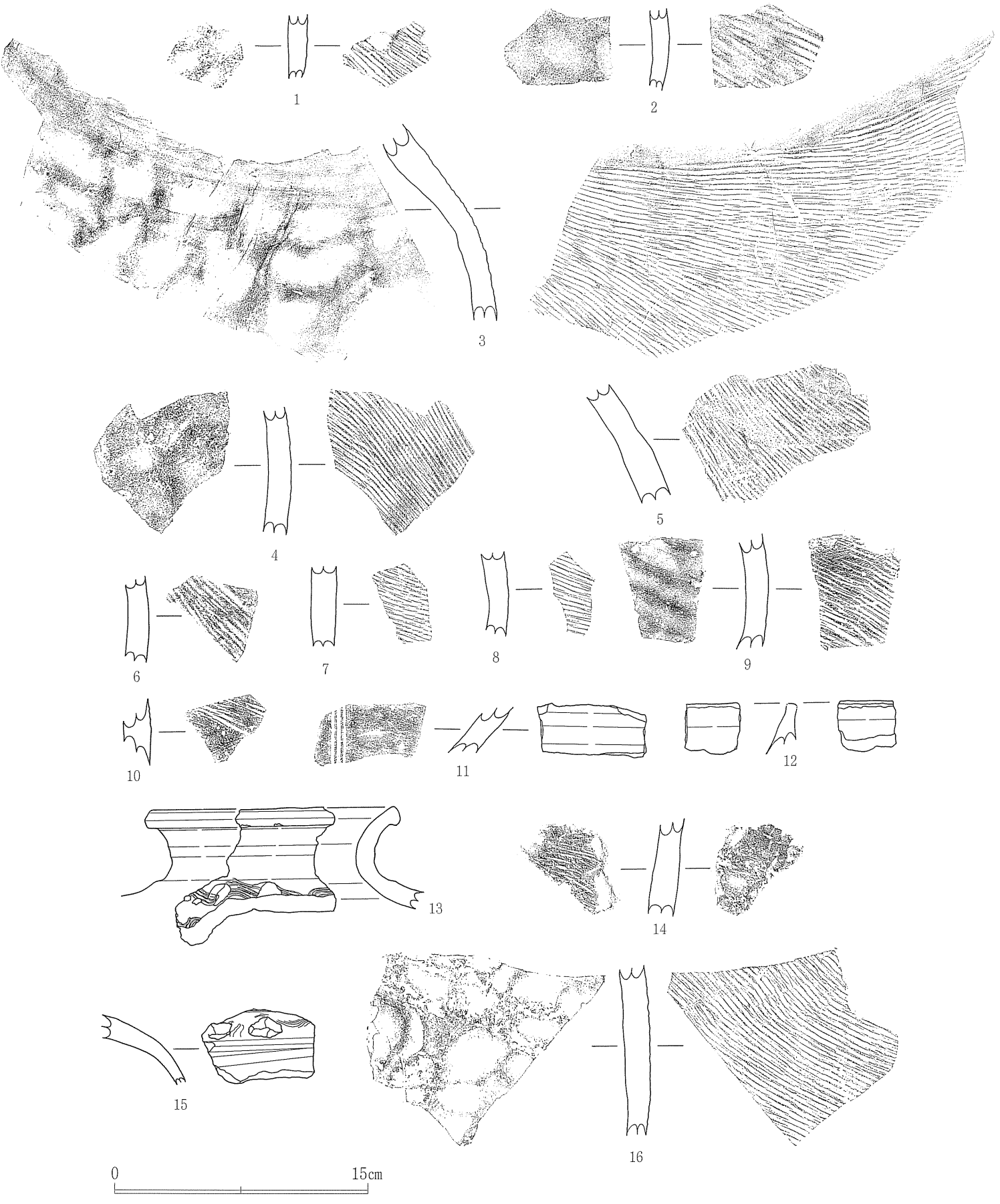
第66図　出土遺物（９）須恵器系中世陶器



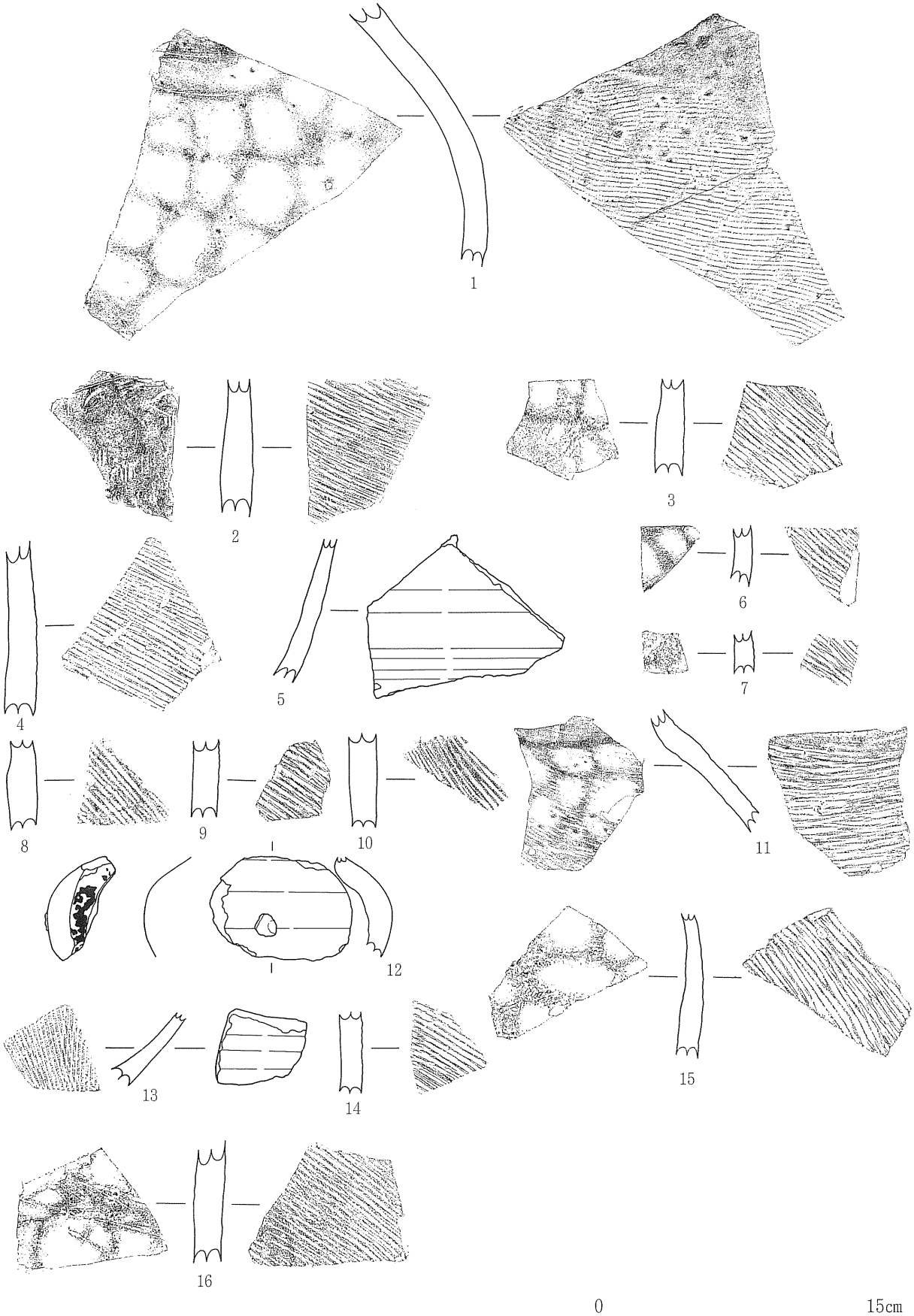
第67図　出土遺物（10）須恵器系中世陶器



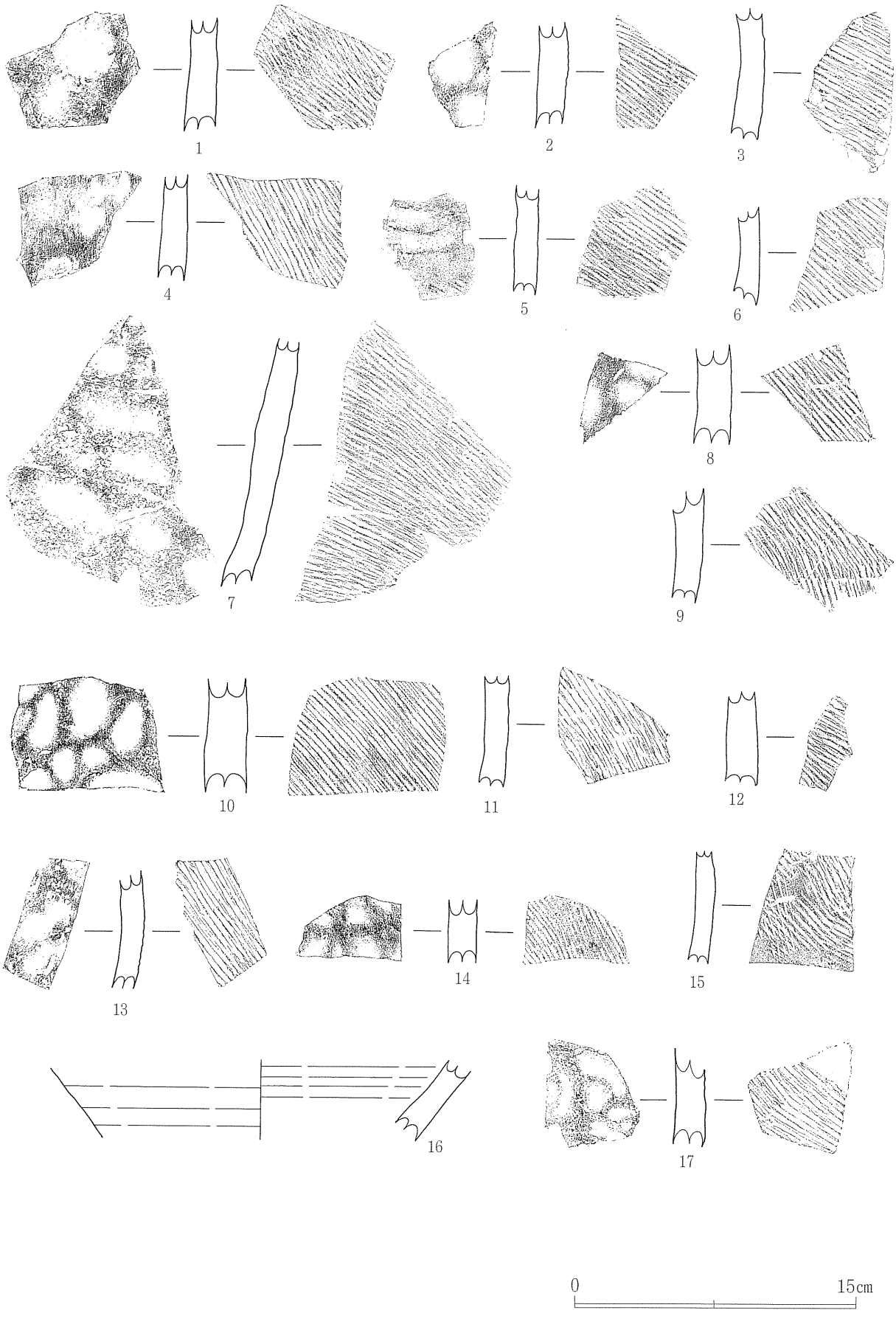
第68図　出土遺物（11）須恵器系中世陶器



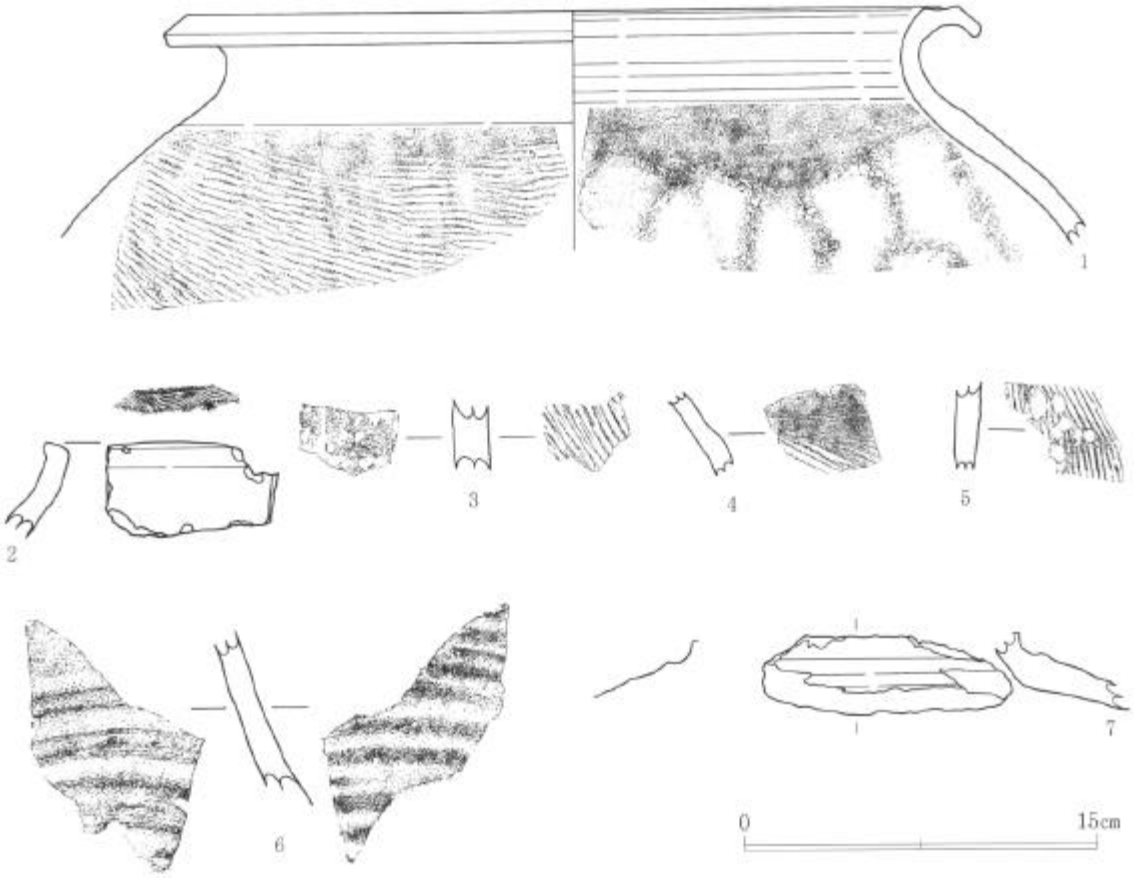
第69図　出土遺物（12）須恵器系中世陶器



第70図　出土遺物（13）須恵器系中世陶器

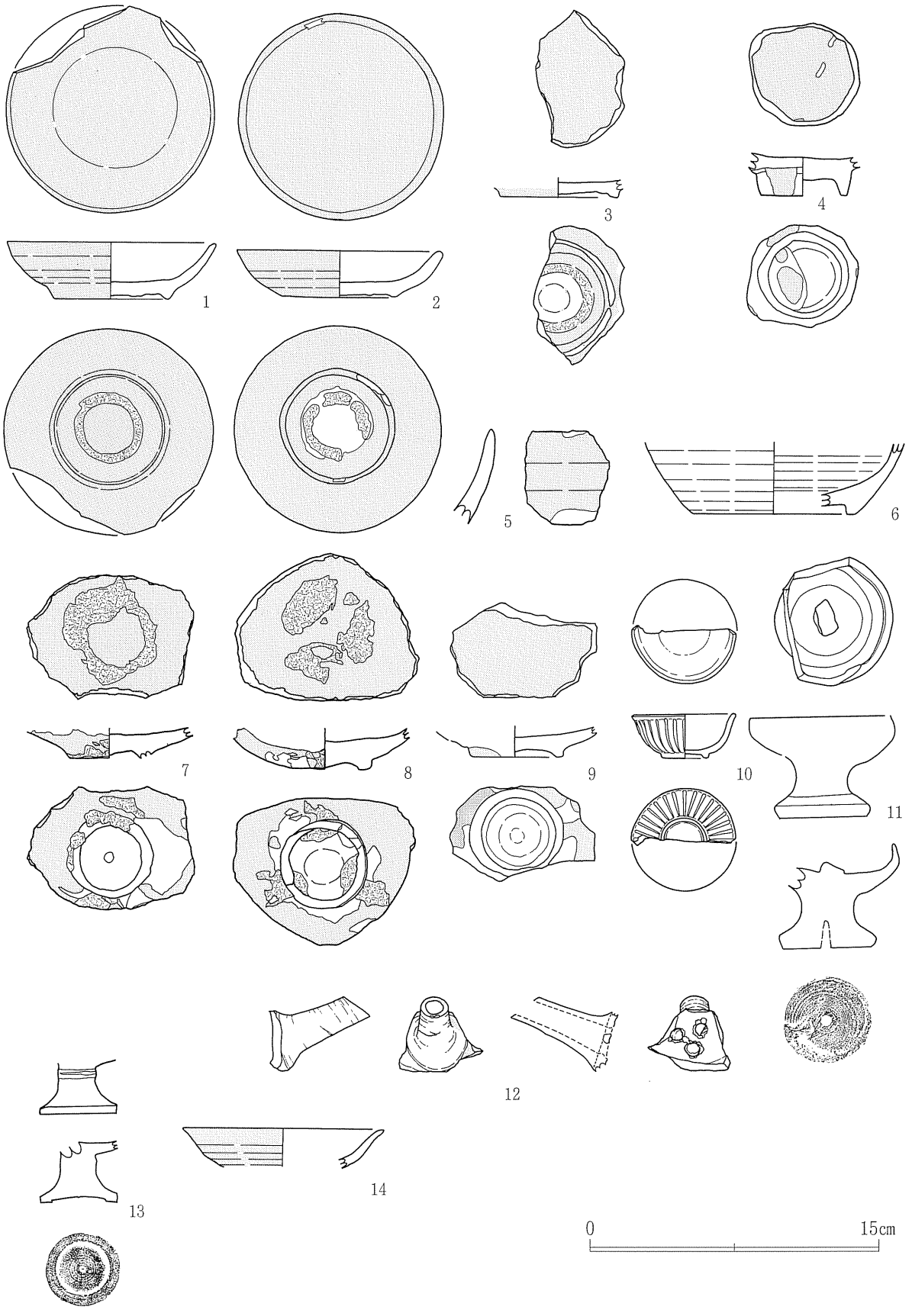


第71図　出土遺物（14）須恵器系中世陶器

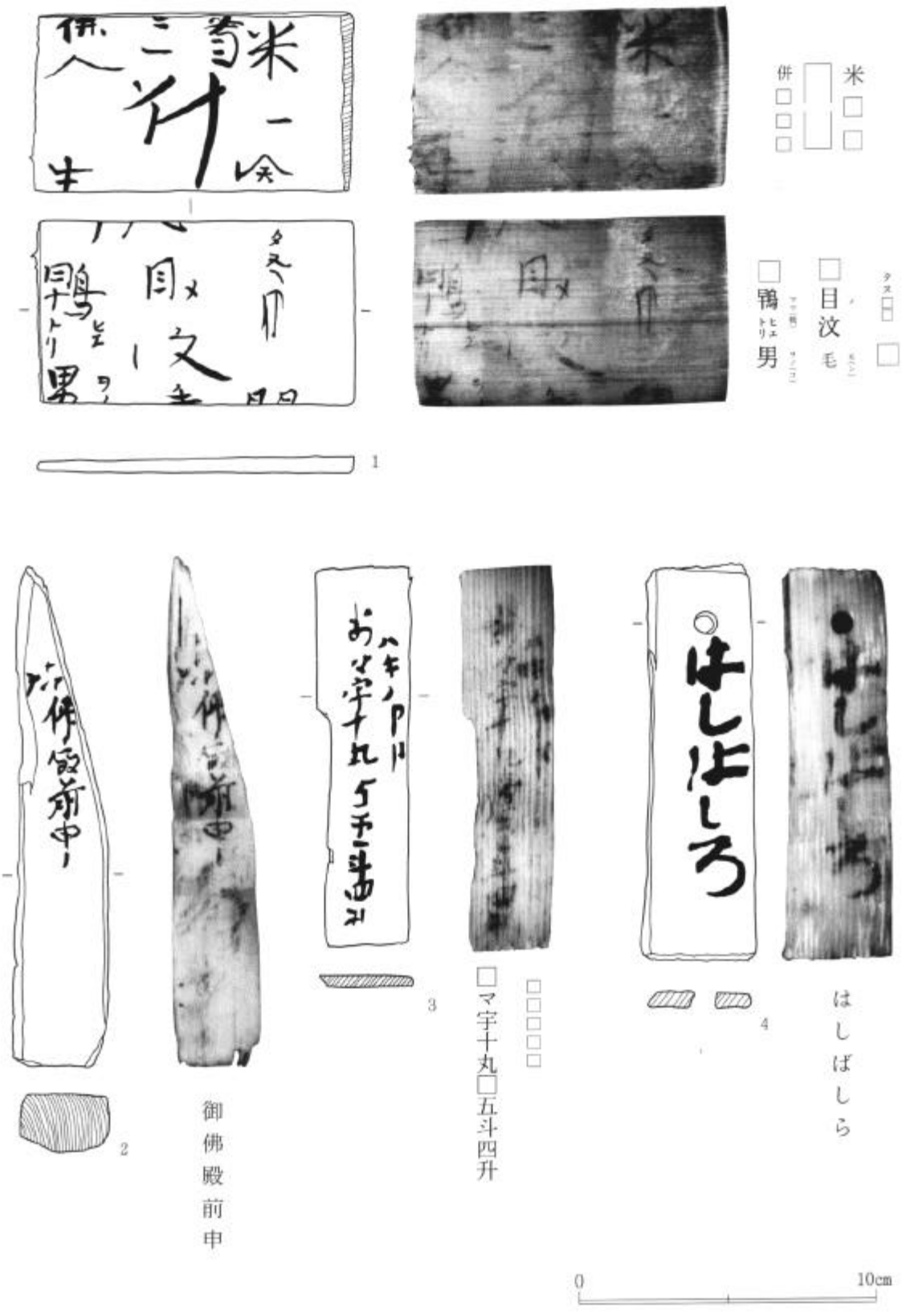


第72図　出土遺物（15）須恵器系中世陶器　他

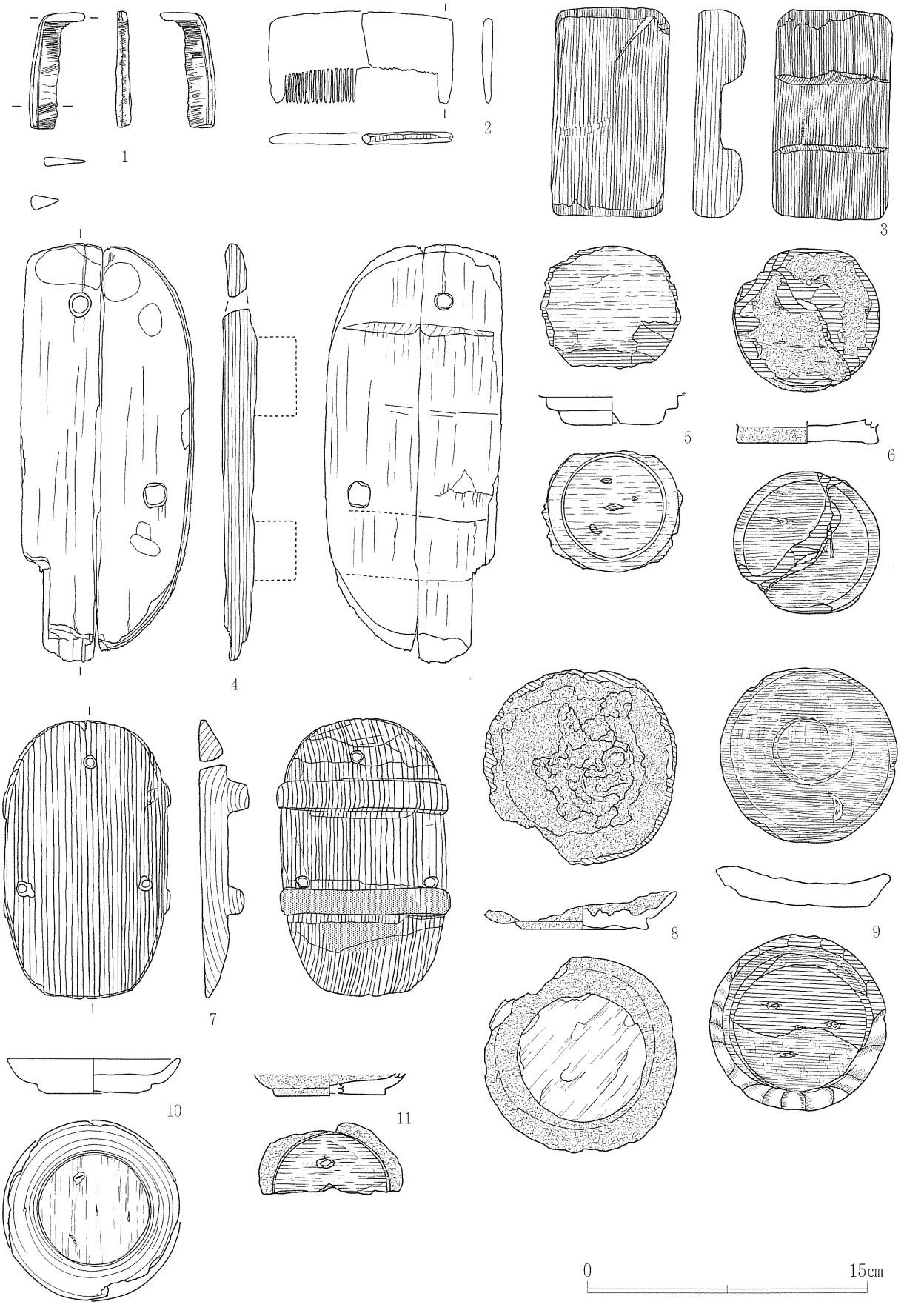
観音寺経塚出土の経甕



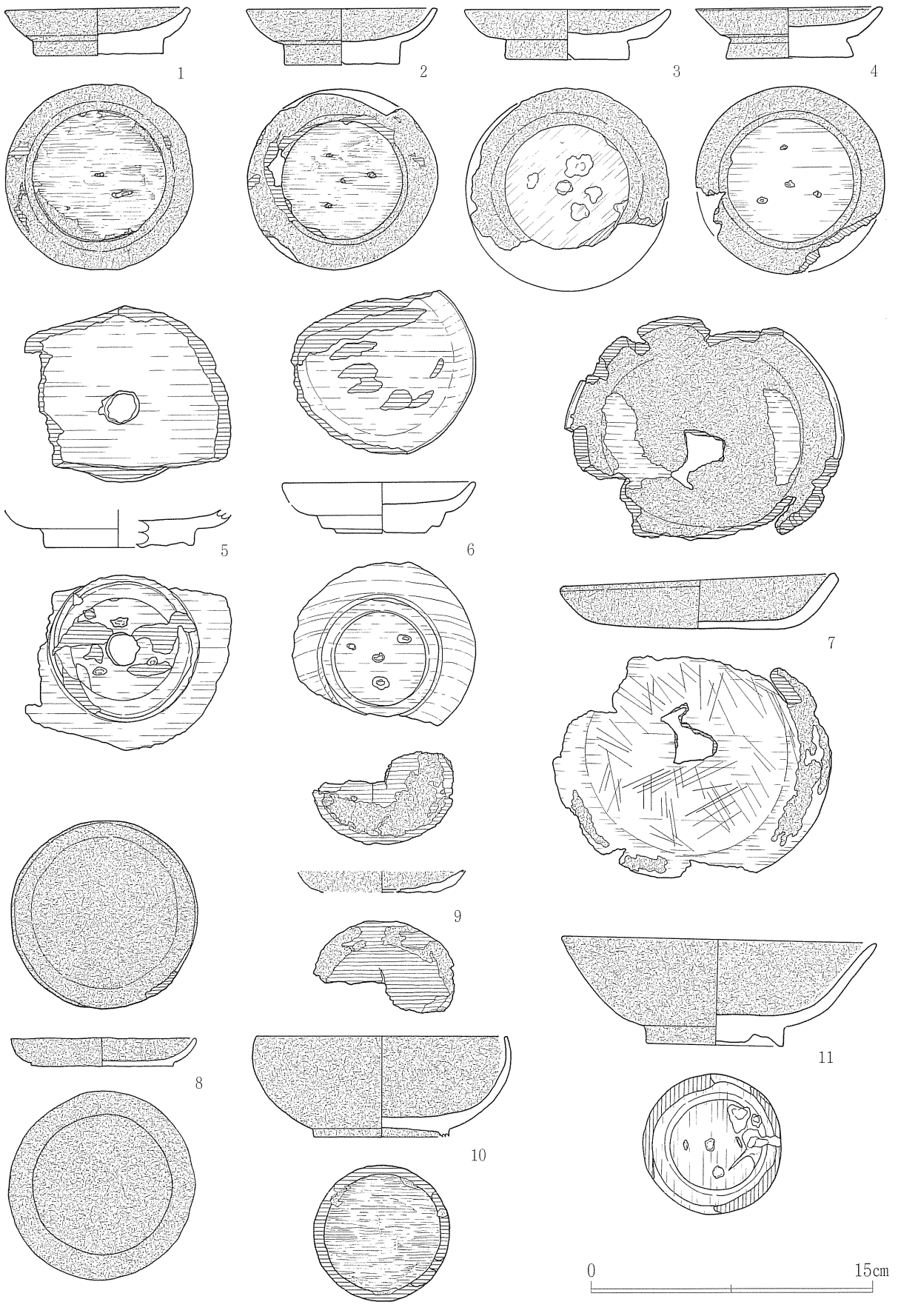
第73図　出土遺物（16）その他陶磁器類



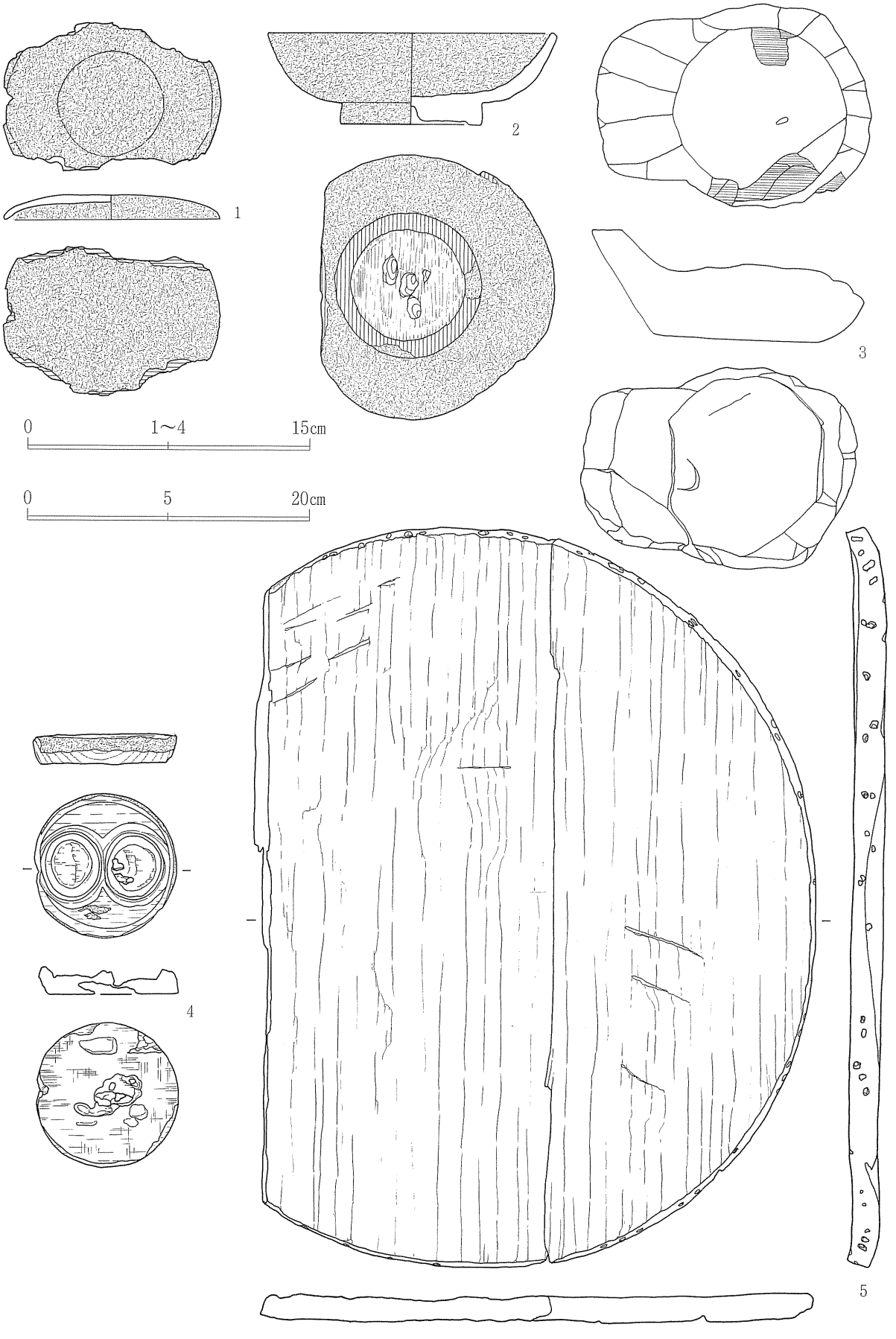
第74図　出土遺物（17）木簡



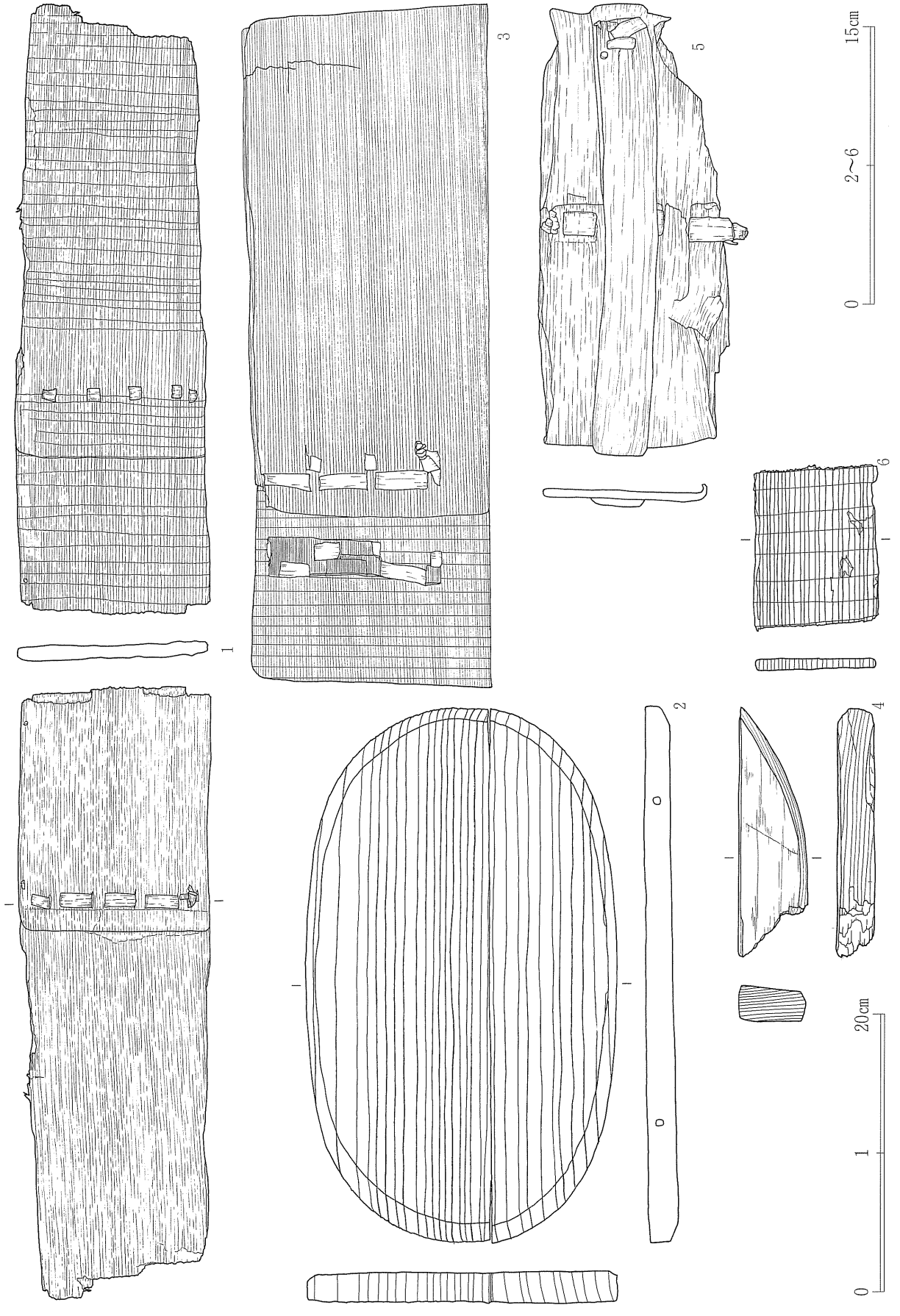
第75図　出土遺物（18）木製品



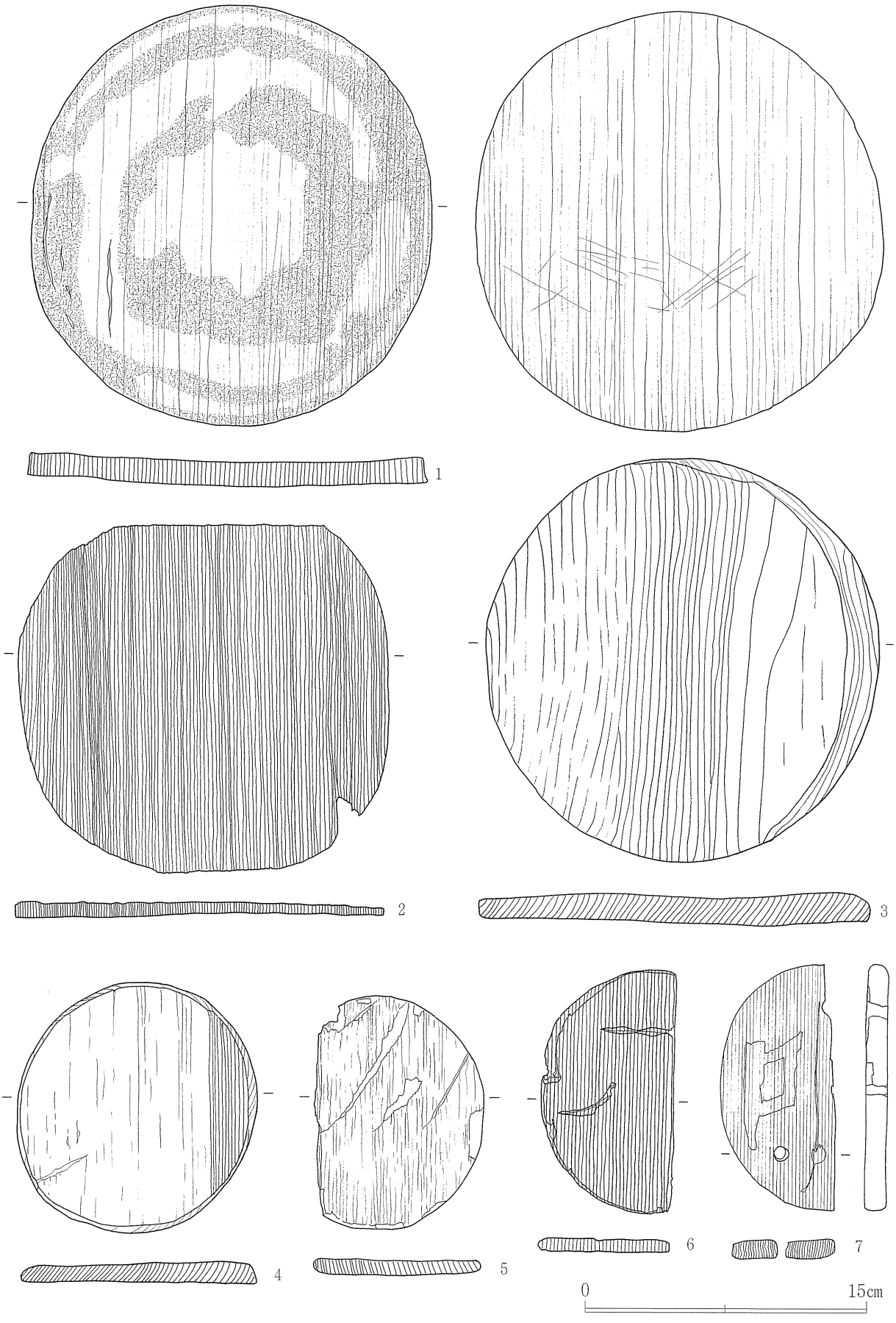
第76図　出土遺物（19）木製品



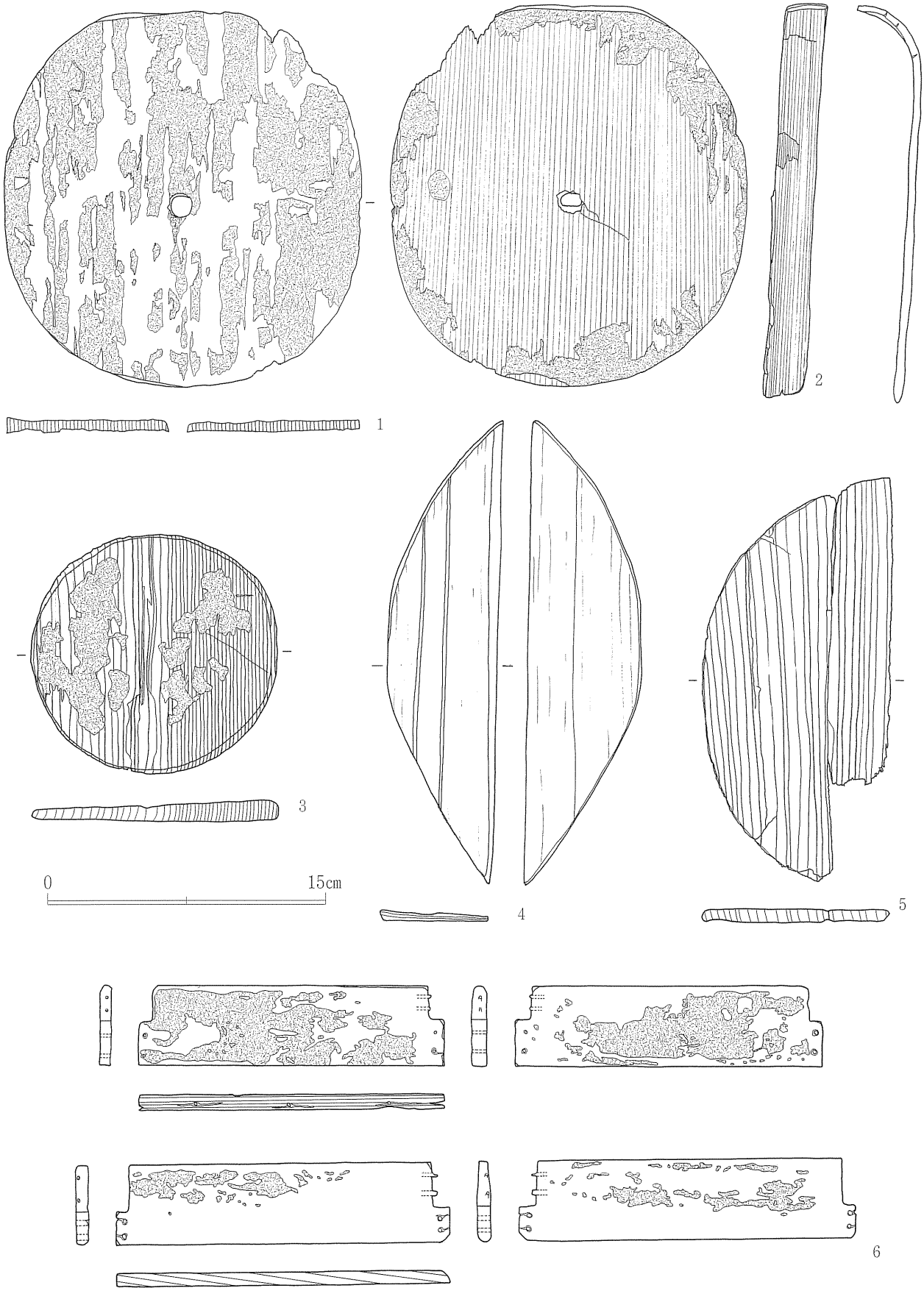
第77図　出土遺物（20）木製品



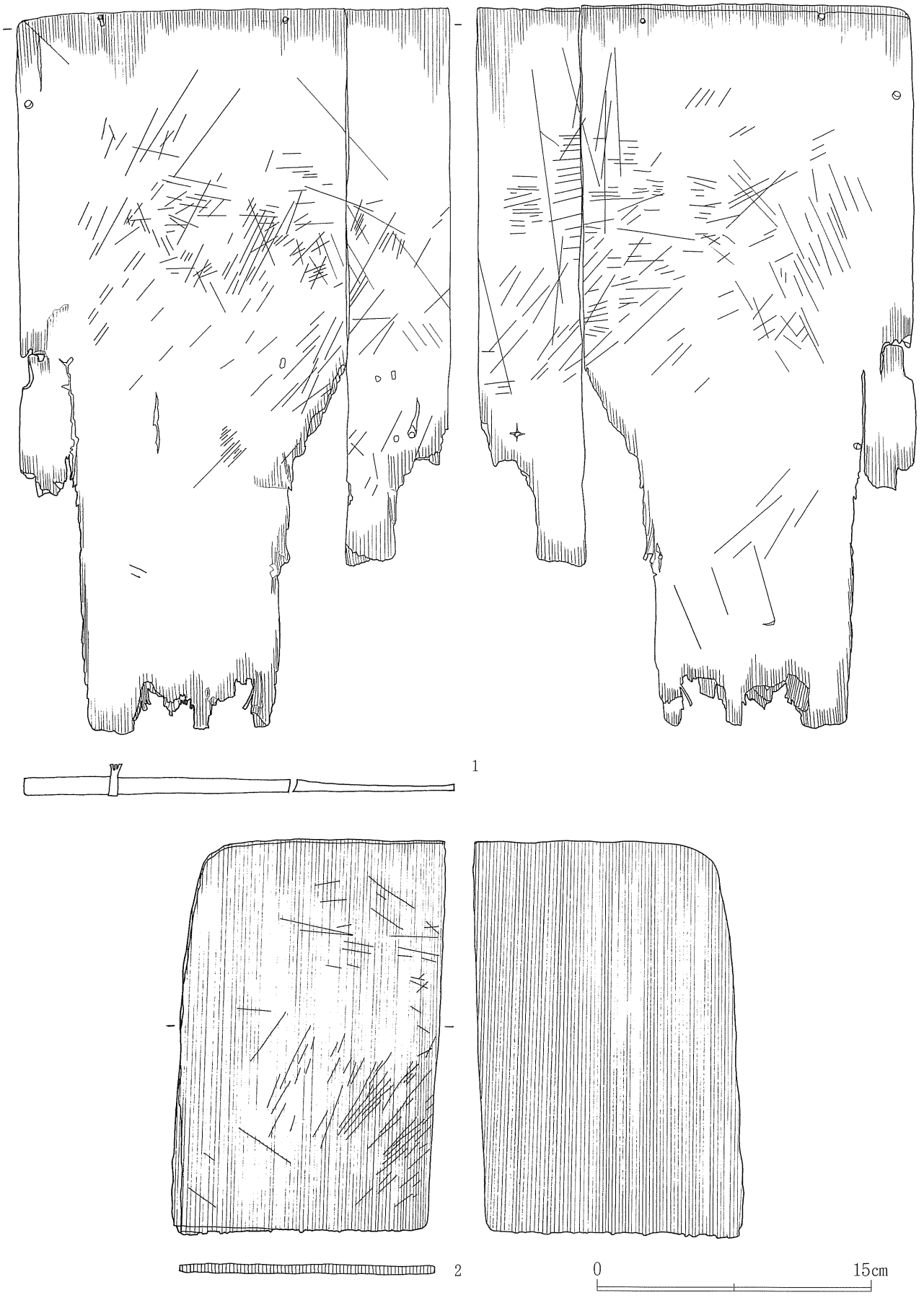
第78図　出土遺物（21）木製品



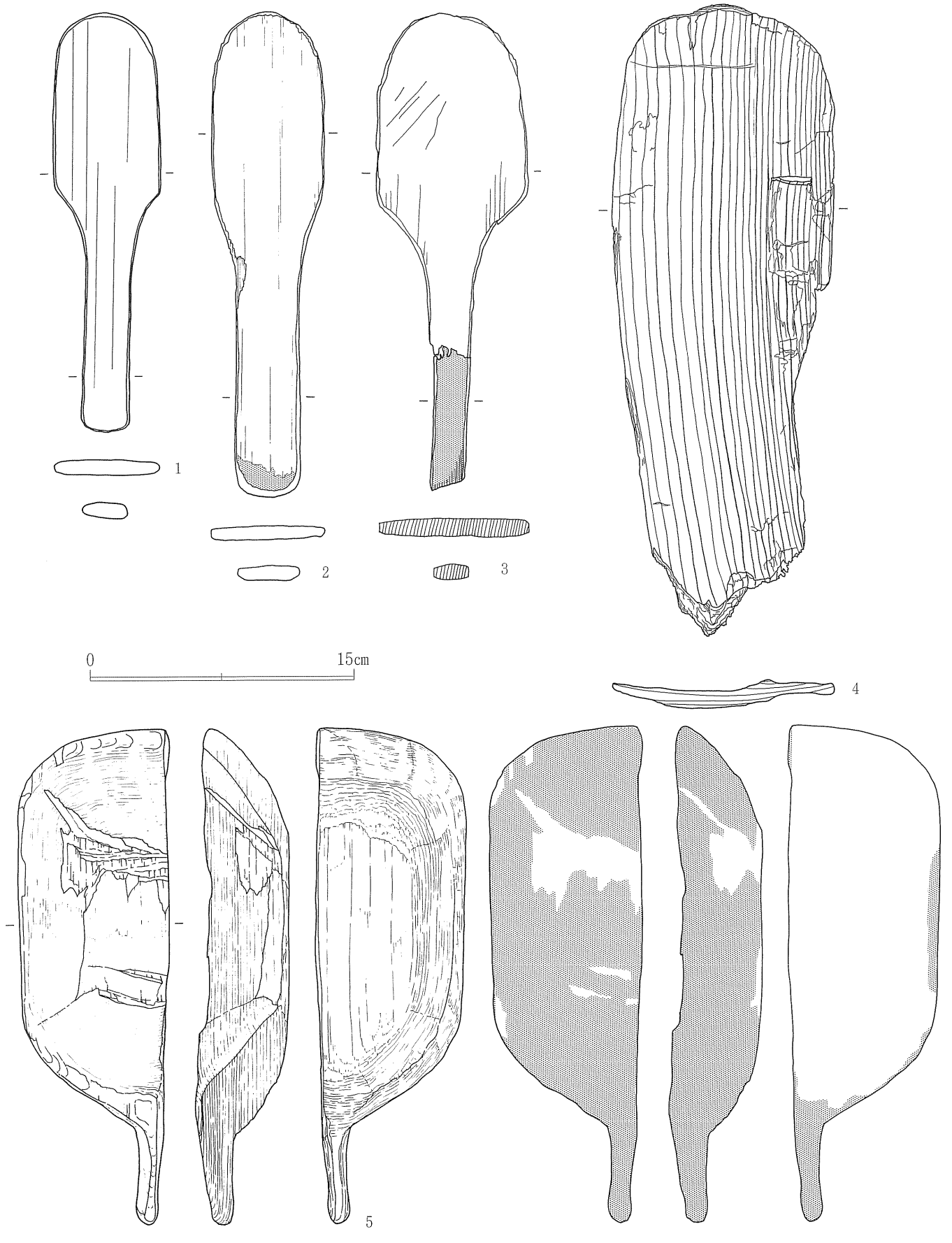
第79図　出土遺物（22）木製品



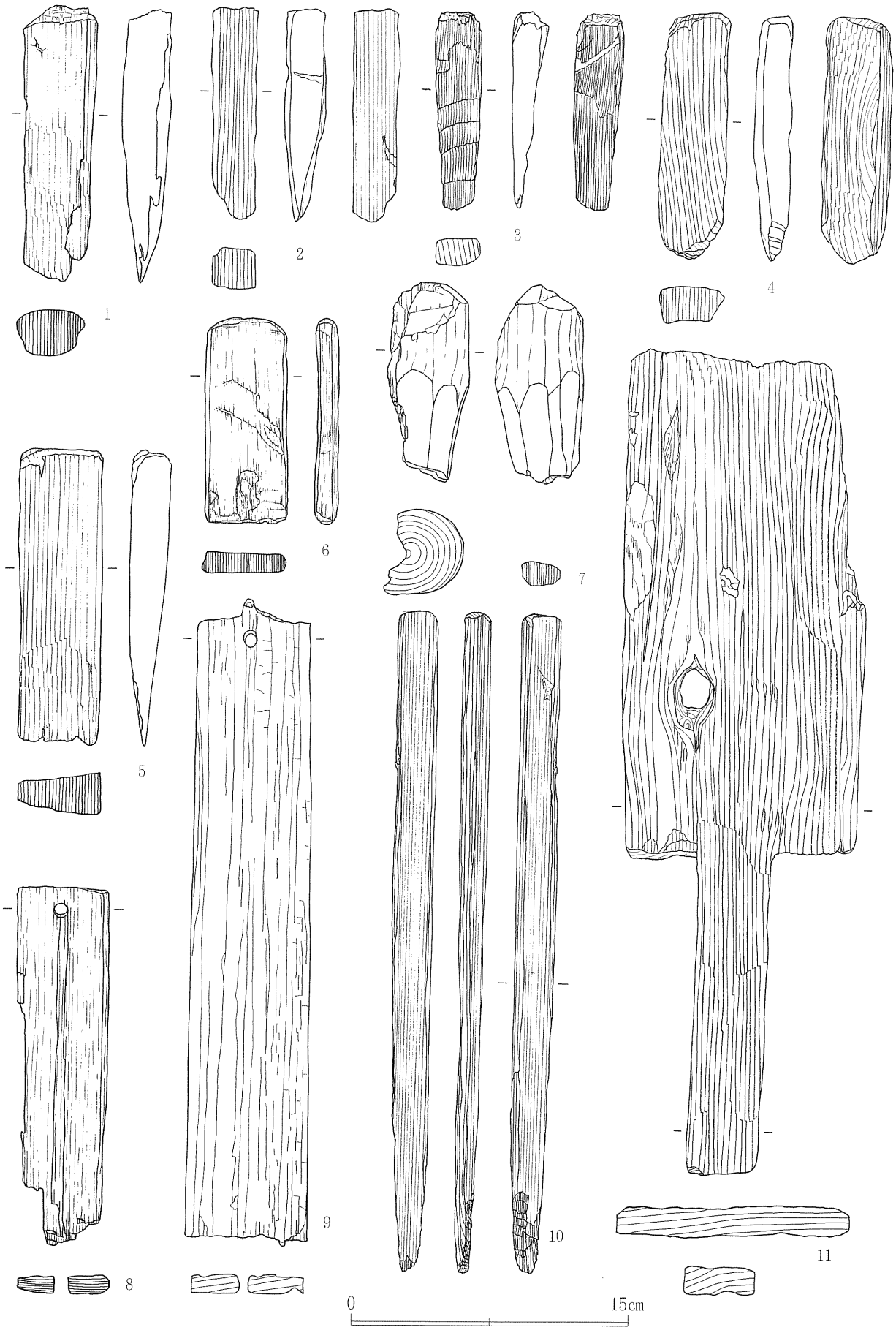
第80図　出土遺物（23）木製品



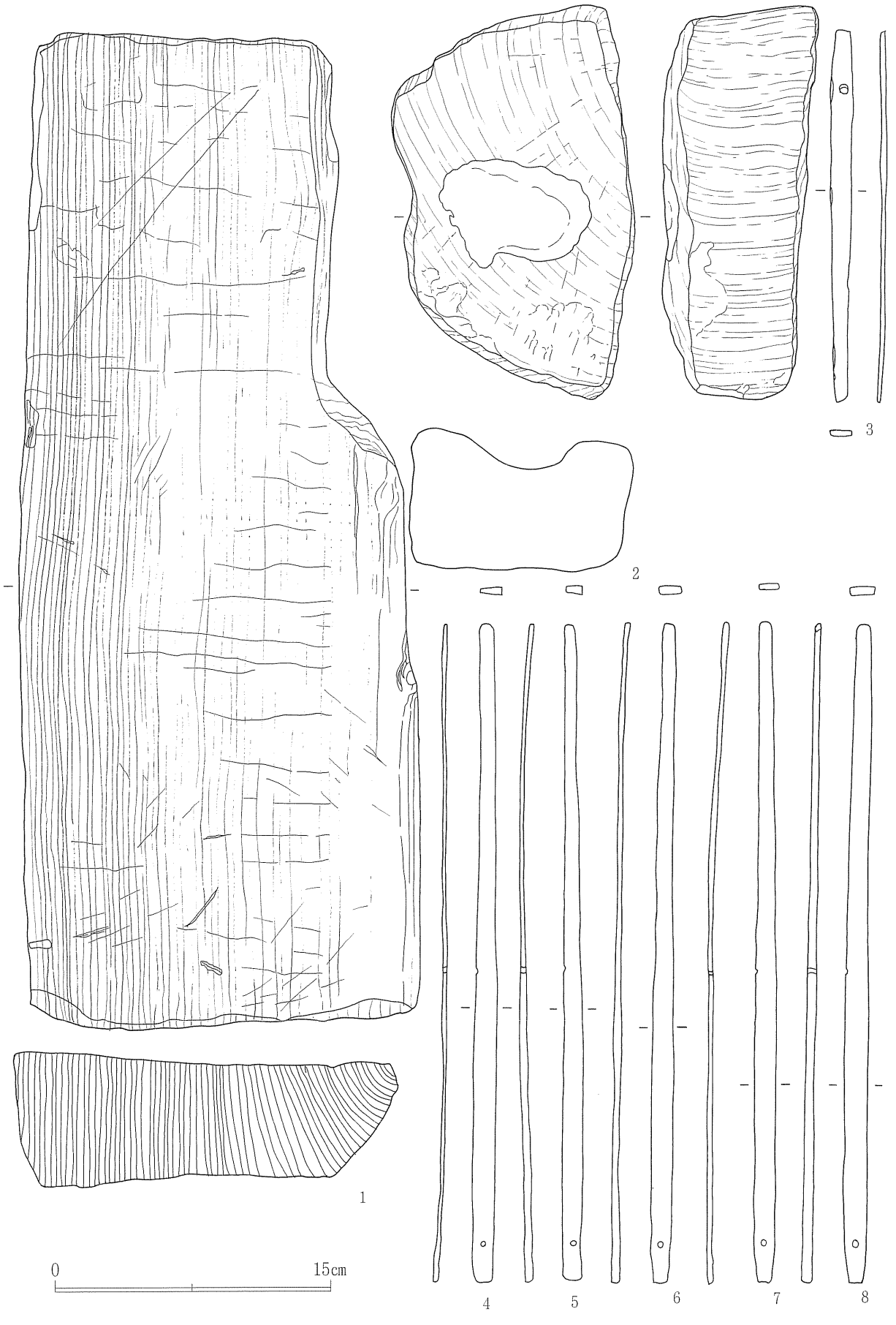
第81図　出土遺物（24）木製品



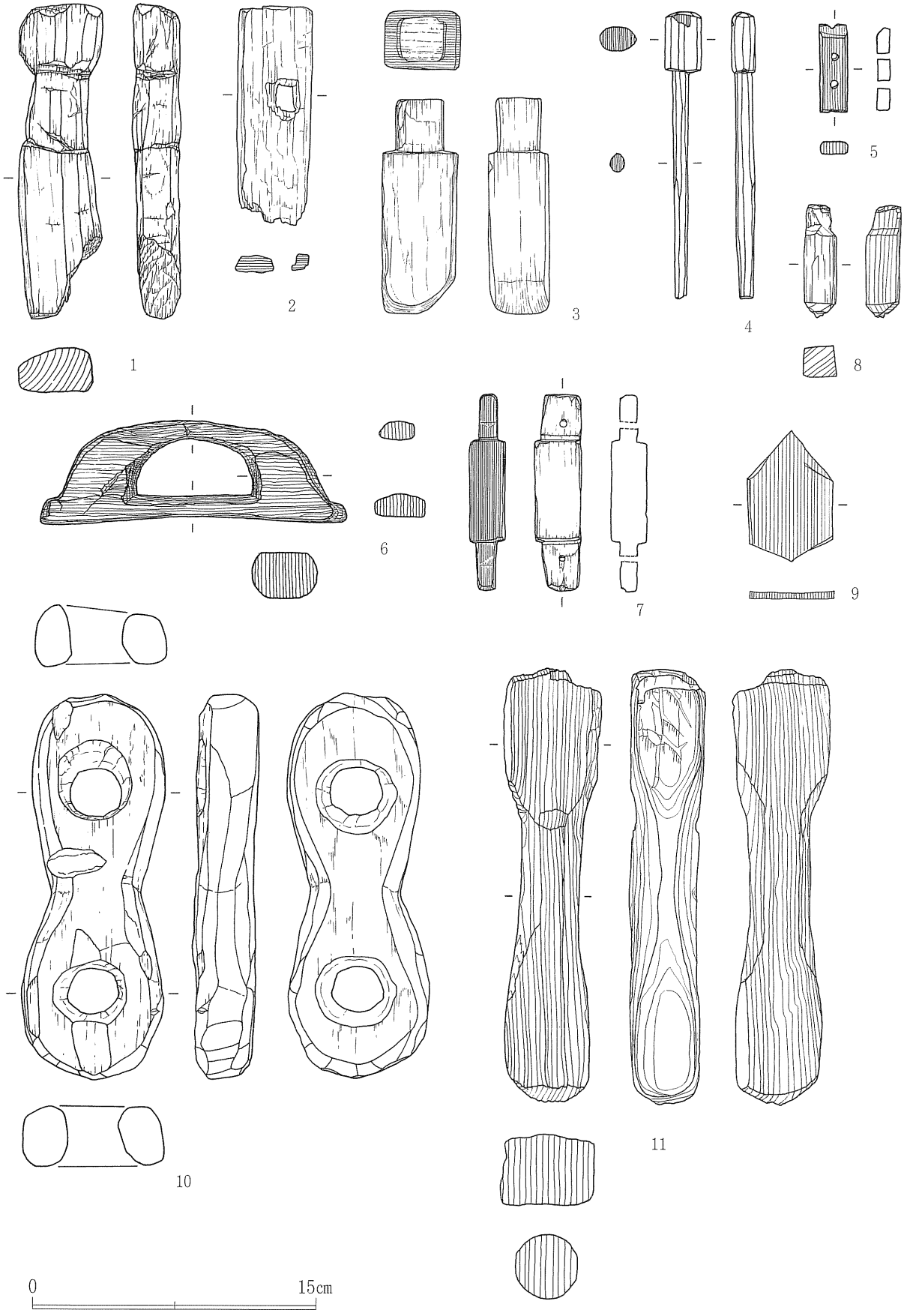
第82図　出土遺物（25）木製品



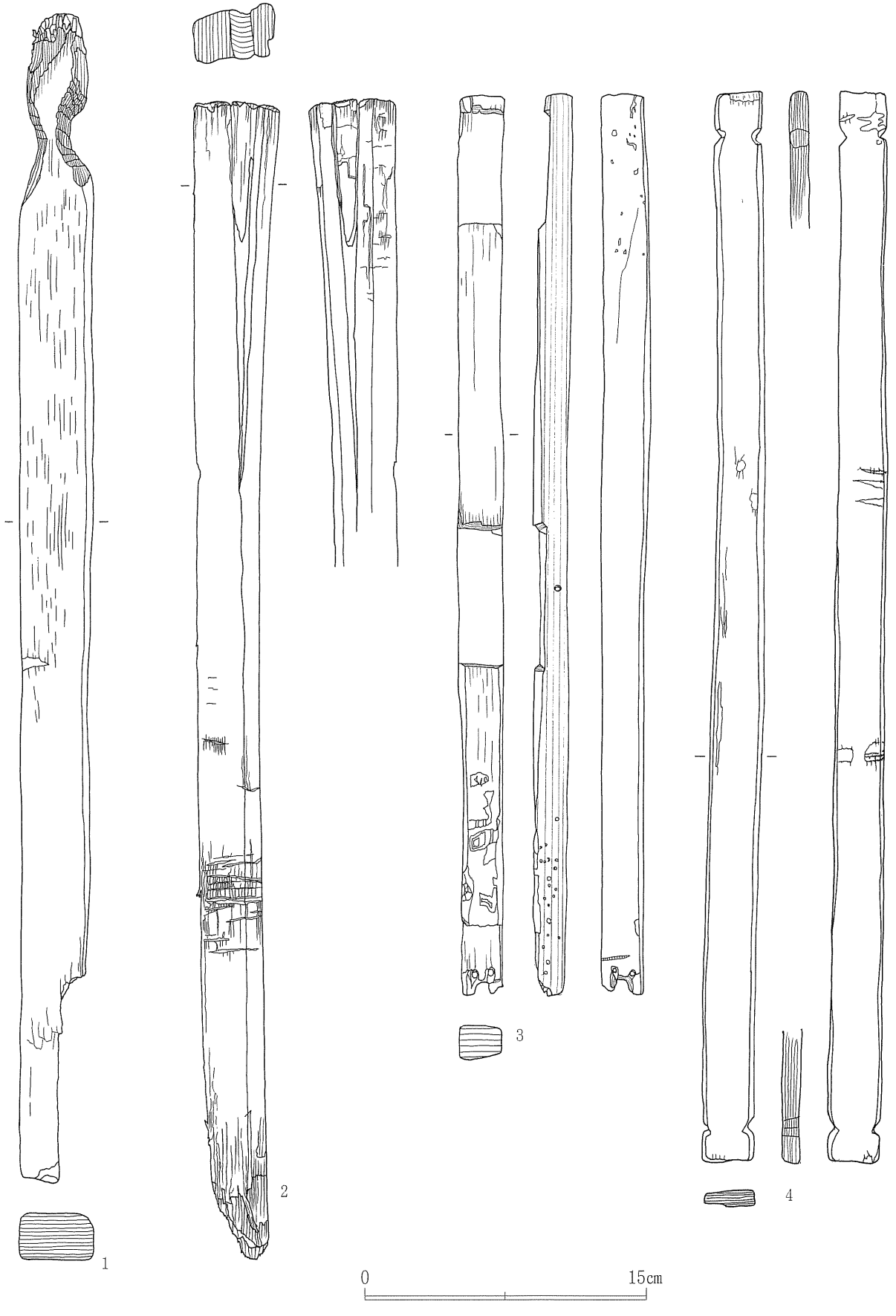
第83図　出土遺物（26）木製品



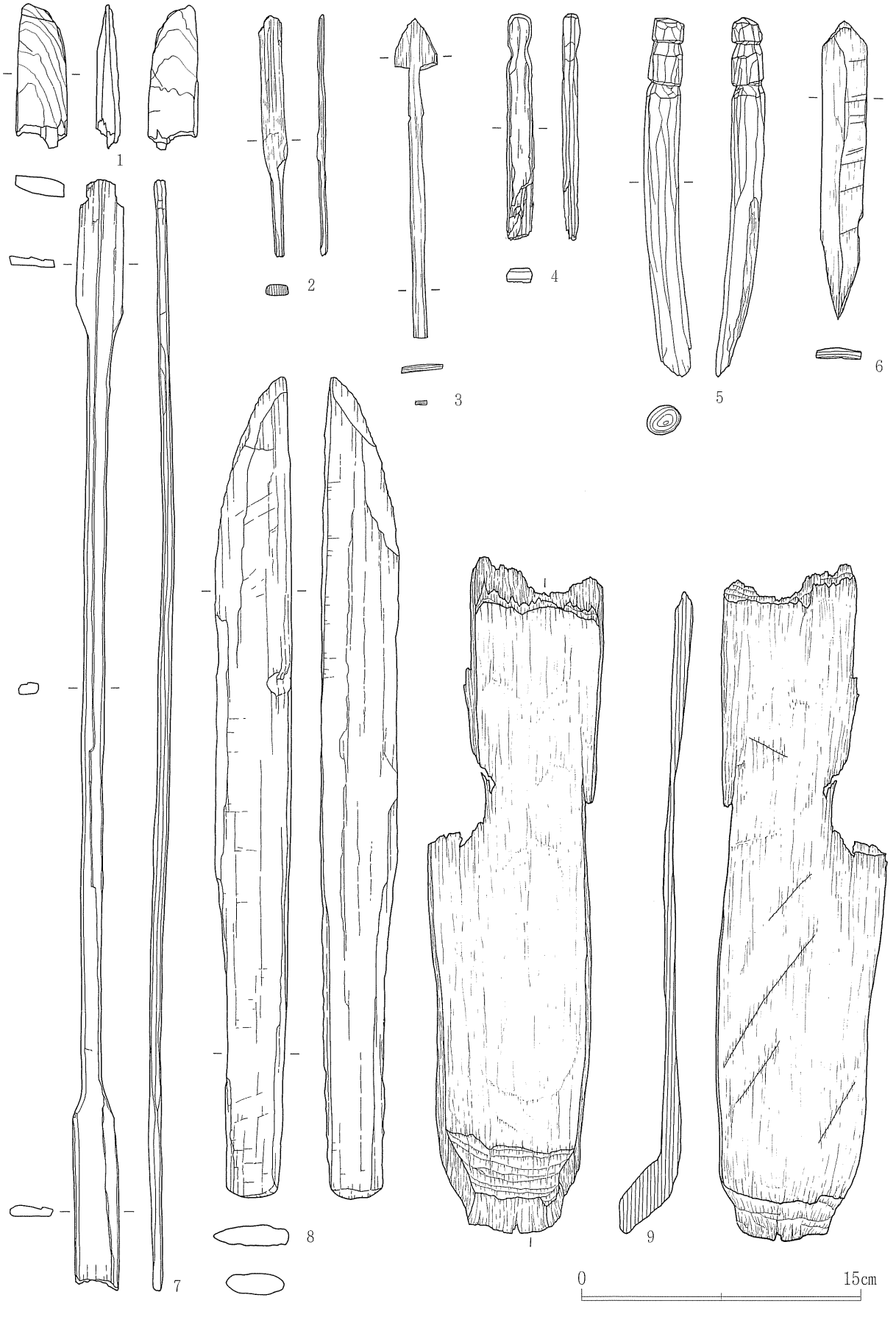
第84図　出土遺物（27）木製品



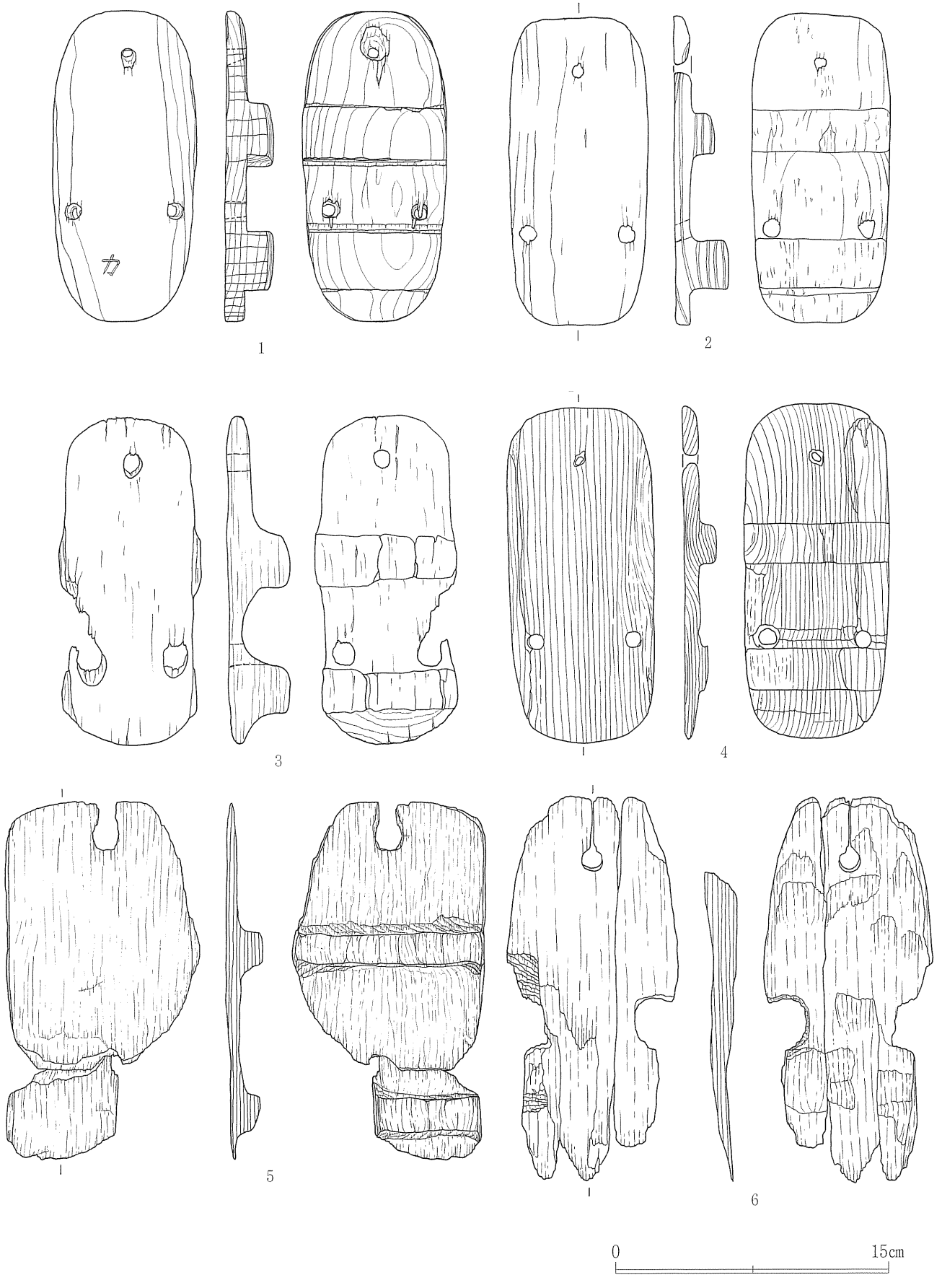
第85図　出土遺物（28）木製品



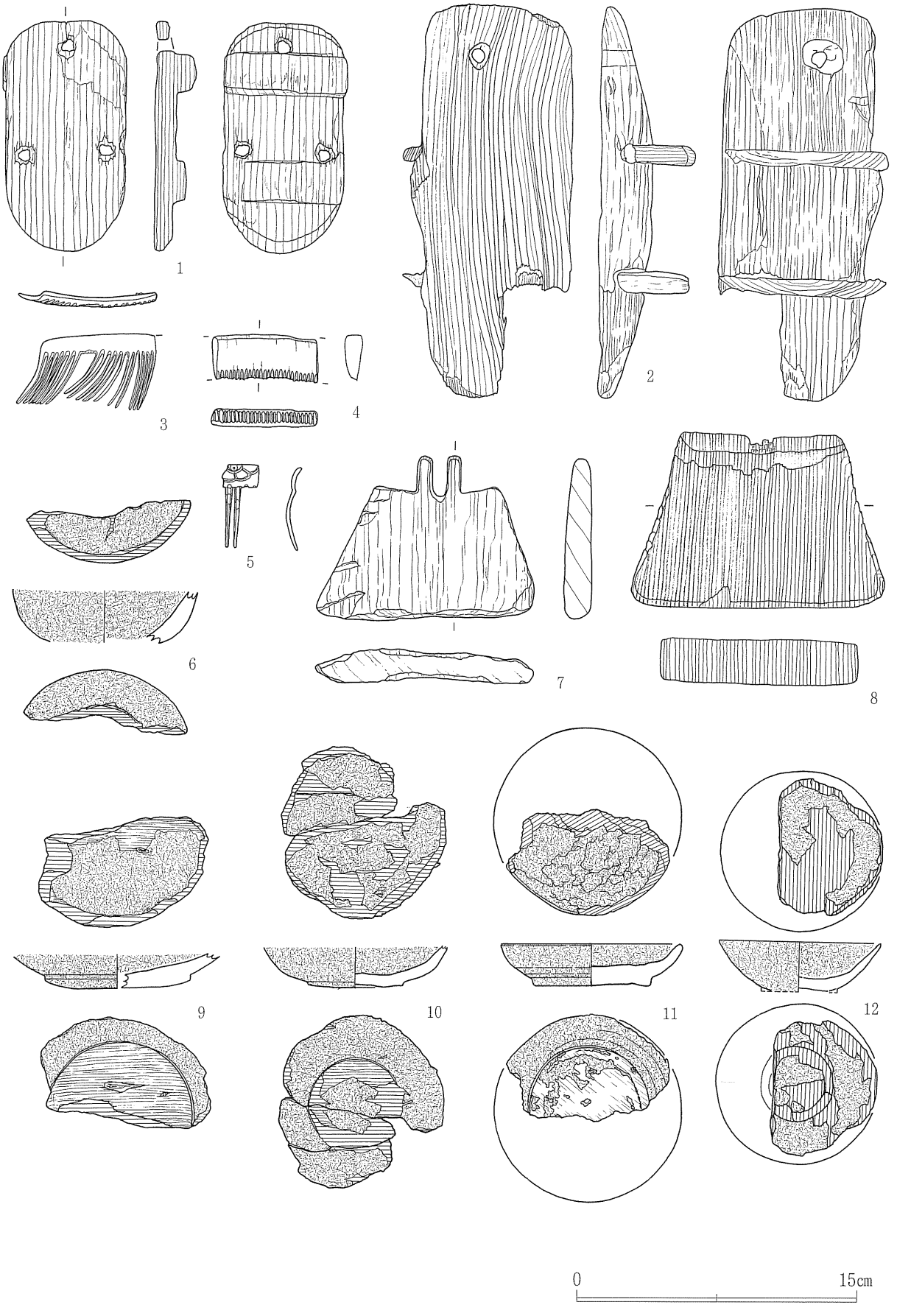
第86図　出土遺物（29）木製品



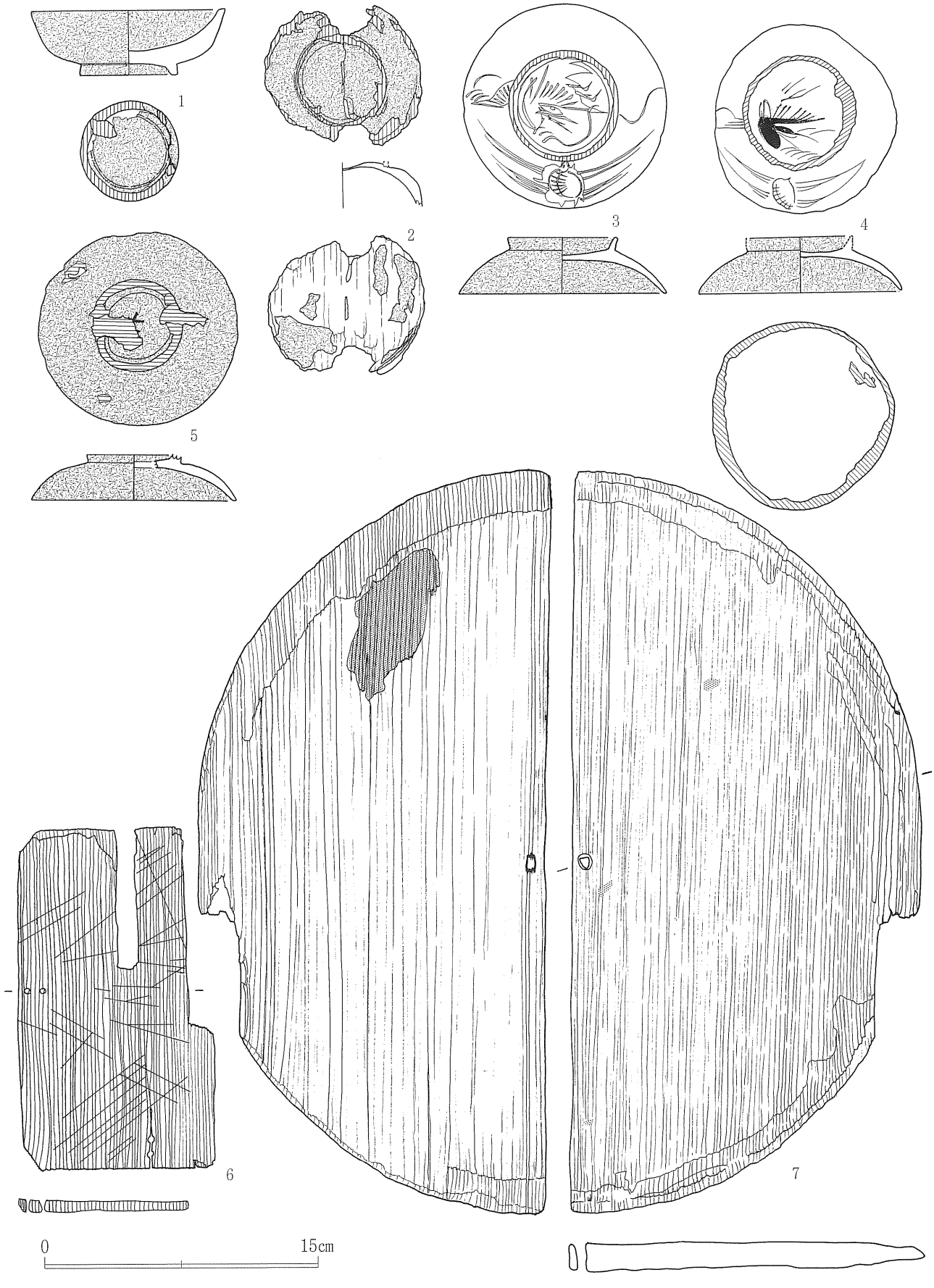
第87図　出土遺物（30）木製品



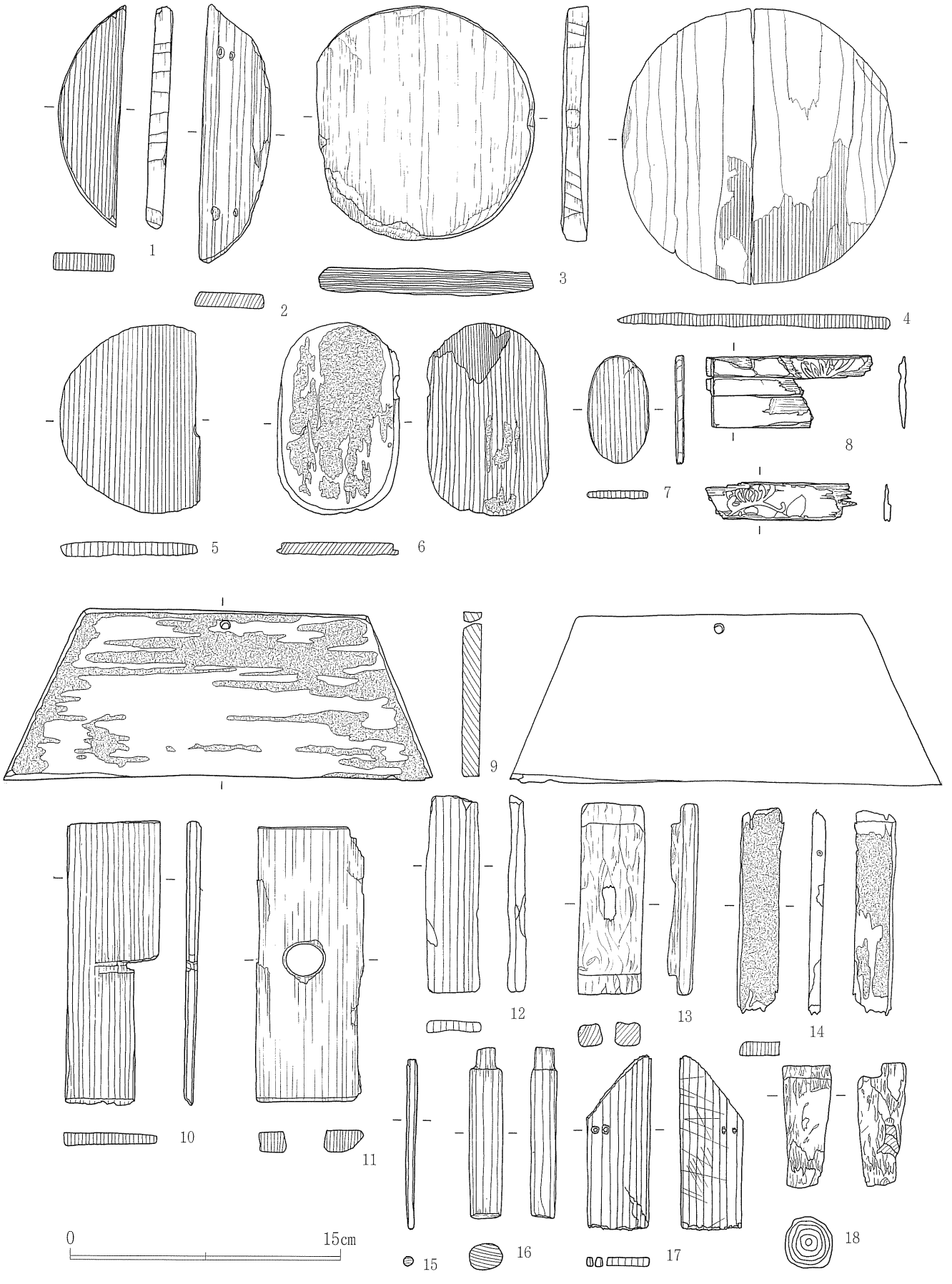
第88図　出土遺物（31）木製品



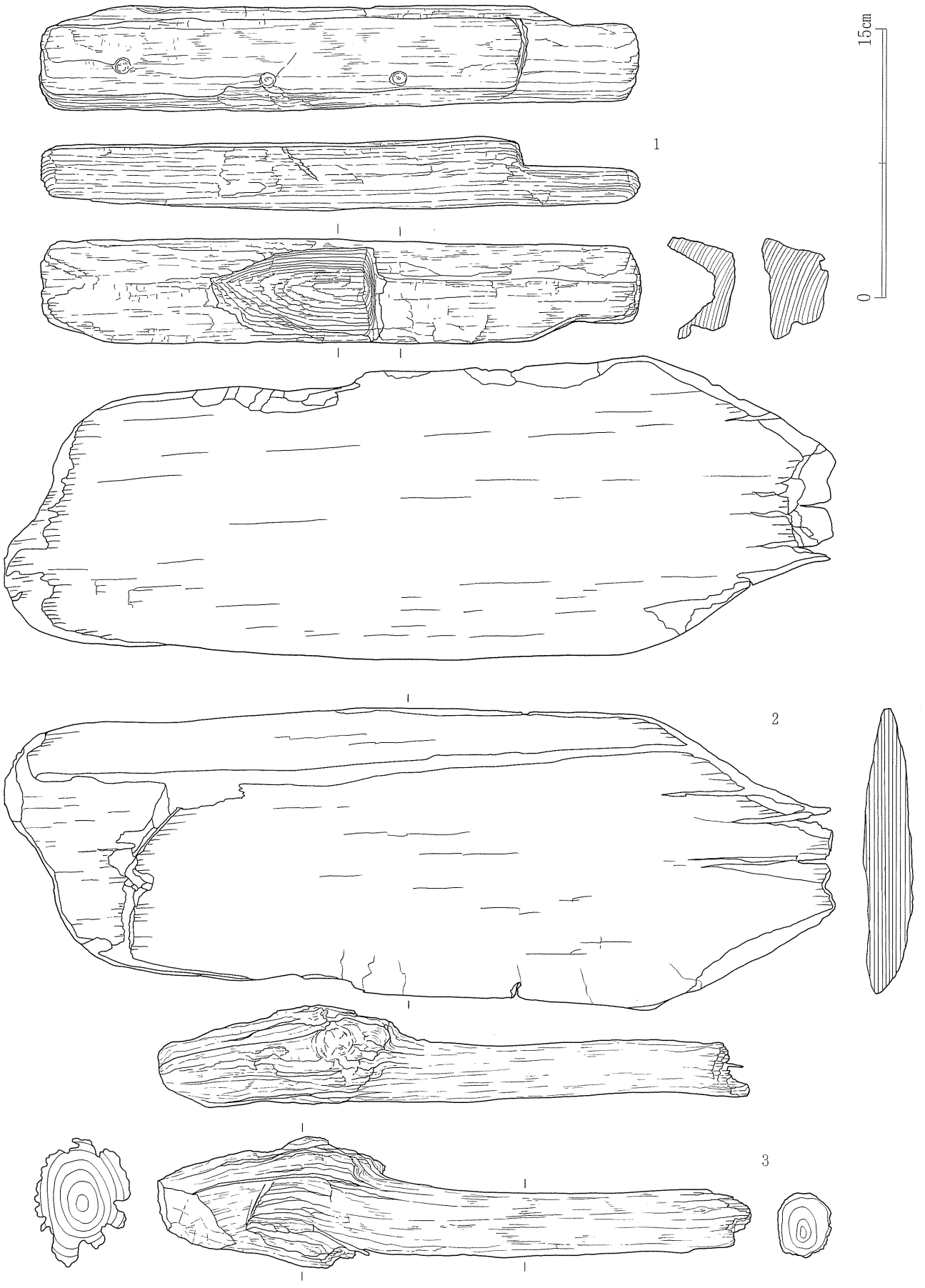
第89図　出土遺物（32）木製品



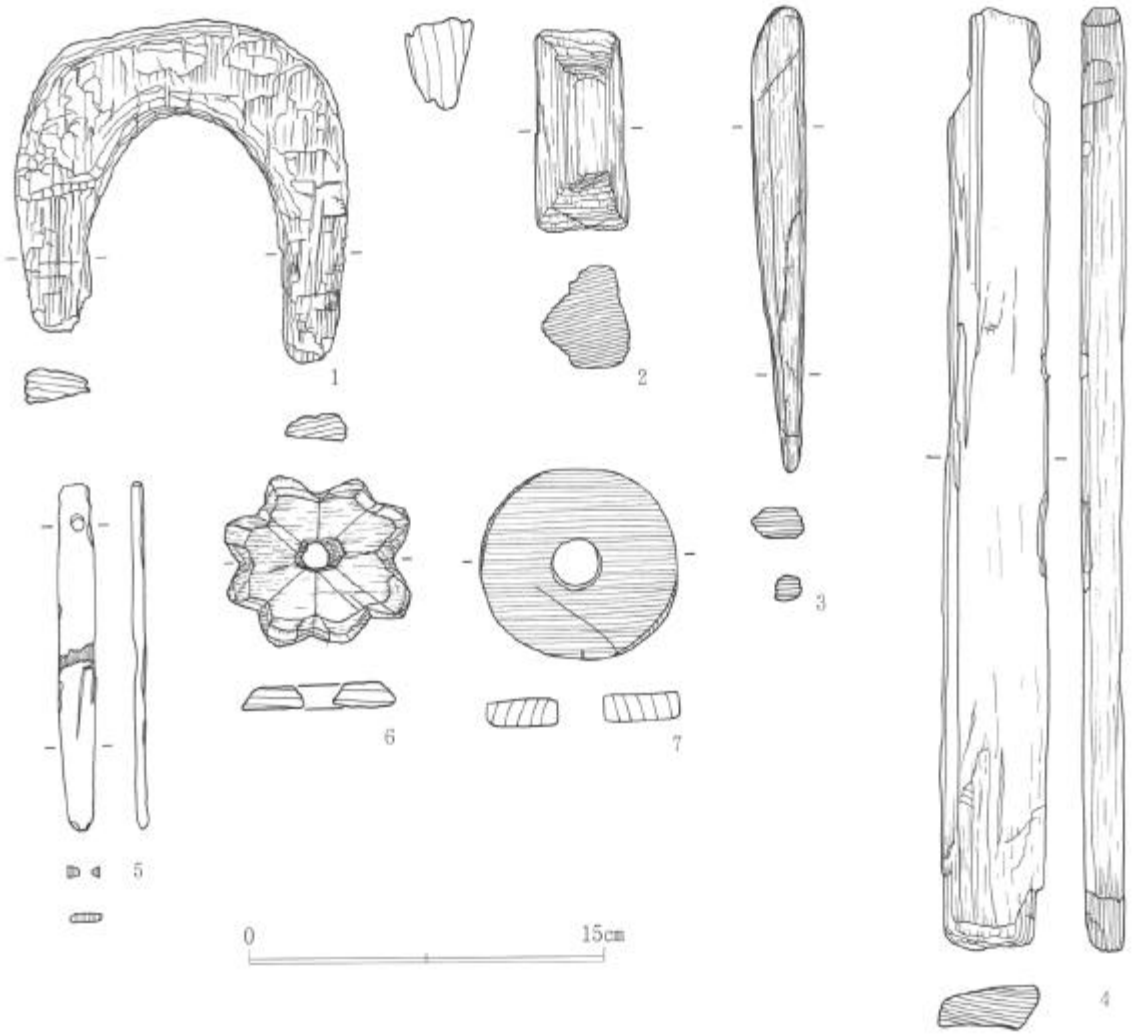
第90図　出土遺物（33）木製品



第91図　出土遺物（34）木製品

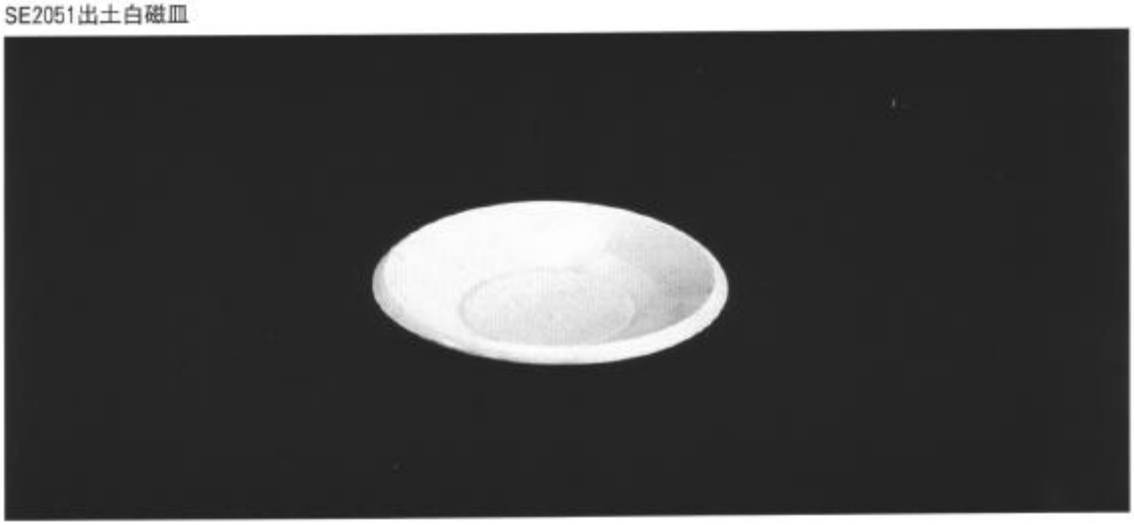


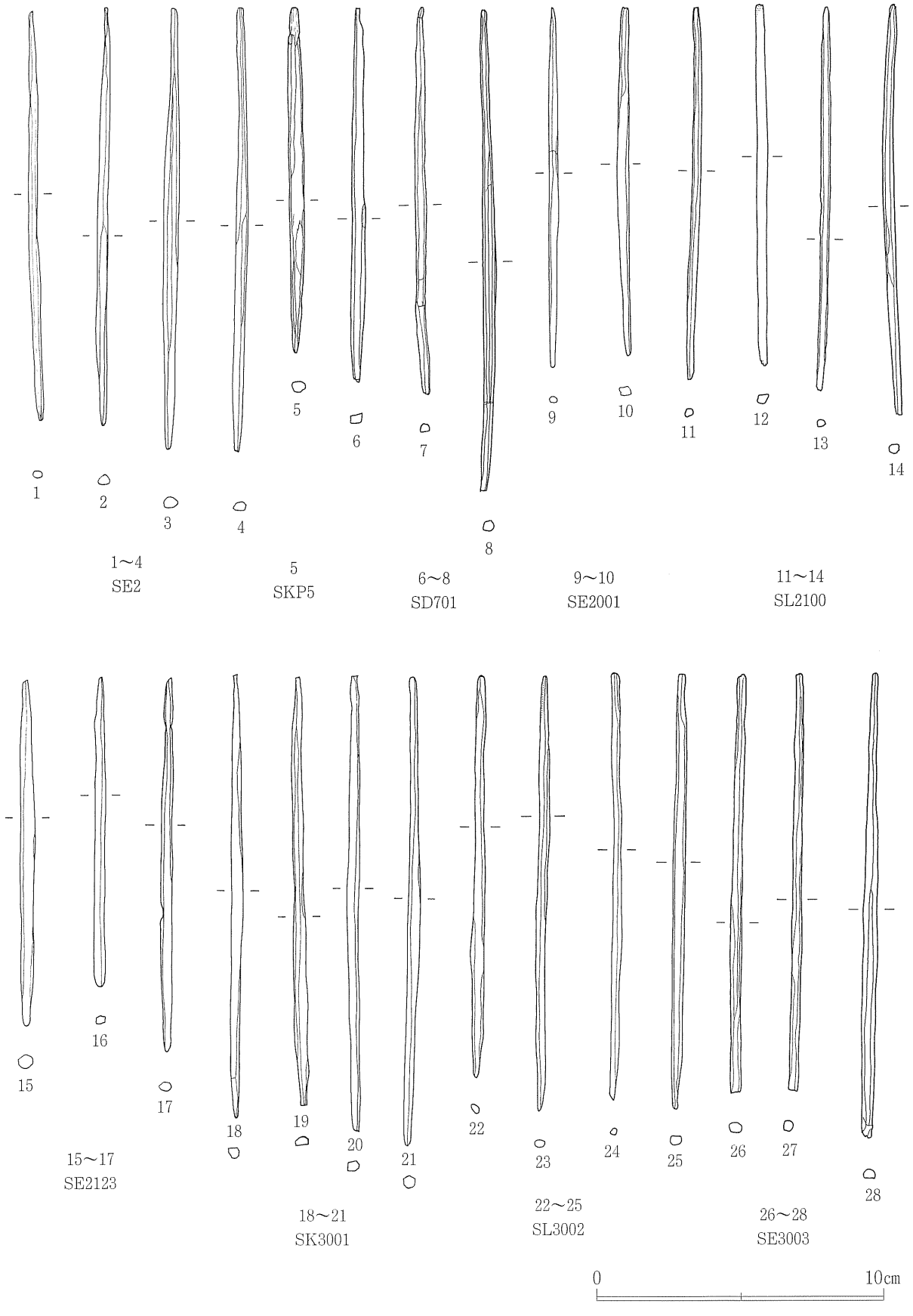
第92図　出土遺物（35）木製品



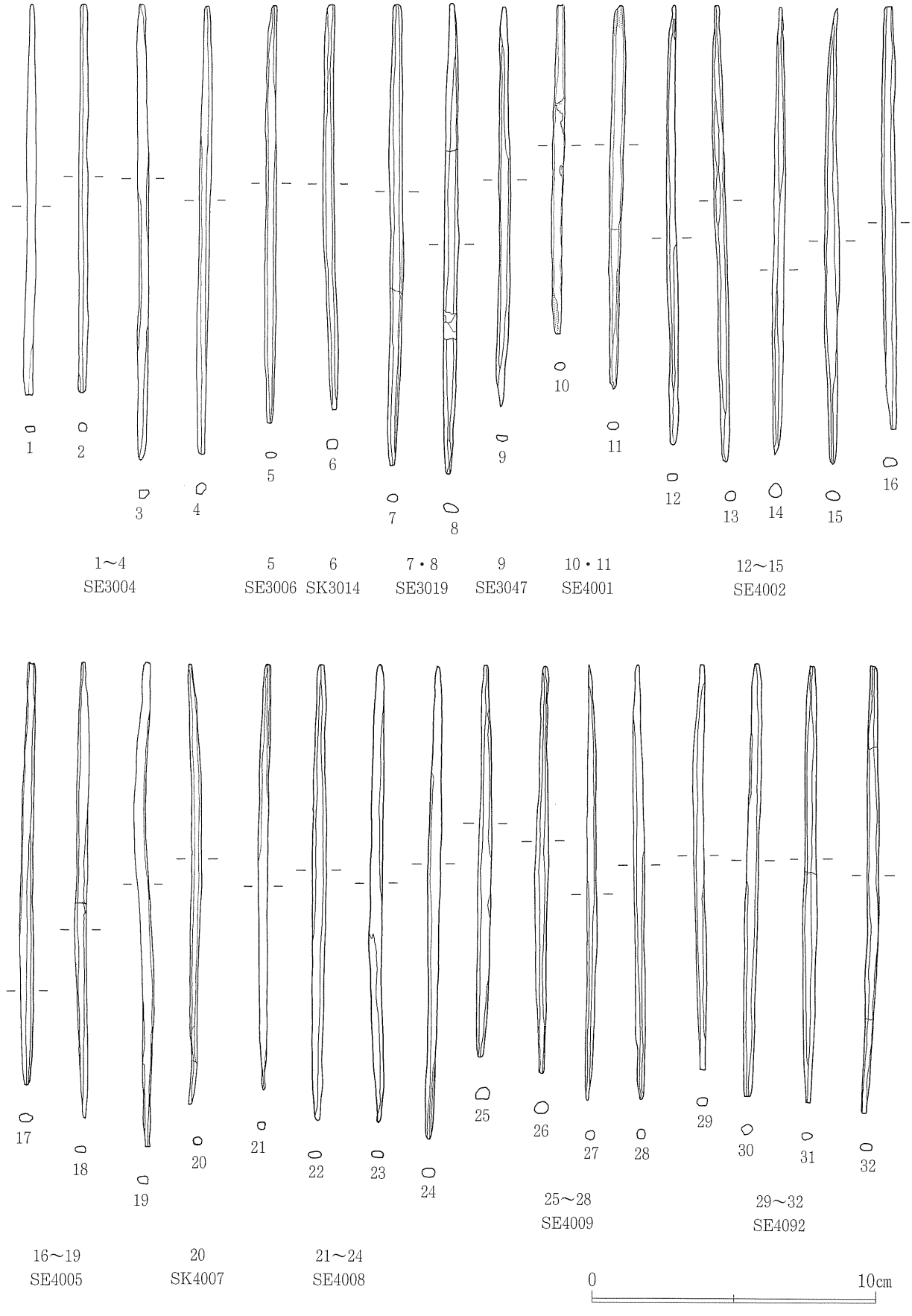
第93図　出土遺物（36）木製品

SE2051出土白磁皿

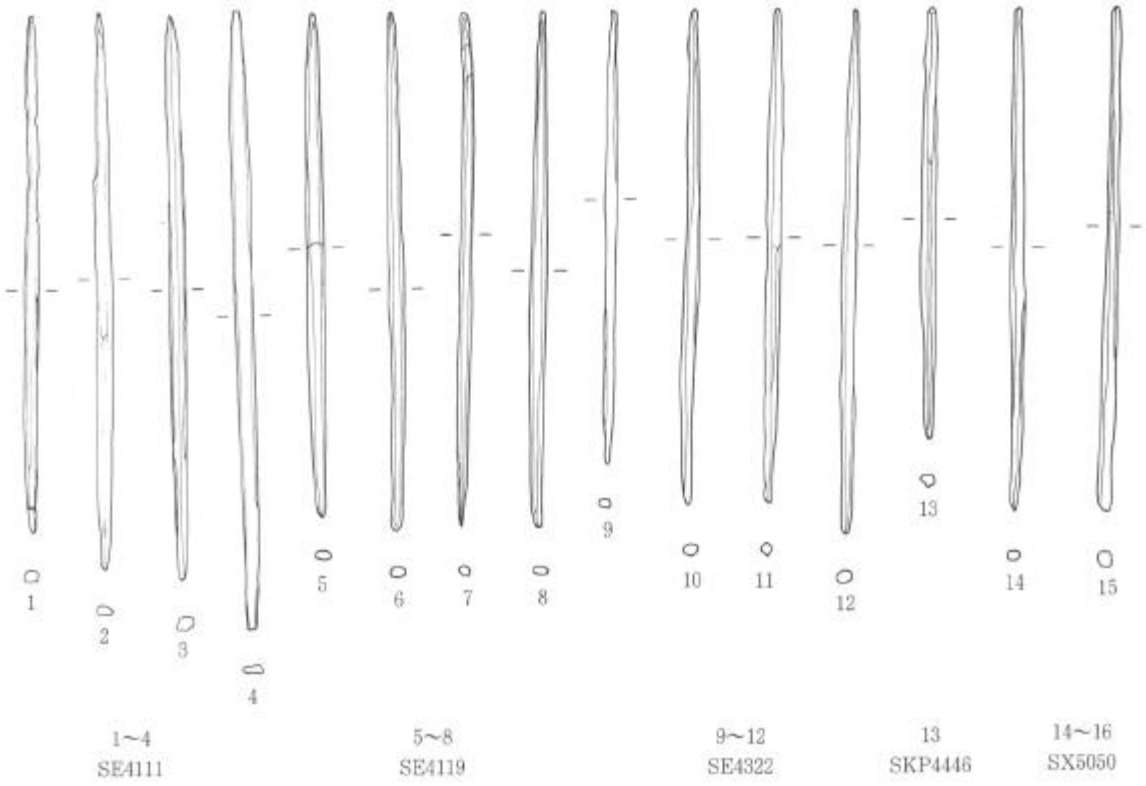


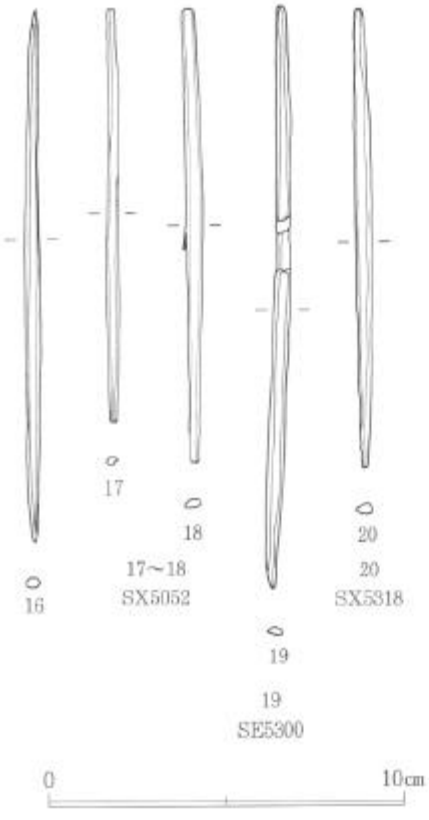


第94図　出土遺物（37）箸状木製品



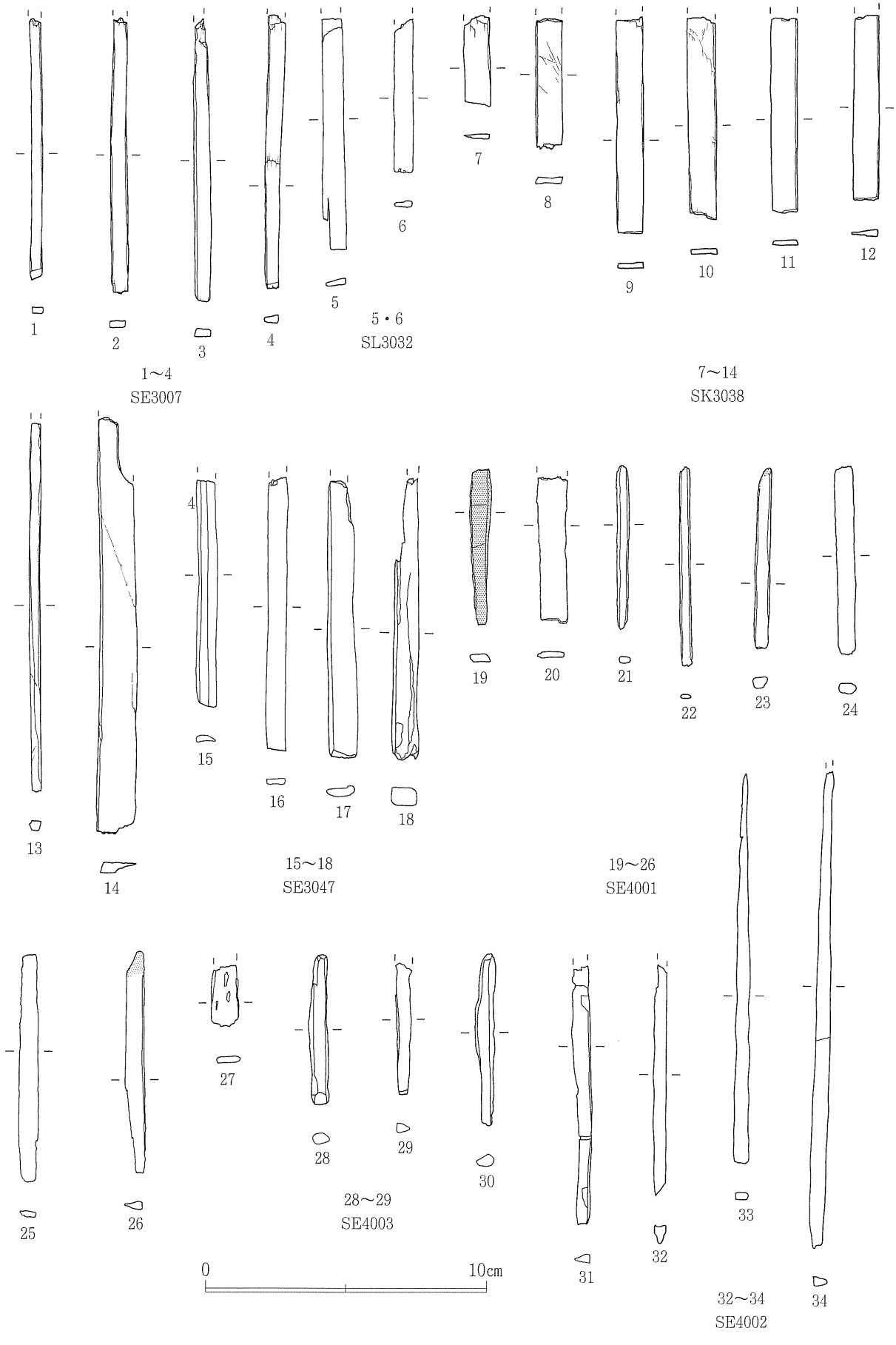
第95図　出土遺物（38）箸状木製品



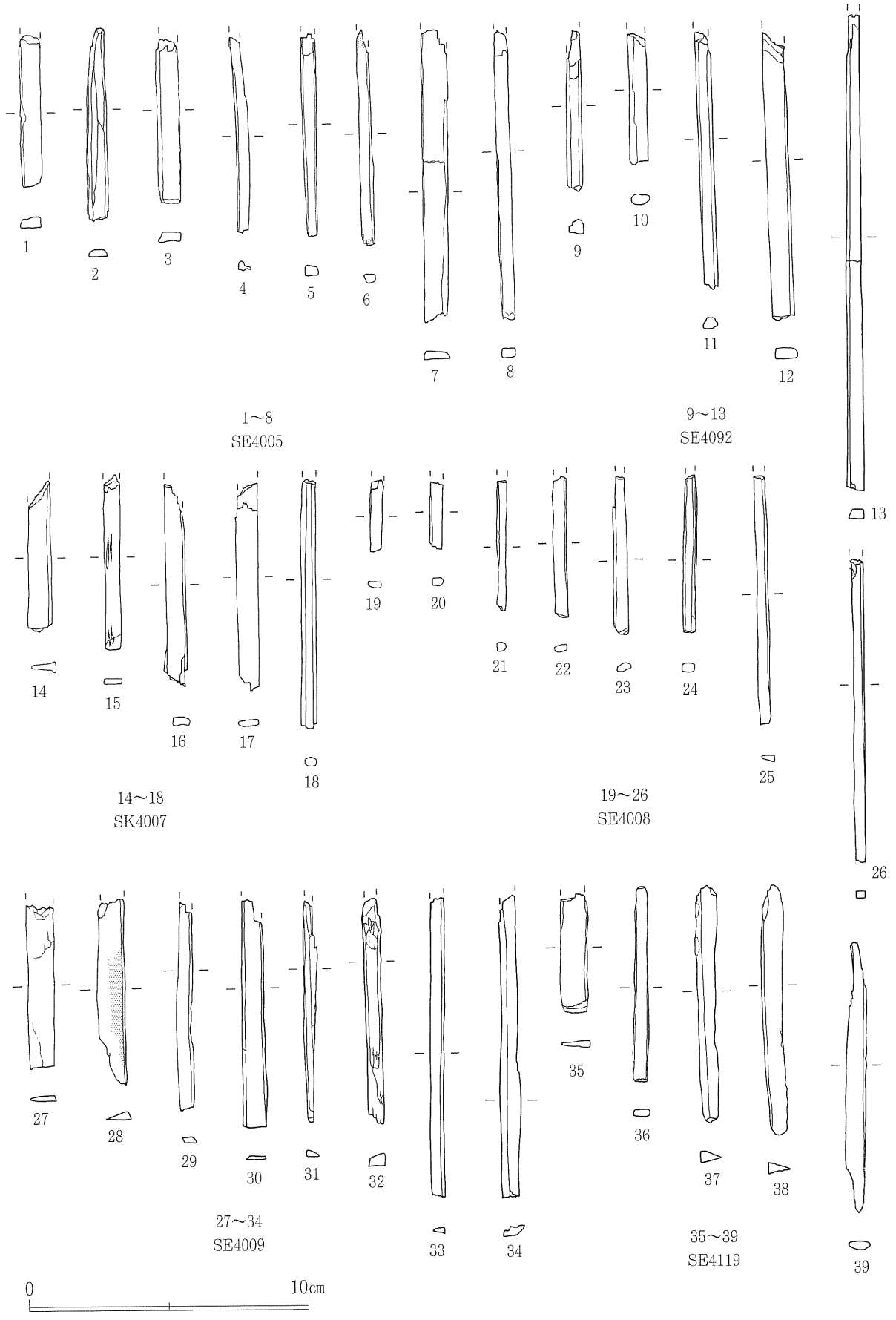


SX5050出土矢形

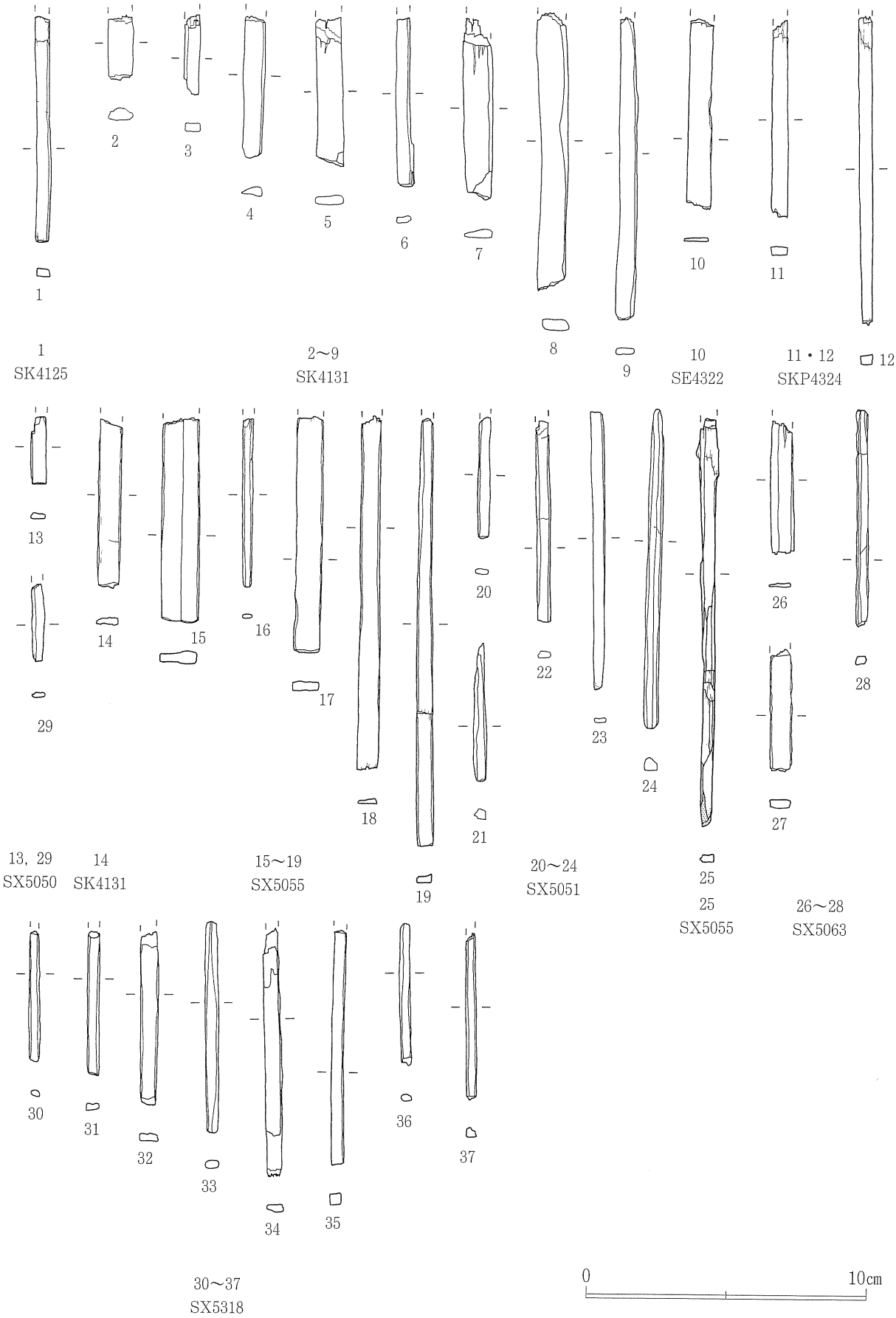
第96図　出土遺物（39）箸状木製品



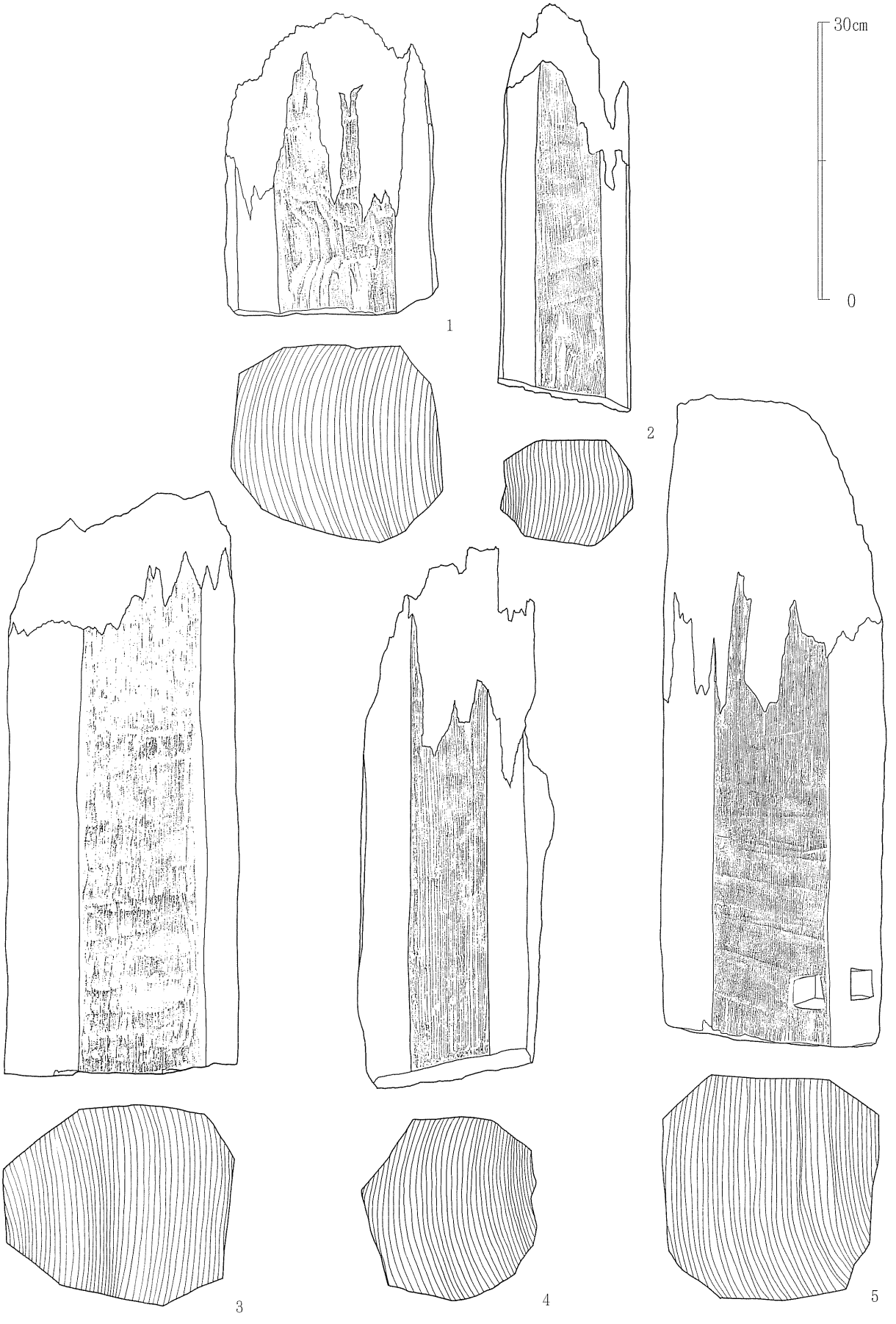
第97図　出土遺物（40）籌木状木製品



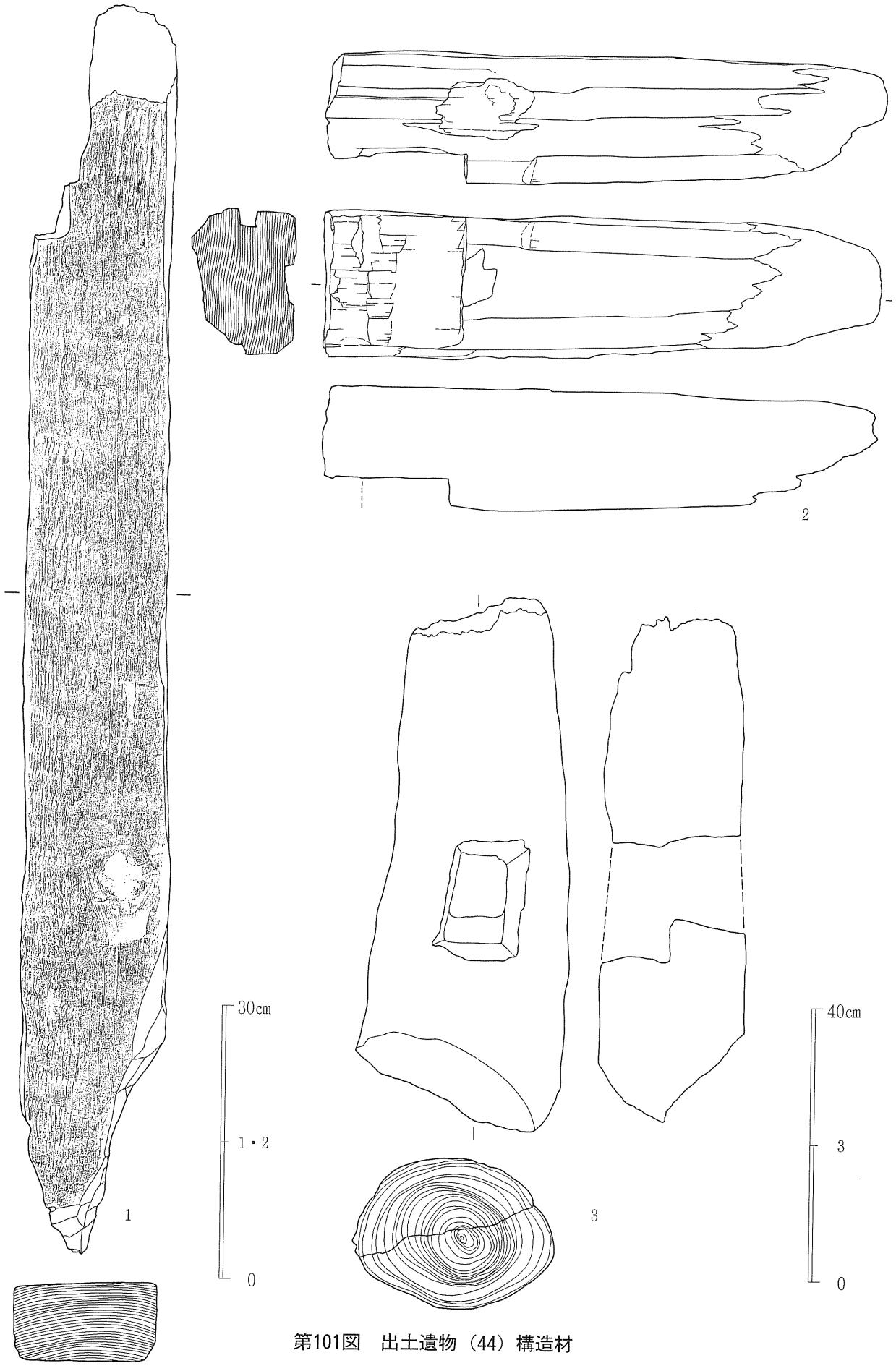
第98図　出土遺物（41）籌木状木製品



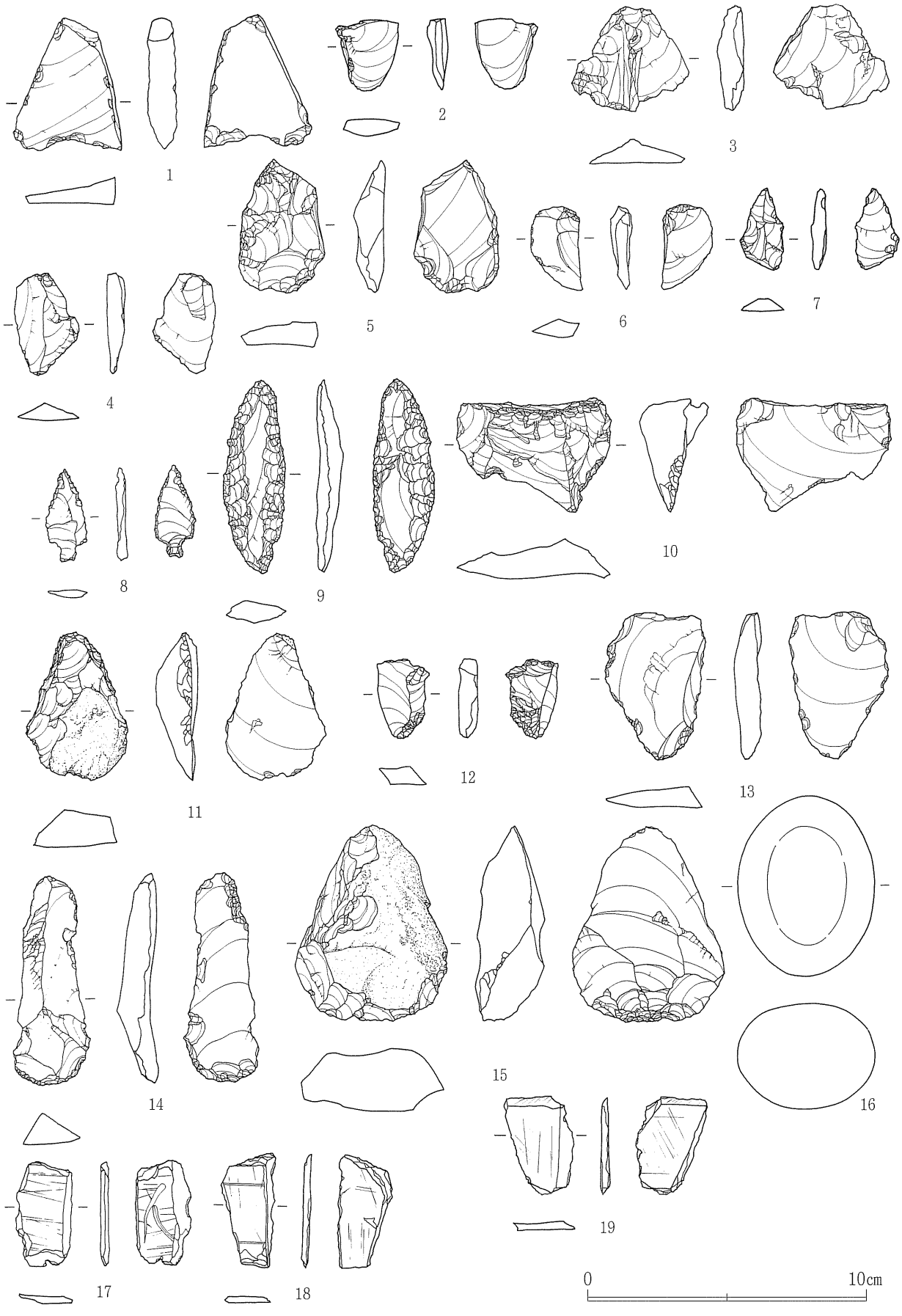
第99図　出土遺物（42）籌木状木製品



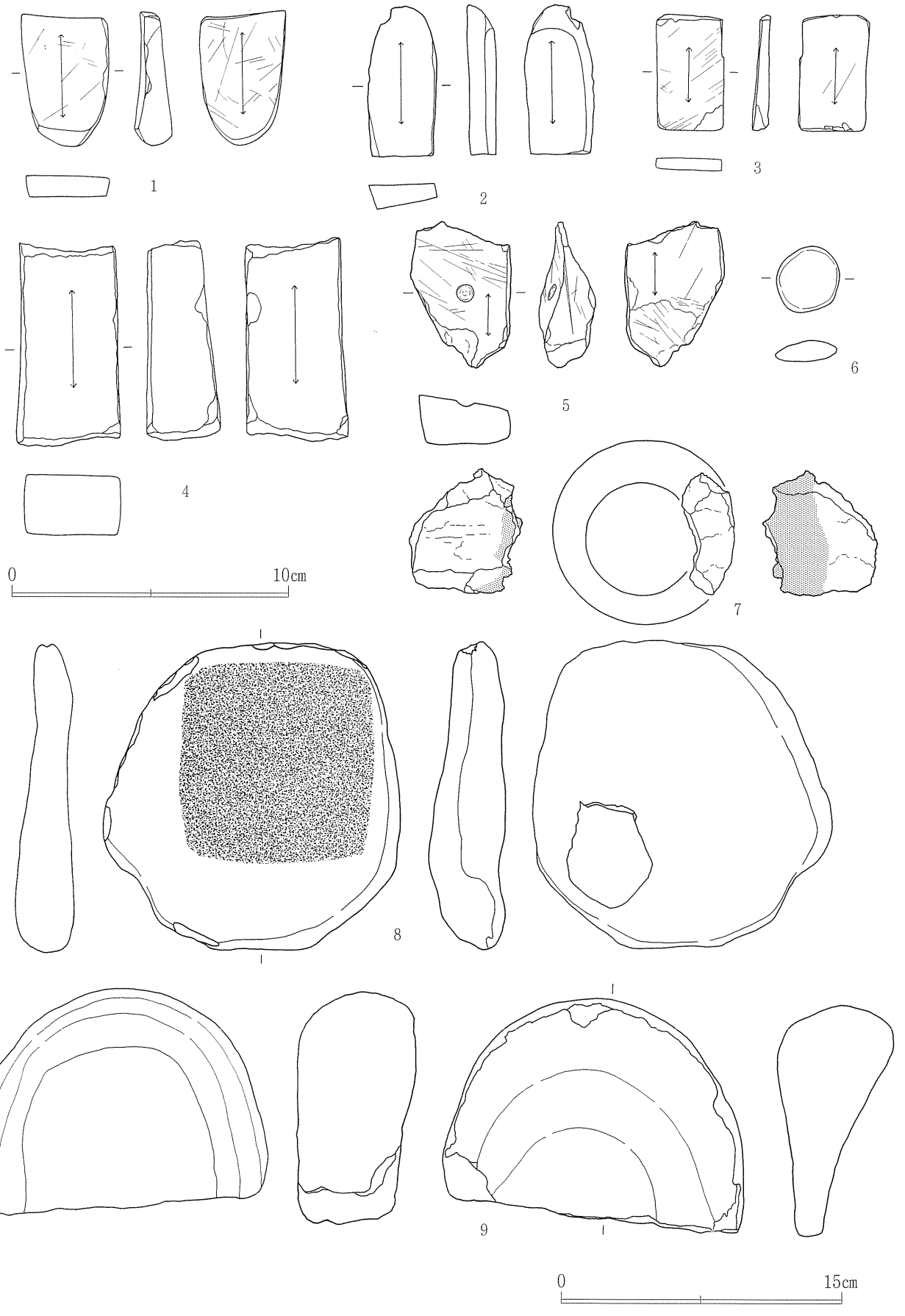
第100図　出土遺物（43）柱材



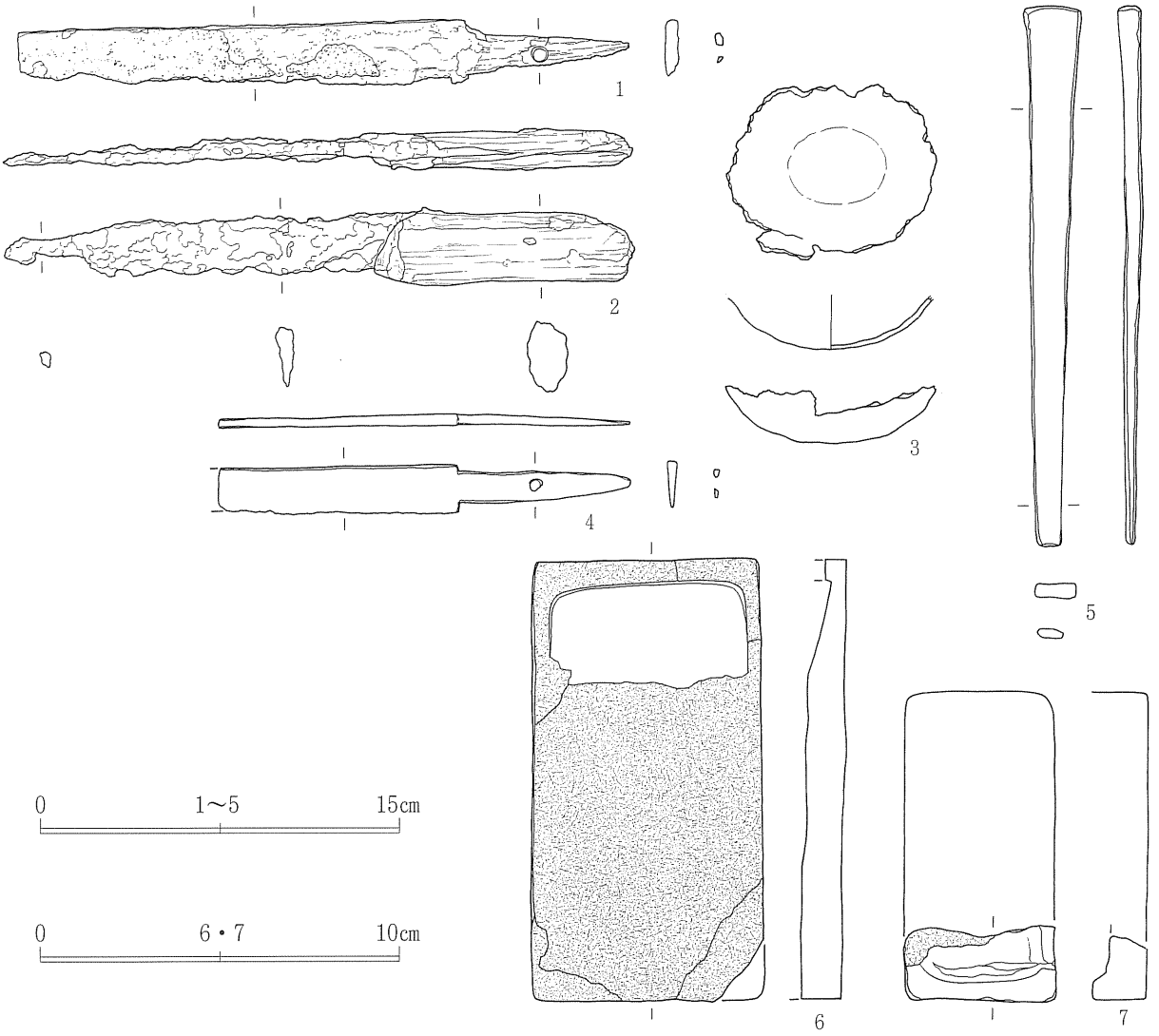
第101図　出土遺物（44）構造材



第102図　出土遺物（45）石器類



第103図　出土遺物（46）石器類

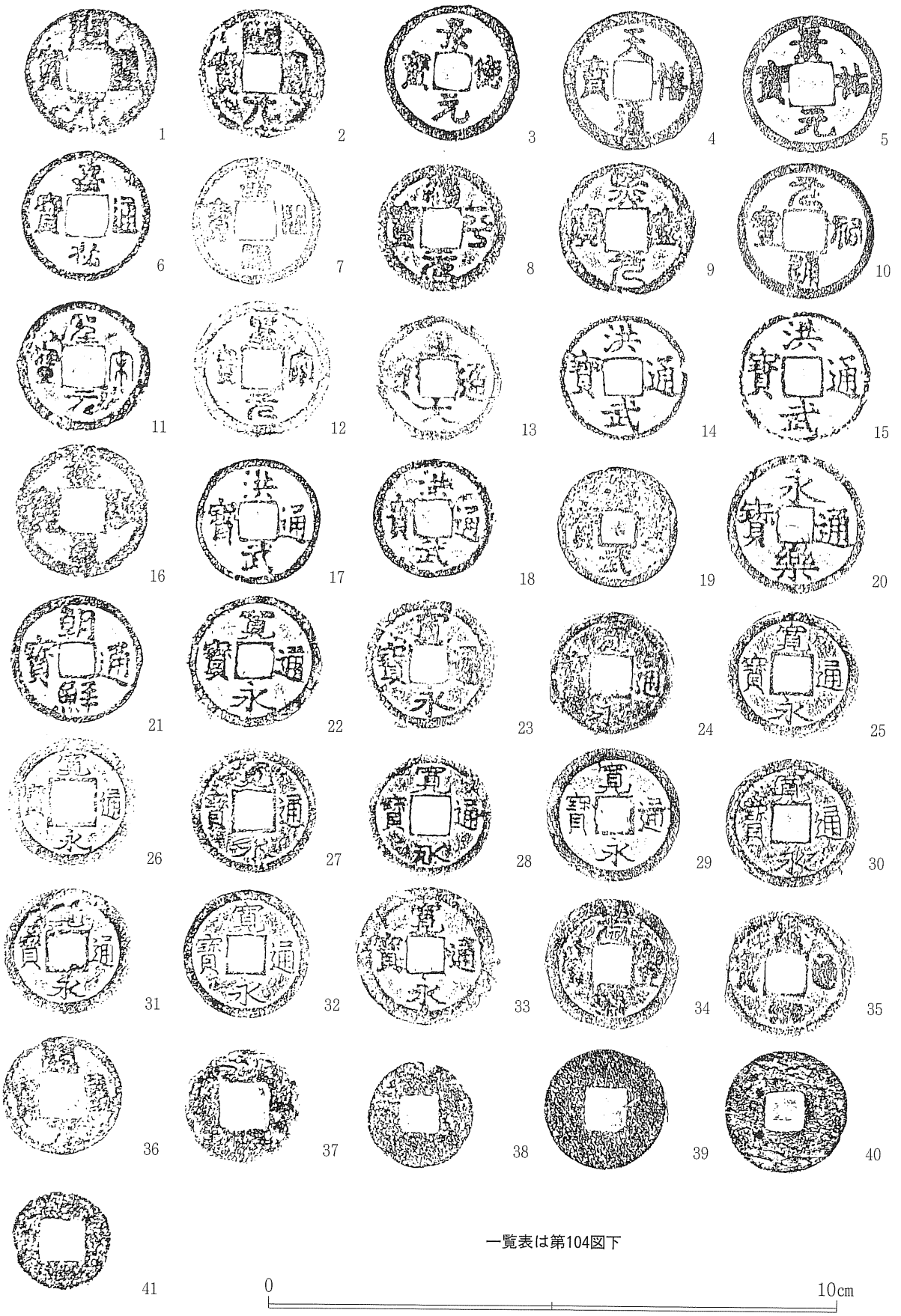


第104図　出土遺物（47）鉄製品その他

図No.	遺物No.	グリッド	種　類	備考
105	1		開元通寶	(径2.34/厚0.09/量2.27)
105	2	LP 60	開元通寶	(径2.33/厚0.13/量2.28)
105	3	SX 4329	景徳元寶	(径2.48/厚0.14/量2.93)
105	4	LO 86	天禧通寶	(径2.52/厚0.13/量3.46)
105	5		景祐元寶	(径2.48/厚0.1/量2.55)
105	6	LP 80	嘉祐通寶	(径2.33/厚0.15/量3.32)
105	7	MQ 88	嘉祐通寶	(径2.31/厚0.12/量2.33)
105	8	LL 55	治平元寶	(径2.33/厚0.17/量2.82)
105	9	LO 29	熙寧元寶	(径2.47/厚0.18/量3)
105	10	SL 1176	元祐通寶	(径2.45/厚0.13/量3.02)
105	11	SD 701	聖宋元寶	(径2.39/厚0.14/量2.46)
105	12	MF 58	聖宋元寶	(径2.49/厚0.15/量3.46)
105	13	LS 59	至大通寶	(径2.25/厚0.15/量2.42),欠損
105	14	LP 60	洪武通寶	(径2.32/厚0.13/量2.43)
105	15	LL 46	洪武通寶	(径2.34/厚0.13/量1.71),欠損
105	16	MR 88	洪武通寶	(径2.41/厚0.11/量1.95)
105	17	SD 701	洪武通寶	(径2.31/厚0.14/量2.36)
105	18	SKP 926	洪武通寶	(径2.16/厚0.11/量2.26)
105	19	SKP 926	洪武通寶	(径2.16/厚0.13/量2.27)
105	20	MA 85	永樂通寶	(径2.47/厚0.11/量1.75)
105	21	LJ 49	朝鮮通寶	(径2.34/厚0.18/量3.27)

図No.	遺物No.	グリッド	種類	備考
105	22		寛永通寶	(径2.42/厚0.14/量3.22)
105	23		寛永通寶	(径2.32/厚0.1/量1.42),欠損
105	24		寛永通寶	(径2.12/厚0.09/量0.86)
105	25	MK 82	寛永通寶	(径2.33/厚0.14/量2.76)
105	26	MB 46	寛永通寶	(径2.32/厚0.11/量1.74)
105	27	MD 55	寛永通寶	(径2.27/厚0.12/量2.17)
105	28	LF 33	寛永通寶	(径2.22/厚0.1/量1.55)
105	29	MA 43	寛永通寶	(径2.44/厚0.14/量2.67)
105	30	LK 45	寛永通寶	(径2.33/厚0.1/量1.72)
105	31	MF 80	寛永通寶	(径2.29/厚0.15/量2.76)
105	32		寛永通寶	(径2.29/厚0.1/量2.38)
105	33	LK 40	寛永通寶	(径2.48/厚0.12/量2.12)
105	34			(径2.43/厚0.15/量3.23)
105	35	MF 55		(径2.31/厚0.13/量2)
105	36	SD 701	無文銭	(径2.12/厚0.07/量1.41)
105	37	MD 56	無文銭	(径2.11/厚0.1/量1.52)
105	38	LR 64	無文銭	(径1.9/厚0.07/量0.83)
105	39		無文銭	(径2.15/厚0.08/量1.54)
105	40	LL 34	無文銭	(径2.23/厚0.13/量2.34)
105	41	SKP 240	無文銭	(径1.79/厚0.06/量0.51)

出土銭貨一覧表（第105図）



一覧表は第104図下

0　10cm

第105図　出土遺物（48）銭貨

第５章　自然科学的分析

第１節　秋田県観音寺廃寺跡出土木製品の樹種調査結果

㈱吉田生物研究所　汐見　　真
京都造形芸術大学　岡田　文男

１．試料

試料は観音寺廃寺跡から出土した建築材1点、容器24点、食事具3点、装飾具4点、祭祀具1点、不明品8点の合計41点である。

２．観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、プレパラートを作成した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

３．結果

樹種同定結果（針葉樹1種、広葉樹4種）の表を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

１）スギ科スギ属スギ（Cryptomeria japonica D.Don）（遺物No.8～12,14,15,20,23,41）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に1～3個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

２）ブナ科ブナ属（Fagus　sp.）　（遺物No.17,18,28,33～35,38,39）

散孔材である。木口ではやや小さい道管（～110μm）がほぼ平等に散在する。年輪の内側から外側に向かって大きさおよび数の減少が見られる配列をする。放射組織には単列のもの、２～３列のもの、非常に列数の広いものがある。柾目では道管は単穿孔と階段穿孔を持ち、内部には充填物（チロース）が見られる。放射組織は大体平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型のレンズ状の壁孔が存在する。板目では放射組織は単列、２～３列、広放射組織の3種類がある。広放射組織は肉眼でも１～３㎜の高さを持った褐色の紡錘形の斑点としてはっきりと見られる。ブナ属はブナ、イヌブナがあり、北海道（南部）、本州、四国、九州に分布する。

３）ニレ科ケヤキ属ケヤキ（Zelkova serrata Makino）
（遺物No.2～7,13,21,22,24～27,29,32,36,37,40）

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管（～270μm）が1列で孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圏部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している（イニシアル柔組織）。放射組織は1～数列で多数のすじとして見られる。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少数の1～3列のものと大部分を占める6～7細胞列のほぼ大きさの一様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の

上下の端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

４）マンサク科イスノキ属イスノキ（Distylium racemosum Sieb. et Zucc.）

（遺物№1,19,30,31）

散孔材である。木口では道管（～50μｍ）がおおむね単独で、大きさ数とも年輪全体を通じて変化なく平等に分布する。軸方向柔細胞は黒く接線方向に並び、ほぼ一定の間隔で規則的に配列している。放射組織は1～2列のものが多数走っているのが見られる。

柾目では道管は階段穿孔と内部に充填物（チロース）がある。軸方向には黒いすじの柔細胞ストランドが多数走っており、一部は提灯状の細胞になっている。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。板目では放射組織は1～2細胞列、高さ～1㎜で多数分布している。イスノキは本州（関東以西）、四国、九州、琉球に分布する。

５）ウコギ科ハリギリ属ハリギリ（Kalopanax septemlobus koidz.）（遺物№16）

環孔材である。木口ではほぼ単独の大道管（～350μｍ）が孔圏部を形成している。孔圏外では小道管が集団状、波状、帯状に複合して分布している。柾目では道管は単穿孔を有し、内部には充填物（チロース）がつまっている。放射組織は平状細胞からなる同性と平伏、直立細胞からなる異性とがある。板目では放射組織は1～5細胞列、高さ～1.6㎜からなる。ハリギリは北海道、本州、四国、九州に分布する。

◆参考文献◆

島地 謙・伊藤隆夫　「日本の遺跡出土木製品総覧」　雄山閣出版　（1988）

島地 謙・伊藤隆夫　「図説木材組織」　地球社　（1982）

島地 謙・須藤彰司・原田 浩　「木材の組織」　森北出版株式会社　（1982）

伊藤隆夫　「日本産広葉樹材の解剖学的記載備～徹」　京都大学木質科学研究所　（1995～）

北村四郎・村田 源　「原色日本植物図鑑木本編備・傔」　保育社　（1979）

◆使用顕微鏡◆

Ｎｉｋｏｎ

MICROFLEEX　UFX－DX　Type　115

秋田県館観音寺廃寺跡出土木製品樹種同定表

No	仮番	品名	樹種
1	7	櫛	マンサク科イスノキ属イスノキ
2	8	漆塗り椀	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
3	16	漆塗り皿	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
4	18	漆塗り皿	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
5	20	漆塗り皿	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
6	21	漆塗り皿	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
7	22	漆塗り椀	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
8	25	箆状木製品	スギ科スギ属スギ
9	28	蓋（底板）状木製品	スギ科スギ属スギ
10	29	漆塗り板	スギ科スギ属スギ
11	37	棒状木製品	スギ科スギ属スギ
12	38	棒状木製品	スギ科スギ属スギ
13	45	漆塗り皿	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
14	47	部材	スギ科スギ属スギ
15	48	つまみ付木製品	スギ科スギ属スギ
16	52	凹みのある材	ウコギ科ハリギリ属ハリギリ
17		漆塗り椀	ブナ科ブナ属
18	61	漆塗り椀	ブナ科ブナ属
19	60	櫛	マンサク科イスノキ属イスノキ
20	62	柄杓	スギ科スギ属スギ
21	63	漆塗り椀	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
22	70	漆器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
23	72	しゃもじ形木製品	スギ科スギ属スギ
24	73	円盤状木製品	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
25	74	漆器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
26	78	漆器皿	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
27	79	皿	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
28	1	漆塗り木製品	ブナ科ブナ属
29	3	漆塗り皿	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
30	4	櫛	マンサク科イスノキ属イスノキ
31	6	櫛	マンサク科イスノキ属イスノキ
32	9	漆塗り椀	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
33	19	漆塗り皿	ブナ科ブナ属
34	30	漆塗り椀	ブナ科ブナ属
35	41	漆器椀	ブナ科ブナ属
36	69	漆器高台付皿	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
37	75	漆器皿	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
38	76	漆塗り木製品	ブナ科ブナ属
39	77	漆器	ブナ科ブナ属
40		底部穿孔木製容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
41		祭祀具	スギ科スギ属スギ

第２節　観音寺廃寺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

観音寺廃寺跡は、横手盆地西部の山裾に立地する、古代から中世の遺跡である。今回の調査により土坑、溝、井戸、水場などが検出されている。土坑の中には、トイレの可能性がある遺構も含まれている。また、各遺構からは、該期の遺物が検出されている。

今回の自然科学分析調査は、各遺構の年代に関する資料を得るために、遺構から検出された主に遺構構築材と考えられる炭化材および木材について、放射性炭素年代測定を行う。また、遺構構築材や木製品の用材を検討するために、樹種同定を行う。さらに、遺構の埋積時期を検討するために、遺構覆土中に認められたテフラに由来するブロック状堆積物のテフラ分析を行うとともに、トイレ遺構と考えられる土坑の用途を検証するために、寄生虫卵分析および種実分析を行う。

１．試料

（１）放射性炭素年代測定

試料は、各遺構から検出された炭化材、および木材試料の試料番号1～29（AMS-1～29）の計29点である。試料の詳細は、年代測定および樹種同定の結果とともに、表１に示す。なお、年代測定（AMS法）に用いる試料と樹種同定のみに用いる試料は、いずれも試料番号１から通し番号が付されていたため、年代測定試料については「AMS」、樹種同定試料については「W」をそれぞれ試料番号の前にハイフォンで付す。

（２）テフラ分析

テフラ分析を行う試料は、SE3（試料番号１）、SD1176の７層～９層（試料番号２～４）、SKP4427の試料番号５、SK5063の試料番号６の合計６点である。この中で、試料番号１～４はにぶい黄褐色シルト質砂、試料番号５は暗灰黄色砂混じり粘土、試料番号６は黒褐色砂混じりシルトで、いずれもテフラに由来するブロック状堆積物と考えられている。

（３）寄生虫卵分析・種実同定

試料は、SK3038の４層（試料番号１）、SK4131の６層（試料番号２）、SK4024（試料番号３）の３点である。この中で、試料番号１は黒褐色シルト、試料番号２、３は黒褐色砂混じりシルトで、試料番号１、３には植物遺体が比較的多く含まれ、試料番号２には炭化物が含まれる。

（４）樹種同定

試料は、年代測定（AMS法）に用いた試料から分離した29点と、樹種同定用の試料10点である。AMS試料のうち、AMS-1、3、6、8～10、11～21、23は炭化材であった。また、AMS-11には生木と炭化材の両方が認められた。

２．分析方法

（１）放射性炭素年代測定

放射性炭素年代測定は、㈱地球科学研究所を通じて、アメリカ合衆国ベータ社（BETA　ANALYTIC　INC.）が加速器質量分析法（ＡＭＳ法）によって行う。半減期はLIBBYの5568年を使用し、年代値は1950年を基点として何年前（y.B.P.）かを算出する。今回は試料炭素の13C/12Cの原子比を

質量分析器で測定し、標準にPDBを用いてδ13Cを算出する。さらに、δ13C値から同位体効果による年代補正を行う。また、誤差は、標準偏差（１σ）に相当する年代である。

（２）テフラ分析

試料約20ｇを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象として観察し、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスについては、その形態によりバブル型と中間型、軽石型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分であるＹ字状の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く延びた繊維束状のものとする。火山ガラスの屈折率測定には、温度変化型屈折率測定装置“ＭＡＩＯＴ”（古澤，1995）を用いて、30片程度を目標として計測する。

（３）寄生虫卵分析

試料15ccを量りとり、重さを測定して分析用試料とする。これについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛：比重2.2）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去の順に物理・化学的処理を施し、濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を操作し、出現する全ての種類について同定・計数する。なお、分析過程の各所で、重量や容積の測定を適宜行い、堆積物1ccあたりの検出個数を求められるようにする。

（４）種実同定

試料が全体的に少なかったため、分析には各試料とも100ｇ秤量する。数％の水酸化ナトリウム水溶液に入れて一昼夜放置し、試料の泥化を行う。これを0.5㎜の篩を通して水洗し、それぞれ残渣を集める。残渣を双眼実体顕微鏡で観察し、種実遺体を抽出・同定する。これらは、種類ごとに瓶に入れて、ホウ酸とホウ砂を混合した水溶液中に保存する。

（５）樹種同定

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入しプレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

炭化材は、３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

３．結果

（１）放射性炭素年代測定

結果を、表１に示す。得られた放射性炭素年代値は、A.D.1950からの年数でみれば、４点の試料を除いてほとんどが８～12世紀の年代を示し、中でも10～12世紀の年代を示す試料が多い。一方、AMS-1、AMS-2およびAMS-4は17世紀半ば、AMS-24は16世紀半ばの年代を示す。また、同一遺構の試料でテフラ分析も行っているAMS-23の年代値は、10世紀半ばを示す。

表1　放射性炭素年代測定および樹種同定結果

試料番号	出土遺構	状態	用途	樹種	年代値	δ13C	補正年代値	Code No.
AMS－1	SKP37（並び）	炭化材		クリ	290±50	－25.4	280±50	Beta－138814
AMS－2	SK611（植物遺体多数）	生木		スギ	290±30	－24.2	300±30	Beta－138815
AMS－3	SN284（SKP37の並び上）	炭化材		ヒノキ科 カエデ属	900±30	－25.4	890±30	Beta－138816
AMS－4	SKP1175（包みホゾ）	生木		ヤナギ属	330±30	－27.4	290±30	Beta－138817
AMS－5	SKP4179（八角）	生木		スギ	910±30	－23.3	940±30	Beta－138818
AMS－6	SE1	炭化材		不明	730±30	－17.4	850±30	Beta－138819
AMS－7	SE2	生木		スギ	890±30	－25.0	890±30	Beta－138820
AMS－8	SE2051	炭化材		ブナ属	910±30	－23.3	940±30	Beta－138821
AMS－9	SE2112	炭化材		ヒノキ科	960±30	－24.3	970±30	Beta－138822
AMS－10	SE3003	炭化材		ブナ属	990±30	－26.4	970±30	Beta－138823
AMS－11	SE3004	生木		ヤマグワ	960±30	－26.1	940±30	Beta－138824
		炭化材		クリ				
AMS－12	SE3047	炭化材		クリ	970±30	－25.4	960±30	Beta－138825
AMS－13	SE4002	炭化材		不明	830±30	－24.6	840±30	Beta－138826
AMS－14	SE4003	炭化材		ヒノキ科	1000±30	－25.5	990±30	Beta－138827
AMS－15	SE4008	炭化材		スギ	840±30	－23.7	860±30	Beta－138828
AMS－16	SE4111	炭化材		スギ	990±30	－26.3	970±30	Beta－138829
AMS－17	SE4119	炭化材		ブナ属	930±30	－27.1	900±30	Beta－138830
AMS－18	SE4428	炭化材		スギ	920±30	－23.7	940±30	Beta－138831
AMS－19	SE5186	炭化材		スギ	1120±30	－23.8	1140±30	Beta－138832
AMS－20	SE5187	炭化材		トチノキ	950±30	－24.4	960±30	Beta－138833
AMS－21	SE5188	炭化材		ヒノキ科	880±30	－25.6	870±30	Beta－138834
AMS－22	SE4428（水場）	生木		スギ	870±30	－23.8	890±30	Beta－138835
AMS－23	SK5063（落ち込み）	炭化材		不明	1010±30	－28.4	950±30	Beta－138836
AMS－24	SKP361（凹み礎板）	生木		ケヤキ	400±30	－25.2	400±30	Beta－138837
AMS－25	SE4005（井戸枠18）	生木	井戸枠	スギ	800±30	－23.0	830±30	Beta－138838
AMS－26	SE5055	生木	木枠西	スギ	1170±30	－25.6	1160±30	Beta－138839
AMS－27	SKP4364	生木		スギ	910±30	－26.4	890±30	Beta－138840
AMS－28	SKP3038（トイレ）	生木		スギ	790±30	－23.3	820±30	Beta－138841
AMS－29	SX3001（板組み水場？）	生木	外側木枠上部	スギ	940±30	－22.2	990±30	Beta－138842
W－1	SKP4179	生木		スギ				
W－2	SK4428（水場）	生木		スギ				
W－3	SKP4175	生木		スギ				
W－4	SK4131	生木	木製品	スギ				
W－5	SE2051	生木	曲物	スギ				
W－6	SX3001（板組み水場？）	生木	外側木枠上部	スギ				
W－7	SE2051	生木	井戸枠	スギ				
W－8	SK3038	生木		スギ				
W－9	SE4005	生木	井戸枠	スギ				
W－10	SKP38	生木		クリ				

（1）年代値は、1950年を基点とした値。
（2）誤差：標準偏差（ONE　SIGMA）に相当する年代。
（3）δ13C：試料炭素の13C／12C原資比を質量分析器で測定し、標準にPDBを用いて算出した値。
（4）補正年代値は、同位体効果の補正を行った値。
（5）放射性炭素の半減期は、LIBBYの5688年を使用。

表2　テフラ分析結果

試料番号	遺構名	層名	スコリア	火山ガラス		軽石			由来するテフラ
			量	量	色調・形態	量	色調・発泡度	最大粒径	
1	SE3		－	＋＋＋＋	cl•pm, cl•bw >> br•pm, br•bw	＋＋＋＋	W•sb～b	1.5	To-a
2	SD1176	7層	－	＋＋＋＋	cl•pm, cl•bw >> br•pm, br•bw	＋＋＋＋	W•sb～b	1.5	To-a, B-Tm
3		8層	－	＋＋＋＋	cl•pm, cl•bw >> br•pm, br•bw	＋＋＋＋	W•sb～b	1.3	To-a, B-Tm
4		9層	－	＋＋＋＋	cl•pm, cl•bw >> br•pm, br•bw	＋＋＋	W•sb～b	1.3	To-a, B-Tm
5	SKP4427		－	＋	cl•pm, cl•bw	＋	W•sb～b	0.8	To-a
6	SK5063		－	＋＋＋＋	cl•pm, cl•bw >> br•pm, br•bw	＋＋＋＋	W•sb～b	1.5	To-a, B-Tm

凡例　－：含まれない．＋：微量．＋＋：少量．＋＋＋：中量．＋＋＋＋：多量．
W：白色．g：良好．sg：やや良好．sb：やや不良．b：不良．最大粒径はmm
cl：無色透明．br：褐色．bw：バブル型．pm：軽石型．

（2）テフラ分析

各試料の観察結果を、表2に示す。

全ての試料に火山ガラスと軽石が含まれ、スコリアは認められない。火山ガラスは、試料番号1～4、6に多量の火山ガラスが含まれる。これらの試料に含まれる火山ガラスは、全て同様の特徴を示す。火山ガラスは、無色透明の軽石型が最も多く、無色透明のバブル型が次に多い。また、同じ形態で褐色を呈するものも微量含まれている。試料番号5には、微量の火山ガラスが含まれている。これ

以外の試料に含まれている火山ガラスと同様に無色透明の軽石型とバブル型であるが、褐色のものは認められない。試料番号１、２、４～６について火山ガラスの屈折率を測定したところ、ほとんどが1.503-1.507の範囲に集中しているが、試料番号２、４、６には1.512-1.519のやや高い屈折率をもつものも認められる（図１）。試料番号５については、検出される火山ガラスの数が少ないため、測定用のプレパラート内に認められた３個のみ測定した。

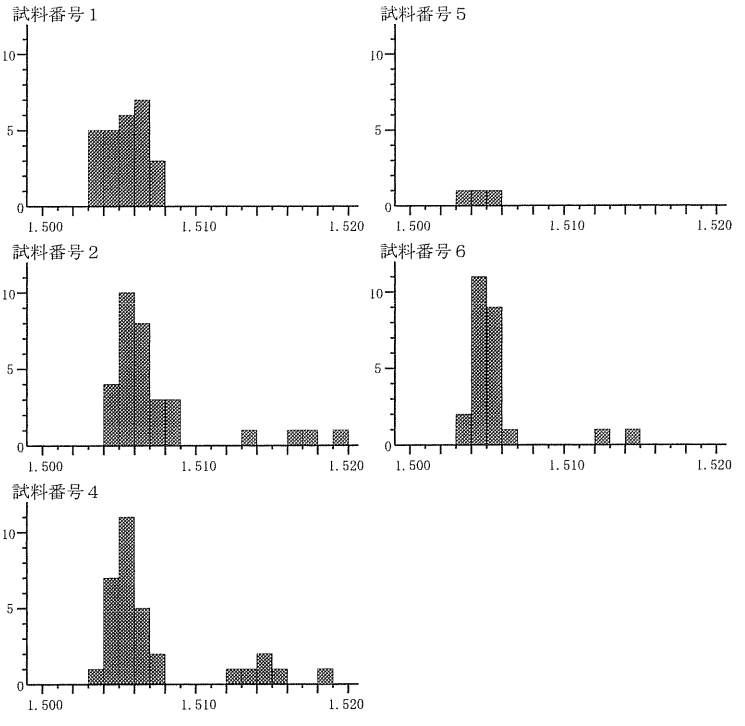


図１　火山ガラス屈折率の頻度分布
各グラフの横軸は屈折率、縦軸は測定個数を表す。

軽石は、試料番号１～３、６に多量、試料番号４に中量、試料番号５に微量含まれる。試料番号１～４、６に認められる軽石は、粒径の淘汰が良好であり、ほとんどが1.0～1.3㎜程度である。試料番号５に認められる軽石は、最大径が0.8㎜と他の試料に含まれる軽石と比較して粒径が小さい。認められた軽石は全て白色を呈し、発泡はやや不良～不良である。

（３）寄生虫卵分析

結果を表３と図２に示す。試料番号２は保存状態が悪いが、他の２試料では化石の保存状態はよかった。試料番号１では、1ccあたり１万個を越える寄生虫卵が検出されたが、大部分が蛔虫卵で、その他鞭虫卵も検出されている。花粉化石は草本類がほとんどで、イネ科が多く、ソバ属やシソ科なども若干みられる。試料番号２では、寄生虫卵は全く見られず、また花粉化石も風化の進んだ個体が若干みられる程

表３　寄生虫卵・花粉分析結果

種類 ＼ 試料番号	1	2	3
木本花粉			
マツ属	2	－	11
スギ属	－	2	42
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	－	－	2
クルミ属	－	－	2
クマシデ属－アサダ属	－	－	2
ハンノキ属	－	－	1
ブナ属	－	－	37
コナラ属コナラ亜属	－	－	6
草本花粉			
イネ科	32	1	286
カヤツリグサ科	1	－	4
サナエタデ節－ウナギツカミ節	2	－	4
タデ属	－	－	1
ソバ属	3	－	1
アカザ科	1	－	1
ナデシコ科	－	－	1
シソ科	1	－	－
ヨモギ属	－	1	3
オナモミ属	1	－	－
キク亜科	－	－	1
不明花粉	2	－	1
シダ類胞子			
シダ類胞子	2	－	32
合計			
木本花粉	2	2	103
草本花粉	41	2	302
不明花粉	2	0	1
シダ類胞子	2	0	32
総計（不明を除く）	45	4	437
寄生虫卵			
回虫卵	381	－	3
鞭虫卵	52	－	5
肝吸虫卵	－	－	1
１ccあたりの寄生虫卵量	11500	0	40
１ccあたりの花粉・胞子化石量	1200	20	1900

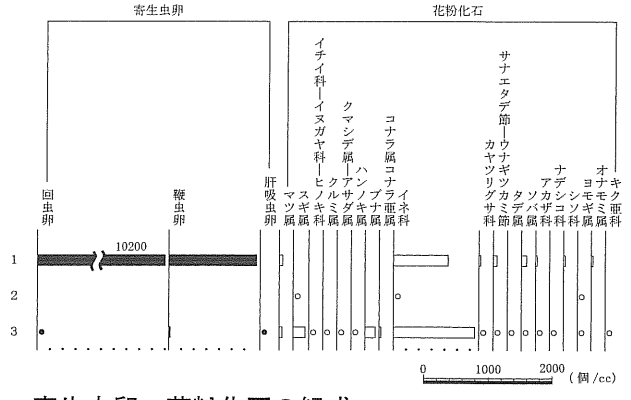


図２　寄生虫卵・花粉化石の組成
堆積物１ccあたりの個数に換算して示す。なお、●○は20個未満を示す。

度である。試料番号3では、蛔虫卵、鞭虫卵、肝吸虫卵が検出されるが、量はごくわずかである。花粉化石は草本花粉が主体でイネ科が多く、木本花粉ではスギ属、ブナ属が多少検出される。

（4）種実同定

結果を表4に示す。種実遺体は試料番号1から多量に検出されるが、その他の試料からはほとんど見られない。以下に検出された種類の形態的特徴を示す。

表4　種実同定結果

	1	2	3
木本類	−	−	1
ヤマグワ	1	−	−
キイチゴ属	41	−	−
マタタビ属	1	−	−
ブドウ属	1	−	−
タラノキ	1	−	−
ニワトコ	1	−	−
草本類	−	−	−
イネ	1	−	−
タデ属	5	−	−
アカザ科	23	−	−
エゴマ	3	−	−
メロン類	117	−	−
メナモミ属	1	−	−

・ヤマグワ（*Morus australis* Poiret）　クワ科

種子が検出された。褐色。大きさは2㎜程度。倒卵型、表面は平滑で側面の隅に突起がみられる。

・マタタビ属（*Actinidia* sp.）　マタタビ科

種子が検出された。黒色。側面観は長楕円形。大きさは2㎜程度。表面は硬質で光沢があり、丸いへこみが不規則に配列しているように見える。網目は基部の付近では、細かく縦長になる。

・キイチゴ属（*Rubus* sp.）　バラ科

種子が検出された。褐色。大きさは、2㎜程度。半月形で、一端に「へそ」が存在する。表面全体は、荒い不規則な網目模様でおおわれる。

・ブドウ属（*Vitis* sp.）　ブドウ科

種子が検出された。黒色。大きさは4㎜程度。心臓形。腹面には中央に縦筋が走り、その両脇には、楕円形に深くくぼんだ穴が存在する。背面には中央に「さじ」状の「へそ」があり、「へそ」回りはくぼんでいる。

・タラノキ（*Aralia elata*（Miq）Seemann）　ウコギ科

核が検出された。茶褐色で側面観は半円形、上面観は卵形。長さ2㎜程度。核はやや厚く硬い。核の表面には、不規則な瘤状突起がある。

・ニワトコ（*Sambucus rasemosa* L. subsp. sieboldiana（Miquel）Hara）スイカズラ科ニワトコ属

種子が検出された。黒色。長楕円形で、大きさは2㎜程度。下側に臍があり、表面には横軸に平行な、しわ状の模様が存在する。

・イネ（*Oryza sativa* L.）　イネ科イネ属

炭化した胚乳が検出された。大きさ4㎜程度。楕円形であるが、胚の痕跡部分が、欠けたように見える。表面には数本の筋がみられる。

・タデ属（*Polygonum* sp.）

果実が検出された。大きさは2㎜程度。3陵形で表面は薄くて堅く、ざらつく。

・アカザ科（*Chenopodiaceae* sp.）

種子が検出された。黒色。側面観は円形で、上面観は凸レンズ形を呈している。大きさは1㎜程度。側面に「へそ」がある。表面は、細胞が亀甲状に配列している構造がみられる。タデ属

・エゴマ（*Perilla frutescens* (L) Britt. var. *frutescens*）シソ科シソ属

果実が検出された。黒褐色。大きさは2㎜程度。いびつな球形で、先端に「へそ」が見られる。表

面全体には、荒い亀甲状の網目模様がある。

・メロン類（*Cucumis melo* L.）　　ウリ科キュウリ属

種子が検出された。大きさは7㎜程度。側面観は楕円形、上面観はやや偏平な楕円形。表面は比較的平滑である。

・メナモミ属（*Siegesbeckia* sp.）　キク科

果実が検出された。黒色。大きさは2.5㎜程度。楕円錐形で先端部が曲がる。基部にはおおきな楕円形の「へそ」が存在する。縦軸方向に平行に多数の溝がみられる。

（5）樹種同定

樹種同定結果を、表1に示す。AMS-6、13、23の3点は、いずれも保存状態が悪いために、木材組織を観察することができず、不明とした。その他の試料は、針葉樹2種類（スギ・ヒノキ科）と広葉樹7種類（ヤナギ属・ブナ属・クリ・ケヤキ・ヤマグワ・カエデ属・トチノキ）に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を、以下に記す。

・スギ（*Cryptomeria japonica*（L. f.）D. Don）　　スギ科スギ属

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞がほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、1分野に2～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・ヒノキ科（Cupressaceae）

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はスギ型～ヒノキ型で、1分野に1～4個。放射組織は単列、1～10細胞高。

・ヤナギ属（*Salix*）　　ヤナギ科

散孔材で、道管は年輪全体にほぼ一様に散在し、年輪界付近でやや管径を減少させる道管の分布密度は高い。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1～15細胞高。

・ブナ属（*Fagus*）　　ブナ科

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2～3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減する。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織は同性～異性III型、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　　ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は1～4列、孔圏外でやや急激～緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

・ケヤキ（*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino）　　ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性III型、1～8細胞幅、1～40細胞高。結晶細胞が認められる。

・ヤマグワ（*Morus australis* Poiret）　　クワ科クワ属

環孔材で、孔圏部は1～3列、晩材部へ向かって緩やかに管径を漸減させ、のち塊状に複合する。

道管は単穿孔を有し、壁孔は密に交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性II～III型、1～4細胞幅、1～30細胞高で、しばしば結晶を含む。

・カエデ属（*Acer*）　　カエデ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および2～3個が複合して散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～6細胞幅、1～30細胞高。木口面で、不規則な帯状の紋様が認められる。

・トチノキ（*Aesculus turbinata Blume*）　　トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または2～5個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1～15細胞高でやや階層状に配列する。

4．考察

（1）放射性炭素年代による遺構の年代

今回の測定結果では、ほとんどの試料が8～12世紀の年代を示し、中でも10～12世紀の年代を示す試料が多い。したがって、今回の試料が検出された遺構は、概ねこの年代のものが多いと考えられる。ただし、年輪年代等により測定された暦年代と放射性炭素年代とのずれを考慮すると、東村（1990）に示された例などを参考にすれば、今回得られた年代は暦年代では100年ほど新しく、11～13世紀代である可能性もある。

一方、AMS-1、AMS-2およびAMS-4は17世紀半ば、AMS-24は16世紀半ばの年代を示す。したがって、これらの試料が検出されたSKP37、SK611、SKP1175、SKP361は、他の遺構と比較するとやや新しく、中世～近世の可能性がある。このことについては、各遺構の遺物出土状況や年代測定試料の採取位置などを含めて、さらに検討することが望まれる。

また、AMS-23の年代値は10世紀半ばを示す。本遺構では、後述のように、A.D.915年に十和田カルデラより噴出したと考えられているＴｏ-ａ、およびA.D.947年に朝鮮半島北部の白頭山より噴出したと考えられているＢ-Ｔｍが検出されている。したがって、本遺構の埋積時期は、概ね10世紀頃と考えられる。

（2）テフラ同定と遺構の埋積年代

今回認められた火山ガラスで、屈折率が1.503-1.507の範囲にあるものは、形態と屈折率および町田ほか（1981）、町田・新井（1992）等の記載から、十和田ａテフラ（Ｔｏ-ａ：町田ほか，1981）に由来すると考えられる。Ｔｏ-ａはA.D.915年に十和田カルデラより噴出したとされ、給源から南方の東北地方一帯に広く分布している。Ｔｏ-ａの火山ガラスの屈折率は、1.499-1.508とされている（町田ほか，1981）。

Ｔｏ-ａを噴出した際の十和田カルデラの噴火過程は、Hayakawa（1985）により、以下のようにまとめられている。噴火活動の初期には大量の軽石を噴出しており、この降下堆積物は大湯1軽石と名付けられている。その後大規模な火砕流が発生し、周辺に多量の火砕流堆積物を残した。これは、毛馬内火砕流と呼ばれている。そして、この火砕流が発生した際に噴出した多量の細粒火砕物が、降下火山灰として堆積した。これは、大湯2火山灰として記載されている。その後小規模な噴火があり、

その降下堆積物が大湯３軽石として記載されている。十和田カルデラから遠隔地においてＴｏ-ａとして認識されているテフラと、これらのテフラとの正確な対比をHayakawa（1985）では行っていないが、遠隔地で認められるテフラは、バブル型火山ガラスを含む細粒の火山ガラスからなることなどから、大湯２火山灰に対比される可能性がある。また試料中に認められた軽石は、おそらく大湯１軽石の細粒部に相当すると考えられる。

また、Ｔｏ-ａの屈折率の範囲外にわずかに認められた火山ガラスは、形態および屈折率と町田ほか（1981）、町田・新井（1992）等の記載から、白頭山苫小牧テフラ（Ｂ-Ｔｍ：町田ほか，1981）に由来すると考えられる。Ｂ-Ｔｍの給源は朝鮮半島北部に位置する白頭山であり、火山ガラスの屈折率は1.511-1.522とされている（町田・新井，1992）。このテフラは、日本では東北地方北部から北海道にかけて分布しており、東北地方北部ではＴｏ-ａの直上に薄層として確認されることが多い。Ｂ-Ｔｍの噴出年代は、A.D.947年と考えられている（早川・小山，1998）。

今回分析した全ての試料中には、Ｔｏ-ａに由来する火山砕屑物が含まれており、特に試料番号５を除く５試料には多量に含まれていた。したがって、これらの試料が採取された各層は、Ｔｏ-ａが降下堆積したものがそのまま保存された可能性がある。すなわち、遺構埋積時にＴｏ-ａの降下堆積があり、遺構の構築はＴｏ-ａ降灰以前のA.D.915年以前である可能性がある。ただし、このことについては遺構埋積土および遺構周囲の堆積土層の状況を考慮して、遺構や遺物の年代観の指標とすることが望まれる。さらに、試料によっては、微量のＢ-Ｔｍの火山ガラスも検出された。Ｔｏ-ａとの噴出年代には、約30年程度の時間間隙しかないことから、両テフラ層の間に形成される土壌層も薄いと考えられる。そのため、植物根あるいはミミズやモグラなどの小動物によって土層が撹乱されることにより、Ｂ-ＴｍがＴｏ-ａ層に混入した可能性がある。

なお、試料番号５はＴｏ-ａの砕屑物の含有量が少なく、Ｔｏ-ａとは関係ないと考えられる砕屑物が多く含まれることから、Ｔｏ-ａが降下堆積したものがそのまま保存されたものとは考えにくい。

（３）トイレ遺構の検証

トイレ遺構における微細な遺物に関しては、食用植物の種実（特に種ごと食するもの）や花粉、魚など小動物の骨、食糞性昆虫、1ccあたり5,000個を越える寄生虫卵などがあげられている（金原・金原，1994）。

今回の結果をみると、SK3038（試料番号１）が上記の条件に該当する。寄生虫卵は蛔虫を中心に約12,000個検出されている。また、種実はマタタビ属、キイチゴ属、ブドウ属、ニワトコ、イネ、エゴマ、メロン類が可食植物であるが、このうちイネとエゴマ以外は種ごと果実を生食する。このことから、SK3038底部の堆積物は糞便に由来する可能性が高く、この遺構はトイレ遺構であることが推定される。検出された種実のうち、マタタビ属、キイチゴ属、ブドウ属、ニワトコ、メロン類、種ごと食されたものが糞便中に混じったと考えられるが、イネは炭化米であることから、廃絶する時などに周囲から混入したものであろう。また、エゴマは胚乳を食用とするため、食用の際には種子を破砕するはずであるが、その際つぶされなかったものが糞便とともに排出されたものと思われる。なお、花粉化石ではイネ科やソバ属などが検出されるが、糞便中に混じっていたものだけではなく、周辺域から飛来したものもあると考えられる。一方、寄生虫卵は蛔虫と鞭虫のみが検出される。このような組成は、石川県鹿島町の大宮坊跡で行われた寄生虫卵分析結果でみられるが、その理由として、魚や

獣などの肉食をしなかったためと結論づけている（金原ほか，1995）。寄生虫卵の組成と食生活の関係に関して検討すべき課題は多いと思われるが、これに従えば、トイレ遺構を使用していた集団は菜食を中心とした食生活を送っていた可能性もあるといえよう。

SK4131（試料番号2）に関しては、寄生虫卵は全く検出されず、花粉化石の保存も悪い。上記したようなトイレ遺構の残渣は、好気状況下など風化が進みやすい場所では残りにくいため、分解した可能性もある。今回の成果から、この遺構の性格を検討することは難しい。

SK4024（試料番号3）は、花粉化石はイネ科を中心に検出される。組成が試料番号1と似ていることから、花粉化石群集は周辺植生を反映していると考えられ、イネ科をはじめとする草地が周辺に存在していたと考えられる。また、ソバ属花粉の存在から、周辺でのソバ栽培も示唆される。一方、寄生虫卵は蛔虫卵、鞭虫卵、肝吸虫卵が検出されるものの、いずれも個数が少ない。また種実遺体もヤマグワが1個体認められたのみである。したがって、この遺構に関してもトイレの可能性も含めて、遺構の性格を検討することは難しい。

（4）遺構から検出された材の樹種

樹種同定の結果、合計6種類が確認された。これらの試料は、井戸枠、木枠、木製品、曲物などであるが、多くは用途などの詳細が不明である。

用途が明らかな試料についてみると、井戸枠、木枠、板塀、曲物、木製品は、全てがスギであった。このうち、井戸枠にスギが利用される例は、北遺跡でも確認されている（未公表資料）。本遺跡では、用途不明の試料にもスギが多く認められることから、様々な用途にスギが多数利用されていたことが推定される。スギは、払田柵跡でも柱材などに多数認められており（パリノ・サーヴェイ株式会社，1991）、古代～中世にかけて大量に利用されていたことが推定される。また、各地で行われた井戸枠や曲物の樹種同定結果を見ると、スギが比較的多く見られる（島地・伊東，1988；伊東，1990）。この背景には、比較的大径木が得られること、加工が容易であること等が挙げられる。

一方、用途不明の試料では、スギの他にも針葉樹のヒノキ科、広葉樹のブナ属、クリ、カエデ属、ヤナギ属、ケヤキ、ヤマグワが見られる。このうち、ヒノキ科には、加工が容易で耐水性の高い種類が多く、井戸枠、曲物などの用途に多く利用されていたことが知られている（島地・伊東，1988）。したがって、これらの種類もスギと共に、井戸枠などに利用されていた可能性がある。また、広葉樹材では、クリが比較的多く見られる。クリは、強度や耐朽性に優れた材質を有し、払田柵跡でも柱材などに確認されている（パリノ・サーヴェイ株式会社，1991,1993）。ブナ属、ケヤキ、トチノキは、椀や皿の木地として一般的な種類であり、各地で多くの報告例が知られている（橋本，1979；島地・伊東，1988）。本遺跡でもこれらの種類が、それぞれの材質を生かした用途に利用されていた可能性がある。炭化しているものが多いことから、加工後の余材などが燃やされた可能性もあるが、現時点では詳細は不明である。今後、さらに用途などの詳細が明らかになった段階で改めて検討したい。

引用文献

古澤　明（1995）火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別．地質学雑誌，101，p.123-133.

橋本鉄男（1979）ろくろ．444p.，法政大学出版局.

Hayakawa, Y. (1985) Pyroclastic giology of Towada volcano. *Bulletin of the Earthquake Researach Institute, University of Tokyo*, 60, p.507-592.

早川由紀夫・小山真人（1998）日本海をはさんで10世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日－十和田湖と白頭山－．火山，43，p.403-407.

東村武信（1990）改訂　考古学と物理化学．212p.，学生社.

伊東隆夫（1990）日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途II．木材研究・資料，26，p.91-189，京都大学木材研究所.

金原正明・金原正子（1994）堆積物中の情報の可視化．可視化情報,14,p.9-14.

金原正明・金原正子・中村亮仁（1995）大宮坊跡（厠跡）における自然科学分析．「史跡石動山環境整備事業報告Ⅱ」，p.51-70，石川県鹿島町教育委員会.

町田　洋・新井房夫（1992）「火山灰アトラス」．276p.，東京大学出版会.

町田　洋・新井房夫・森脇　広（1981）日本海を渡ってきたテフラ．科学，51，p.562-569.

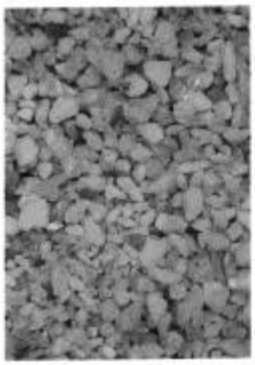
パリノ・サーヴェイ株式会社（1991）樹種鑑定．秋田県文化財調査報告書第216集・払田柵跡調査事務所年報1990「払田柵跡－第84～87次調査概要－」，p.64-65，秋田県埋蔵文化財振興会.

パリノ・サーヴェイ株式会社（1993）花粉分析および樹種鑑定．秋田県文化財調査報告書第238集・払田柵跡調査事務所年報1992「払田柵跡－第92・93次調査概要－」，p.85-89，秋田県埋蔵文化財振興会.

島地　謙・伊東隆夫編（1988）日本の遺跡出土木製品総覧．296p.，雄山閣.

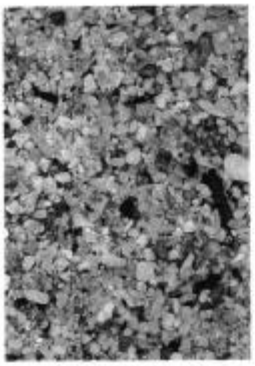
下駄出土状況

図版1　軽石・火山ガラス・砂分の状況



1. To-aの軽石（SE3;1）

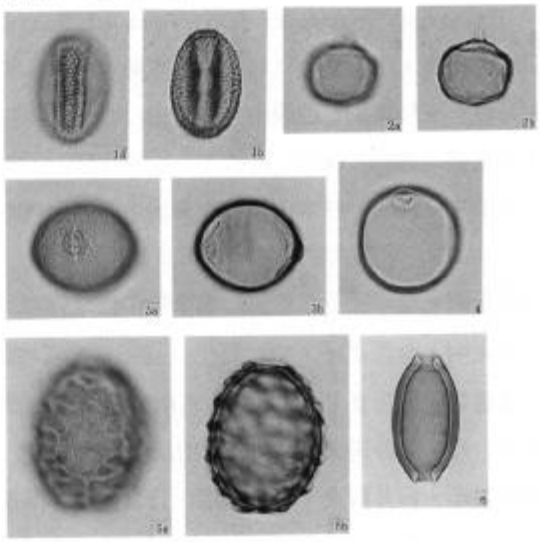
2. To-a, B-Tmの火山ガラス
（SK5063;6）



3. 砂分の状況（SKP4427;5）

1mm
（1, 3）
0.5mm
（2）

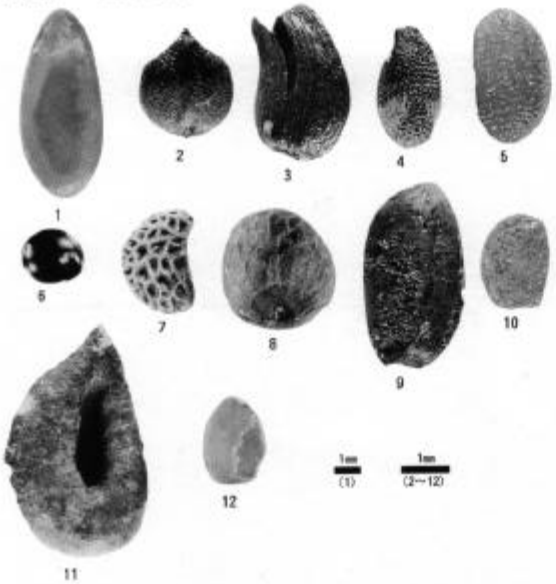
図版2　寄生虫卵・花粉化石



50μm

1.ソバ属（SK4042;3）　2.スギ属（SK4024;3）　3.ブナ属（SK4024;3）
4.イネ科（SK4024）　3.蛔虫卵（SK3038;1）　6.鞭虫卵（SK3038;1）

図版3　種実遺体

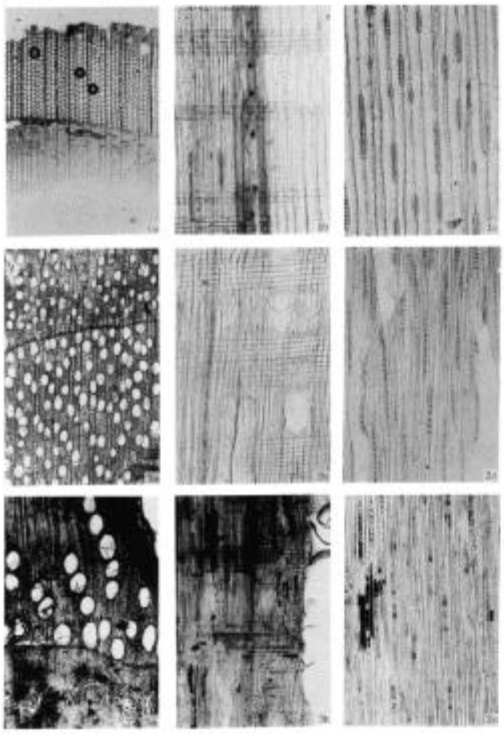


1mm
（1）
1mm
（2～12）

1.メロン属（SK3038;1）　2.タデ属（SK3038;1）　3.メナモミ属（SK3038;1）
4.マタタビ属（SK3038;1）　5.ニワトコ（SK3038;1）　6.アカザ科（SK3038;1）
7.キイチゴ属（SK3038;1）　8.エゴマ（SK3038;1）　9.イネ（SK3038;1）
10.タラノキ（SK3038;1）　11.ブドウ属（SK3038;1）　12.ヤマグワ（SK4042;3）

第106図　観音寺廃寺跡の自然科学分析　図版1～3

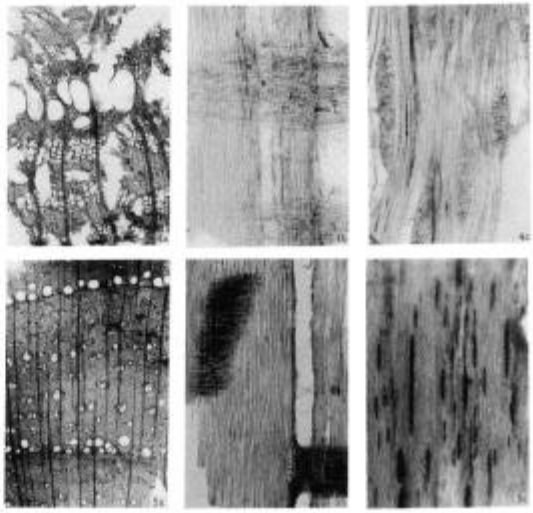
図版4　木材（1）



1.スギ（SE4006;W-9）
2.ヤナギ属（SKP1175;AMS-4）
3.クリ（SKP38;W-10）
a：木口，b：柾目，c：板目

200μm：a
200μm：b，c

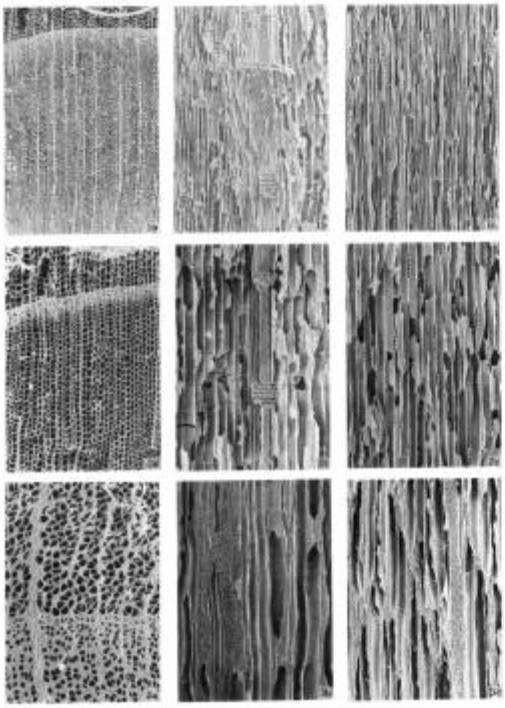
図版5　木材（2）



4.ケヤキ（SKP361;AMS-24）
5.ヤマグワ（SE3004;AMS-11）
a：木口，b：柾目，c：板目

200μm：a
200μm：b，c

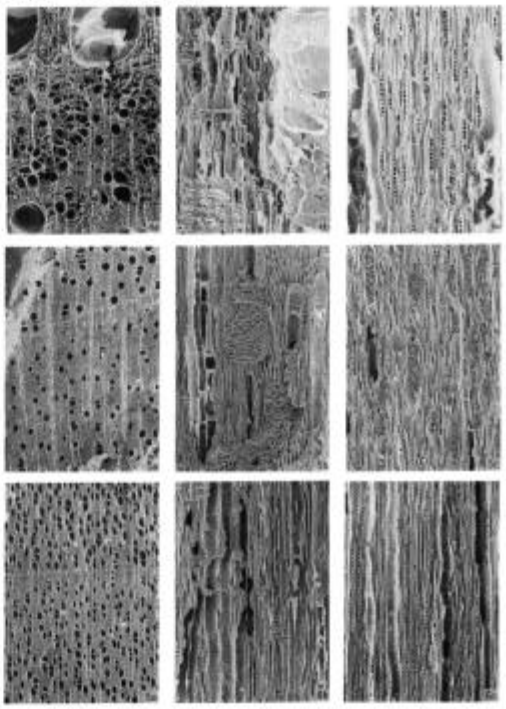
図版6　炭化材（1）



1.スギ（SE4006;AMS-15）
2.ヒノキ科（SE2112;AMS-8）
3.ブナ属（SE2051;AMS-8）
a：木口，b：柾目，c：板目

200μm：a
200μm：b，c

図版7　炭化材（2）



4.クリ（SE3004;AMS-11）
5.カエデ属（SN284;AMS-3）
6.トチノキ（SE5187;AMS-20）
a：木口，b：柾目，c：板目

200μm：a
200μm：b，c

第107図　観音寺廃寺跡の自然科学分析　図版4～7

第6章　観音寺廃寺跡の掘立柱建物跡

八戸工業大学　高　島　成　侑

1　はじめに

今年の春に、秋田県埋蔵文化財センターの担当者の方がみえられて、この廃寺跡の図面をみせていただき、お話を伺うことができた。膨大な面積をもった調査区のなかで、その南西部において12世紀半ばといわれる柱根が出土しておるということであった。また、それらからは約150.0mほど北の方角で、いま一つの柱穴の群がるところがあり、そこからも柱根が出ていることや建物跡のあるらしいことを伺ったのである。それからしばらくして、詳しい図面や出土した柱根の写真や木簡などの資料を送っていただき、7月始めころから、建物跡の検出に努めたのであった。

「観音寺廃寺跡」と称するこの遺跡は、その膨大な面積のなかで、12世紀中頃とされる柱根の出土した辺りと、16世紀ころとされる北側の柱穴が群がっている一角が主なところとなり、その他には、これといった建物跡の検出はできなかった。

ここでは、検出した大小の建物跡28棟を全部取り上げるのではなくて、そのうちの主なものを挙げて、その間取りの特色や規模や柱間寸法などについて、その概略を述べることとした。そのなかでは、検出された建物跡の形態と内外部の間仕切りの様子を述べ、さらに柱間寸法について、また、棟の方向などについても述べてみたい。これらは建物跡の平面形態を決める必須条件であり、それらによって、その建物跡がどのようなものであったのか、ということが想定される場合もあり、また、もしかするとその時期までもが想定することもできるのである。

この小考をなすにあたって、秋田県埋蔵文化財センターの担当者の方々には、大変なお世話を頂いたことを記して、謝意を表したい。先日センターを訪れた際にも、出土した柱根をみせていただくなど、極めて親切にご指導をいただいたところである。また、遅延しがちな私の原稿を待っていてくださり、感謝の言葉もないような状態である。

八戸市博物館の佐々木浩一氏からは、いつもながら、建物跡の検出にあたって、適切な助言をいただいた。また、本学大学院生の中村隼人君にも、さまざまの事柄でお世話になった。ここに併記して、感謝の意を表することとしたい。

2　南西部の建物跡

遺跡の南西側で、12世紀半ばとみられている柱根をたくさん出土した柱穴による建物跡で、SB05掘立柱建物跡と名付けているものと、その東側や南側、さらには西側に群がっている建物跡である。

先日、センターを訪れた際にみせていただいたのであるが、SB05の柱穴から出土した柱根は、スギの心去り材であり、ほぼ8.0寸ほどの角材を大きく面取りをしたものであった。そしてこの柱根が1～2本ではなく、7～8本もあることを知らされて、驚愕した次第であった。

その上部が面取りのままの角柱として伸びるのか、地上からは円柱に変わるのかということは、当時の技術としてはその両方ともに可能であり、不明であったがすごく立派なものであった。このような柱を立てていた建物跡がどのようなものか、あるいは、その周辺にみえる建物跡群の詳細について

述べてゆきたい。

SB05掘立柱建物跡：中央部の南によったところで検出されたもので、{3間に3間} の大きな建物跡である。柱穴の掘方も大きくて、まるで古代の掘立柱建物跡を思わせるようなものであり、そのなかの柱痕もしっかりとしており、それらのなかで柱根をも出土したのであるから、そうとうな建物跡であったのであろう。

建物跡の内部は、{3間に2間} の大きな部屋に、その南側に {3間に1間} の庇が付いている形である。柱間寸法も、桁行が26.5尺で {9.0尺＋8.5尺＋9.0尺} と大寸法を取り、梁間も21.5尺で {7.0尺＋7.0尺} と同寸で並べ、庇の出も {7.5尺} となっている。

しかし、この建物跡を「仏堂」とみることはできない。その一つは建物跡に廻り縁の痕跡がみえないことである。この時期の仏堂で三間堂であれば、かならず縁が廻るのである。いまひとつには南側に庇が出て奥に広い部屋が取られていることである。このようなことは仏堂には無いのであり、むしろ逆に奥を狭くしても前方を広く取るようにしているのが、この時期の傾向である。以上のことから、むしろ普通の一面庇建物跡とみて、波宇志別神社とも関連するような、なんらかの住宅系統の建物跡を想定したほうが無難なようである。

この建物跡の南東隅のところに、「水辺祭祀」を示すような箇所があり、それなりの遺物が出土しているという。もしかすると、ここに、人々が集まったり休んだりしたような、大きめの建物跡であったのかもしれない。

先日知ったのであるが、滋賀・野路岡田遺跡にもこれとまったく同じような一面庇の {3間に3間} の建物跡が検出されており、9世紀から11世紀のものとされていたが、やはり住宅系統のものとの解釈をしているようであった（00.09.30、現地説明会資料）。

SB06掘立柱建物跡：さきのSB05のすぐ西隣で、なんとか続いたものとならないかとしたが、いまのところ別棟の建物跡としておきたい。複雑な形であるが、梁間が {2間} の小規模なものであり、桁行が {5間} となっている。寸法は、梁間では5.5尺と7.5尺であり、桁行では8.0尺や6.5尺や9.0尺などが用いられている。さきの建物跡と棟方向の向きは直行しており、SB05と続いて用いられた水屋というか台所といったものかと考えている。その時期も同じころとみている。

SB09擁立柱建物跡：さきのSB05から東へ約30.0mのところで検出された。{3間に2間} という大きな部屋の西側に {1間に1間} の突き出しが付く形を示している。寸法は桁行で6.0尺や10.0尺、6.5尺、7.5尺がみられ、梁間では8.0尺と9.0尺とがある。棟方向はSB05とやや同じであり、時期もそれほど変わらないのではなかろうか。

SB10掘立柱建物跡：さきのSB09と一部が重複して検出された。やはり {3間に2間} であるが、柱穴が一つ欠けている。内部を2室に仕切るような柱穴がある。寸法は桁行で6.5尺に9.5尺に6.5尺と並んでおり、梁間では8.5尺に8.5尺であり、きちんとした並びである。棟方向は先のSB09とは直行しており、これまでにみたどれとも一致しないようである。

3　北西部の建物跡

広い調査区の半ばよりやや西側に寄ったところで検出されたものである。この辺りで検出された建

物跡も、やはり12世紀半ばころのものとされており、柱根を出土している柱穴も発掘されている。

SB14掘立柱建物跡：｛2間に1間｝の建物跡に、その南東側に庇というようなものが付いている形の建物跡である。一番南東側の柱穴から、2本の柱根が出土しており、本体の身舎から離れた場所からの出土であった。寸法は桁行で7.0尺に7.0尺であり、梁間では8.5尺である。棟方向も多少変わっているようである。

SB15掘立柱建物跡：ここからいま一つが検出された。これも梁間｛1間｝の小規模な建物跡である。｛3間に1間｝のものであり、その東と西との二方向に突き出しがなされており、さらに南東には縁のようなものが付いている形である。柱間寸法は身舎の梁間で9.0尺を取り、桁行では5.0尺と6.5尺と8.5尺と取っている。棟方向は、さきのものとは逆を向いている。

4　北端部における建物跡

調査区のもっとも北端部に柱穴の一群があったのであるが、ここから意外にいい形の建物跡が検出されている。16世紀に入ると言われていたところではあったが、いますこし時代的には下がるかとも考えられるようなものもあるが、寺院と関連づけてみることができそうな建物跡がたくさん検出されたのである。「観音寺廃寺」という名称は、この辺りのことなのかもしれない、とも考えさせられている。また、ここにはSD701からSD701AとSD701Bとに名付けられた溝跡が廻っているが、それによって区画されたそれぞれに、建物跡がきちんと納まって検出されたのである。いつの溝跡なのかも推定できそうである。

SB16掘立柱建物跡：｛3間に3間｝の建物跡の四周に縁が廻り、さらに向拝柱も確認できたという建物跡である。4～5箇所の柱穴は欠けているものの、近世初頭の三間堂としてみるべきものを示している。内部では、前方の2本の柱穴が抜けているが、これでいいのであり、来迎柱に当たるものがある。外側の四周に縁が廻っており、それを飛び越えて向拝柱が立っている。柱間寸法は、桁行で6.0尺を当間で取り、梁間ではややくずれて5.5尺と5.0尺と4.5尺である。縁の出は約3.0尺を測り、向拝までは5.0尺のようである。いたって小規模なものであるが、それでも仏堂の形態をふまえた建物跡である。16世紀というものの、それより新しいものではなかろうか。棟方向は溝跡には沿わずに、南向きといえる形である。

SB17掘立柱建物跡：SB16と重複して検出されている。やや複雑な形のようにみえるかもしれないが、知られている「民家」の形態によく似ている。東側の部屋が「ざしき」に当たるとすれば、その東が「じょうい」となり、北側が「ねま」に、その他の部屋が「だいどこ」や「どま」などを当ててみることができそうなものである。また、その柱間寸法は、桁行で6.0尺というのをみるほか、合わせて9.0尺となる柱間が多くみられるところがあり、興味あることがらを含んでいるようである。棟方向は溝跡に沿っているとみている。

SB18掘立柱建物跡：いままでのところから北東へ約12.0mほど離れて検出された。柱穴の並びには、やや不揃いな箇所もみられるが、建物跡としては整っている。｛4間に3間｝の上屋の北側に｛1間｝の下屋を出しており、ちいさいながら「民家」の形である。寸法をみると、6.5尺に5.0尺も

あり、3.0尺に7.0尺もある。妙な取り合わせではあるが、年代も不明であり、今はこのままにしておきたい。棟方向は、さきのSB17と同様である。

SB23掘立柱建物跡：もっとも北側の西寄りで検出された。桁行が｛4間以上｝であり、梁間が｛4間｝である。そしてその三方に縁が廻るのである。あと何間ほどで決まる建物跡であるかは不詳であるが、桁行が｛7間｝ほどのものであろうか。内部は前面に大きな部屋を取り、その奥には｛2間に2間｝の部屋を区切っている。柱間寸法は、桁行では6.5尺と5.0尺とがみえており、梁間では6.0尺と7.0尺、7.5尺とが使われているようである。廻り縁の出は、前方と右側では4.0尺を取り、後方のものでは3.5尺である。さきに述べた溝跡の区画にはまっており、立派な近世の本堂建築を彷彿とさせるものである。棟方向は、ここで検出されたSB17やSB18とほぼ同じであり、その年代は不明ながら、16世紀をやや出ているものではないか、と考えている。

SB25掘立柱建物跡：｛5間に4間｝に前面に｛3間｝ほどの突き出しがある、という形であり、これも仏堂らしさを想定させる建物跡となっている。内部は｛3間に2間｝の大部屋を取り、その前方と左右の側とに三面の庇を付けており、さらにその四周に縁が廻る形を示している。柱間寸法は8.0尺から7.5尺、6.5尺や6.0尺などが用いられており、4.0尺もみられ、廻り縁の出を示している。年代的にははっきりしないのであるが、16世紀以降のものであるとしておきたい。ここで少し問題となる点は、三面庇の出が、それぞれ異なっていることである。前面の庇の出が8.0尺であるのに東側のものは7.5尺となり、西側では6.5尺である。このようなこともあったのであるが、あまりにも顕著なことである。棟の方向は、区画すると考えられる溝跡に沿っており、さきのSB23よりはやや東に傾いているようである。

SB26掘立柱建物跡：さきのSB25と重複して検出されたものである。｛4間に3間｝という建物跡であるが、その内部において、｛2間に2間｝と｛2間に1間｝の部屋に仕切られたものが、それぞれを逆にして上下に重ねたような間取りを示している。たんなる「民家」を想定させるようなものではない。柱間寸法をみると、桁行ではそろって7.5尺となり、梁間でも8.0尺と7.0尺とになっている。もしかすると15世紀に入るものかもしれない。棟は、ここで検出されたものとほぼ同じような方向である。

5　むすび

ここの図面をみせていただいて、最初に目を引かれたのがSB05掘立柱建物跡であった。きちんと並ぶ柱穴やそこから出土したという柱根の写真などは、建築歴史を研究する者として大きな魅力であった。調べるほどに、その柱穴は立派なものであるが、「仏堂」のものではないという結果を得ることができた。12世紀中頃の「仏堂」では、さきにも述べたように、その内部においては前方を広く取ることが要求されていたのであり、SB05のような前面に庇を取り付ける形は取らなかったのである。また、この建物跡には縁が廻らないこともある。縁が廻らない「仏堂」は、8～9世紀のものと、13世紀以降の禅宗用のものに若干みられるものの、ほとんど無いのが現存仏堂の在りようである。それでこの建物跡を波宇志別神社に関係するなにかの住宅系統のものとしたのであり、あるいは、すぐ側にある「水辺祭祀」と関わったものとみたのである。

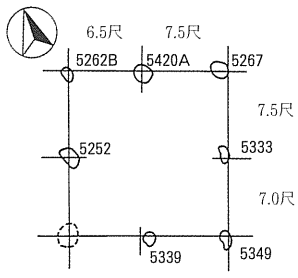
北端部に展開するたくさんの柱穴群から、建物跡を検出するのはやっかいなことであったが、ここ

においては非常に興味あることをみつけることができた。SD701という溝跡は、それらの掘立柱建物跡を区切るように廻っており、その区切りのなかで、きちんと納まって建物跡が検出されたのである。また、ほとんどの場所において建物跡が重複しており、ここに挙げたもの以上に、まだ在るかもしれない状況である。

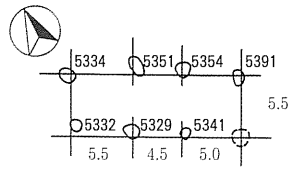
そしてそのなかには、SB16のような「境内仏堂」を想定させるような形を示すものがあり、SB17やSB18のように「民家」風なものも在るのである。さらには、SB23やSB25のような近世における「本堂」を想定させるに足る建物跡が検出されたのであり、その他のものも在り、たくさんの古い建物跡が在ったのである。

この区域には、意外と古くから寺院関係の建物が造られていて、それが長い期間を通じて繰り返してなされたものであった。前に本堂が建っていたところを毀して貫首の住宅にしたり、またその逆があったり、なんにも無かったところへ本堂を建てたり、などということが繰り返されたものとみている。しかしその順番を求めるには時間が少なかった。これからも、この図面を手元に置いて検討してみたい。これからの課題の一つではある。

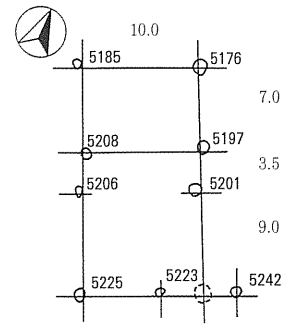
SA 1　検出状況



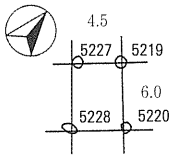
SB01（N－17°－E）



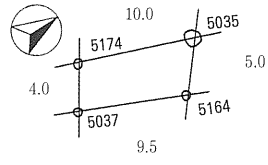
SB02（N－31°－E）



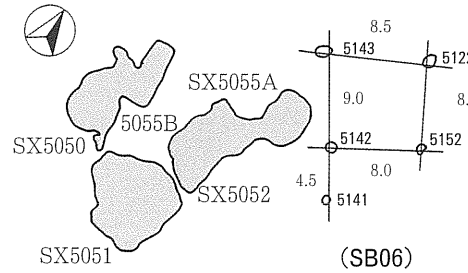
SB03（N－23°－E）



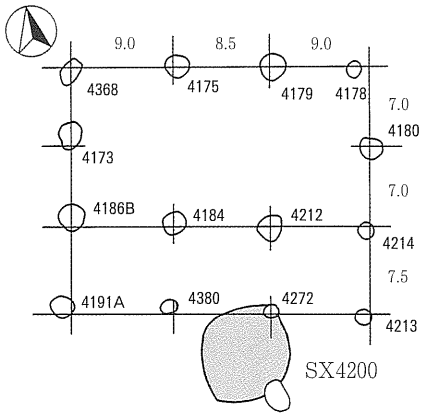
SB04（N－39°－E）



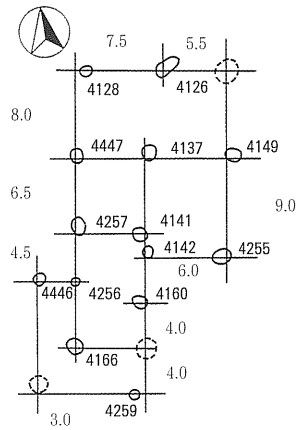
（SB05）



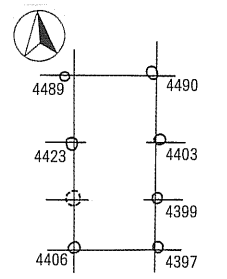
（SB06）



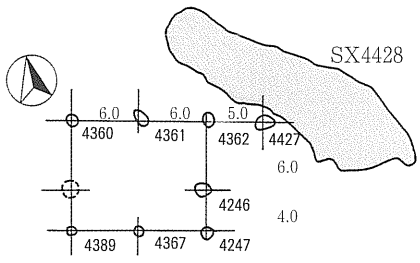
SB05（N－10°－E）



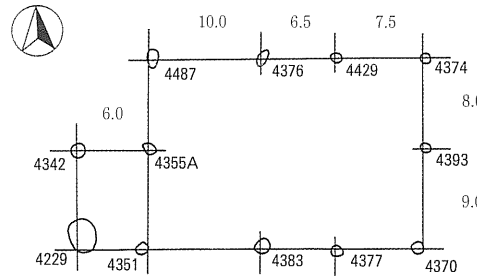
SB06（N－8°－E）



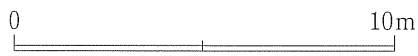
SB07（N－5°－E）



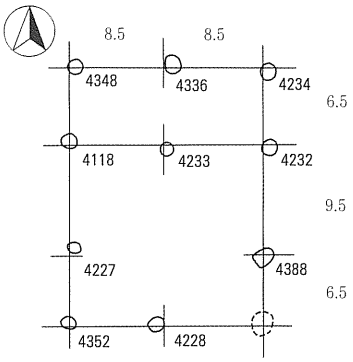
SB08（N－12.5°－E）



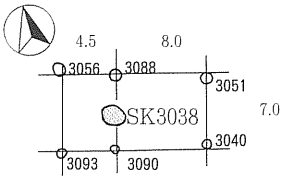
SB09（N－3°－E）



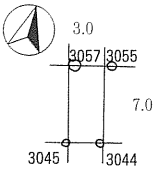
第108図　観音寺廃寺跡の掘立柱建物跡（１）



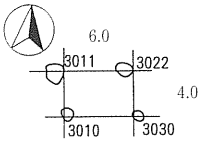
SB10（N－2°－E）



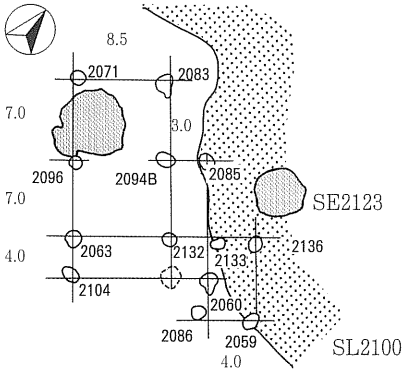
SB11（N－22°－E）



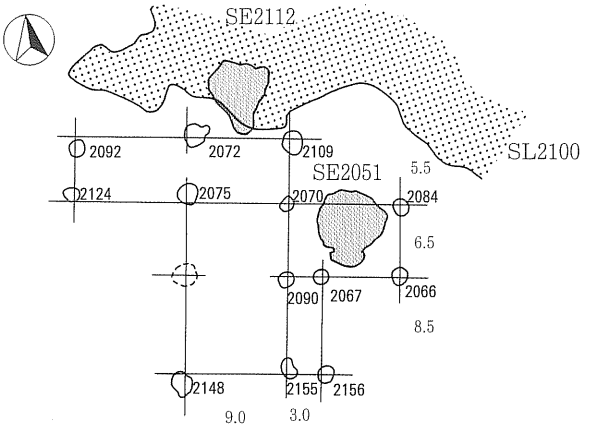
SB12（N－11°－W）



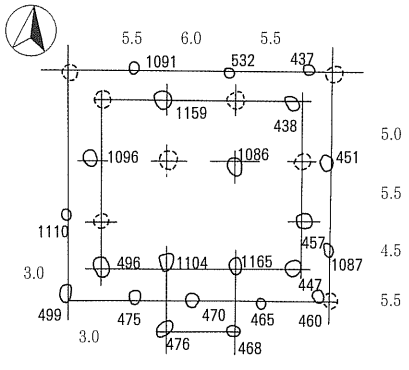
SB13（N－7°－W）



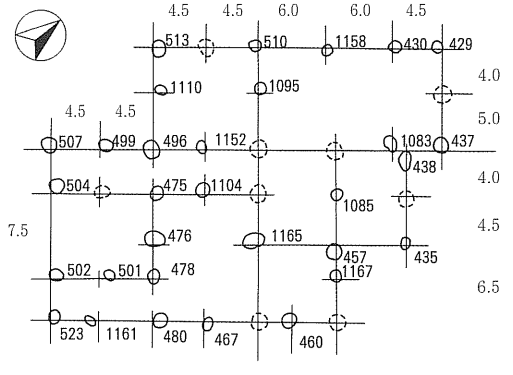
SB14（N－40°－W）



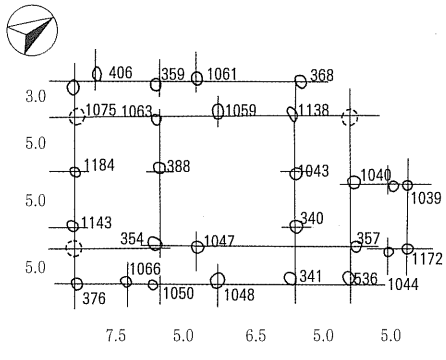
SB15（N－14°－E）



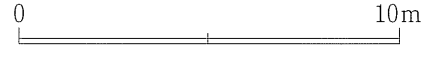
SB16（N－8°－W）



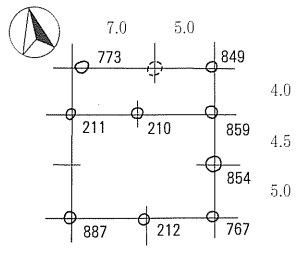
SB17（N－43°－W）



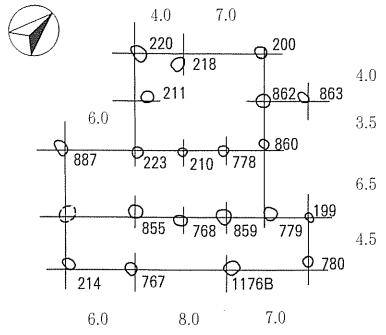
SB18（N－55°－W）



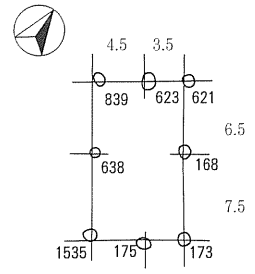
第109図　観音寺廃寺跡の掘立柱建物跡（２）



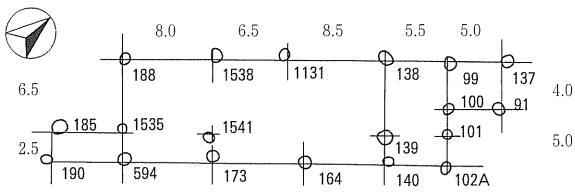
SB19（N－77°－W）



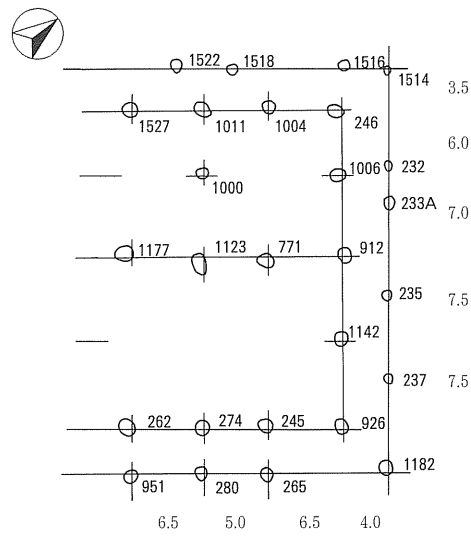
SB20（N－47°－W）



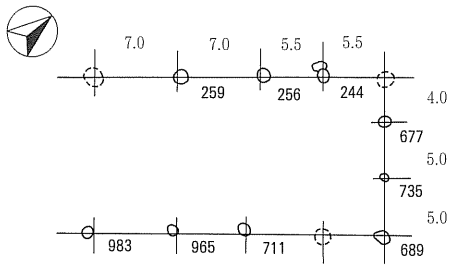
SB21（N－56°－E）



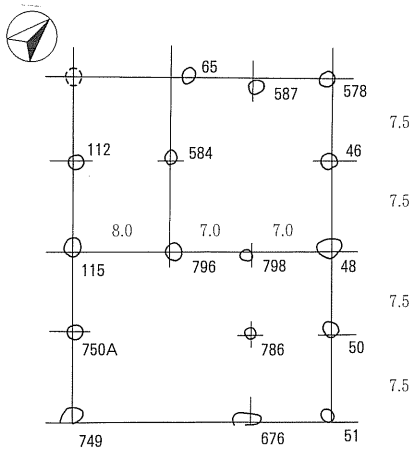
SB22（N－52°－W）



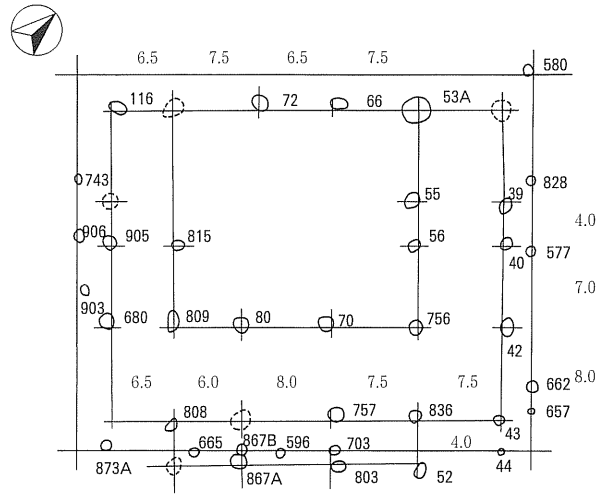
SB23（N－44°－W）



SB24（N－40°－W）



SB26（N－44°－E）



SB25（N－39°－W）

第110図　観音寺廃寺跡の掘立柱建物跡（３）

第7章　まとめ

中世初期における寺院の在り方

発掘調査の結果、観音寺廃寺が定額の寺「出羽国観音寺」である直接的証拠は得られなかった。しかし調査区南側の掘立柱建物跡を中心とする遺構群については、井戸側や柱材の年代測定結果により11～13世紀の所産であることが判明し、当該地区を中心に出土した輸入陶磁器および国産陶磁器類と総合すると、12～13世紀頃に機能した遺構群と考えるに至った。また高島氏の考察では、柱材などから中心建物と考えられるＳＢ５掘立柱建物跡は建築史的には「仏堂」ではないとの結論が出された。この建物は心去りの八寸角に大面取りを施した杉の角材を柱材として使用している。側面は手斧で調整し、端部は鑿で切り落としている。柱材に残存する年輪は大きく弧を描き、柱材一本あたりで140を超える年輪を残している。運搬時に施された目渡穴を残すものも一本ある。ＳＢ５掘立柱建物跡を構成する柱穴には、柱材を残すものと残さない（抜き去られた）ものとがあり、残存する柱材の状態は非常に良い。これらの柱材は後世に水田耕作の障害として抜き取られたものも若干あるが、基本的には状態の良い柱材を抜き、再利用したものと考えられる。これらの柱穴には建物の廃絶時、柱痕跡に礫や端材が容れられるものがあり、ＳＫＰ４１８６Ｂ柱穴では、「御佛殿前申」と墨書された木簡が出土した。この木簡は柱痕跡の中央底部（アタリ部分）から出土しているため、柱を抜き去った後に建物に対する廃絶行為として埋納されたものと考えられる。

調査区内に点在する河川跡は、その堆積層の中位～上位に堆積していた火山灰が十和田ａ火山灰と同定された。このことから少なくとも10世紀前半には調査区内の河道の大部分が１／３程度の深さまで埋まり、流水というよりは溜水・止水に近い状態であったことが推測できる（第３図）。つまり調査区南側の掘立柱建物跡群は、周囲に旧河道起源の水辺（凹地・低湿地）が散在する一帯を意図的に選択したうえで、構築されたことが想定できる。不整形土坑や河川跡からは木製品も多く出土し、矢形・刀形などの形代や斎串が含まれることから、これら水辺の遺構は水を介在させた祭祀を執り行うための祭祀遺構であると考えられる。ＳＬ２１００河川跡とＳＢ１４・１５掘立柱建物跡、ＳＸ４２００不整形土坑とＳＢ５掘立柱建物跡、ＳＸ４４２８不整形土坑とＳＢ８掘立柱建物跡、ＳＸ５０５０・５０５１・５０５２・５０５５Ｂ不整形土坑と（ＳＢ０６）掘立柱建物跡など、不整形土坑や河川跡と隣接する一連の掘立柱建物跡との位置関係には強い相関が認められる。またＳＸ５０６３・５０９７Ａ・５３１８・５３１９不整形土坑群は谷地状に東側に開く低湿地上に位置し、近接するＳＢ３・４・５掘立柱建物跡も同様の意味を持つ可能性がある。特にＳＸ４２００不整形土坑はＳＢ５掘立柱建物の庇に覆われて位置する。つまりこれらの建物は水辺の傍らに祭祀を執り行うために設けられ、そこで古代的な要素を残す祭祀が執り行われていたことが想定できる。掘立柱建物群だけに着目すればこの一帯を選択することは条件も悪く不自然であるが、散在する不整形土坑や河川跡を対象として水辺祭祀を執り行うために附属する建物を設けたとすれば、整合性は極めて高いといえる。

ＳＢ５掘立柱建物跡が「仏堂」であるという建築史的な結論は得られなかったが、前述した遺構群の配置状況およびＳＫＰ４１８６Ｂ柱穴出土木簡から、

①水辺祭祀を執り行うこれらの建物が、この地で「佛殿」と呼称されるに至った。

②寺院に関連する施設ではあるが、水辺祭祀を執り行う場所である。

という２つの仮説を導き出すことができる。①とすればこの一帯を寺域として認識していたことになり、日想観からも調査区の対岸（西側）に位置する観音寺経塚との強い関連が窺える。②とすれば仏教寺院としての寺域そのものは対岸の観音寺経塚付近に存在すると考えられる。

しかし遺構および出土遺物より、経塚と調査区南側の遺構群が同時期の所産であることは確かである。またＳＢ５掘立柱建物跡が「仏堂」ではないとしても、ＳＫＰ４１８６Ｂ柱穴出土木簡の存在から少なくともこの一帯が寺院に関連する施設であり、かつ建物を附属させるような特定の水辺で祭祀を執り行っていた場所であることも確認できた。つまり中世初期の地方寺院においては、仏教信仰の傍ら、掘立柱建物を附属させた水辺を用いて、古代的な水辺祭祀をも併せ執り行っていたことが明らかになった。その意味では建築史的考察から高島氏が指摘したように、この寺院が波宇志別神社などの大きな影響力の下に存立した寺院であったことも想定できる。

水辺祭祀と遺構・遺物

観音寺廃寺跡で検出した井戸跡は、井戸側などの年代測定結果や出土遺物により、概ね建物群と同様の時期の所産であることが確認できた。しかし生活の場でもない寺域内から32基もの井戸跡を検出し、その内部から被熱したかわらけおよび形代をはじめとする木製品、言い換えれば前記した不整形土坑および河川跡と同様の遺物群を出土する傾向が認められる。

ＳＥ４００５井戸跡の底部からは井戸開削時の祭祀に伴い、刀子が納置されている（第104図１）。また中位から出土した字書木簡（平川氏による）は、埋土状況から井戸閉塞の祭祀に伴って埋納されたものと考えられる（第13図）。そして井戸底部～中部にかけては、かわらけ・箸状木製品・椀皿・板杓子、モモ・スモモの核などが出土し、井戸が水を湛えて機能している間にも様々な祭祀が執り行われていたと考えられる。井戸を対象とする祭祀は、井戸開削時に陶磁器等を納置する祭祀や、閉塞時に井戸側を壊したり礫を用いて人為的に埋め戻したりする祭祀が知られている。前掲したＳＥ４００５井戸跡の例は、前記した井戸開削および閉塞時の祭祀のほかに、井戸として機能している間、すなわち水を湛えている間にも祭祀が執り行われていたことを示している。このことはモモ・スモモ・クルミの核がこれらの井戸跡から複数個体出土し、さらに被熱し炭化したものおよび割れたものが多い事実からも窺える。スモモ・クルミはモモと同様の核果として選択され、吉凶を占うために用いられたものと考えられる。

ＳＥ５０５５Ａ井戸跡とＳＸ５０５５Ｂ不整形土坑は同時期に存在した遺構であるが、両者は重複して新旧関係を持つわけではなく、有機的な関連を持ちつつ同時存在した遺構と考えられる。ＳＬ２１００河川跡に附属するＳＢ１４・１５掘立柱建物跡は重複関係を持ちながらもＳＥ２０５１井戸跡の一部を覆い、この井戸跡からは完形の白磁皿が納置されていた（第63図４、120頁写真）。またＳＬ２１００河川跡と重複して新しい（時期差はほとんど無い）ＳＥ２１２３・２１１２井戸跡も、それぞれＳＢ１４・１５掘立柱建物跡の正面に位置している。これらは前述したＳＢ５に対するＳＸ４２００との関係に類似し、ＳＥ２０５１・２１２３・２１１２井戸跡は、何らかの祭祀に強く関連する特殊な井戸跡である可能性が高い。ＳＸ５０６３・５０９７Ａ・５３１８・５３１９不整形土坑群を検出した低湿地の周囲に位置するＳＢ３・４掘立柱建物跡も、ＳＥ５０８６・５０８７・５０８８井

戸跡に近接するため、同様の意味を持つ可能性もある。

井戸跡からは様々な生産に係る遺物も多く出土する。ロクロの爪痕を遺すベタ高台のものが多数出土した椀皿類および荒型などは、本遺跡周辺で漆工の工程まで一貫生産されていた可能性を示している。またＳＥ２１２３井戸跡からはフイゴ羽口が出土し、近接するＳＬ１１７６河川跡から鉄鋌が出土した。付近の遺構で鉄製品および鉄滓を出土するものも多いため、同様に本遺跡周辺に鍛冶工房が存在し、鉄製品が生産されていたと考えられる。

箸状木製品はほとんどが遺構内から出土し、それも井戸跡からの出土が多い。完形のものと折損したものとの出土遺構による差違は無く、遺構外からは１割程度しか出土しない。この点で他の木製品の出土状況との違いがあるため、これらの箸状木製品は特定の遺構に容れられた（棄てられた・納められた）ものと考えられる。遺跡の性格が集落遺跡のように生活を中心とするものではないことから、何らかの祭祀に使用された可能性も想定できる。また遺物の出土分布がかわらけと類似し、共伴する事例も多いことから、かわらけと共に用いる祭祀具としての性格を有した可能性もある。

これらの遺物類は不整形土坑や河川跡からも出土する事実から、井戸において同様の祭祀が執り行われていることが推測できる。しかし被熱したかわらけ・形代等は両者から出土するが、須恵器は不整形土坑から出土する傾向を示している。

不整形土坑は自然の作用により形成された水辺であるため、その位置に隣接して附属建物が建てられ、水辺祭祀の舞台となった。それに対して井戸跡は河川跡の周辺に掘削されるものの、人為により新たに構築された水辺として認知され、附属建物を伴う例は少ない。不整形土坑および河川跡に対する祭祀は相対的に古代的な要素を示し、井戸跡に対する祭祀は手工業生産に関わる遺物の出土など中世的な要素を持つことも関連すると思われる。

便所跡からみる遺跡内の生活

ＳＢ１１掘立柱建物跡内に掘り込まれたＳＫ３０３８土坑は、多量の籌木および種子類を出土する便所跡である。出土した籌木は長さ10㎝程度で短冊様の割材を使用しており、一端が折り割られているものが多い。また接合したものや折損していないものは20㎝程度のものが多く、折り割られたものの約２倍の長さを呈する。つまり籌木としての製作時には、端材を20㎝程度に割り整えたものが定型的な製品であり、使用する際に半分に折り割って使用し、そのまま便所に棄てたものと考えられる。また堆積土の中央部では籌木の出土が少なく、主として下部からドーナツ状を呈するように出土することから、施肥の際に障害となる籌木については、糞尿を汲み取る際に押し避けて汲み取っていることも確認できた（第22図）。

この土坑内の土壌を全量サンプリングし、第３章第２節に示した方法で全量水洗選別した。種実類ではウリ科・ブドウ属・キイチゴ属・クワ属・シソ属・マタタビ属・ナス属を多数確認した。これらは初夏（クワ属）、盛夏（ウリ科・ナス属・マタタビ属・キイチゴ属）、秋（シソ属・ブドウ属）、など、結実時季に差違のあるものが同一サンプル中から産出している（159頁表）。

種子類を個別に見てみると、ウリ科は１・２層で多産するが３層で極少となる。タデ属およびタラノキ属は３・４層で多産する。マタタビ属は１層で多産する。キイチゴ属は１・２層で多産する。ブドウ属は１層で多産するが３・４層では極少となる。アカザ属は３・４層で多産する。ヒユ属は４層

で多産するが、１層では極少となる。ナス属は１層で多産するが、３層で極少となる。シソ属は４層で多産する。クワ属は１層で多産するが４層で極少となる。スベリヒユ属は３層で多産し、１層では皆無である。カヤツリグサ科は３・４層で多産する。しかし２層～４層、特に３・４層については汲み取り時に常に撹拌された汲み残しであるため、糞尿を汲み出す際に便所付近に生えていたと考えられるタデ属・タラノキ属・カヤツリグサ科などの雑草種子が混入したものと考えられる。また最も新しい堆積層である１層では他の層準でごく少量しか産しない、ウリ科・キイチゴ属・マタタビ属・ブドウ属・ナス属・クワ属が多産する。この層準は汲み取られていない一連の糞尿層と考えられるため、産出する種子から夏～秋にかけての堆積物だと考えられる。

ごく少量確認したスモモは全て完形で、前述した水辺遺構出土のものにくらべ明らかに大きく（15㎜弱）、食用に供した残滓を便所土坑内に棄てたものと思われる。水辺遺構出土のものは10㎜前後で割れたものも多いことから、祭祀に係る果実については採取する時季が限られ、未熟果の状態で祭祀に用いたことが想定できる。

秋田城跡の第63次調査で検出したＳＢ１３５１建物跡は水洗式の便所跡であり、植物遺体の組成そのものは観音寺廃寺と大差無い。秋田城跡ではウリ科・クワ属が多産するが、観音寺廃寺ではキイチゴ属（層準によってはブドウ属も）が多産する。また報告書収載の金原氏の分析ではクワ属が全く検出されていないが、五十嵐が試料を実見した限りでは多量のクワ属種子を確認した。つまり層準または地点ごとの植物遺体組成は大幅に異なるものと思われる。これは排便後の糞便が塊状を崩さないまま、堆積したことを示している。

サンプル	1層合計		2層合計		3層合計		4層合計	
ウリ科A	825	1173	79	1253.5	0	27	36.5	342.5
ウリ科B	141		925		18.5		122	
ウリ科C	207		249.5		8.5		184	
タデ属A	5.5	72.5	31	48.5	184	231.5	120	187.5
タデ属B	24.5		9.5		21.5		5.5	
タデ属C	42.5		8		24		62	
タデ属（炭化）	0		0		2		0	
タラノキ属	48.5		10.5		66		97	
マタタビ属	1563	1563	137	137	49	50	134.5	1365.5
マタタビ属(奇形)	0		0		1		1	
マタタビ属(炭化)	0		0		0		1	
キイチゴ属	1518.5	1518.5	1620	1620	675	675.5	489	489
キイチゴ属（炭化）	0		0		0.5		0	
ブドウ属	896.5		209.5		16.5		11	
スベリヒユ属	0		8		68		29	
アカザ属	31.5		36		137.5		112.5	
ヒユ属	62.5		226.5		449.5		296	
ナス属A	109.5	19.5	26.5	28	2.5	5	5	15.5
ナス属B	10		1.5		2.5		10.5	
シソ属	116		107		134		786.5	
虫類	108		102.5		128.5		44	
カヤツリグサ科	0		6.5		25		17.5	
スモモ	5		2		0		0	
クワ属	301.5		80		108.5		23.5	
ニワトコ属	0.5		2.5		5		2.5	
カナムグラ	0		11.5		42.5		4	
魚骨	0		0.5		0		0	
炭化イネ	3		0		0		0	
ナデシコ科	3		24		48.5		11	
カタバミ属	0		0		0		1	
洗った土の量（㎏）	9.8		5.0		19.8		30.6	
調べた量/全体量（cc）（大は2.0、中は1.0、小は0.425㎜メッシュのふるいで選別）	大（50/400） 中（50/110） 小（50/230）		大（50/200） 中（50/220） 小（50/150）		大（50/200） 中（50/210） 小（50/190）		大（50/700） 中（50/510） 小（50/300）	
ラベル記載	8KNJHJ SK3038 サンプルⅠ層 1/2～2/2 991006		8KNGHG SK3038 サンプルⅡ層 991006		8KNJHJ SK3038 サンプルⅢ層 991006		8KNJHJ SK3038 サンプル４層 991008	

※ウリ科A～Cは大～小タイプ、タデ属A～Cは形態別タイプを示す。破片は0.5として計数した。

実際の食生活に関しては、なぜ比較的種子を除去しやすいウリ科の種子が多産する（＝種子ごと食されている）のかという疑問が生じる。この点について、長屋王邸宅出土木簡に、「加須津毛瓜」「醤津毛瓜」「加須津毛菜須比」等が見られることから、ウリやナスについては当時から保存食化されていることが知られており、これらの小型品種の果実を「つけもの」として食したために、糞便中に種子が多産するものと考えられる。しかし夏～秋の堆積物と考えられる1層中から両者の種子が多産しており、現在のように長期保存に耐える性質のものであったかどうかは疑問である。あるいは生食したのかもしれない。また奈良時代においてナスは一部の高級官人しか食することができなかったが、観音寺廃寺でもナス属種子が多量に検出されているため、平安時代末には各地でナスが栽培されるようになったか、もしくは僧侶など特殊な階級の人間が常駐していたことを示していると考えられる。便所跡の土壌サンプルの寄生虫卵分析結果によると、獣や魚などに特有の寄生虫卵は検出されず、野菜を食べることに由来する鞭虫・蛔虫の卵化石しか検出されなかったため、菜食中心の食生活が想定されている。

北側の掘立柱建物跡群と菅江真澄

高島氏により中世後期～近世初頭の寺院跡であることが明らかになった調査区北側の建物群について、菅江真澄は「観音寺ノ蹟　屋敷田といふ」（『雪の出羽路』）と記している。これは当時すでに田地となっていたにも関わらず、建物があった場所として伝承されていたことを示している。しかしこれは建物があったということに対する人々の記憶であって、その建物が定額の寺、観音寺跡であるということについては真澄が記述しているのみである。確かに同書中の観音寺の項で「寺跡あり」と記されてはいるものの、それは調査区北側の掘立柱建物跡群の可能性が高い。今回の調査で「出羽国観音寺」に遡り得る古代の建物群を確認したのはこの一帯ではなく、調査区南側の遺構群である。これは前記した「屋敷田」の位置とは明らかに異なる。

「屋敷田」に遺された寺院建物群の遺材の年代測定結果、および遺構内外から出土する陶磁器類から求められる年代は15～17世紀である。この前述した調査区南側の掘立柱建物群は12～13世紀に機能した寺院（関連施設）であるが、復元可能な陶磁器類は皆無に等しく、14世紀には廃絶あるいは別の地点に移動したと考えられる。その後15世紀に調査区北側に新たに寺域が設けられるが、調査区内からは14世紀に係る遺物が欠落しているため、この南北両遺構群は直接的には連続していない。しかし出土した輸入陶磁器の数量規模から、少なくとも中世初期にはこの地方を掌握するような有力者の庇護の下に南側の遺構群が存立したことは明らかである。そのうえ中世後期に係る輸入陶磁器も一定量出土することから、15世紀以降、調査区北側に存立した寺院もまた有力者の庇護の下にあったと考えられる。つまり14世紀には寺域が移動するものの南北の遺構群は有機的関連を持つ同一の寺院と考える方がより整合性が高い。

観音寺廃寺跡の発掘調査では、定額の寺「出羽国観音寺」であるという直接的証拠は提示し得なかった。しかし地方寺院として破格の「格式」を有したことはすでに明らかであり、辿り着く選択肢は定額に匹敵する格式の寺、出羽国「観音寺」なのではないだろうか。

SK611
完掘　南東から

SK4007
半截　南から

SK4131
材検出状況　東から

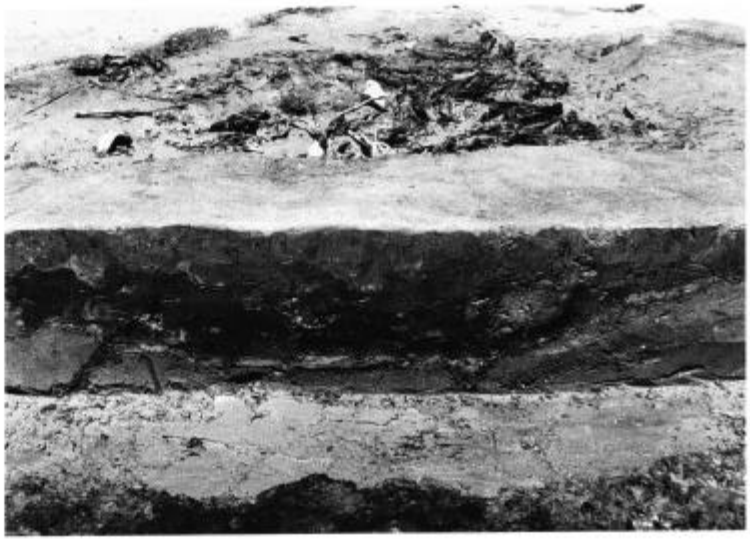
図版2

SX4428
材・礫検出状況　北西から

SX5051
半截　北東から

SX5063
材検出状況　北東から

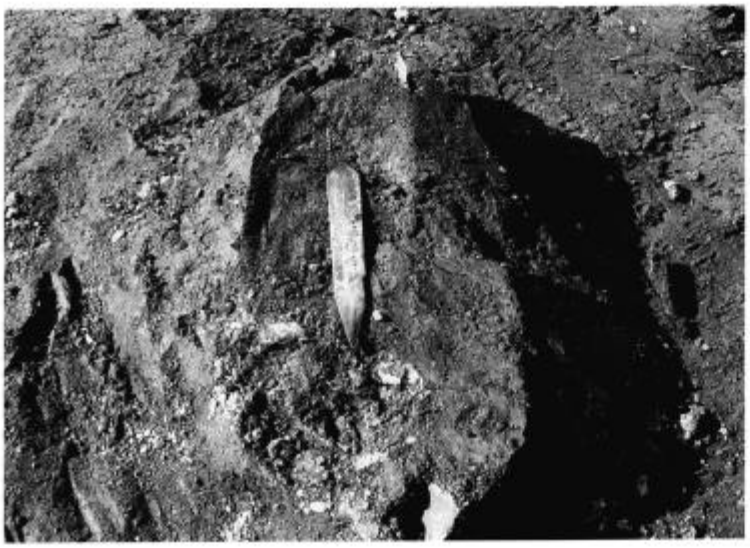
SL3
全景　東から



SL3
半截　火山灰層検出状況　南東から

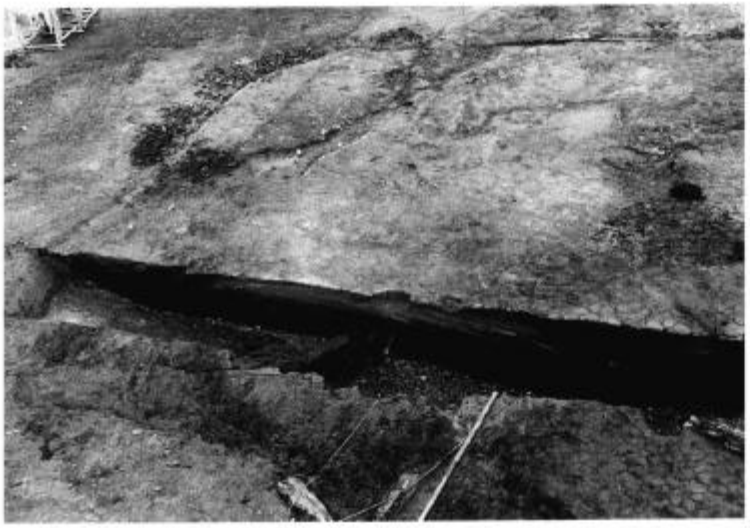
SL4
プラン確認状況　北から

図版4

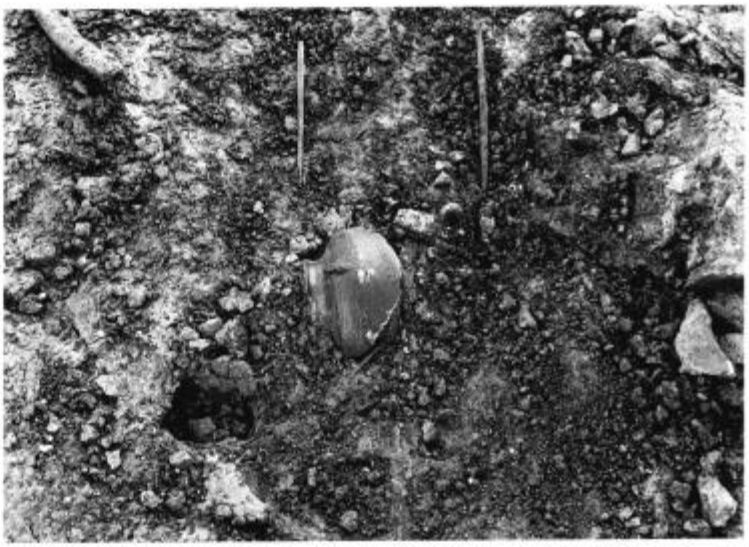


SL4
斎串出土状況　南から

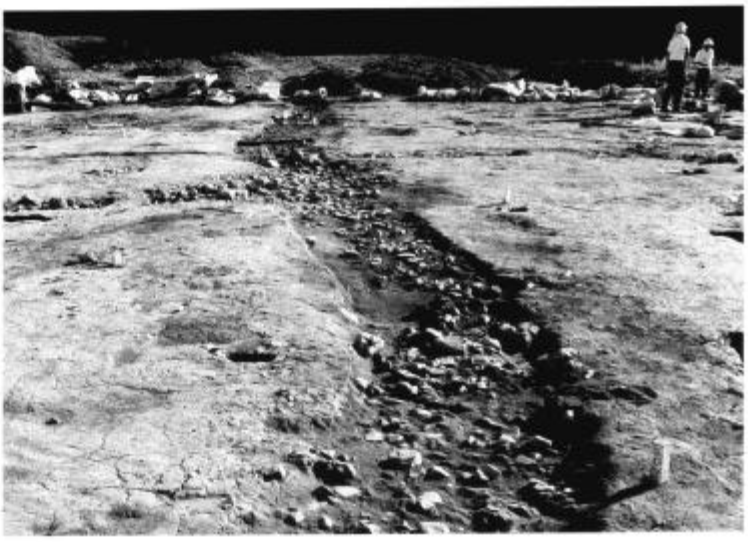
SL4
遺物出土状況　南から



SL1176（MF62付近）
トレンチ　火山灰層検出状況
南東から



SL2100
遺物出土状況　北東から



SD701A
完掘　北から

SD701北
陶磁器（瀬戸美濃）
枘穴つき材出土状況　東から

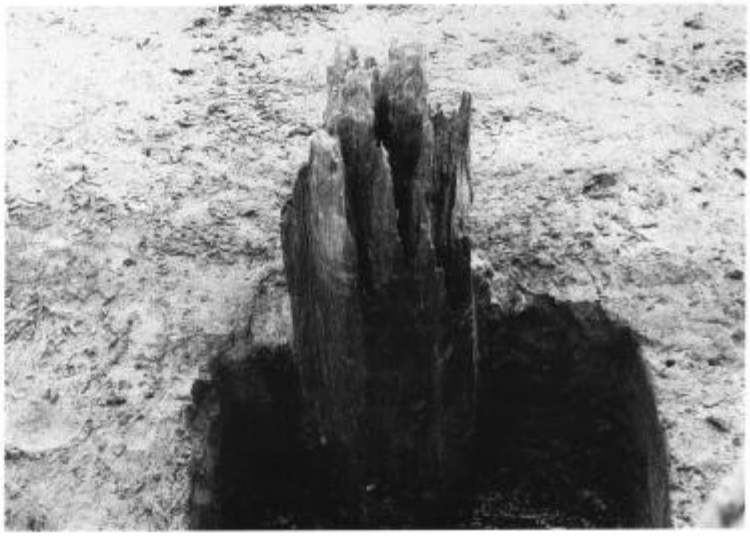
図版6

SKP354
柱材検出状況　北から

SKP199
柱材検出状況　南西から

SKP51
柱材検出状況　北から

SKP2086
白磁検出状況　西から



SKP2136
柱材検出状況　北東から

SB14関連柱穴
検出状況　北東から

SKP2072
礫出土状況　北西から

SKP4365
柱材検出状況　南西から

SK4186B
木簡出土状況　東から

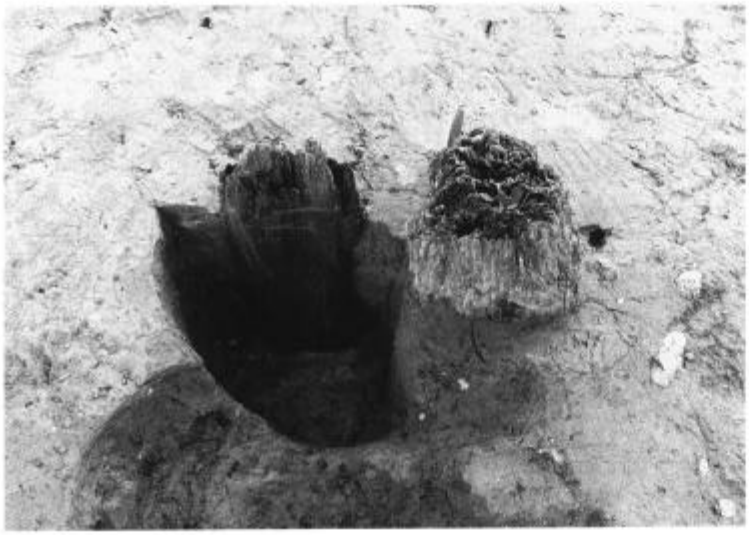
SKP4179
柱材検出状況

SKP4179
柱材

SKP4178
柱材検出状況　西から

図版10

SKP4227
柱材検出状況　西から



SKP4133・4132
柱材検出状況　北東から

SKP4074
柱材検出状況　西から

報告書抄録

ふりがな	かんのんじはいじあと
書名	観音寺廃寺跡
副書名	土地改良総合整備事業（緊急生産調整型）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第３２１集
編著者名	五十嵐一治・亀井崇晃
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター
所在地	〒014－0802　秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地　電話0187－69－3331
発行機関	秋田県教育委員会
所在地	〒010－8580　秋田県秋田市山王三丁目１－１　電話018－860－5193
発行年月日	西暦2001年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
かんのんじはいじあと 観音寺廃寺跡	あきたけんひらかぐん 秋田県平鹿郡 おおもりまちうわみぞあざ 大森町上溝字 かんのんじ　ほか 観音寺130外	05444	61－40	39° 20′ 40″	140° 23′ 40″	19990510 ～ 19991112	23,500㎡	農業関連

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
寺院関連施設	平安時代～鎌倉時代	掘立柱建物跡　17棟 板塀跡　1列 井戸跡　32基 土坑　27基 不整形土坑　14基 河川跡　9箇所 柱穴・柱穴様土坑（掘立柱建物跡および板塀跡を構成する柱穴を含む）　877基 溝状遺構　1条 配石遺構　1基	須恵器 白磁・青白磁・青磁 須恵器系中世陶器 かわらけ その他の陶磁器 木簡 形代 各種木製品 銭貨 鉄製品 種子類	・12～13世紀における寺院関連施設を確認した。 ・掘立柱建物跡を附属する水辺において祭祀行為が行われていたことを確認した。 ・便所跡からは多量の籌木とともに多種にわたる種子類が出土した。 ・250点にのぼる輸入陶磁器が出土した。
寺院跡	室町時代～江戸時代	掘立柱建物跡　11棟 土坑　4基 溝状遺構　4条 柱穴　908基 配石遺構　2基 焼土遺構　1基	陶磁器 各種木製品 銭貨 鉄製品	・15～17世紀の寺院跡である。

第7章　引用・参考文献

佐原真『食の考古学』　1996（平成８）年

八重樫忠郎「輸入陶磁器から見た柳の御所跡　－内部地区と外部地区－」『中近世土器の基礎研究』XI　日本中世土器研究会　1996（平成８）年

八重樫忠郎「輸入陶磁器から見た平泉　－分布傾向からの考察－」『貿易陶磁研究』17　日本貿易陶磁研究会　1997（平成９）年

秋田市教育委員会『秋田城跡　平成六年度秋田城跡調査概報』1995(平成７)年

あ と が き

上司や周囲の人々にすがること１年余り。他力本願をモットーに細々と続けてきた整理作業でした。担当者の心の広さからか、観音寺班は整理作業員が入れ替わり立ち替わり次々と交替し、いつしか「駆け込み寺」と呼ばれるようになっていました。

江戸時代の紀行家菅江真澄により、定額の寺である「出羽国観音寺」と比定されたこの遺跡ではありますが、その真偽について発掘調査を通じて証明することはできませんでした。しかし古代末から中世初期における地方寺院の在り方について、ほんの僅かではありますが垣間見ることができたかと思います。

本日ついに悟りの境地、いや報告書刊行の日を迎えることができました。最後に、整理作業を支えてくれた皆様の芳名を記し、感謝する次第であります。

栗津ひろみ、小西文子、佐藤睦子、伊藤百合子、奈良美沙都、高橋宏子、木元俊子、長澤千可子、佐藤蘭子、山田京子、須田春子、藤谷和子、樫尾智恵子、本間美紀子、後藤るみ子、藤澤一史、伊藤景子、加藤伸生（順不同）

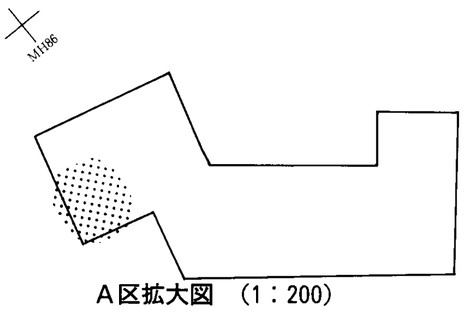
秋田県文化財調査報告書　第３２１集

観音寺廃寺跡

―土地改良総合整備事業（緊急生産調整型）に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書―

印刷・発行　平成13年３月
編　　集　秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802 秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地
電話　0187(69)3331
発　　行　秋田県教育委員会
〒010-8580 秋田県秋田市山王三丁目１－１
電話　018(860)5193
印　　刷　株式会社三戸印刷所

附図１　観音寺廃寺跡　遺構配置図



A区拡大図　（1：200）

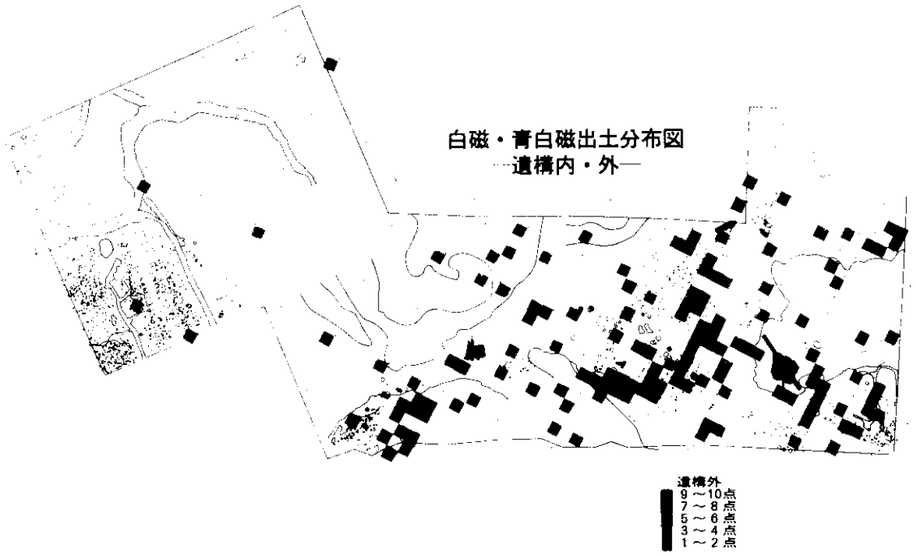
遺構配置図（全体）

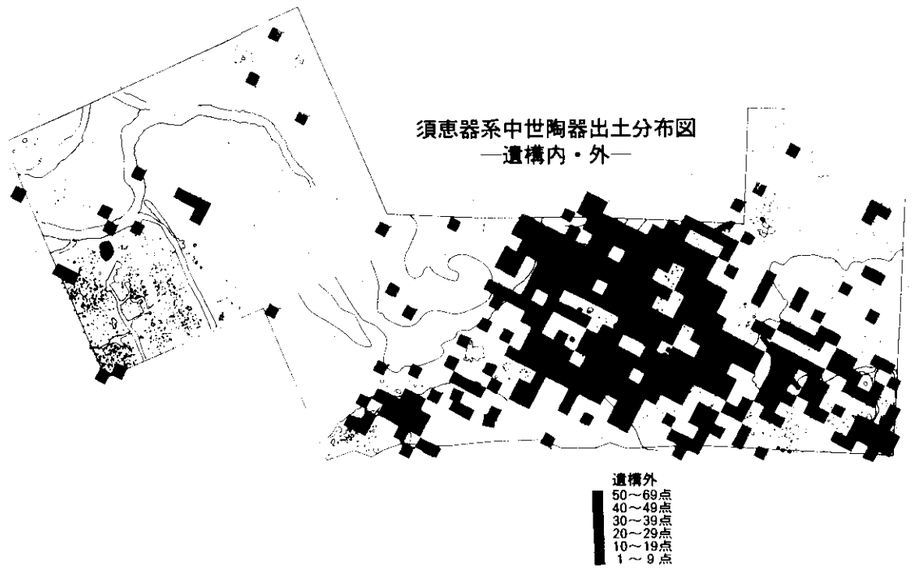
0　1：500　50m

B区拡大図　（1：200）

D・E区拡大図　（1：200）

附図2　観音寺廃寺跡　遺物出土分布図

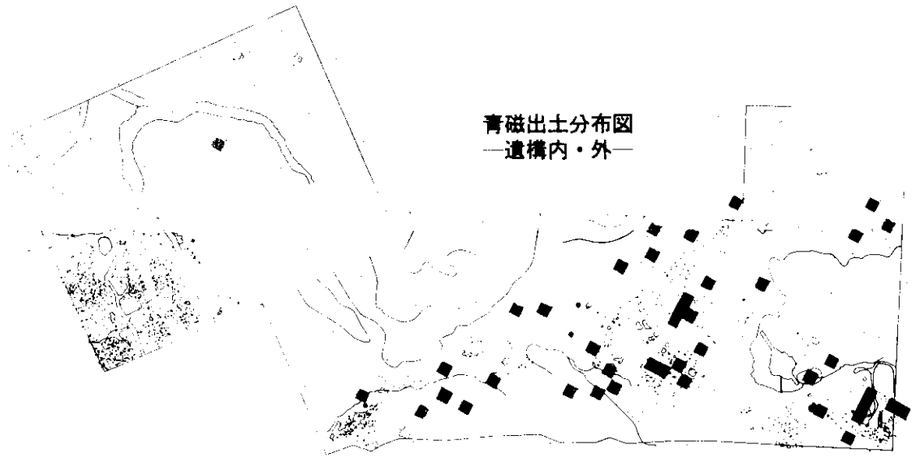




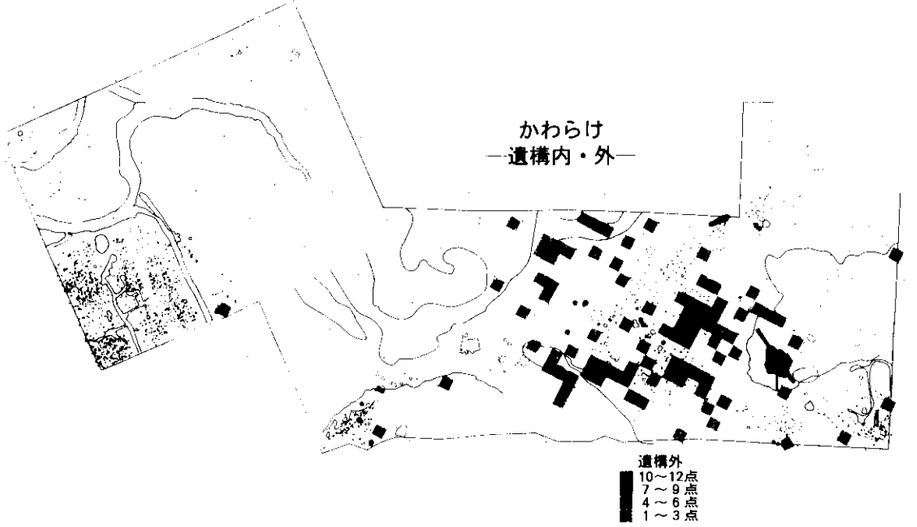
※出土遺構は塗りつぶしている
（SL河川跡を除く）

白磁・青白磁	
出土遺構	出土数
SE893	1
SKP1086	1
SKP2003	1
SE2051	1
SKP2115	1
SE2123	1
SK3001	1
SK3019	1
SE4008	2
SE4009	1
SE4092	1
SKP4117	1
SE4119	2
SKP4180	2
SX4200	2
SKP4327	2
SK4337	1
SX4428	2
SX5050	2
SK5055B	1
SX5063	2

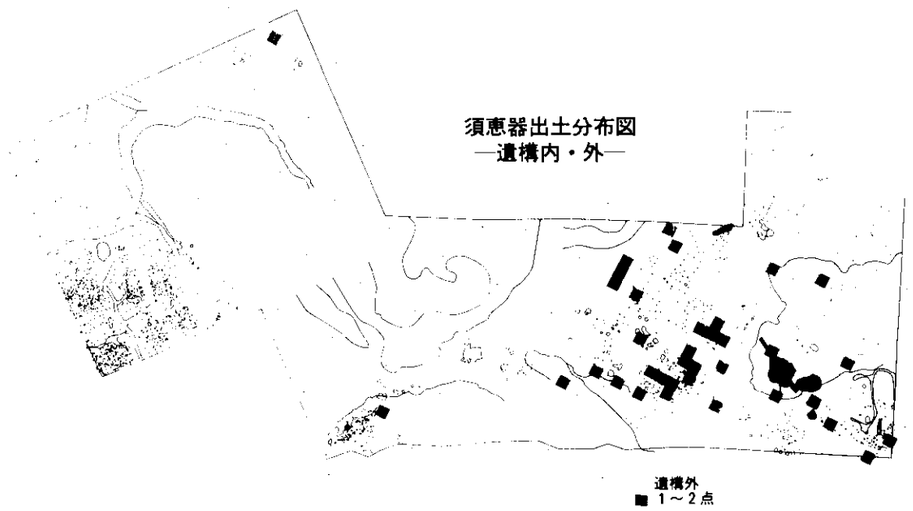
かわらけ			
出土遺構	出土数	出土遺構	出土数
SL4	1	SKP4040	1
SE2051	7	SKP4057	1
SKP2059	2	SE4092	1
SK2065	1	SKP4118	2
SKP2086	2	SE4119	6
SL2100	2	SKP4120	1
SE2123	1	SK4131	1
SK2151	1	SK4150	1
SE3001	1	SKP4153	2
SL3002	1	SKP4327	1
SL3032	11	SX4329	1
SL3032B	2	SX4428	3
SK3038	1	SX5050	1
SE4002	17	SX5063	3
SE4003	9	SE5186	1
SE4005	12	SE5188	1
SK4007B	2	SKP5296	1
SE4008	14	SX5318	2
SE4009	4		



青磁	
出土遺構	出土数
SKP2110	1
SE2123	1
SE4003	1
SKP5066	1



須恵器	
出土遺構	出土数
SE2112	1
SX4200	4
SX4428	3
SX5063	4
SX5097	1
SX5318	2



須恵器系中世陶器			
出土遺構	出土数	出土遺構	出土数
SL3	5	SE4008	1
SL4	6	SE4092	1
SKP318	1	SE4111	1
SKP422	1	SKP4113	1
SX611	2	SE4119	6
SE2051	2	SKP4180	1
SKP2060	1	SX4200	7
SKP2074	1	SKP4231	1
SKP2090	1	SKP4282	1
SL2100	1	SKP4311	1
SKP2110	1	SE4322	1
SE2112	4	SKP4327	1
SKP2115	1	SX4329	2
SE2123	1	SK4337	1
SK2142	1	SX4428	1
SK2151	2	SKP4486	1
SL3002	11	SKP4479	1
SL3032	3	SE5055	1
SL3032B	1	SX5063	16
SL3034	1	SX5097	1
SE3079	1	SKP5107	2
SE4001	1	SKP5163	1
SE4002	3	SE5186	2
SE4003	13	SE5187	2
SK4004	2	SE5188	2
SE4005	1	SKP5205	1
SK4007	1	SX5318	8